



图85 第19号流路跡出土土器(55)

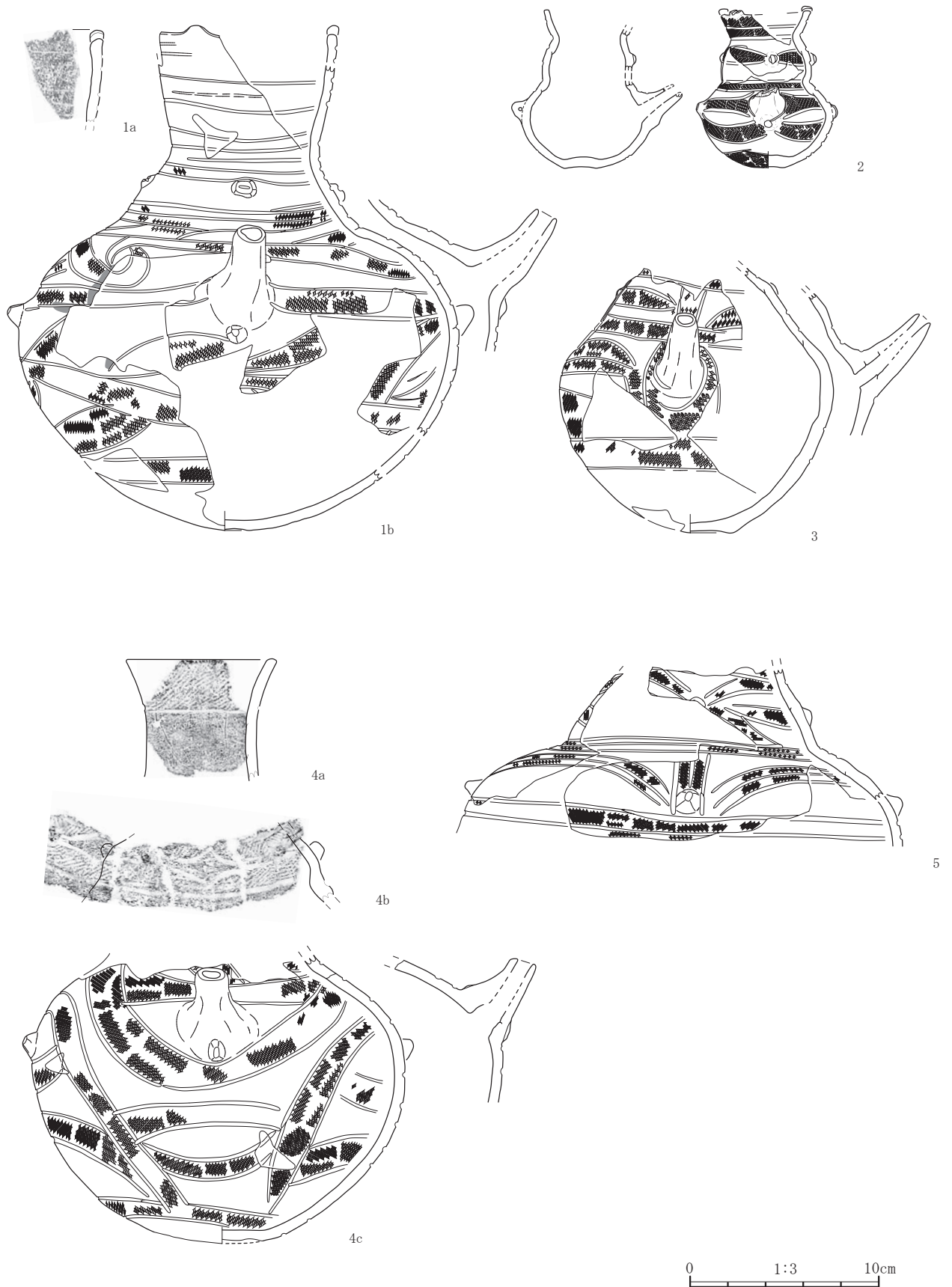


図86 第19号流路跡出土土器(56)

0 1:3 10cm

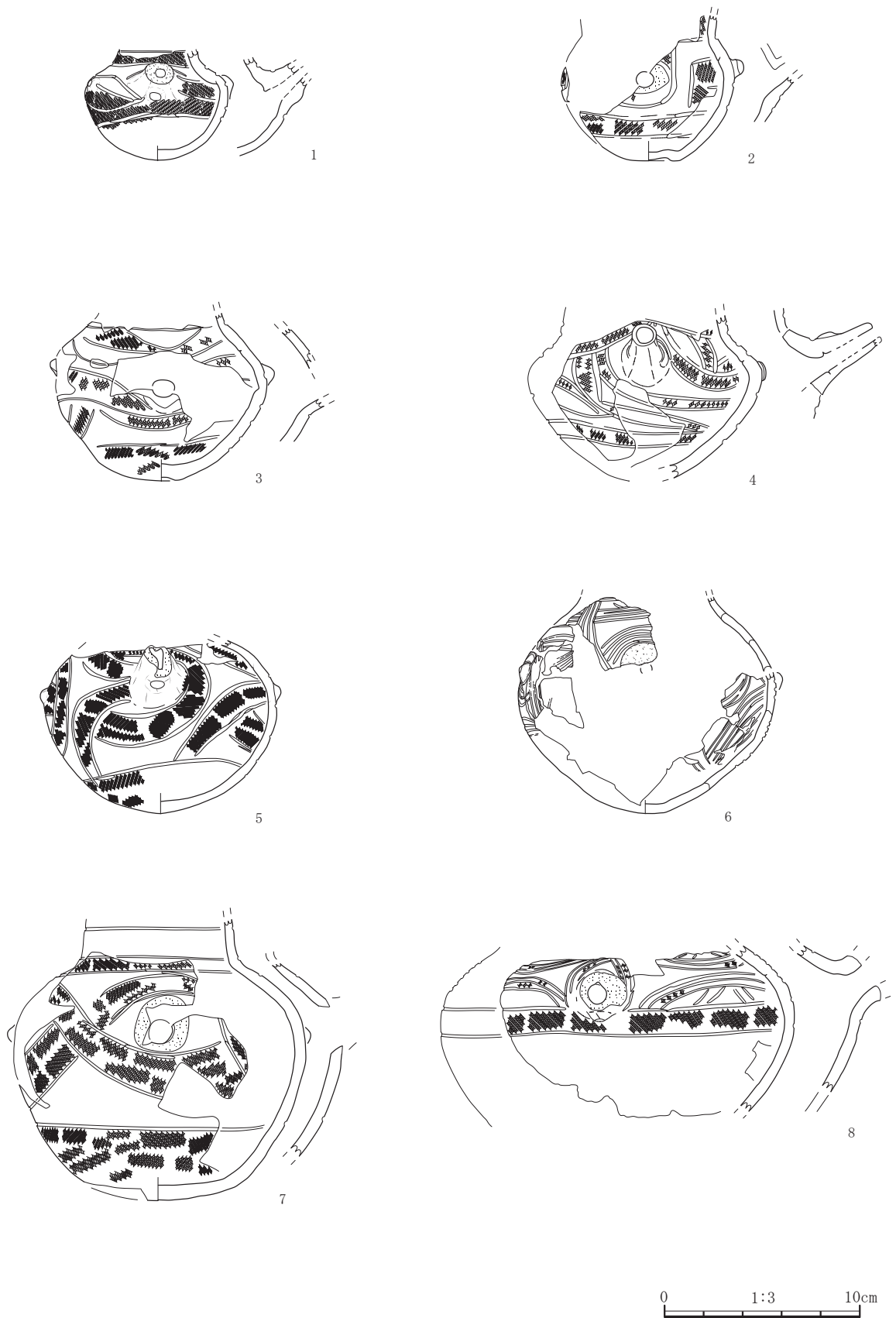


图87 第19号流路跡出土土器(57)



図88 第19号流路跡出土土器(58)

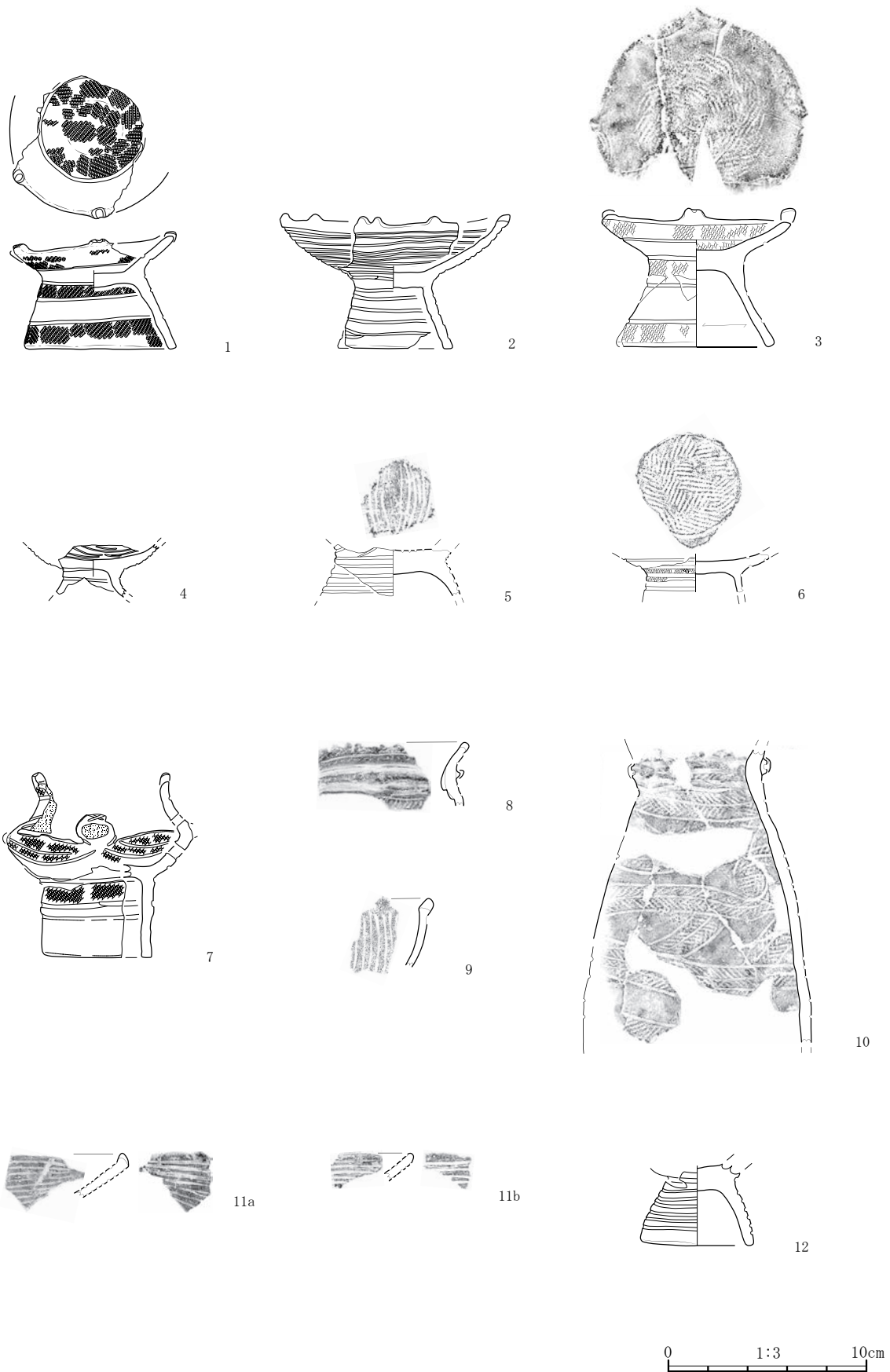


图89 第19号流路跡出土土器(59)

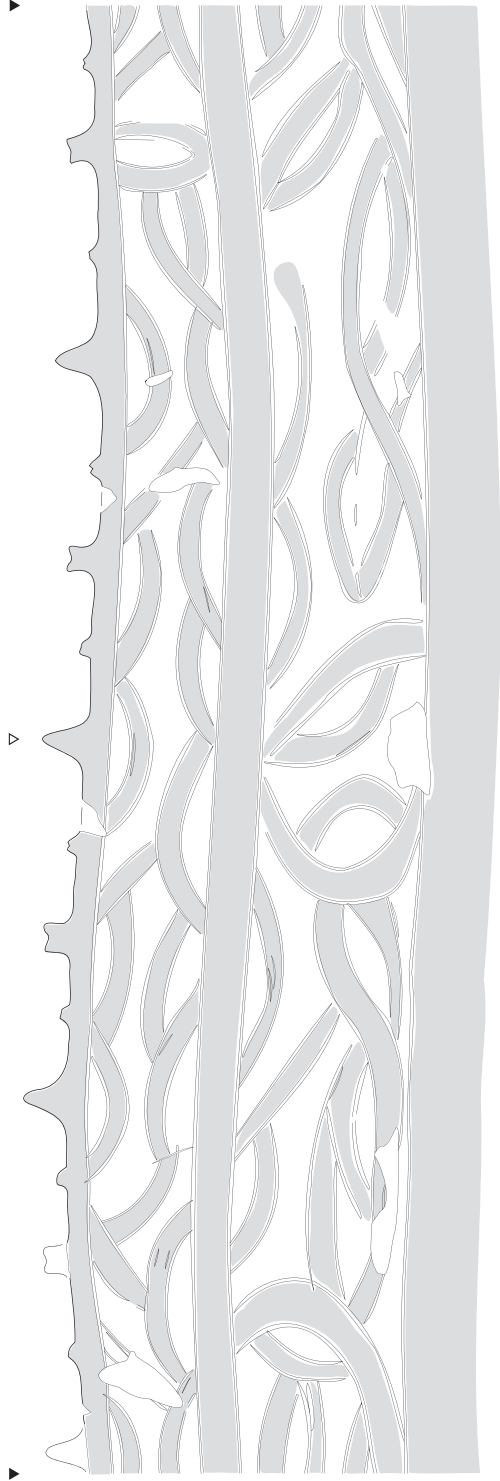


図11-1(1:5)

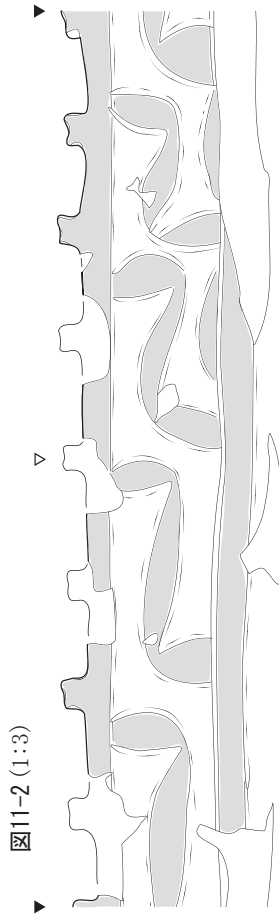


図11-2 (1:3)

図11-3 (1:2)



図13-6 (1:4)



図13-2 (1:5)

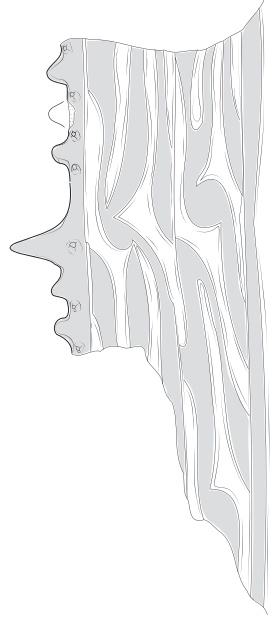


図90 第19号流路跡出土土器(60)

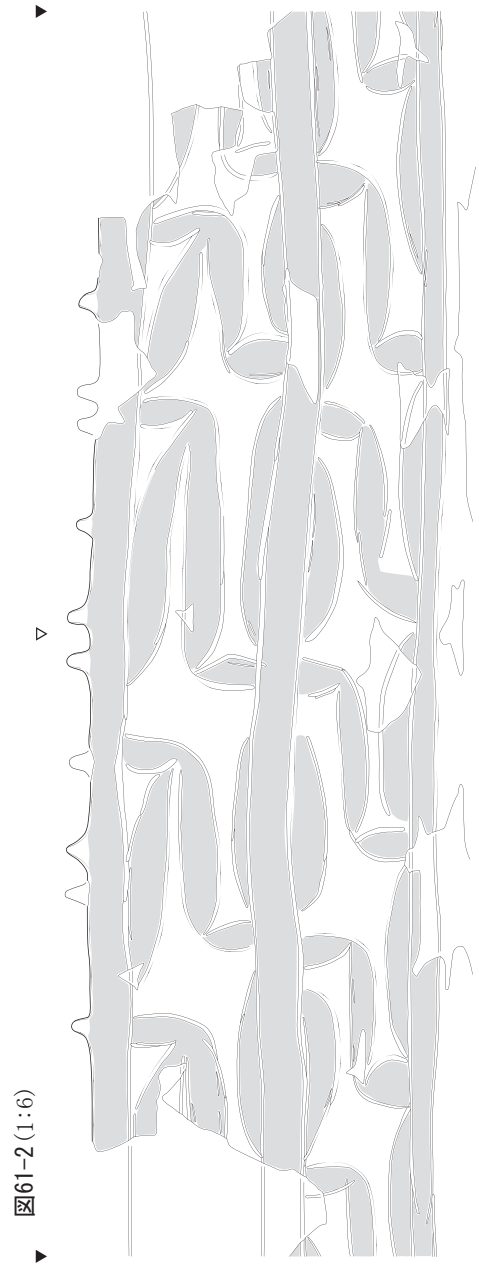
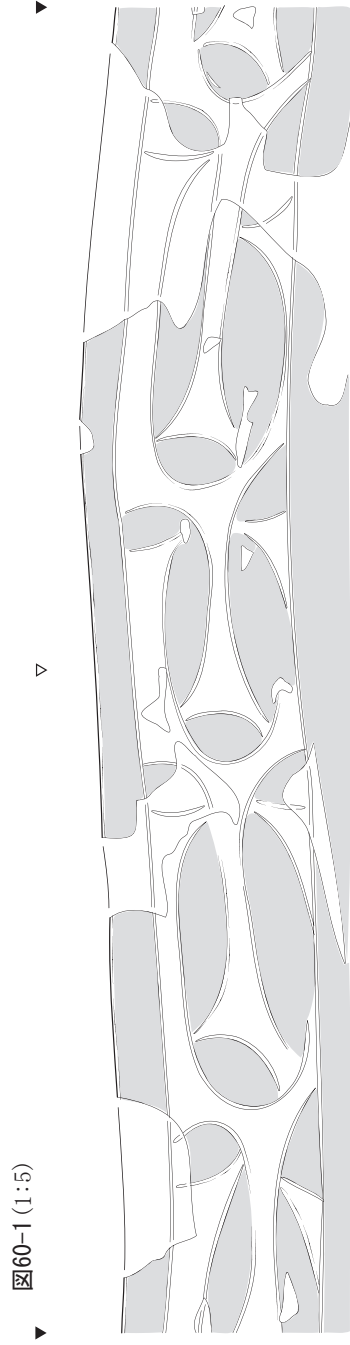
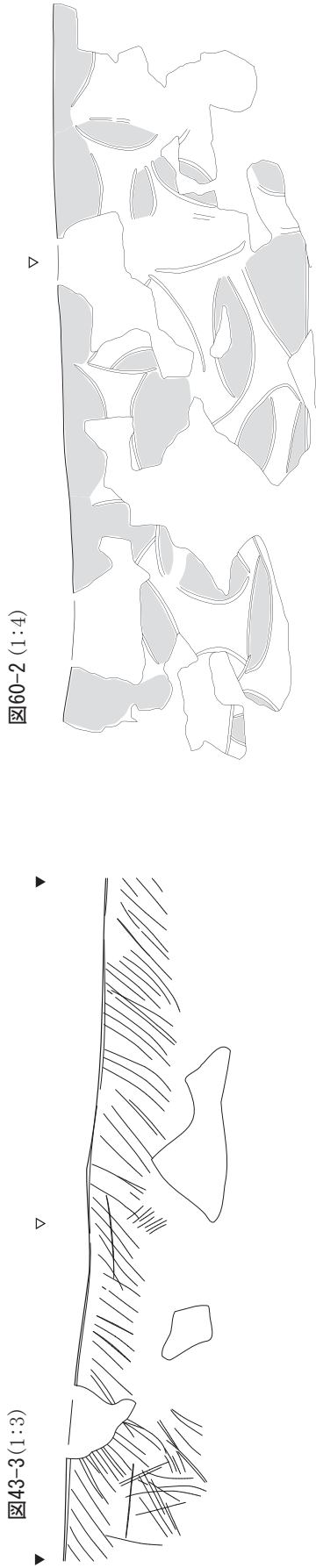


图91 第19号流路跡出土土器(61)



図92 第19号流路跡出土土器(62)



图63-6 (1:4)

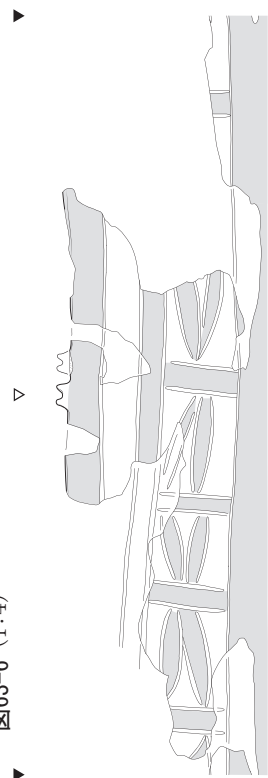


图64-1 (1:5)



图64-2 (1:4)



图64-3 (1:4)

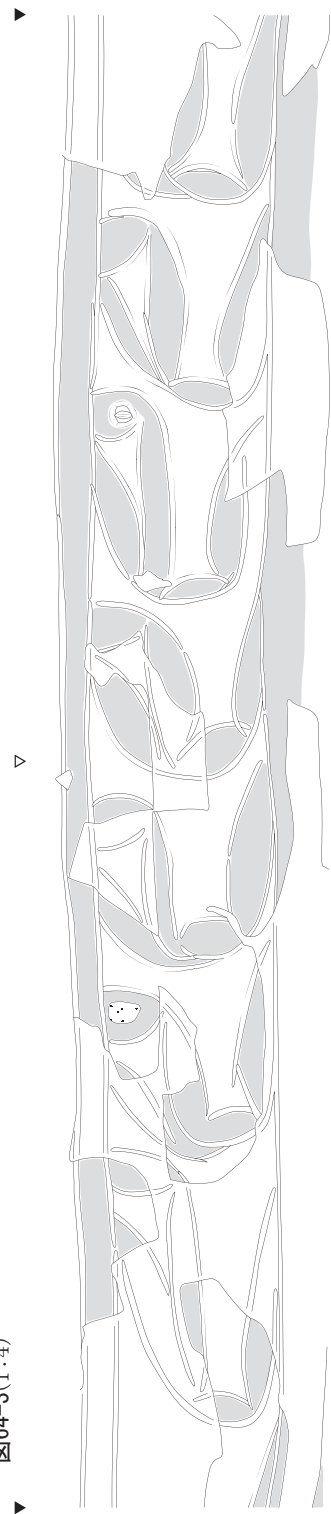


图93 第19号流路跡出土土器(63)

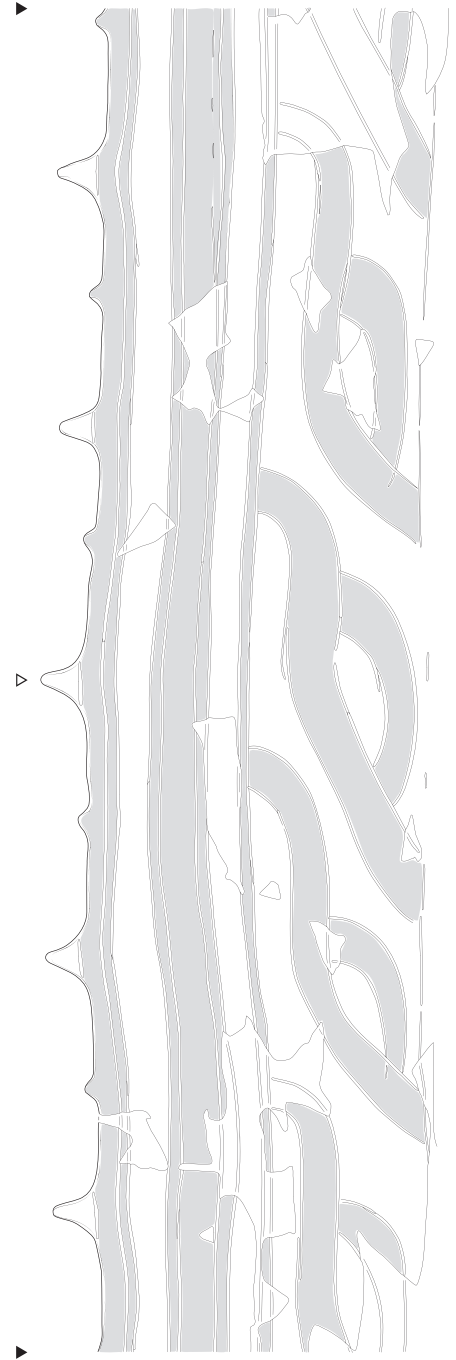
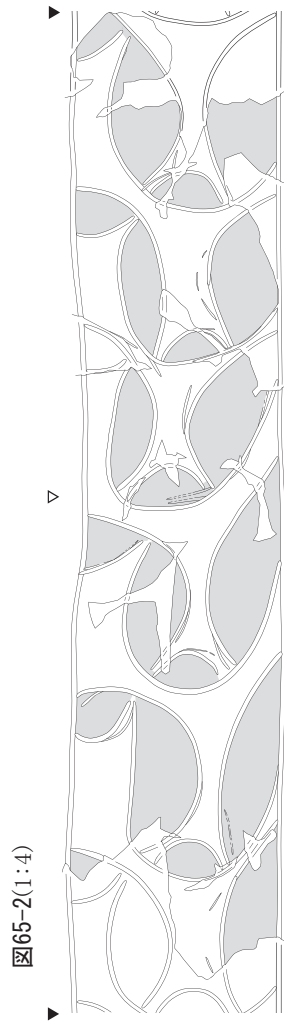
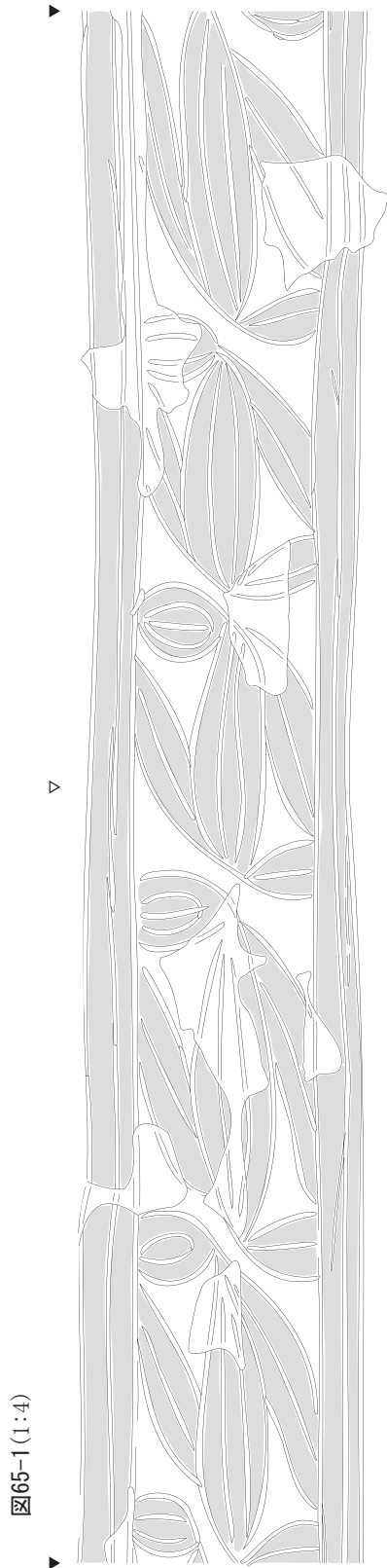


図94 第19号流路跡出土土器(64)

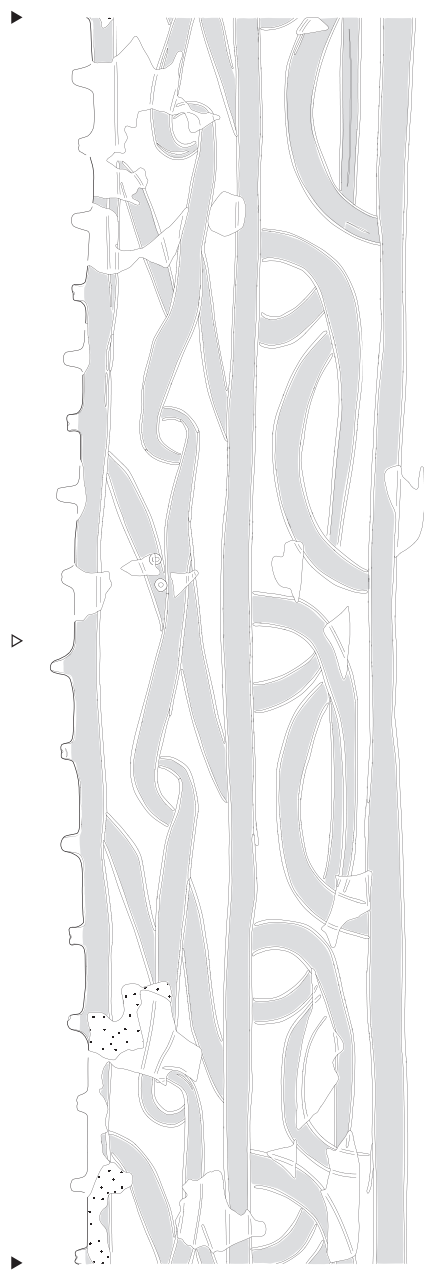


图66-2 (1:6)



图67-2 (1:4)



图67-6 (1:4)

图95 第19号流路跡出土土器(65)

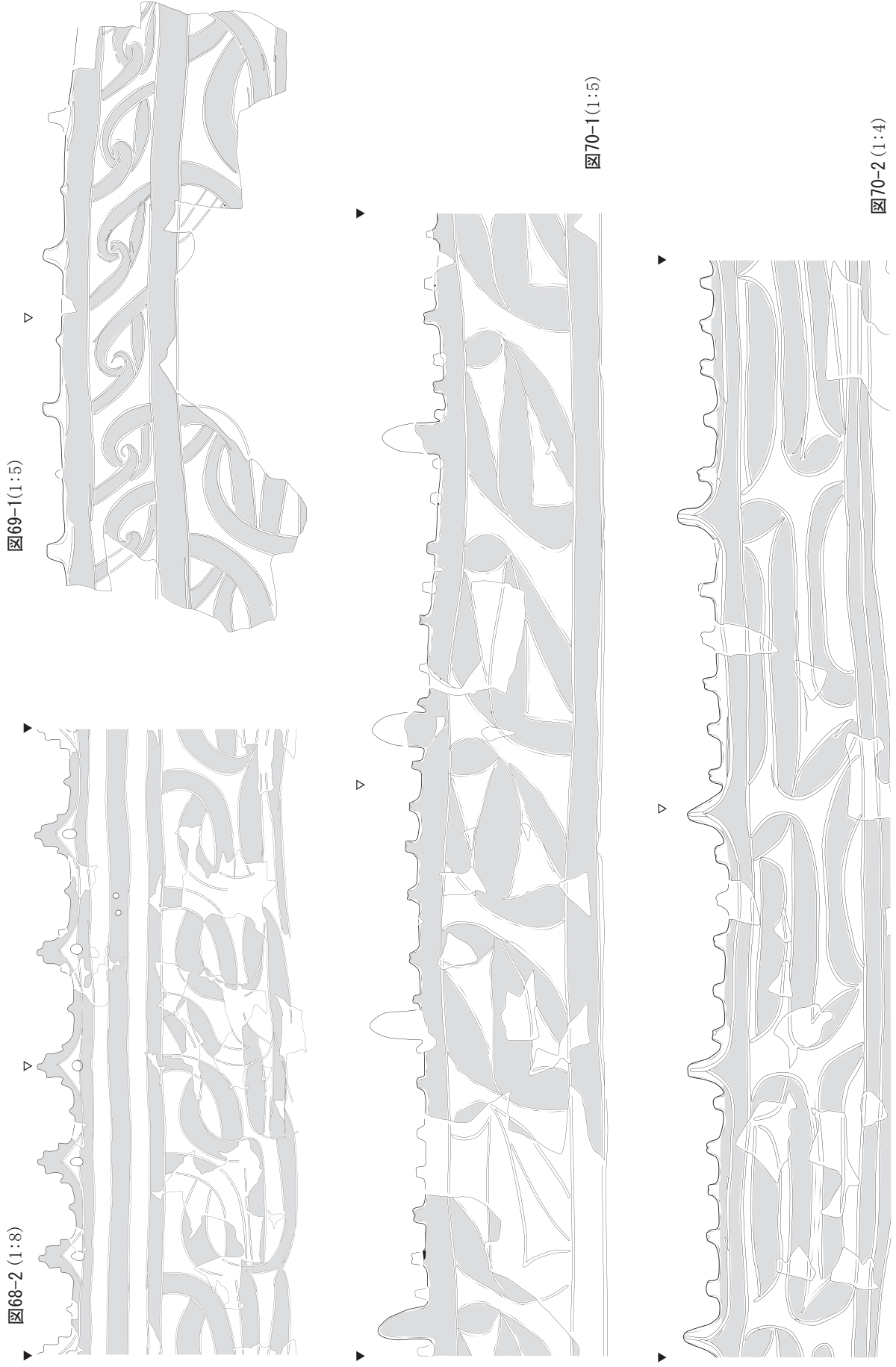


図96 第19号流路跡出土土器(66)

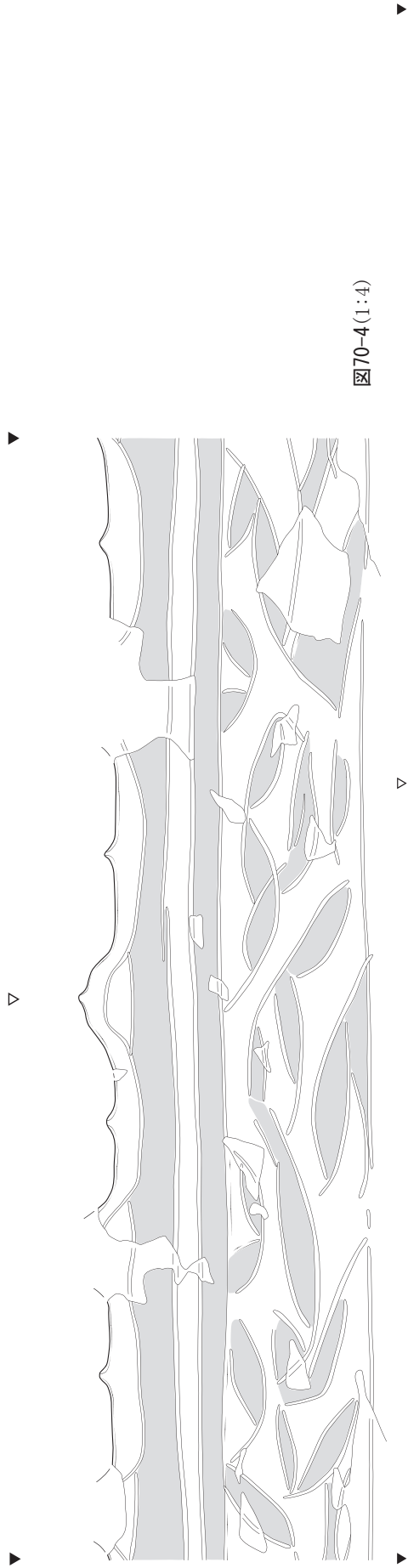


图70-4 (1:4)



图74-1 (1:4)

图97 第19号流路跡出土土器(67)

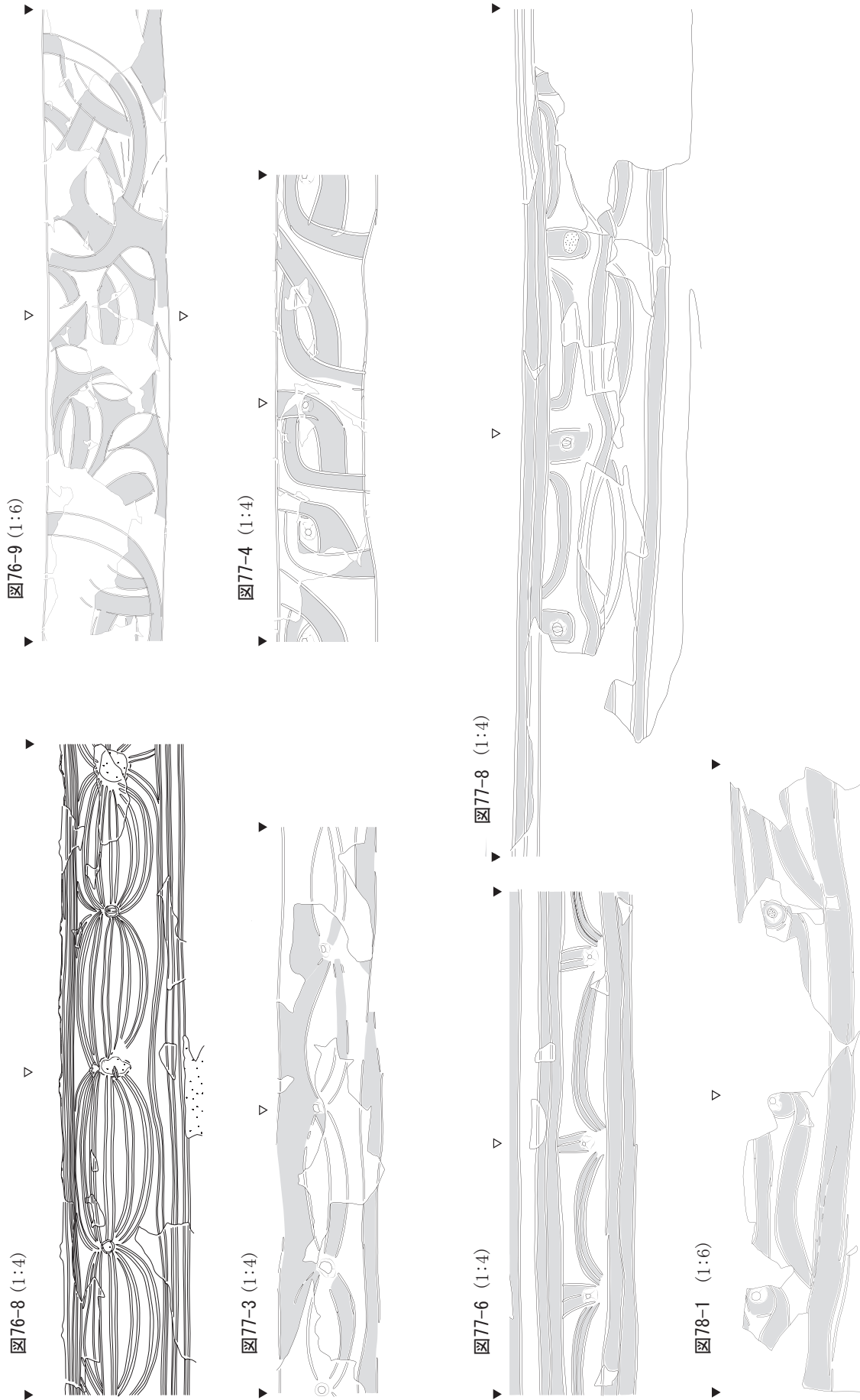


図98 第19号流路跡出土土器(68)

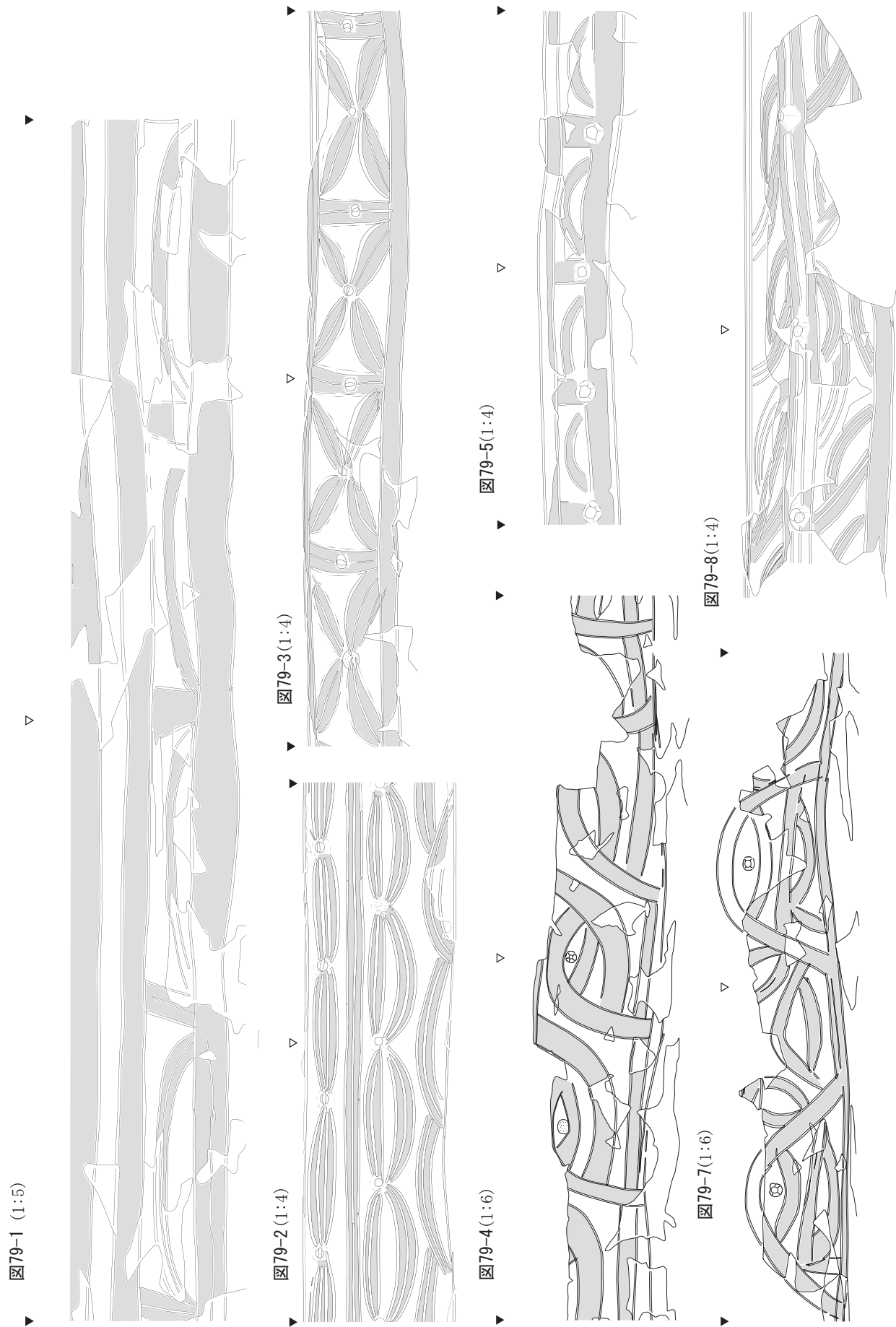


図99 第19号流路跡出土土器(69)

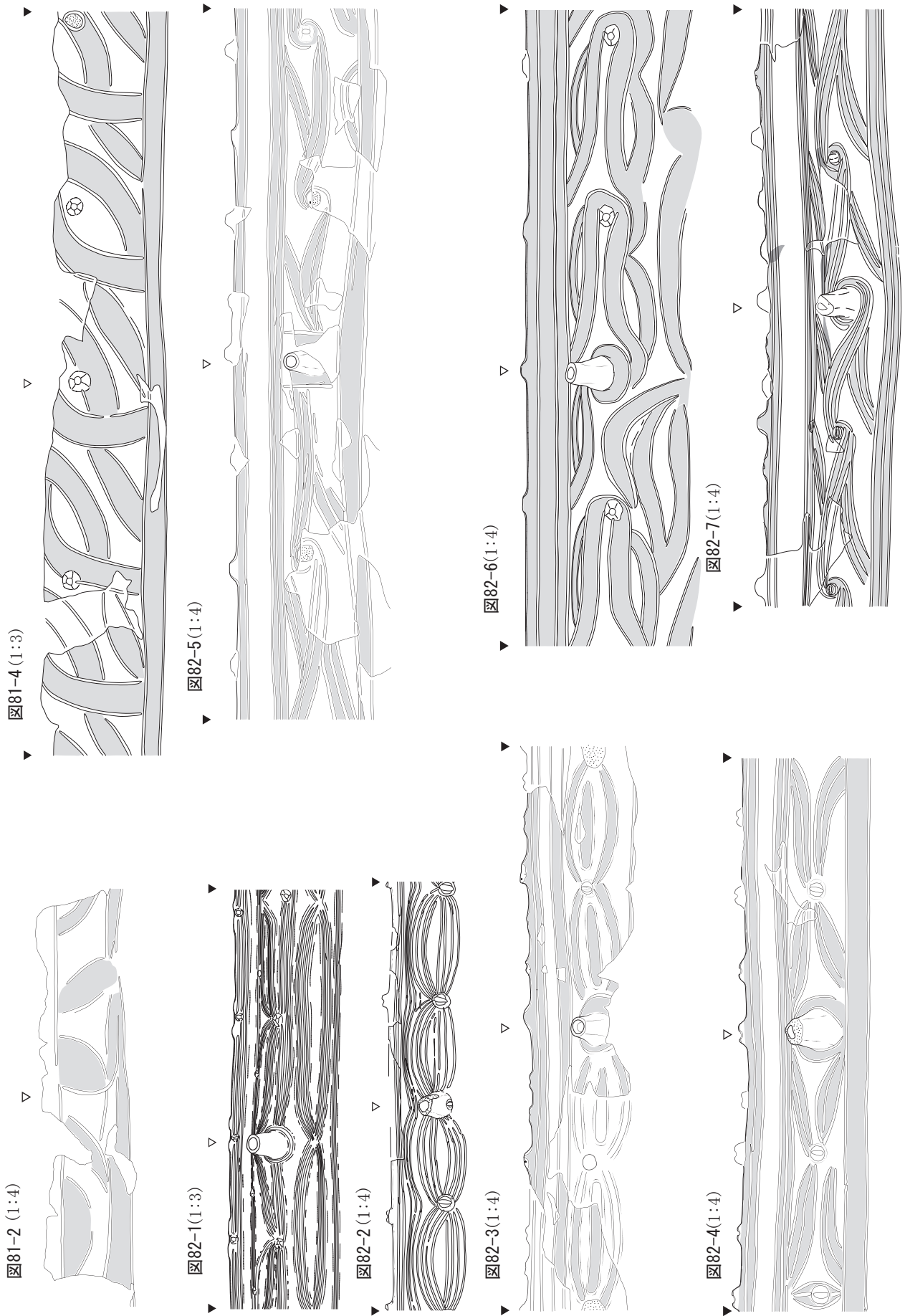


図100 第19号流路跡出土土器(70)



图82-8(1:4)

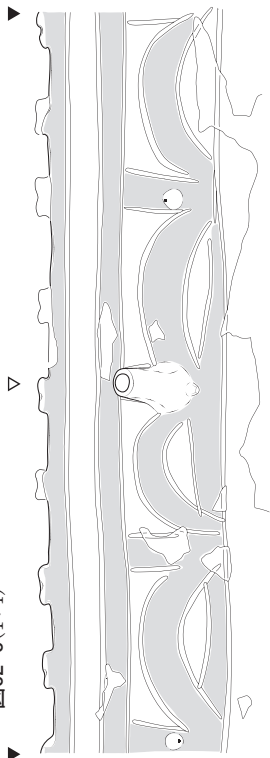


图83-1(1:4)

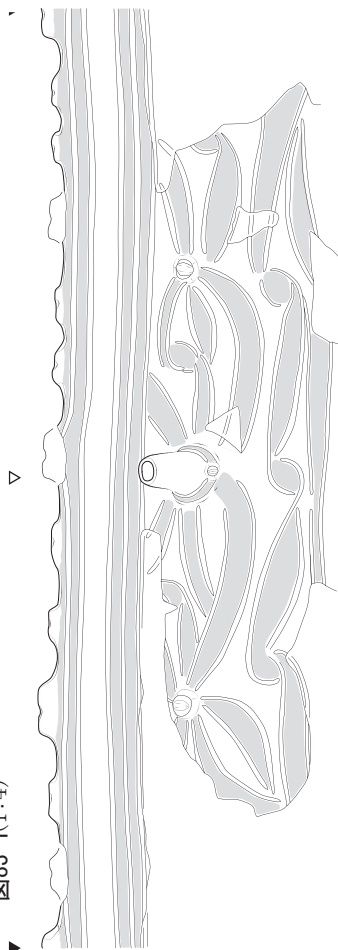


图83-4(1:4)

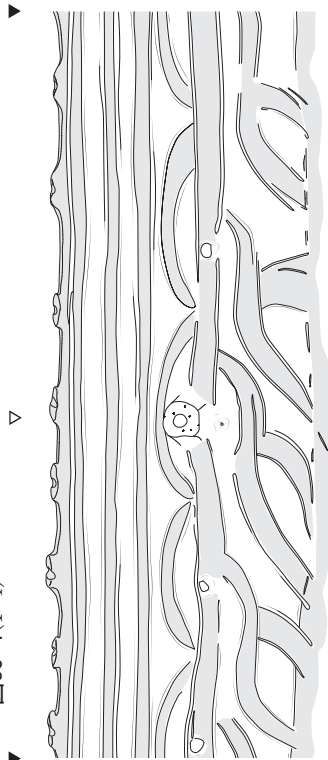


图83-5(1:4)

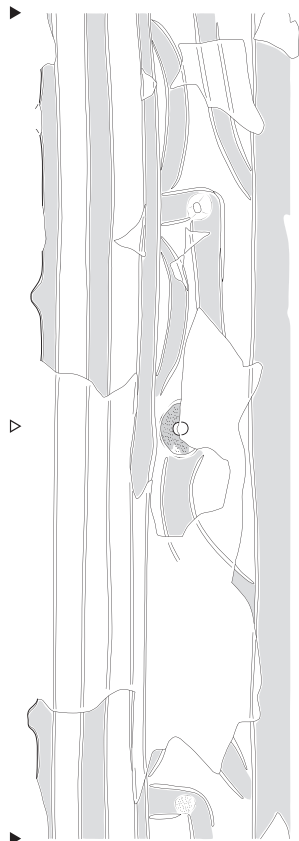


图83-2(1:4)

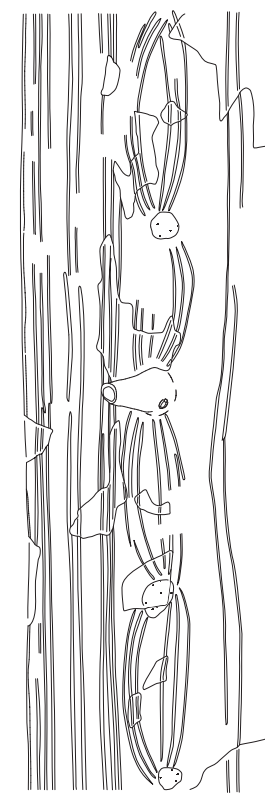


图83-6(1:4)

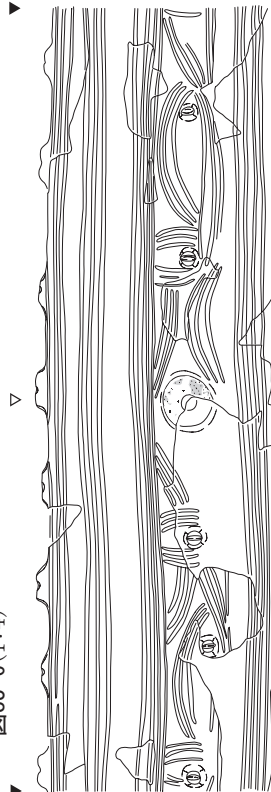


图83-3(1:4)

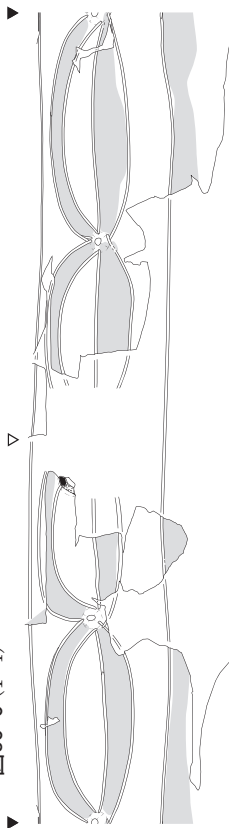


图83-7(1:4)

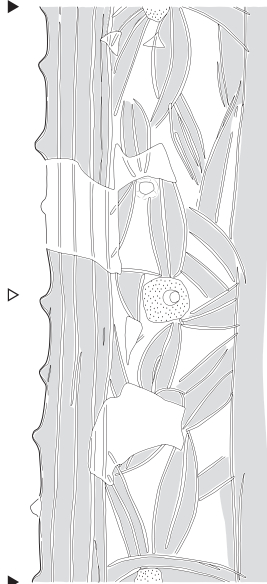


图101 第19号流路跡出土土器(71)

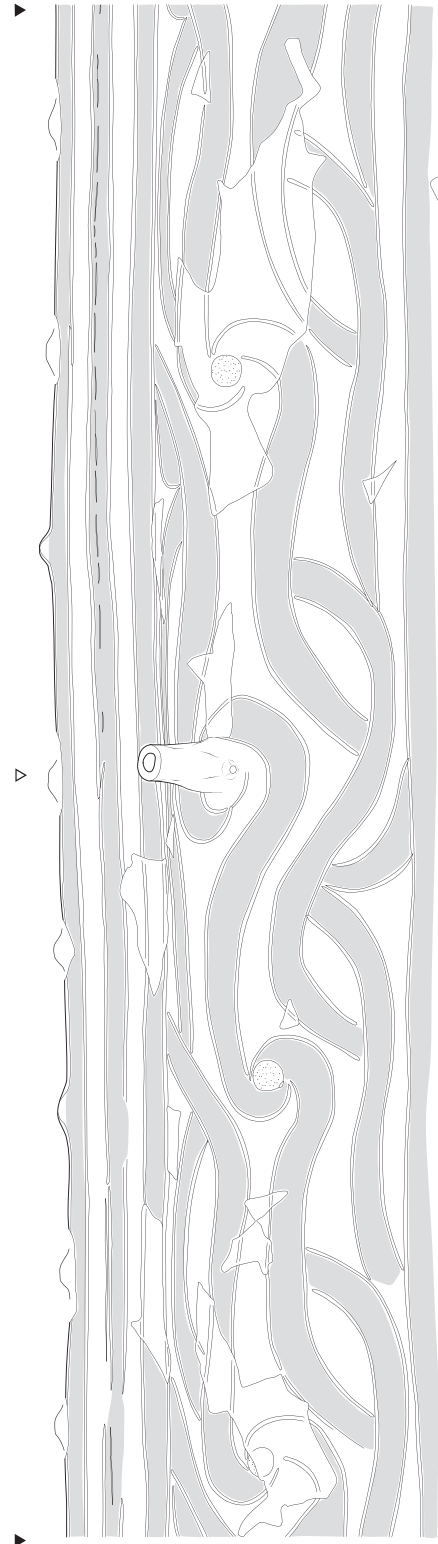
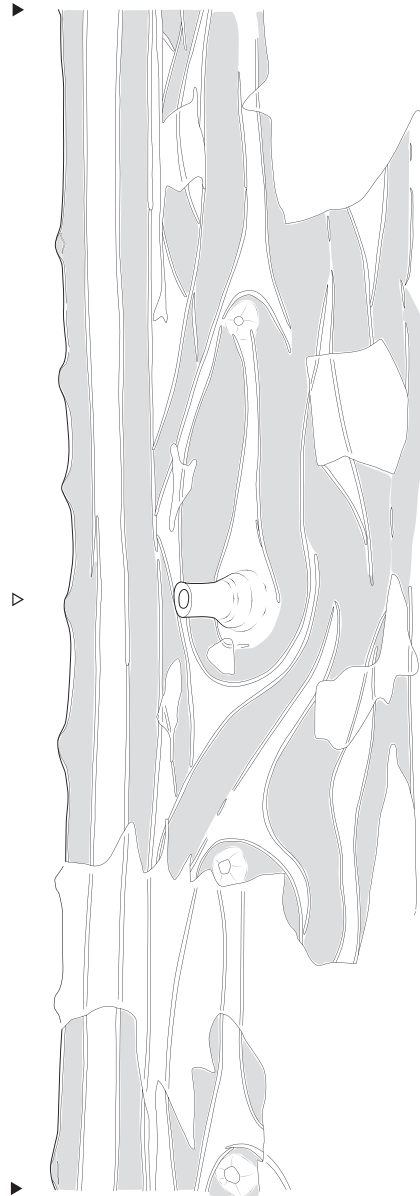


図102 第19号流路跡出土土器(72)



图103 第19号流路跡出土土器(73)



図104 第19号流路跡出土土器(74)

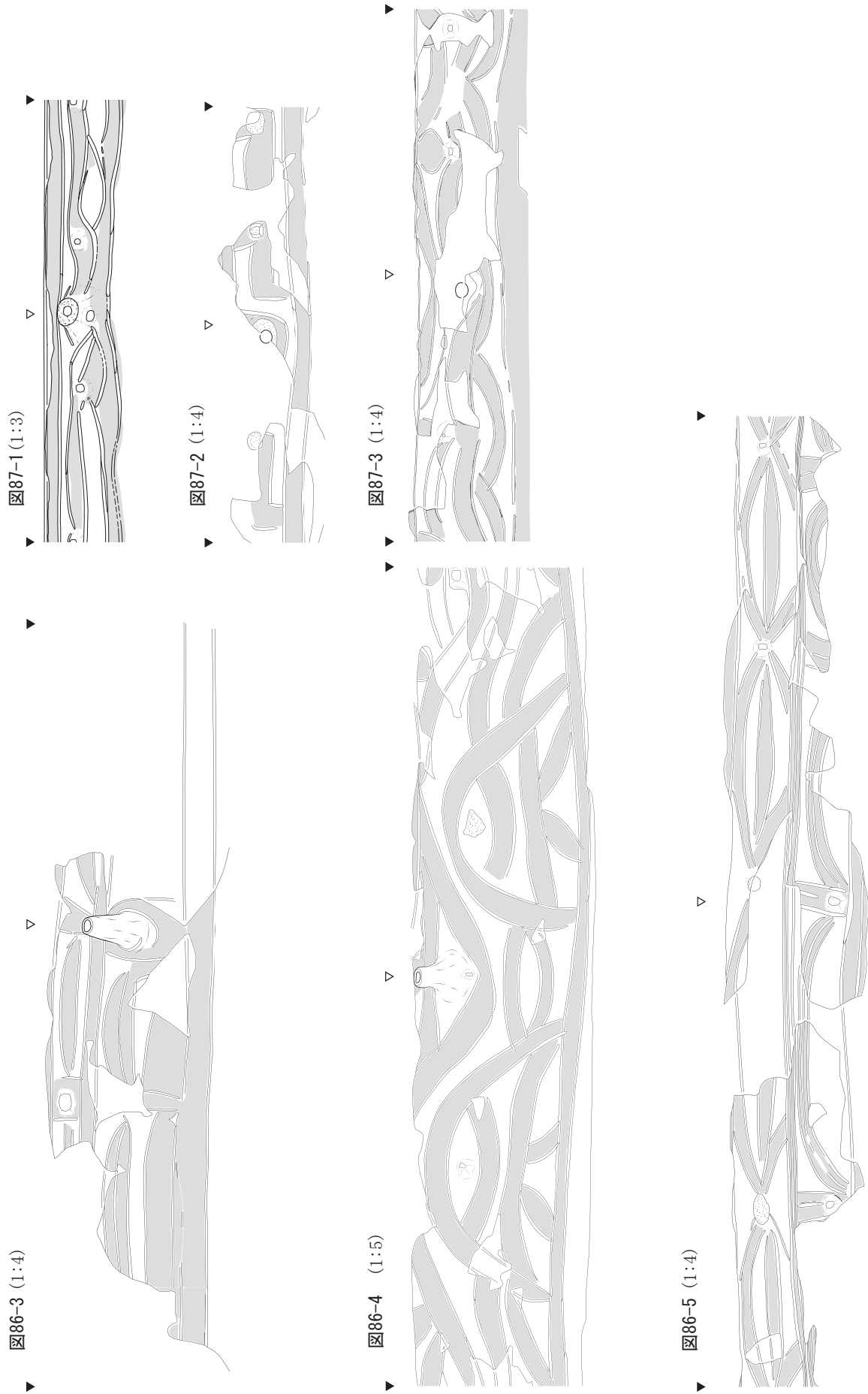


图105 第19号流路跡出土土器(75)



図106 第19号流路跡出土土器(76)



图107 第19号流路跡出土土器(77)

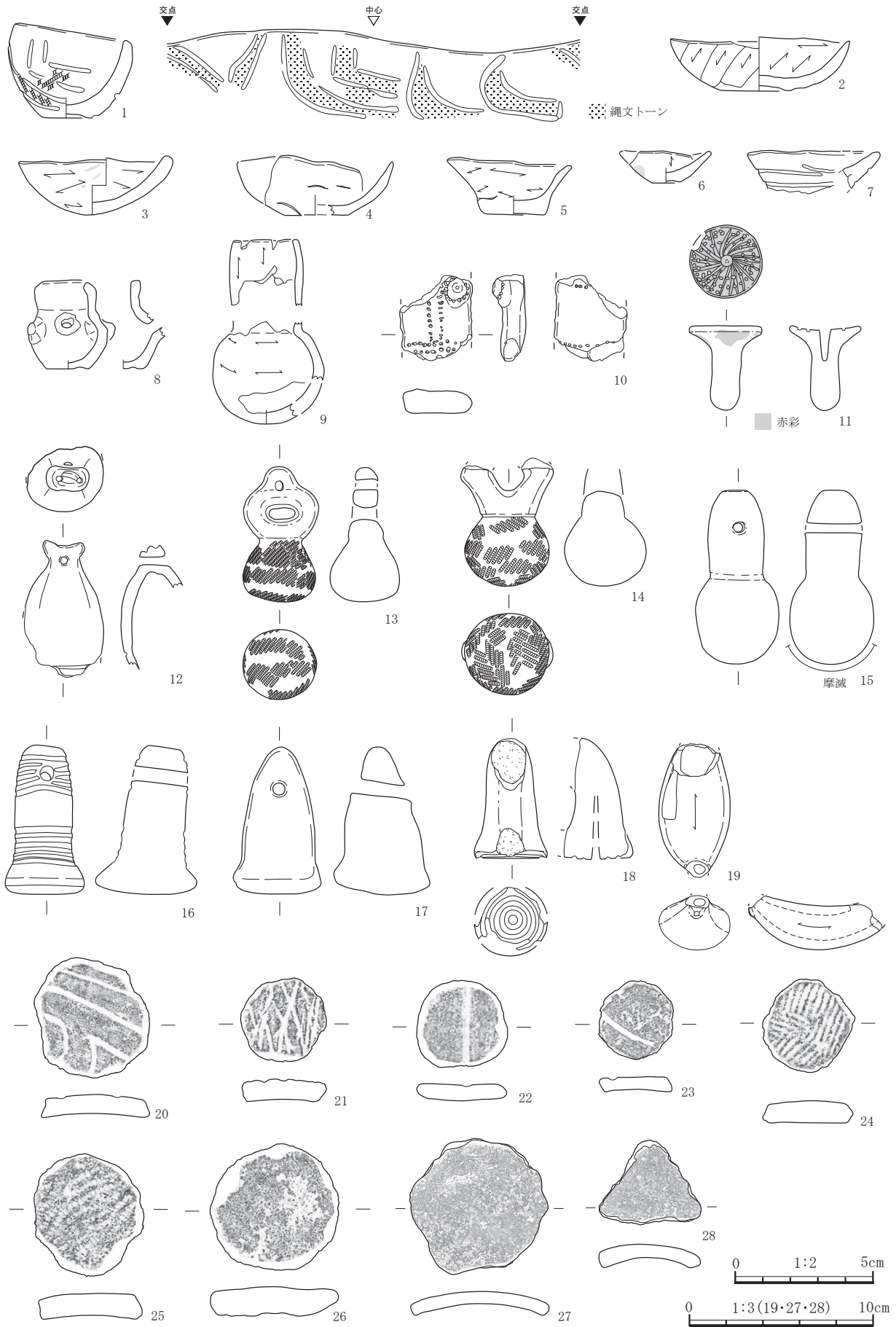


図108 第19号流路跡出土土製品



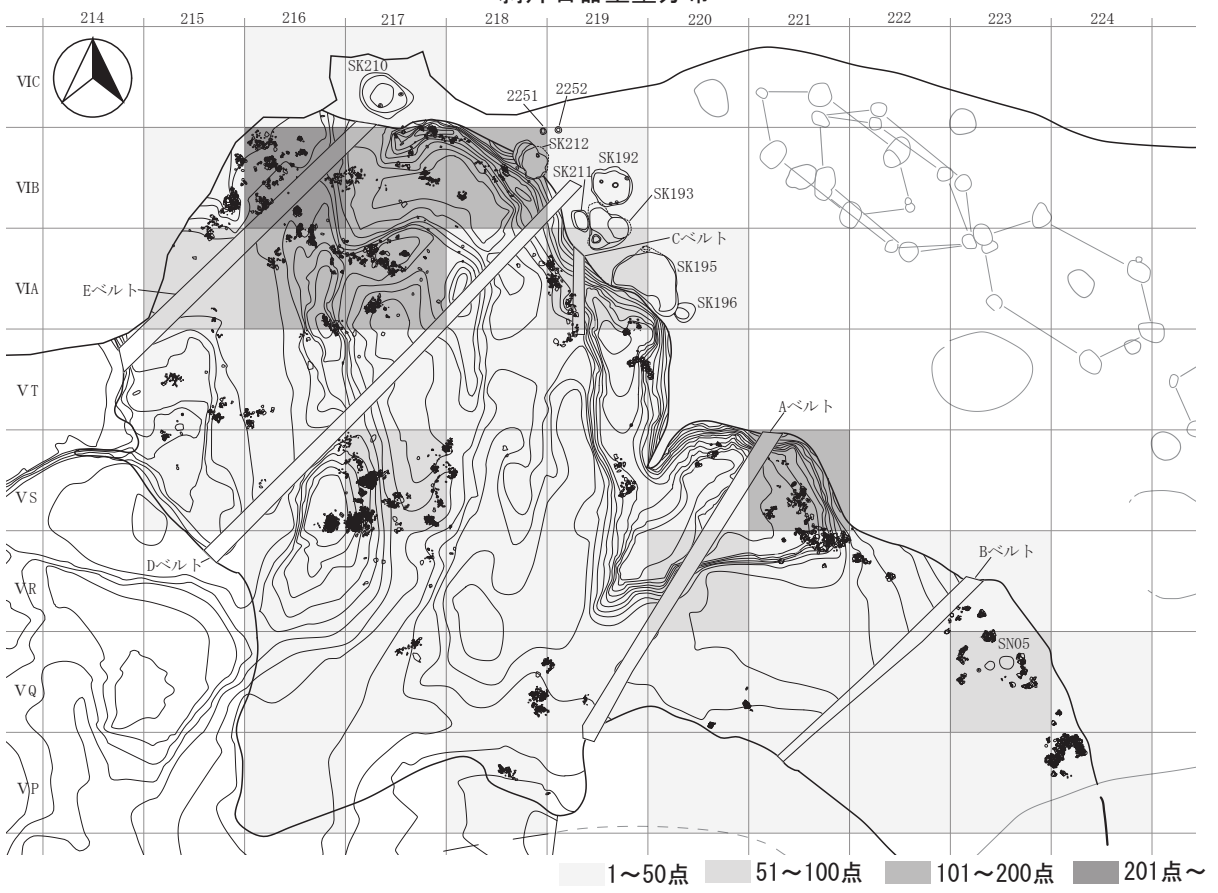
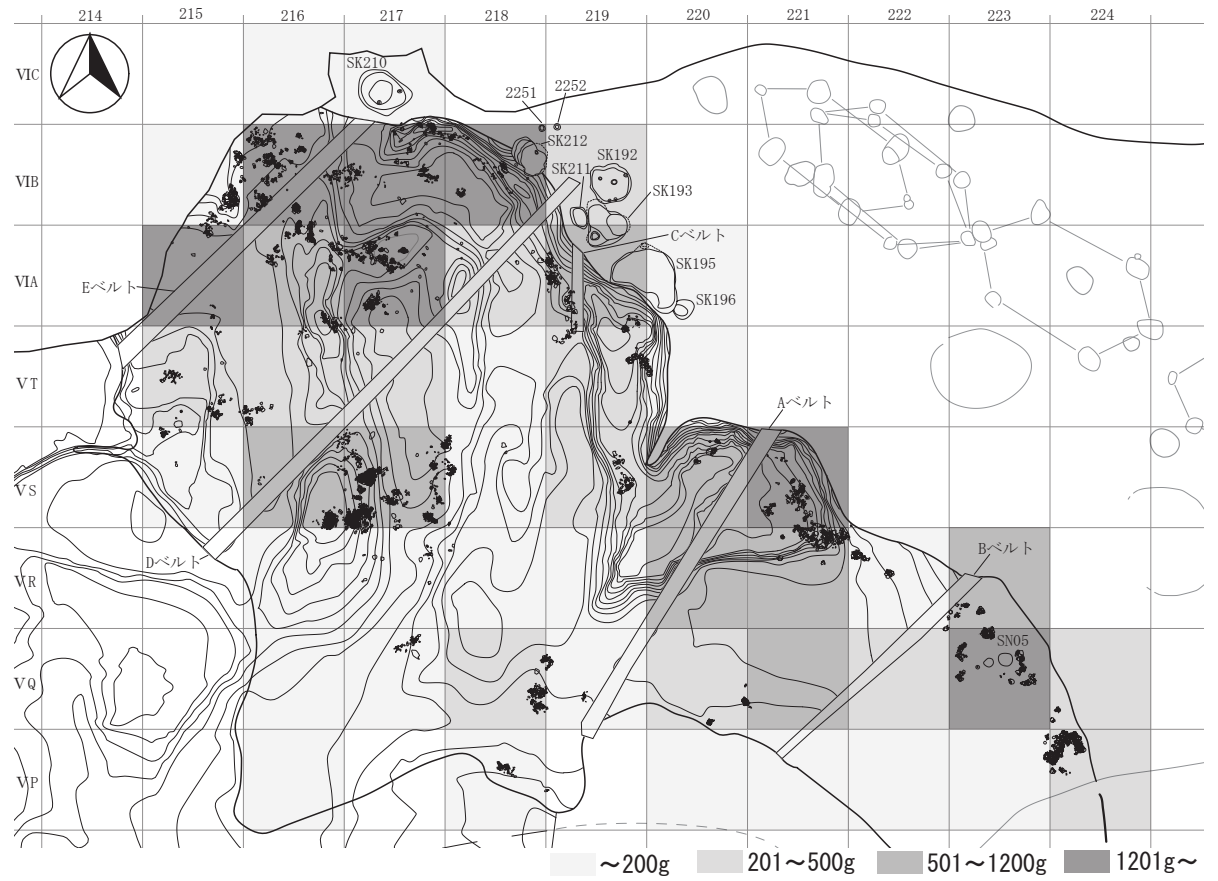


図109 第19号流路跡出土石器重量分布図(1)

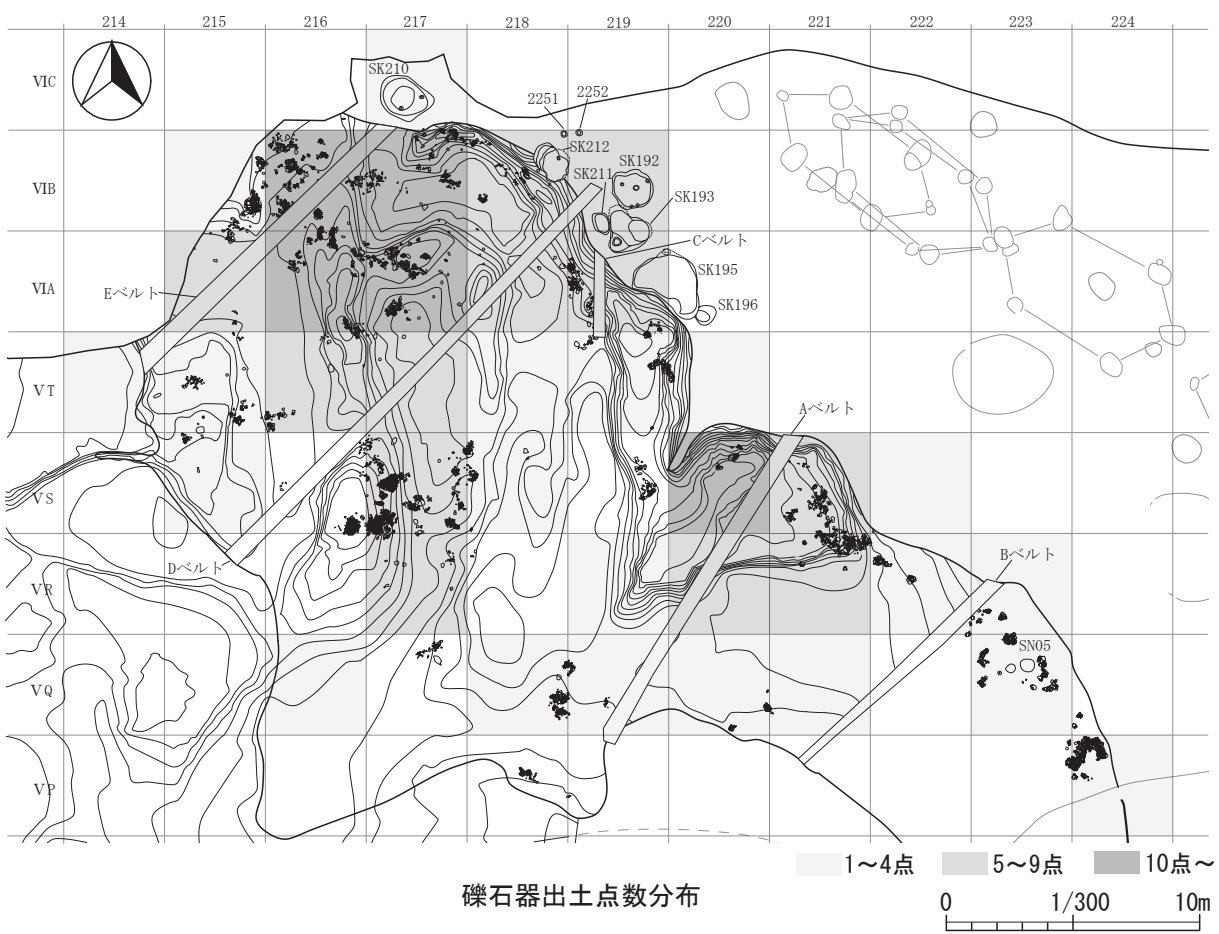
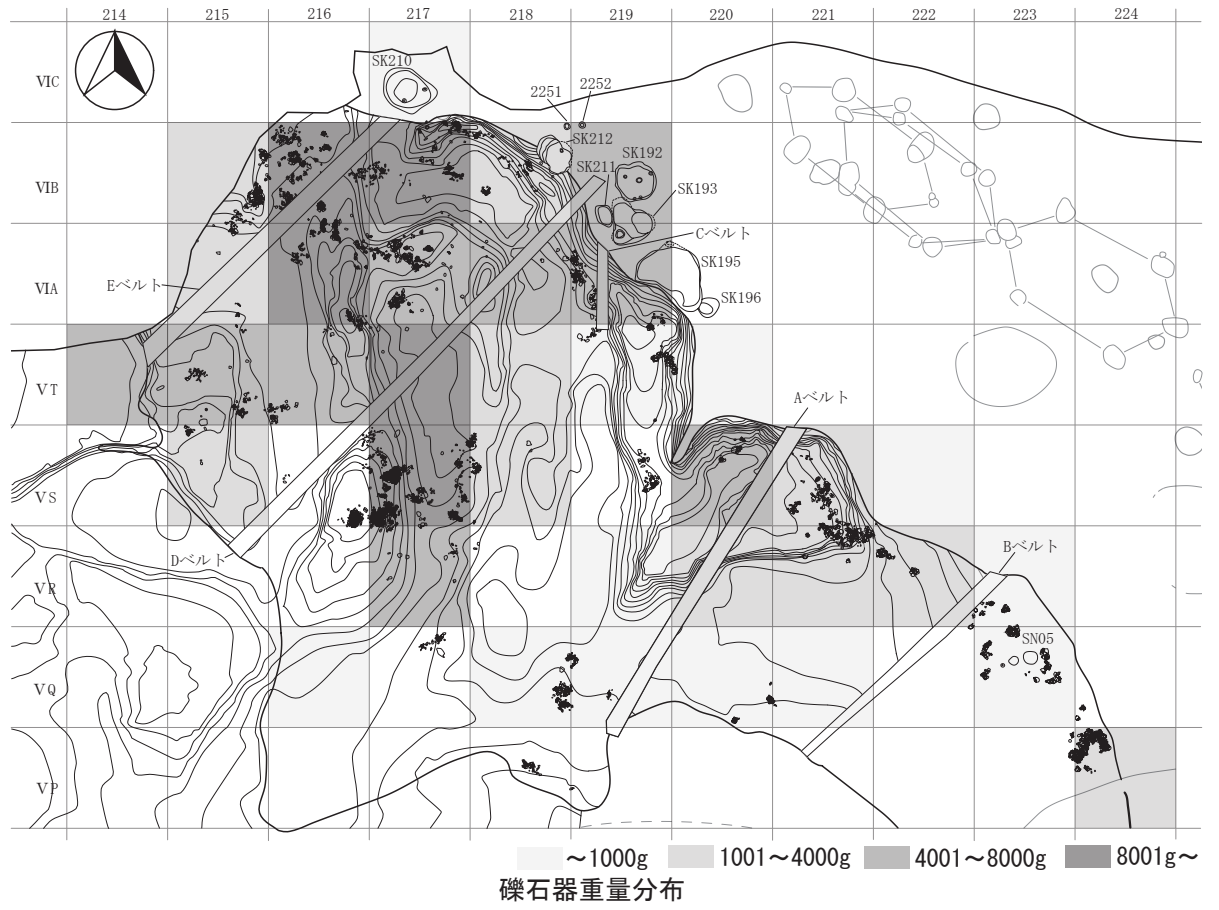
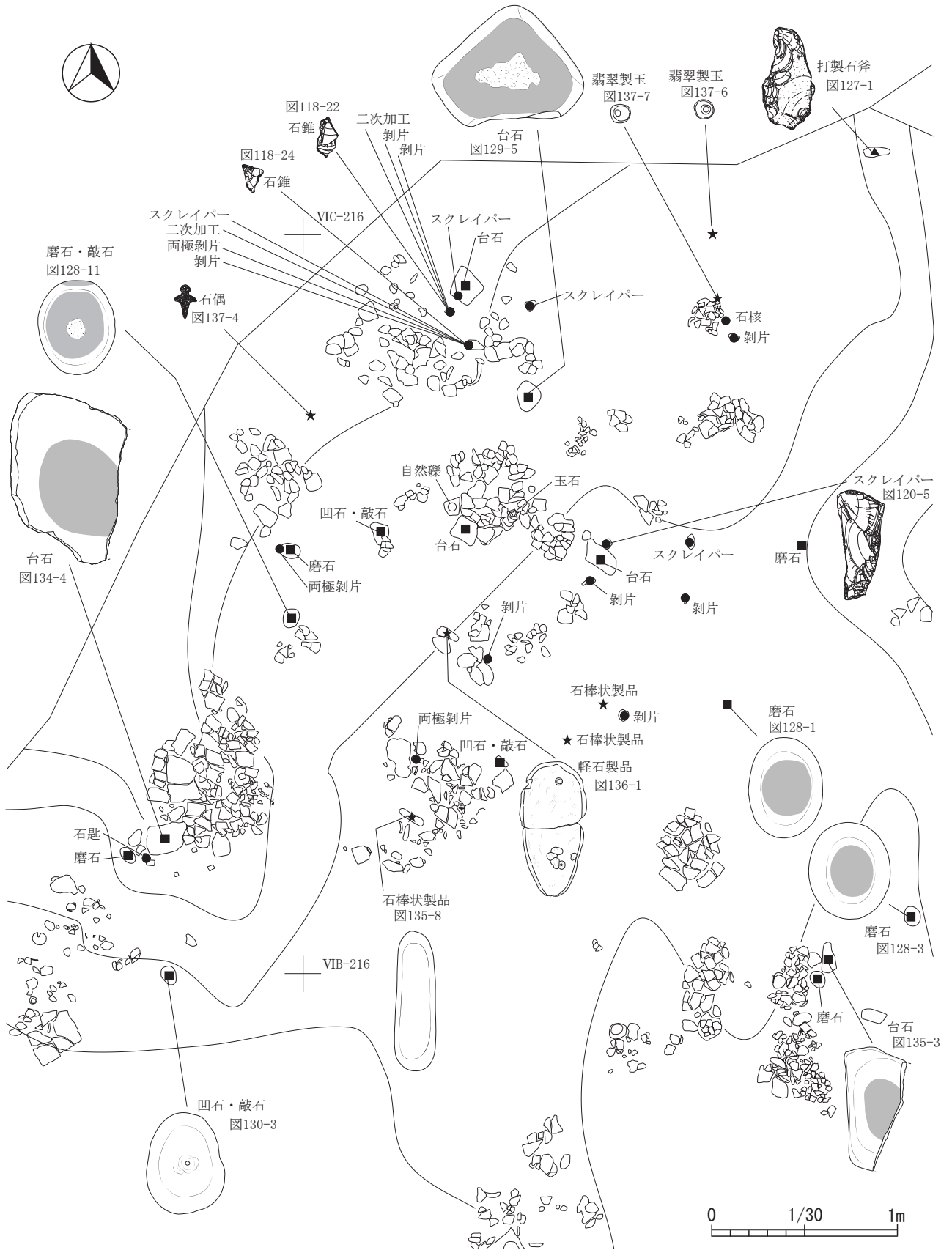
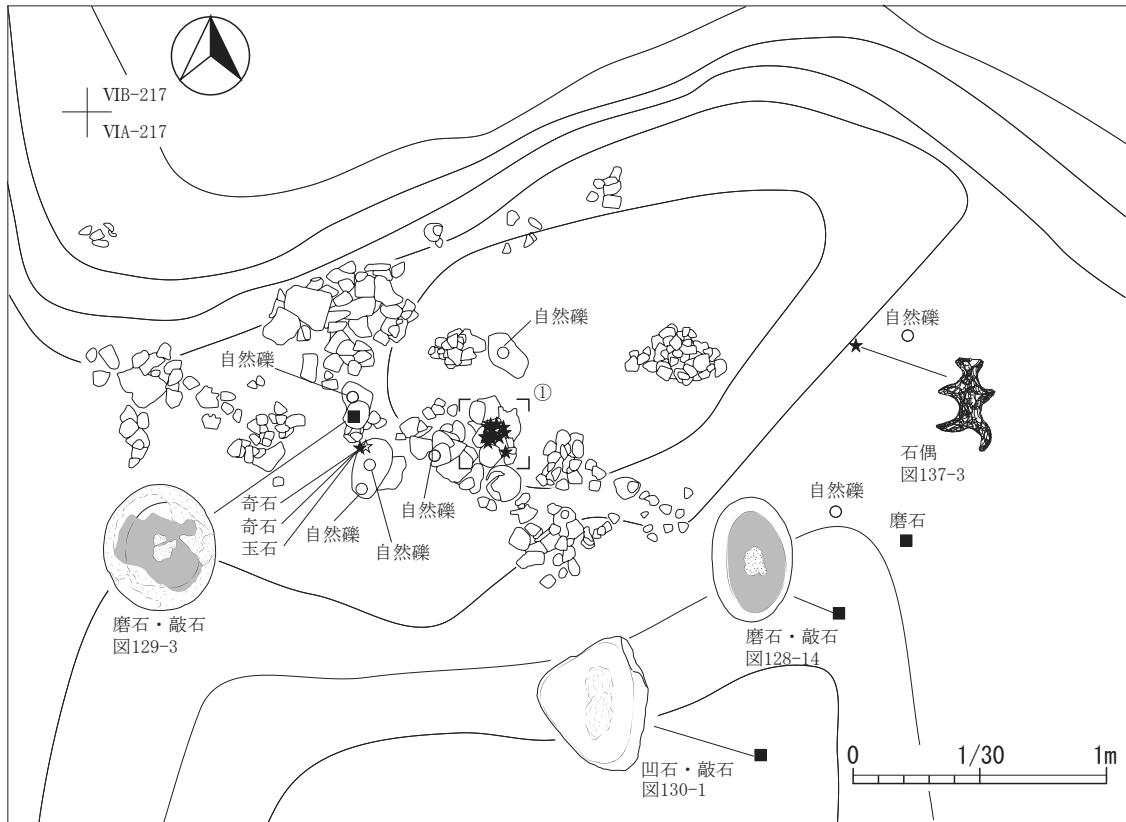


図110 第19号流路跡出土石器重量分布図(2)



VIB・VIC-216 石器出土状況図

図111 石器出土状況図(1)



VIA-217 石器出土状況図



① 拡大図 (軟玉製装飾品, 玉石出土状況)

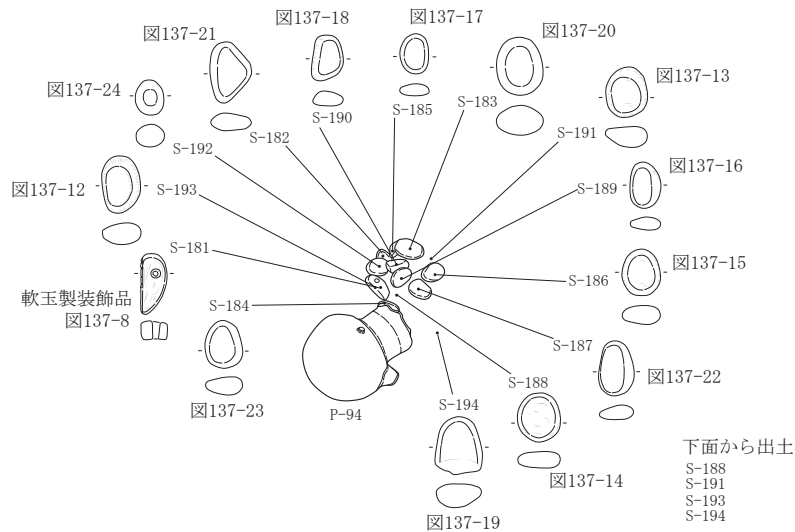
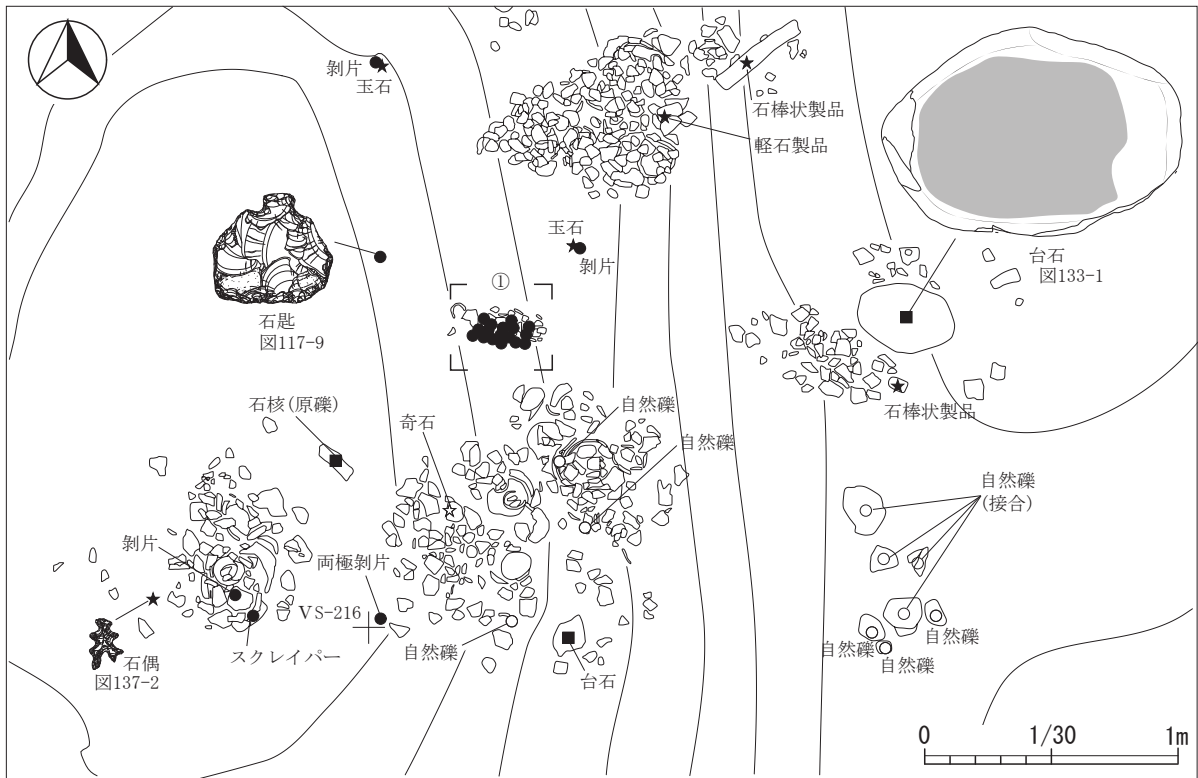


図112 石器出土状況図(2)



VS・VT-216 石器出土状況図



① 拡大図

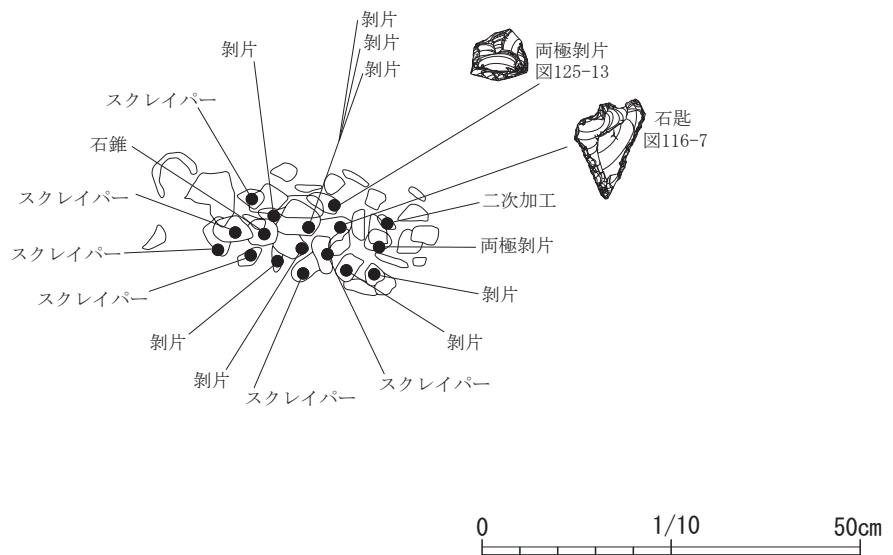
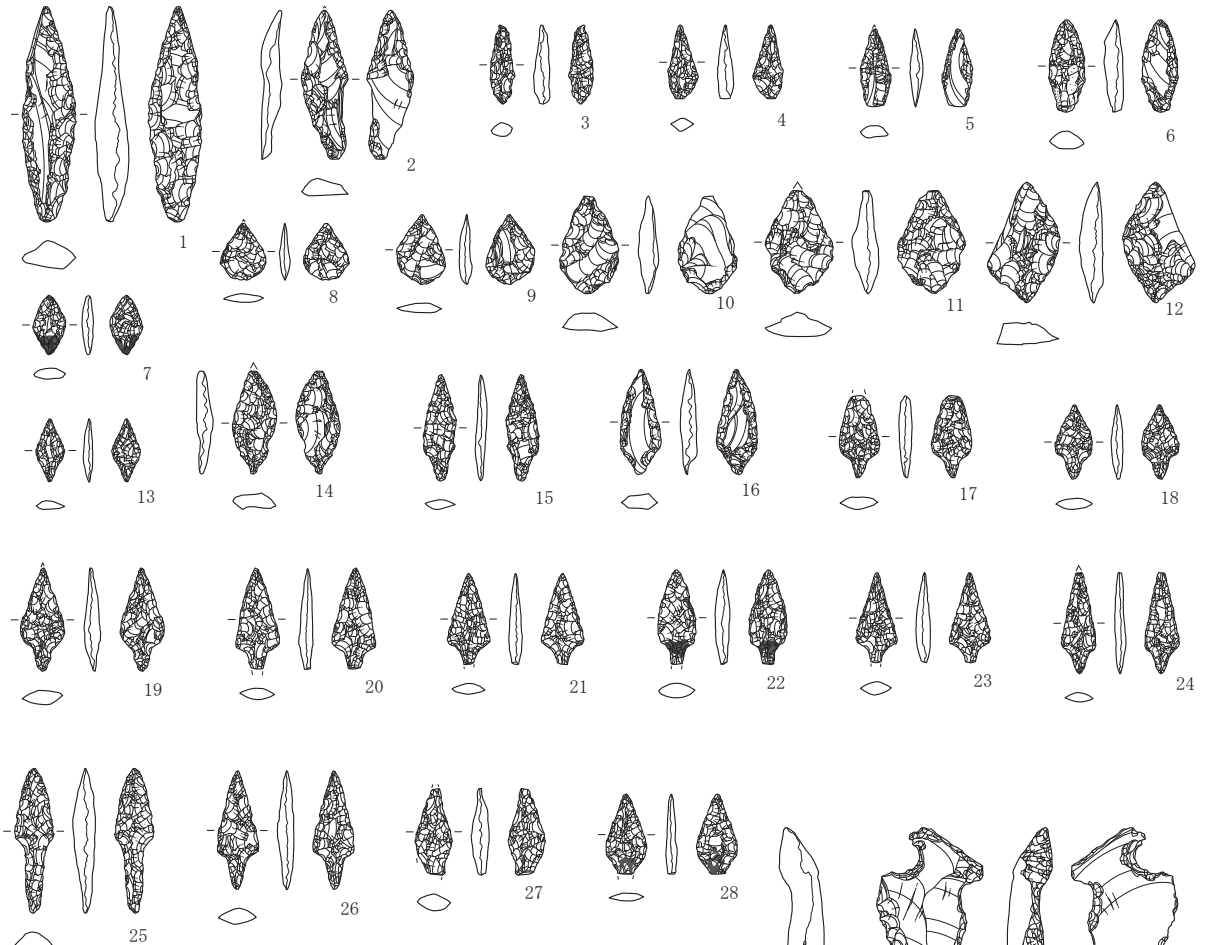


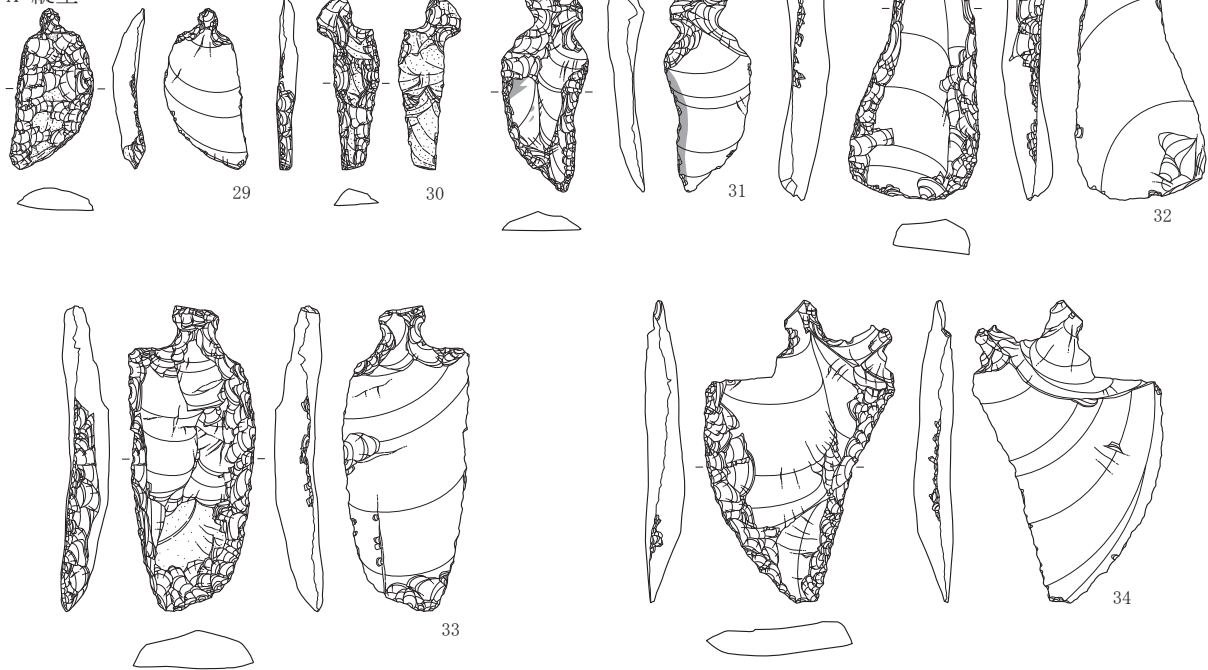
図113 石器出土状況図(3)

石鏃



石匙

A: 縦型



■ 黒色物質 ■ 光沢

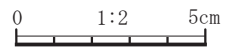


図114 第19号流路跡出土石器(1)

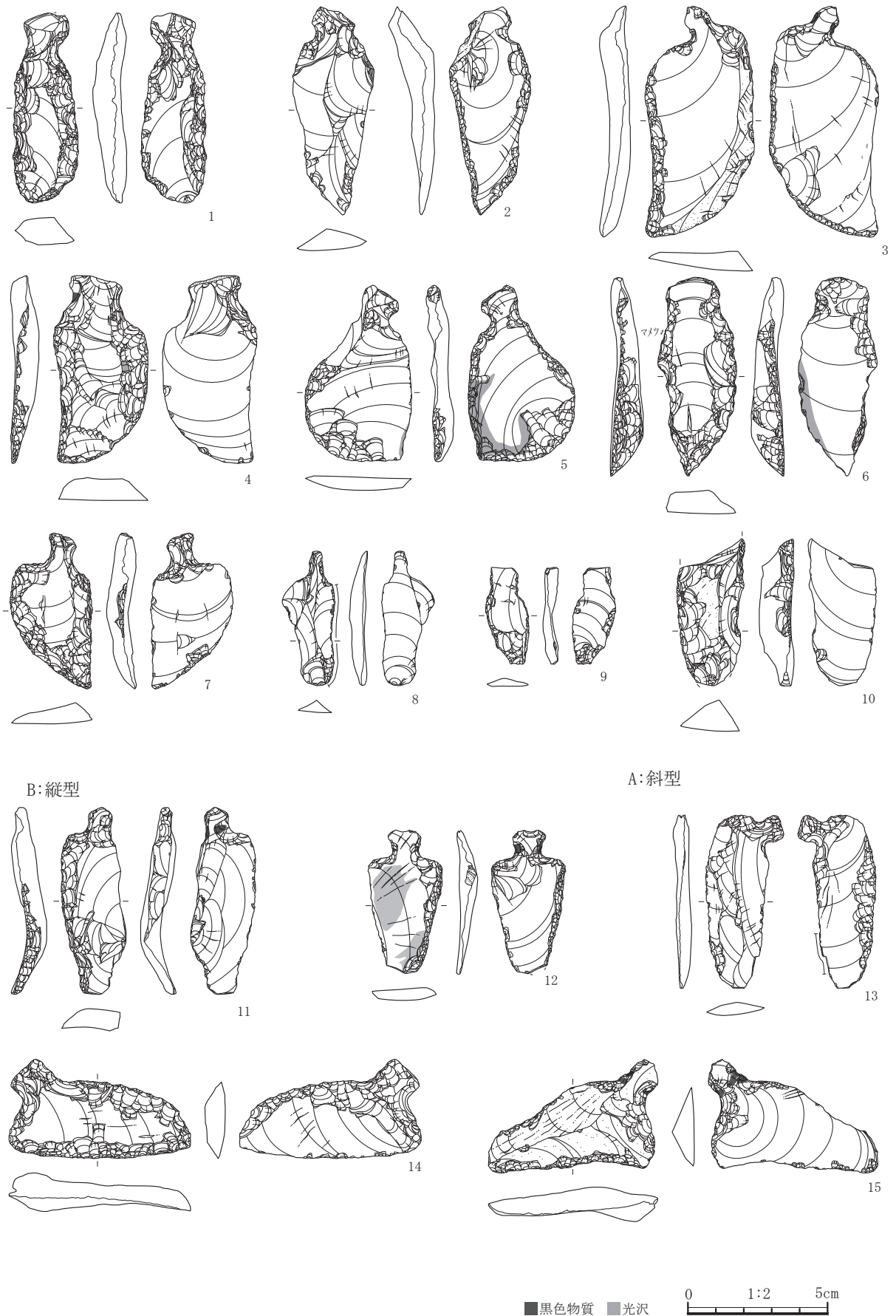


图115 第19号流路跡出土石器(2)

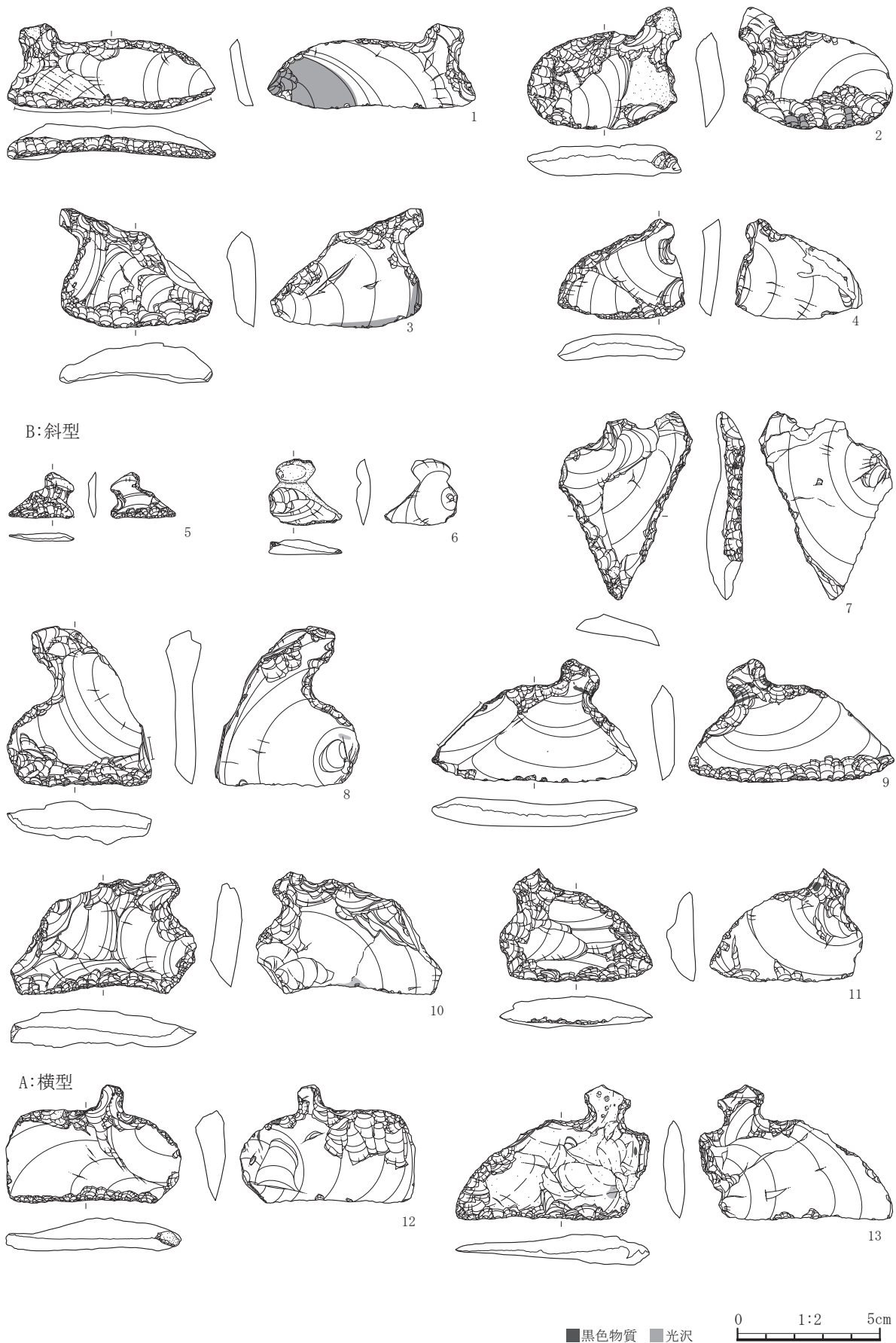


図116 第19号流路跡出土石器(3)



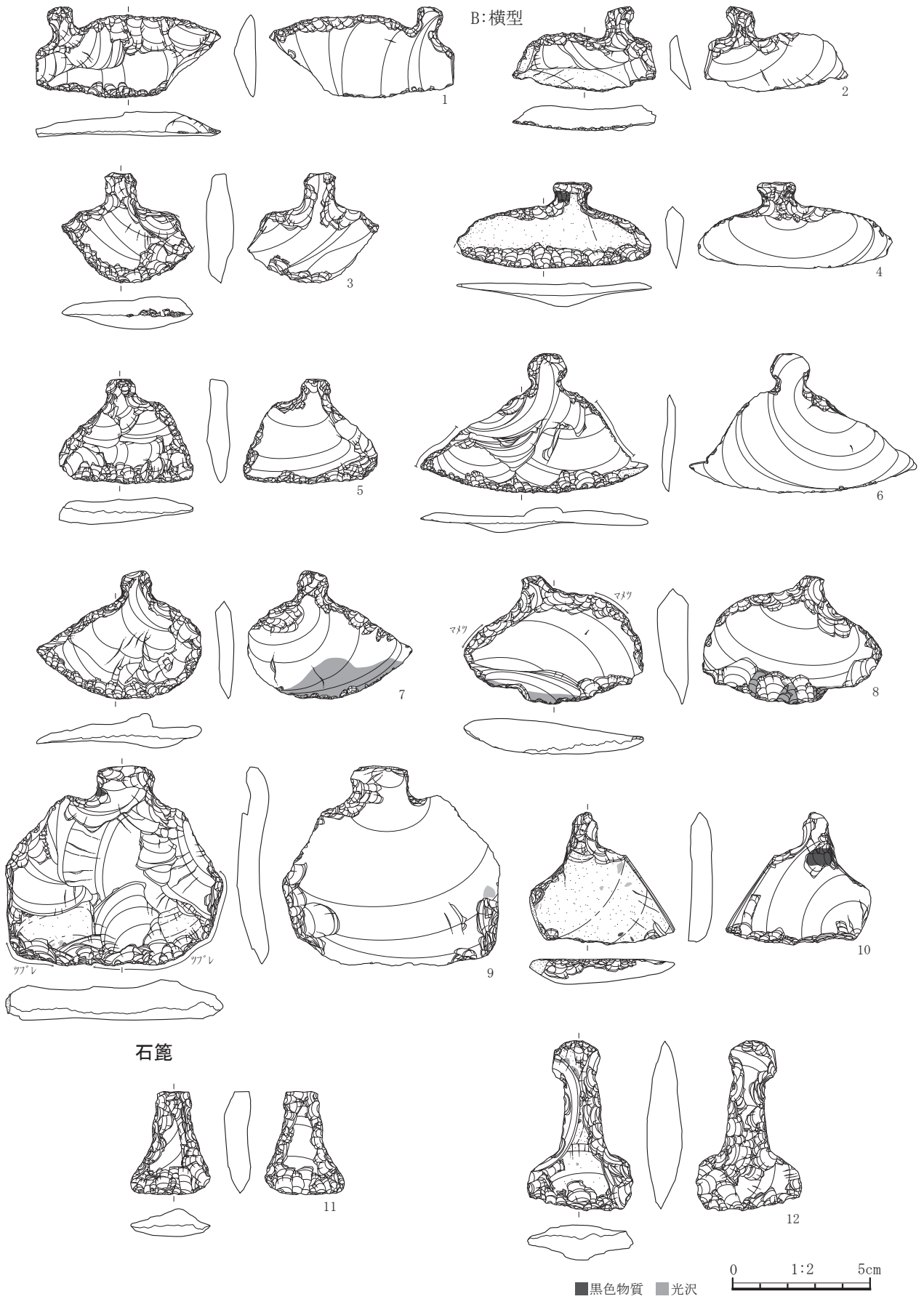


図117 第19号流路跡出土石器(4)

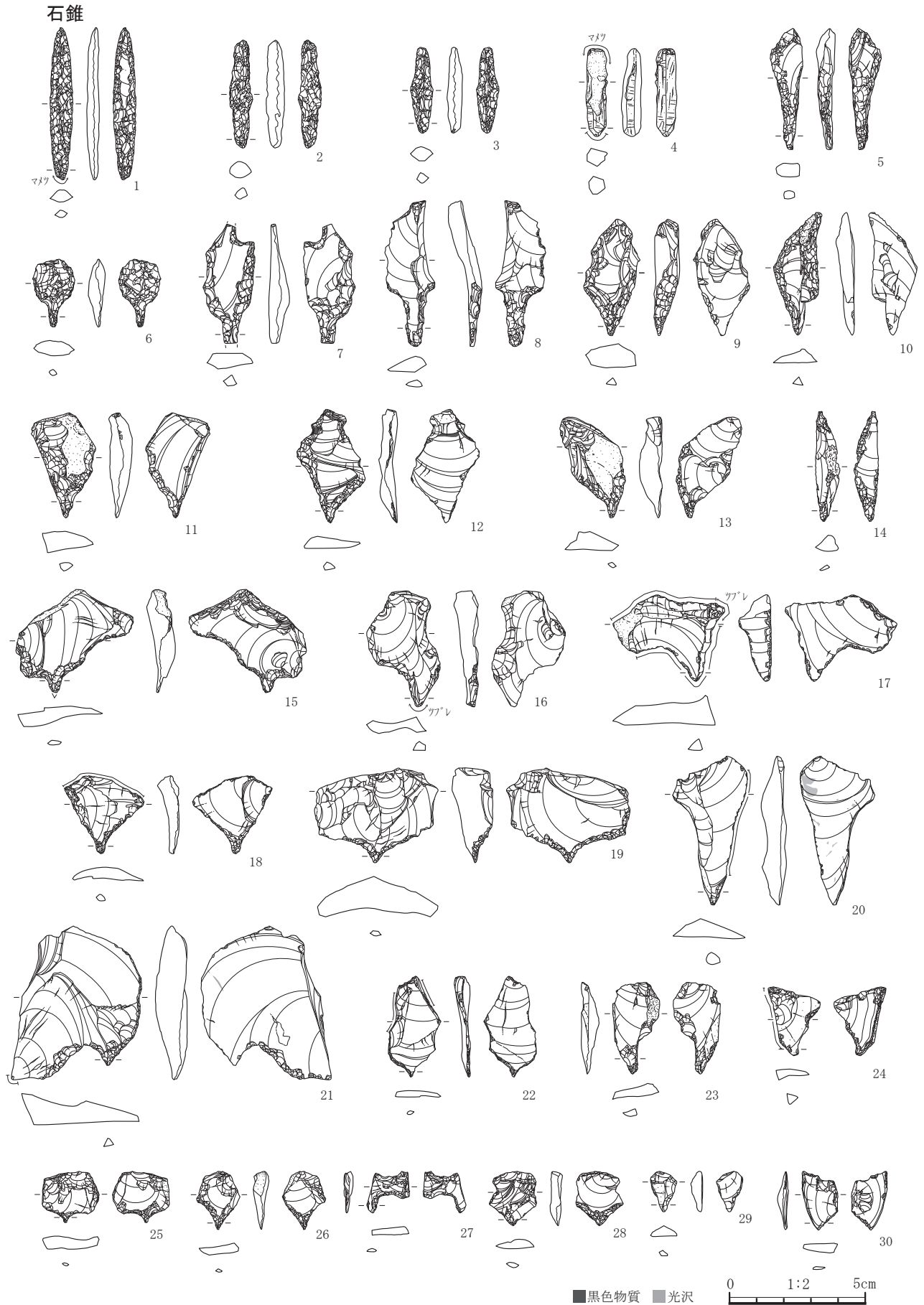


図118 第19号流路跡出土石器(5)

スクレイパー A1



図119 第19号流路跡出土石器(6)

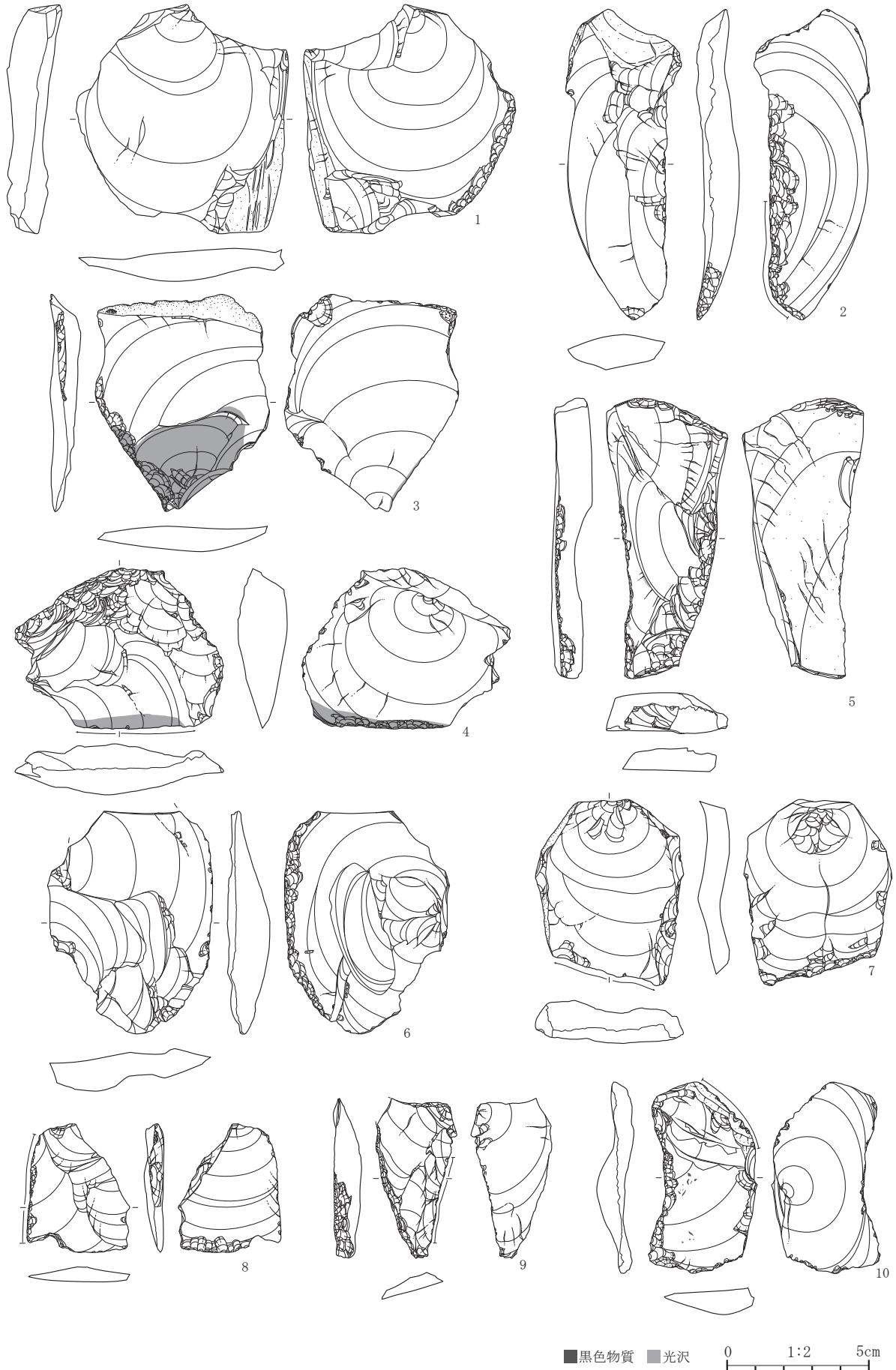


図120 第19号流路跡出土石器(7)

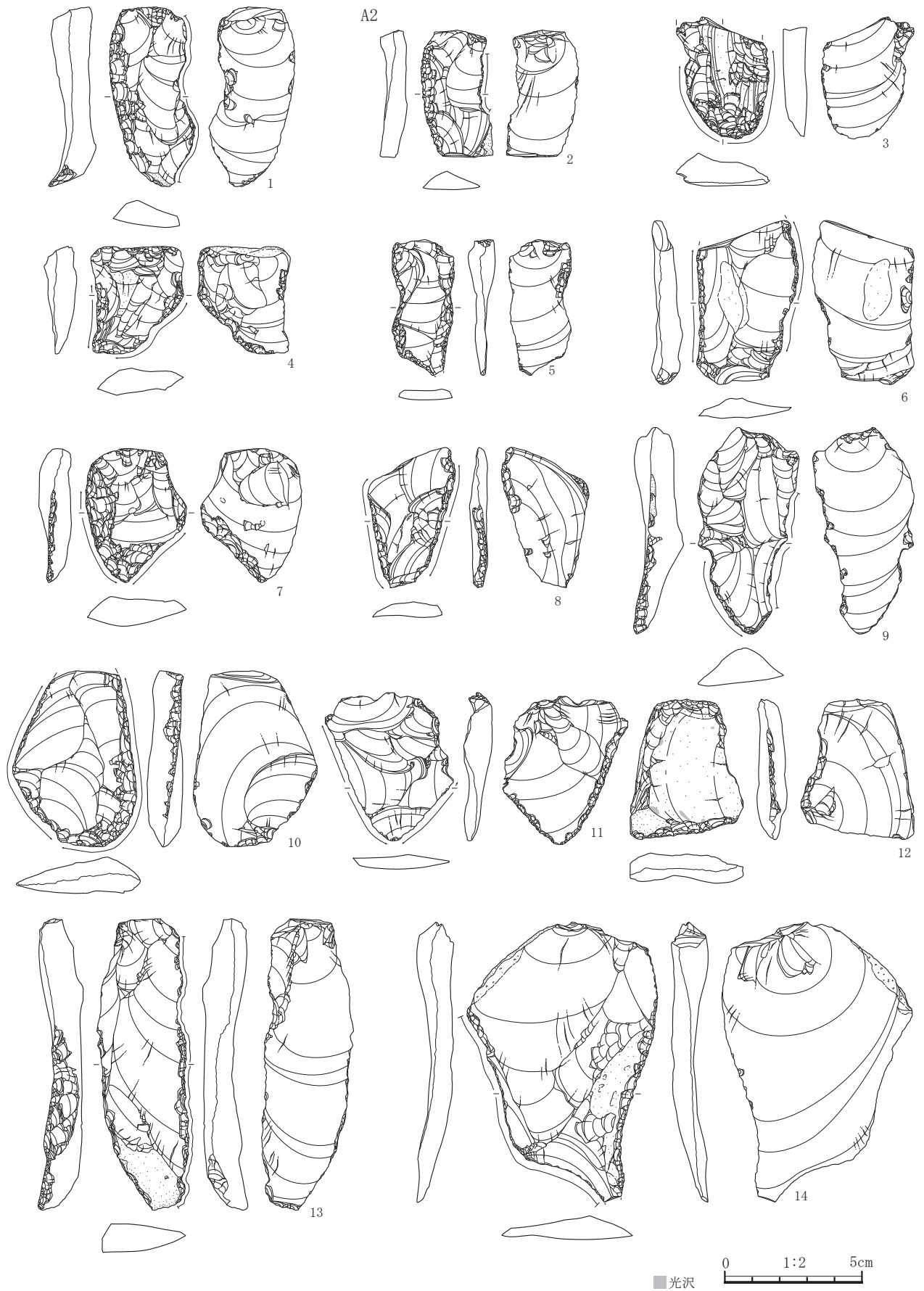


图121 第19号流路跡出土石器(8)

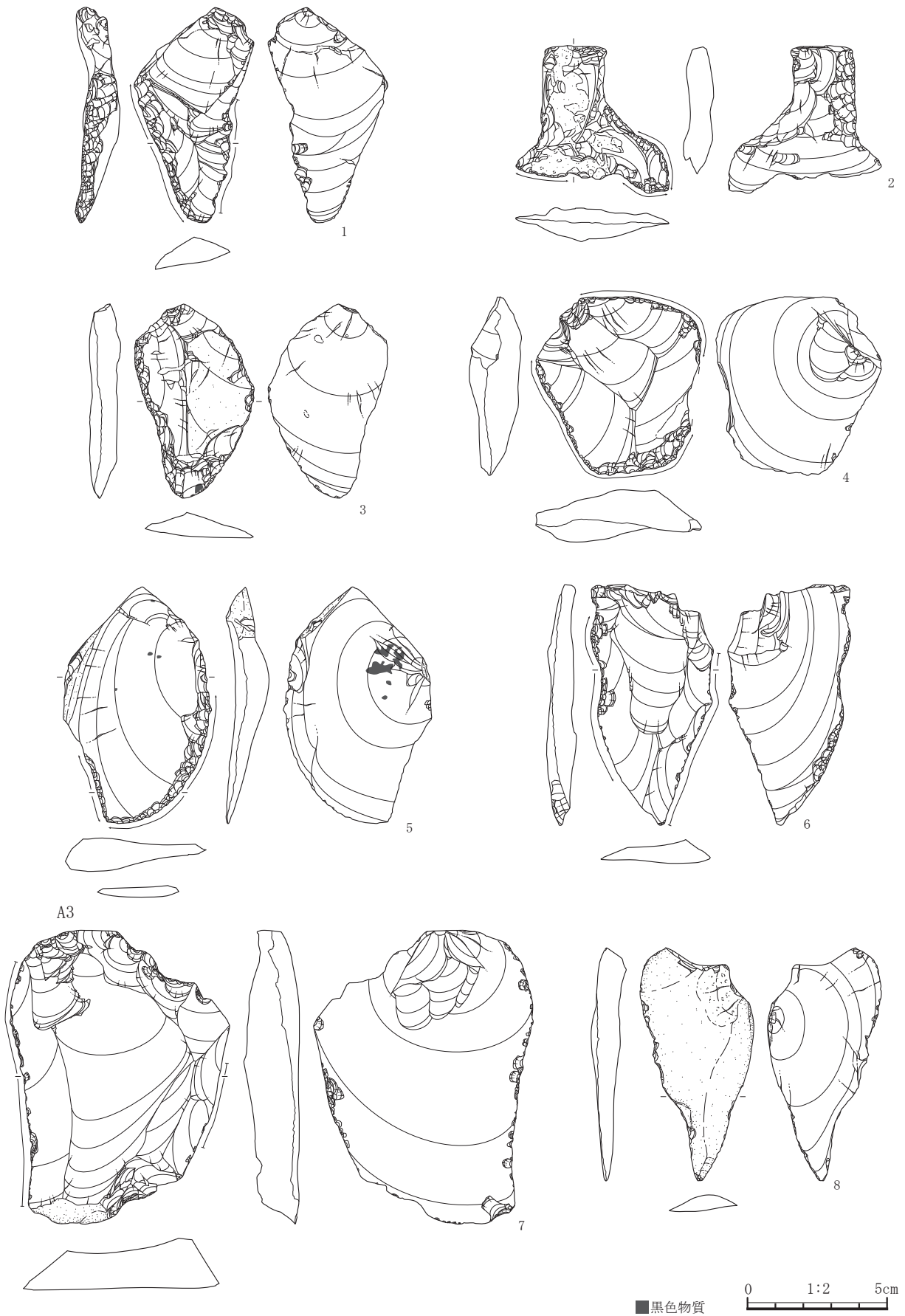


図122 第19号流路跡出土石器(9)

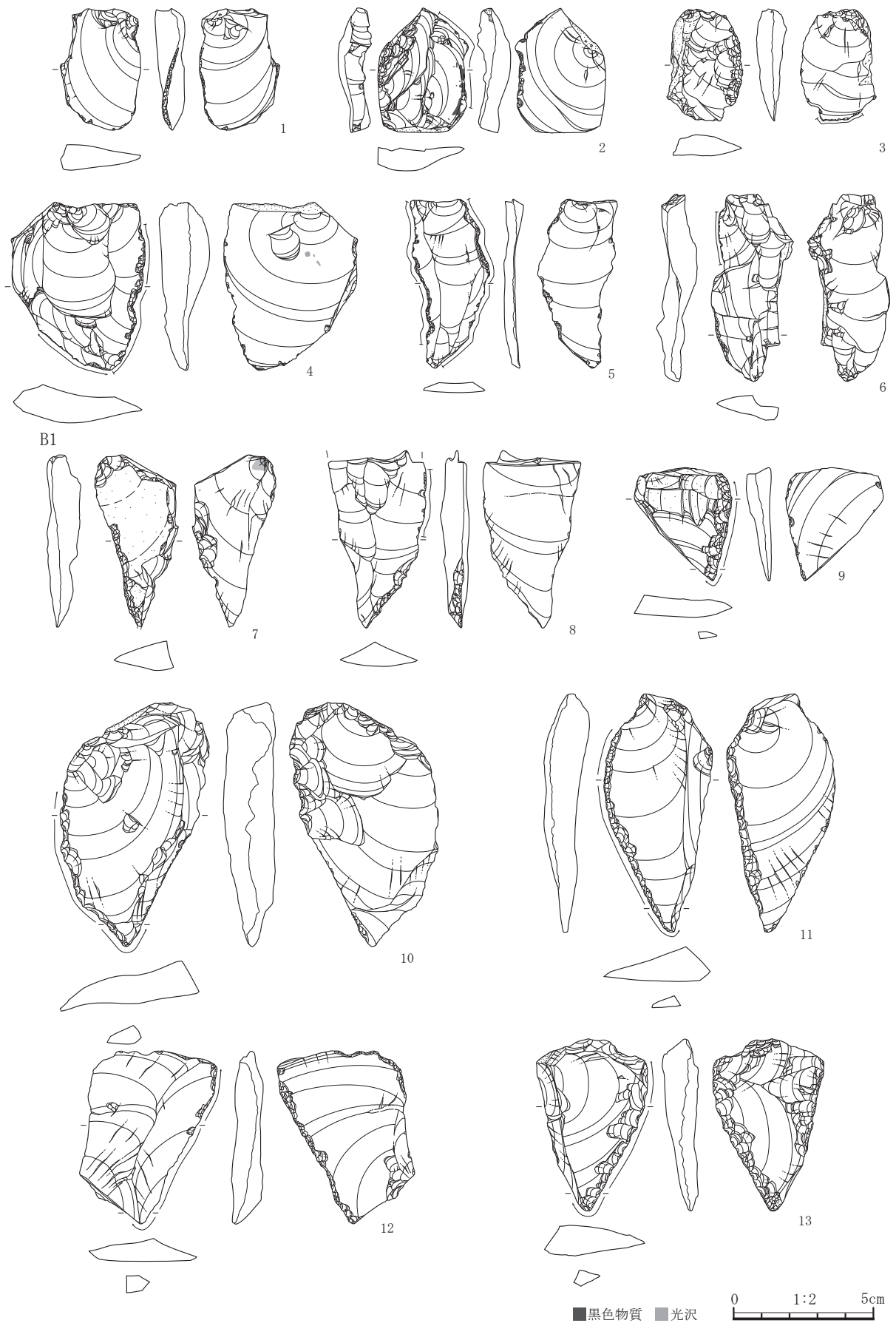


图123 第19号流路跡出土石器(10)

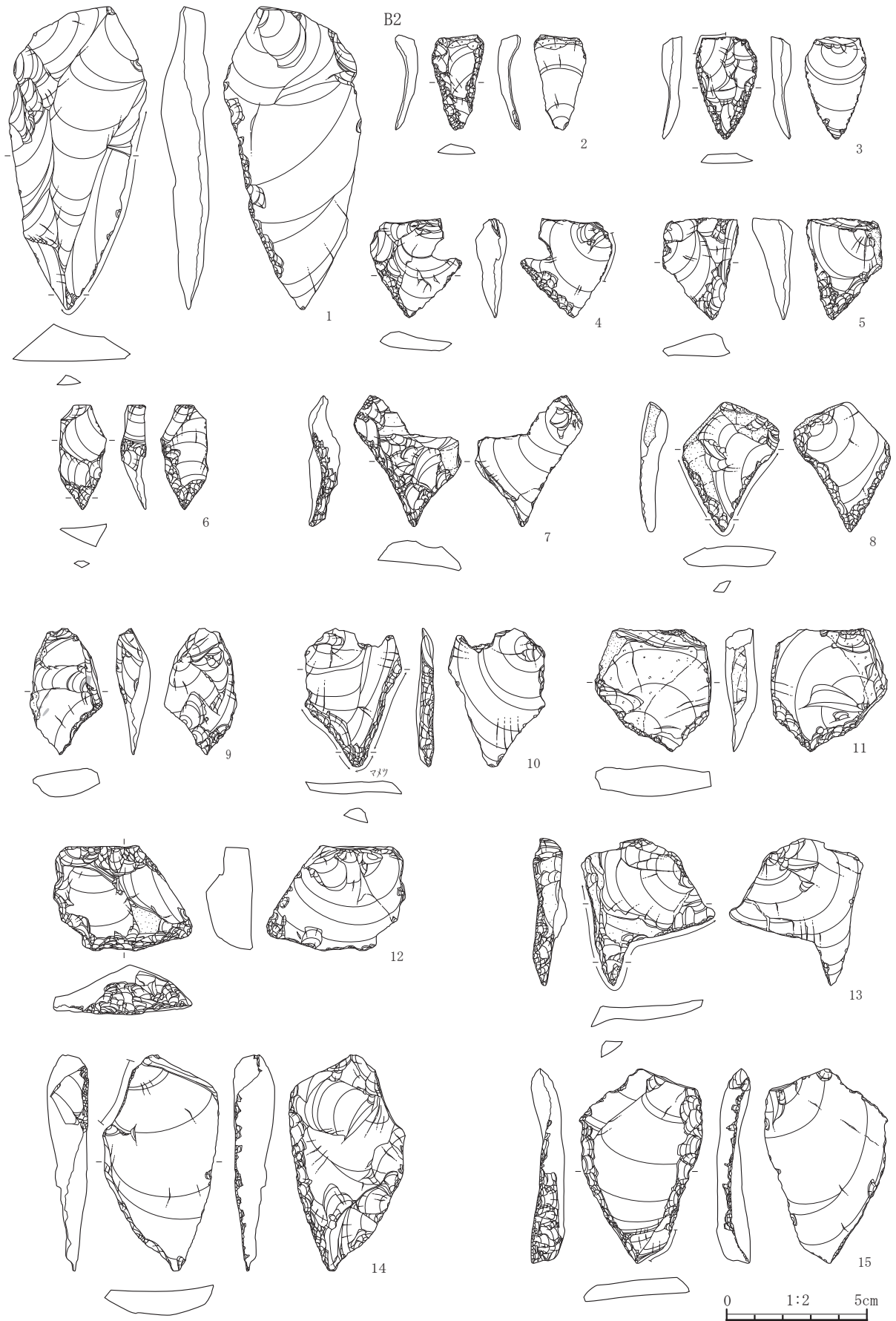


図124 第19号流路跡出土石器(11)



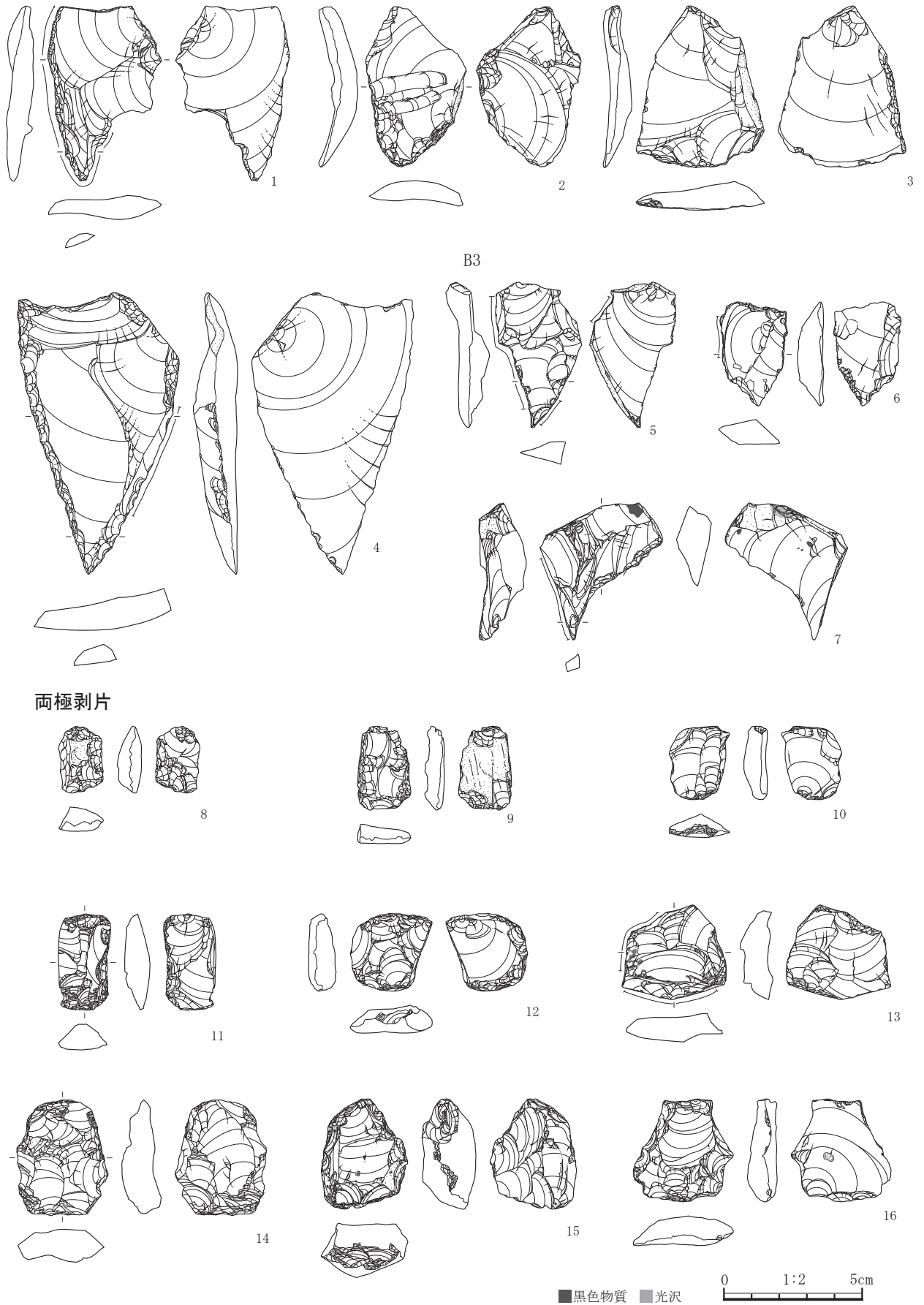
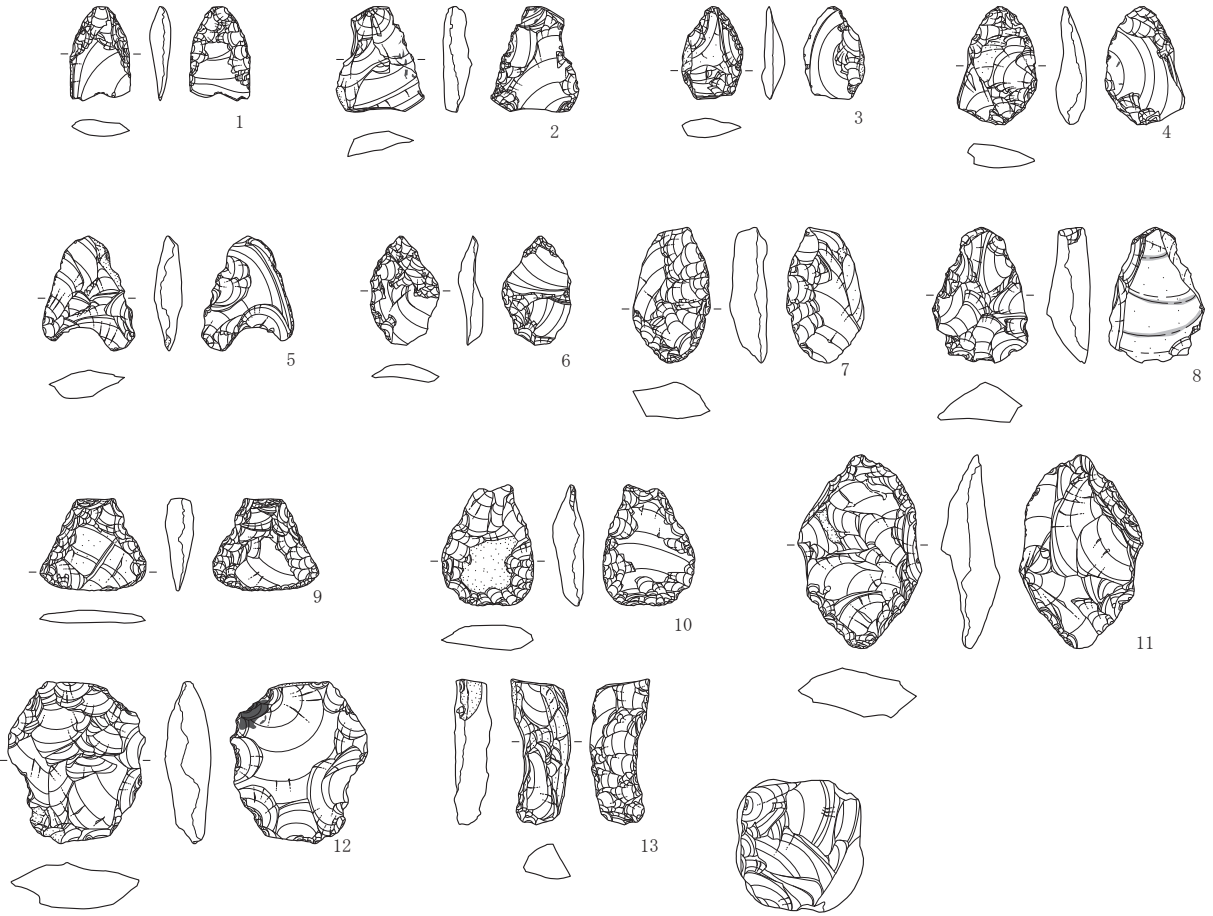
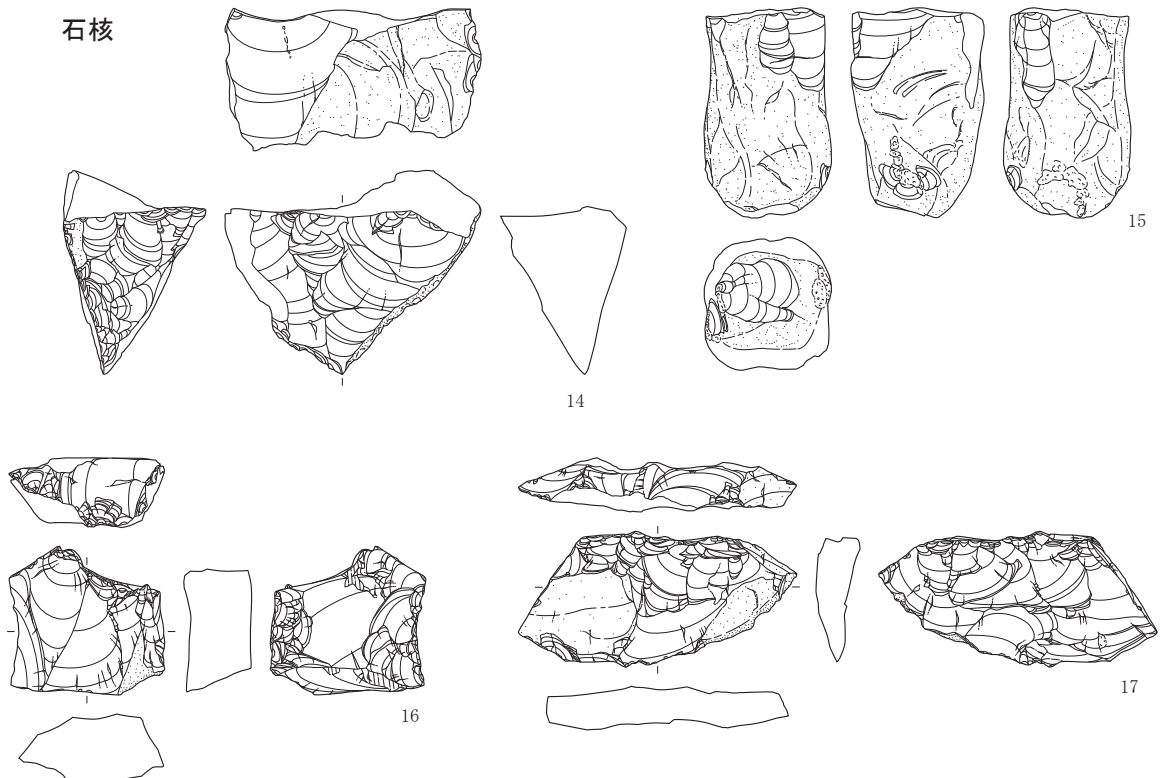


図125 第19号流路跡出土石器(12)

二次加工



石核

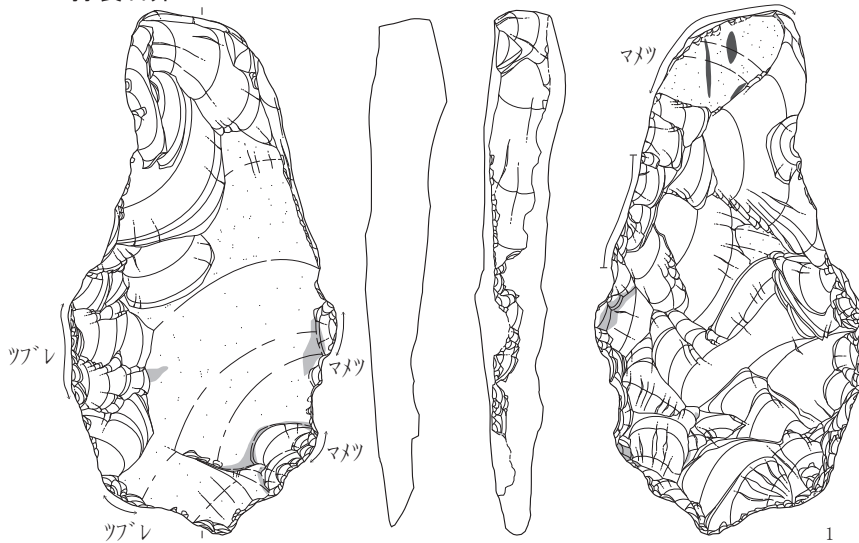


■ 黒色物質 ■ 光沢

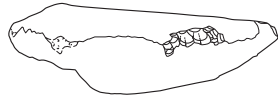
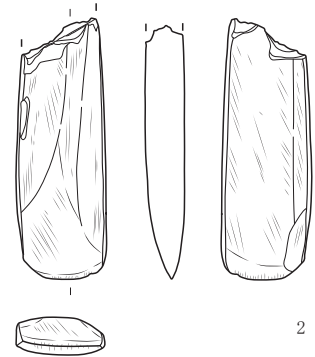
0 1:2 5cm

図126 第19号流路跡出土石器(13)

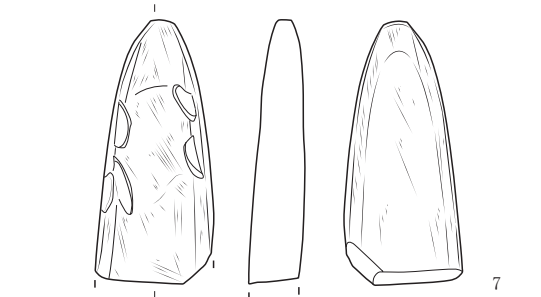
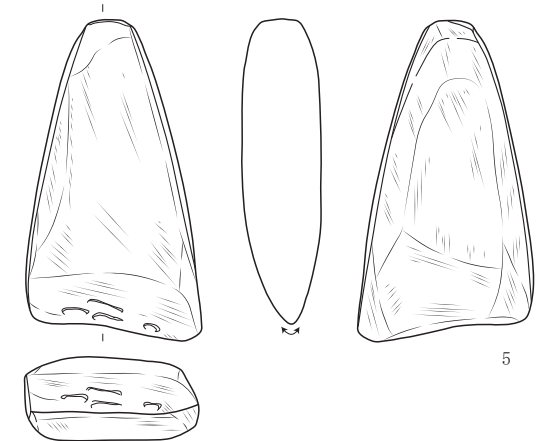
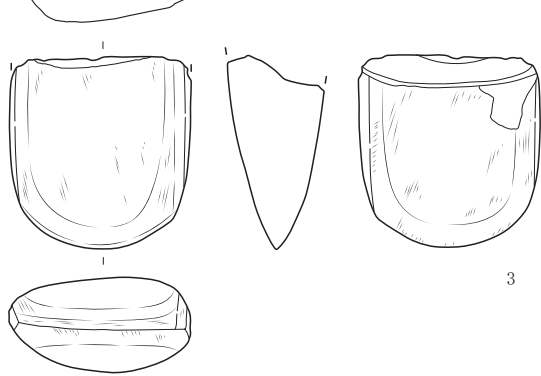
打製石斧



磨製石斧



■ 黒色物質 ■ 光沢



0 1:2 5cm

図127 第19号流路跡出土石器(14)

磨石

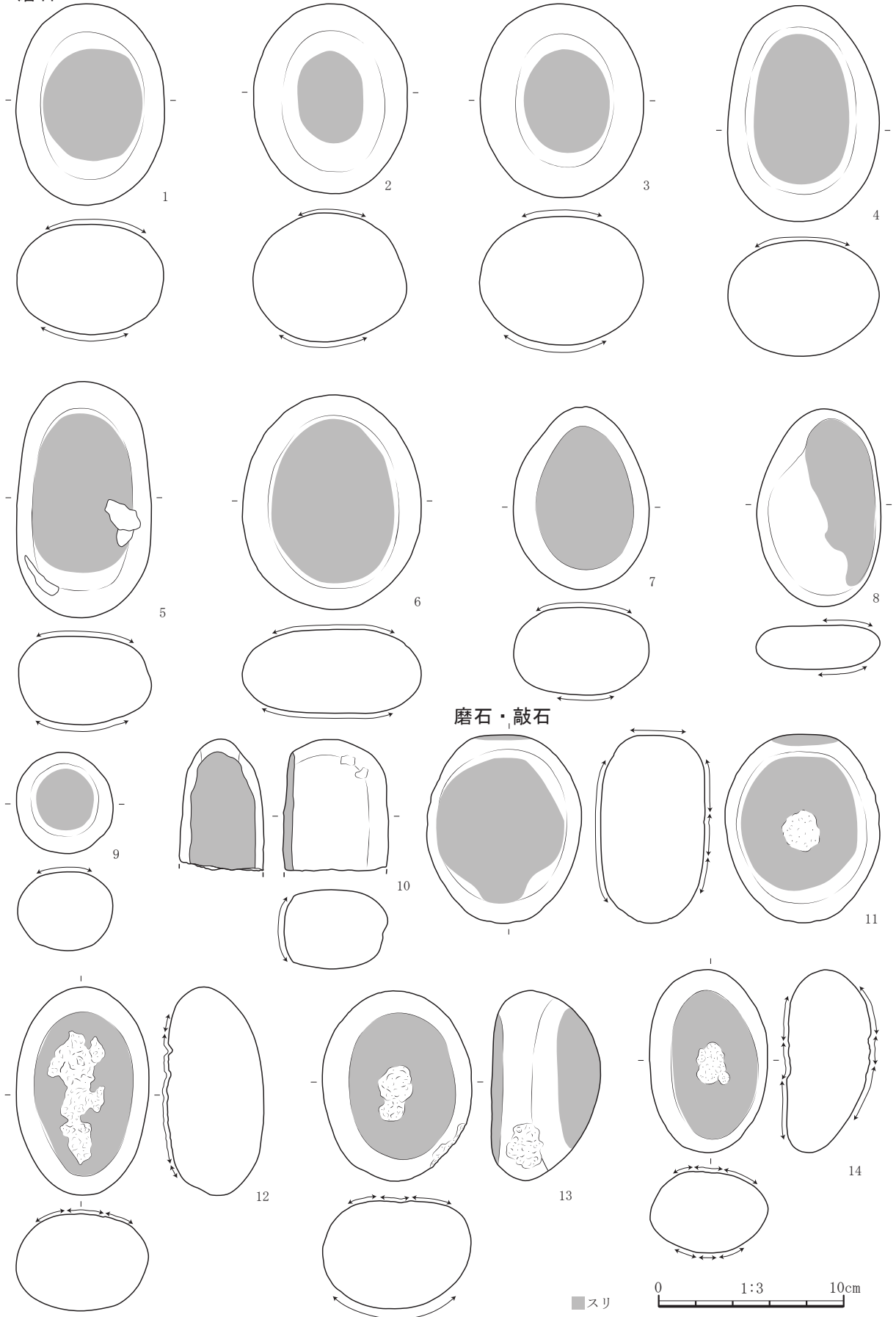


図128 第19号流路跡出土石器 (15)

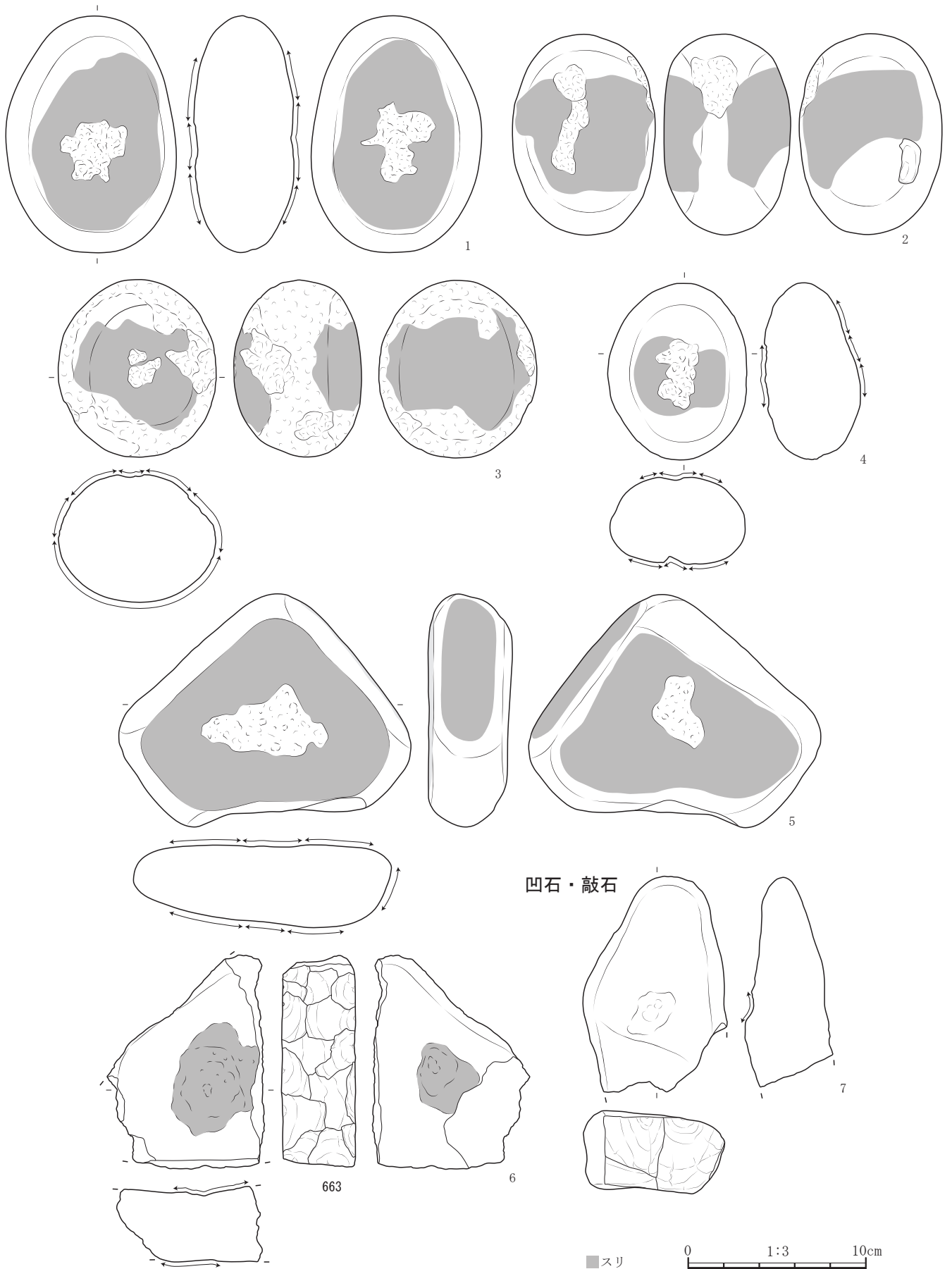


図129 第19号流路跡出土石器(16)



図130 第19号流路跡出土石器(17)

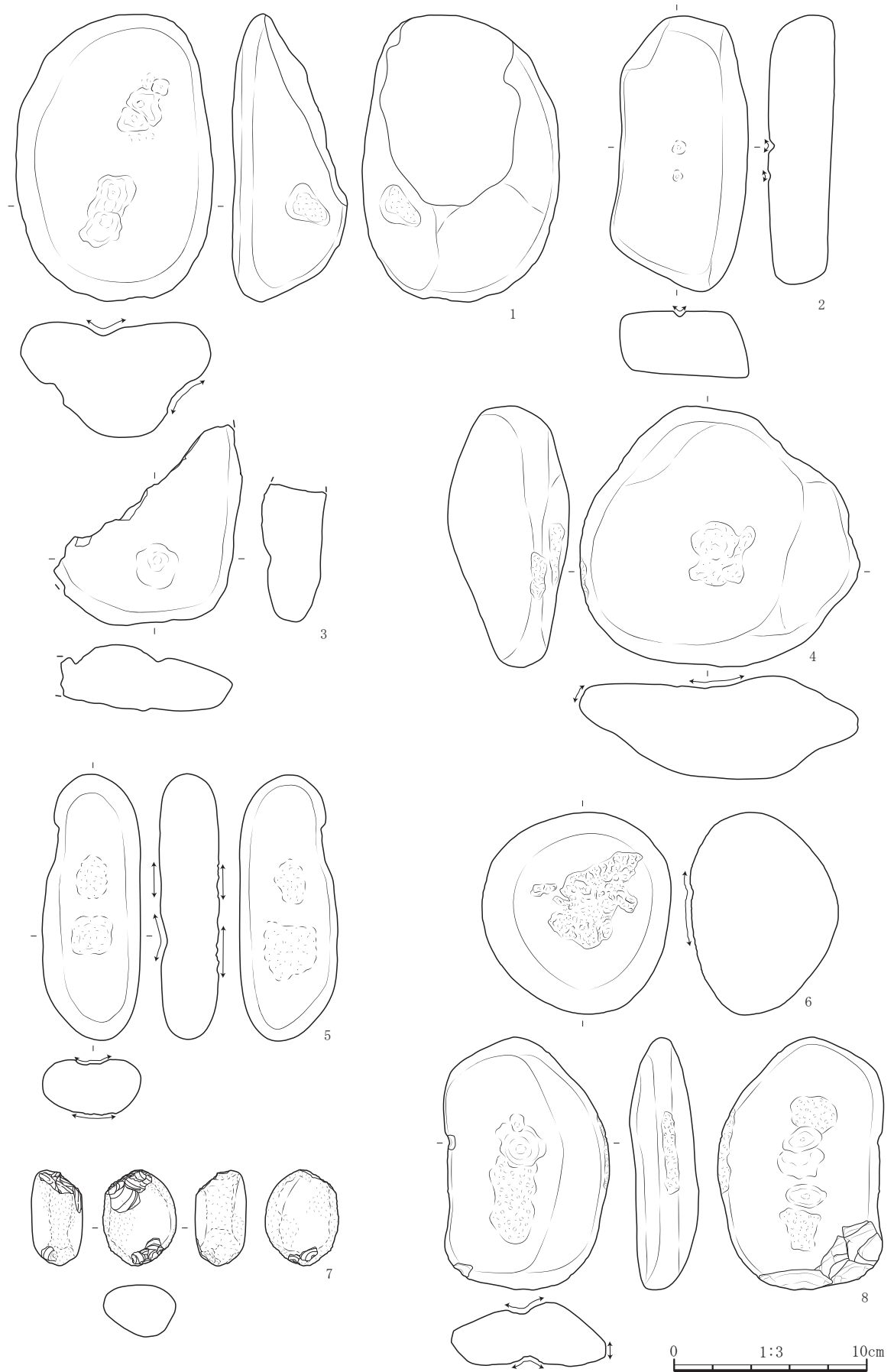


图131 第19号流路跡出土石器(18)

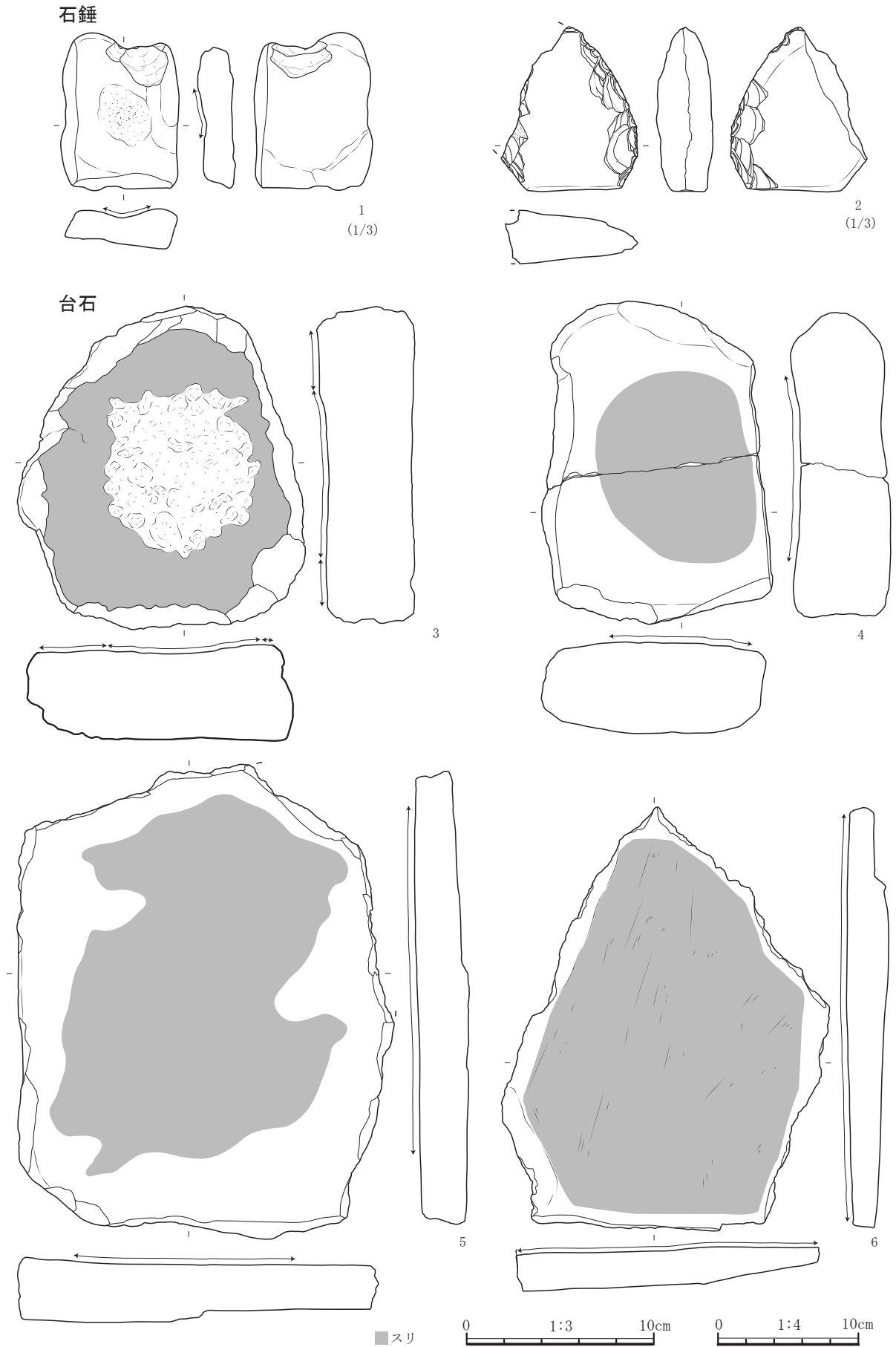


図132 第19号流路跡出土石器(19)



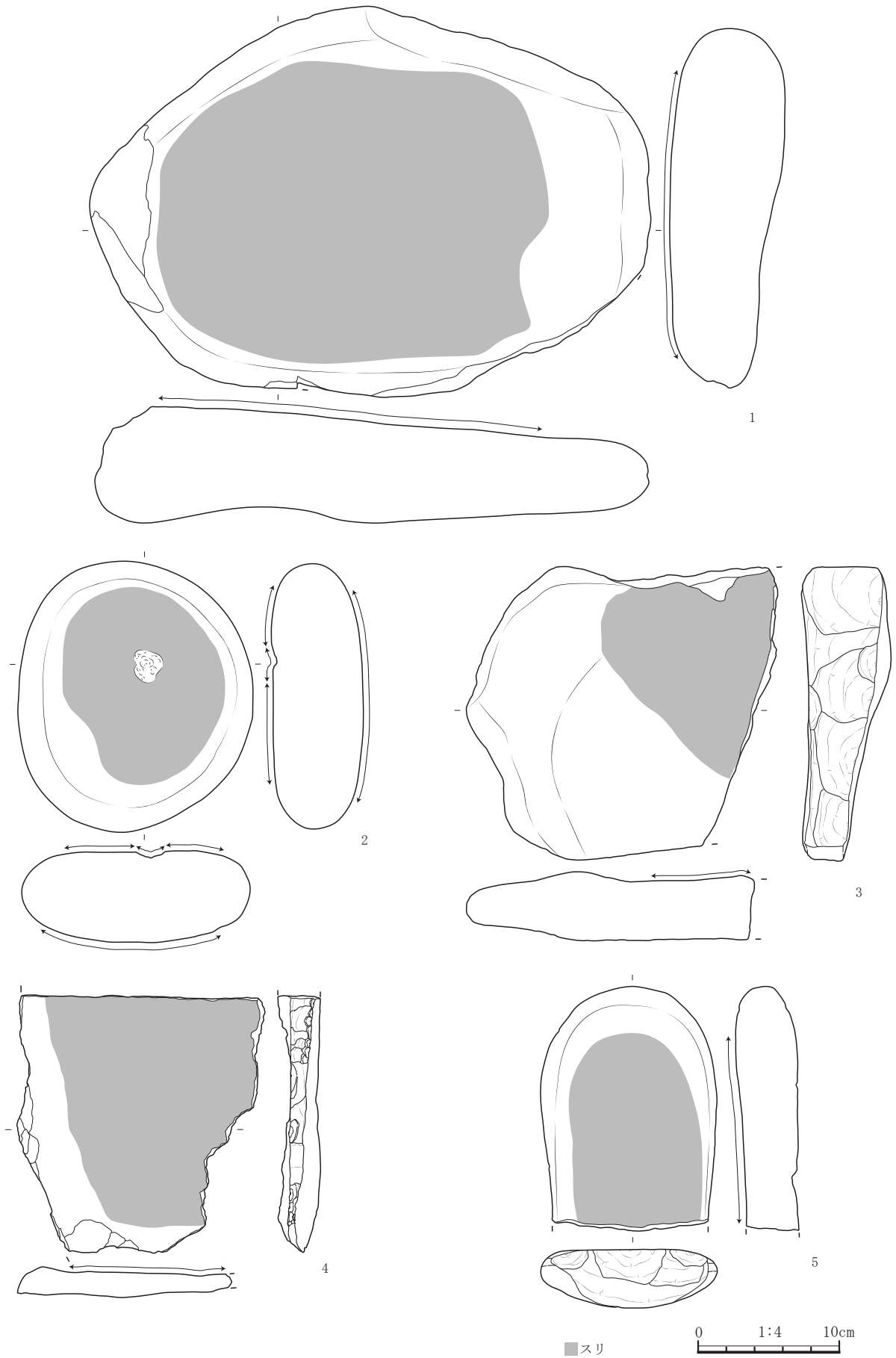


図133 第19号流路跡出土石器(20)

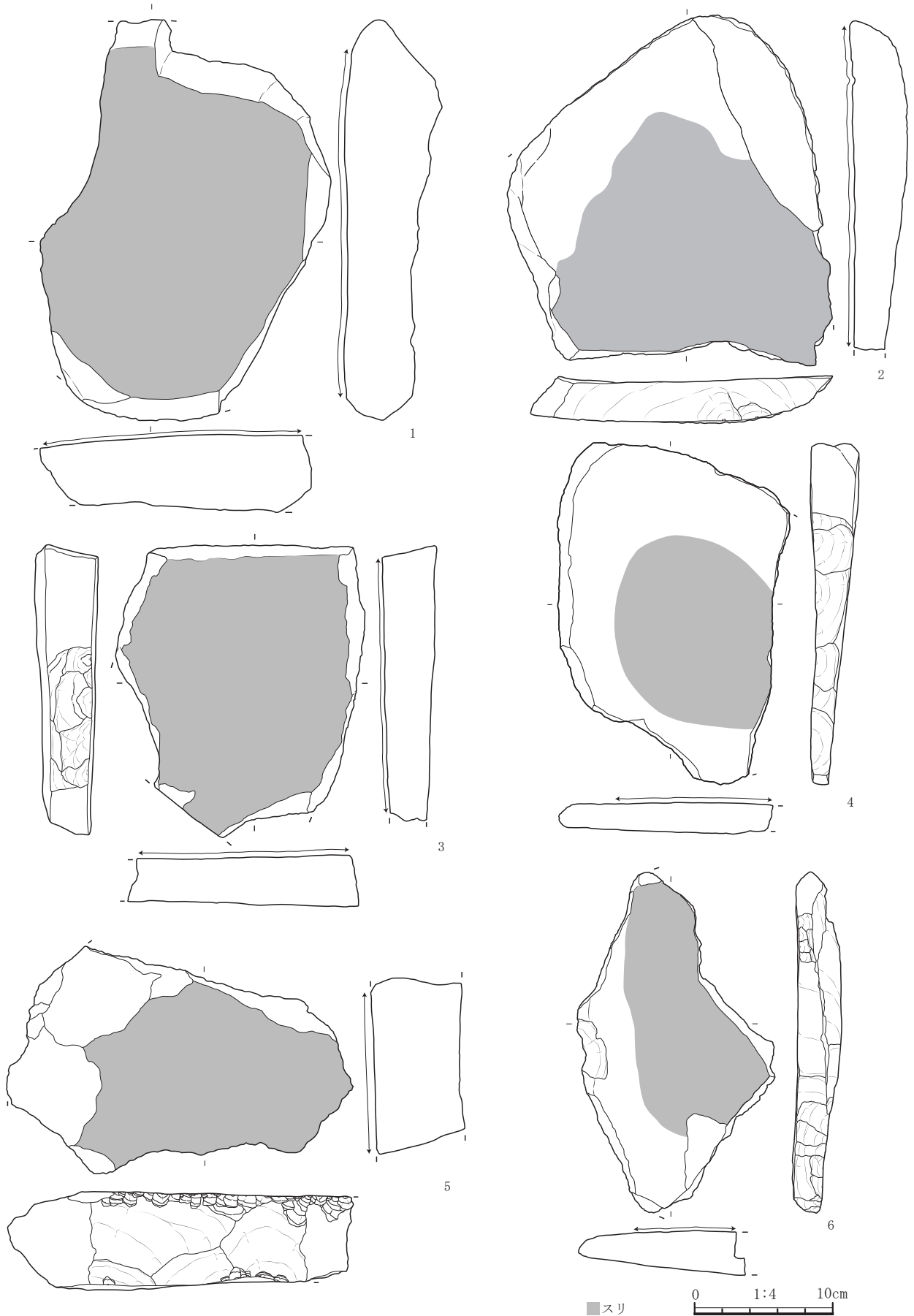


図134 第19号流路跡出土石器 (21)

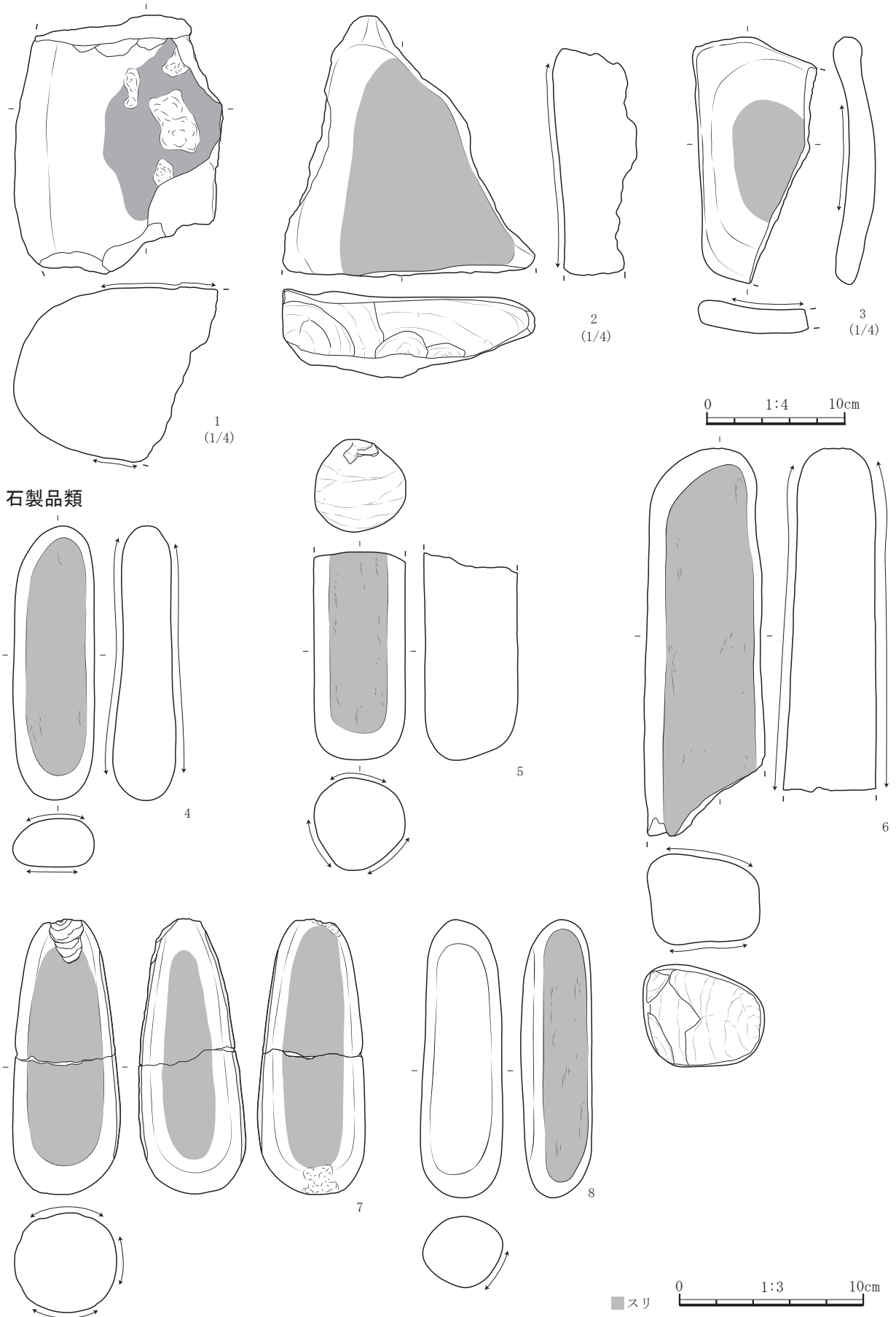


図135 第19号流路跡出土石器(22)



図136 第19号流路跡出土石器 (23)

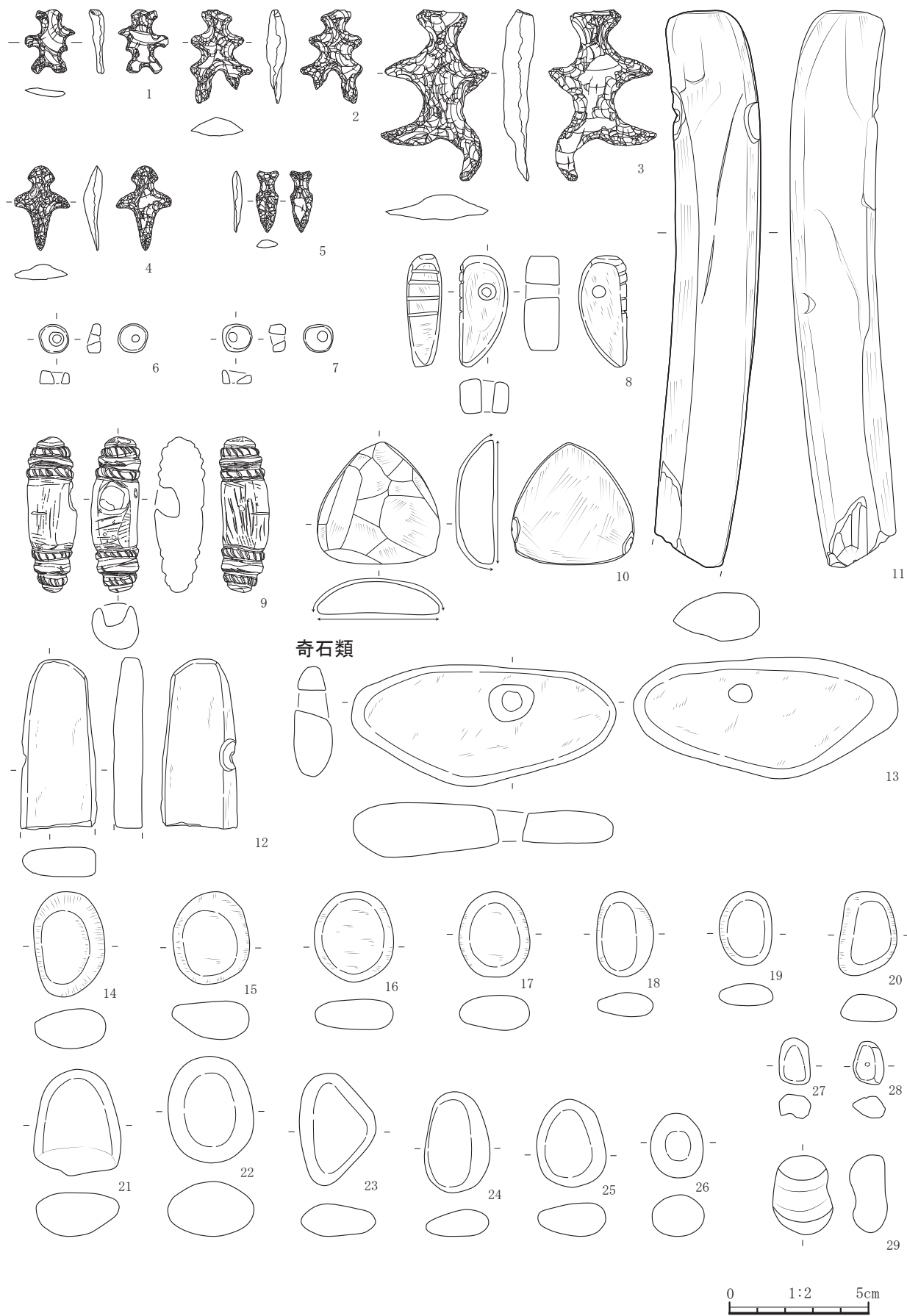


图137 第19号流路跡出土石器(24)

## 第5節 遺構外出土遺物

遺構外からは縄文時代早期中葉、前期、中期、後期初頭、後期前葉、晩期の土器が出土した。詳細は以下の通りである。

### (1) 縄文時代早期中葉

2点出土した(図31-6・7)。詳細は第2章第3節に記した。

### (2) 縄文時代前期・中期(図138)

1は胎土に繊維を含み、口頸部に縦方向の隆帯が付く。摩滅が著しく、縄文が施文されていた可能性はあるが、確認できなかった。器形等から、前期末葉と考えられる。2は結束羽状縄文が施文され、胎土は緻密である。3は口縁部に無文帯が見られる。一度口縁を作り出して縄文を施文した後、上に粘土を付け足し、新たな無文の口縁部を作り出している。前期末葉から中期の可能性が考えられる。

### (3) 縄文時代後期初頭(図138)

4～6は胴部から口縁部に向かって緩やかに外傾する。4と5は同一個体であり、底部に向かって窄まる器形である。4・6とも平口縁に突起が付き、突起から垂下する粘土紐と胴部や口縁部に貼り付けられた横方向の粘土紐により、4単位の方形の区画が横方向に展開する。4は突起部分および垂下する粘土紐と横方向の粘土紐の交点に円形の粘土紐が貼り付けられ、口縁と粘土紐上にはRL原体が押圧施文される。6の粘土紐は、突起部分でループ状になり、上には刺突が連続して施される。方形の区画内には2本の沈線で「×」字上の文様が描かれ、2本の沈線間には縄文が施文される。7は表面が摩滅しているが、LR縄文が施文される。これらは、器形と文様から後期初頭の牛ヶ沢式に相当すると考えられ、VS・VT-210のIVb～V層からまとまって出土した。

### (4) 後期前葉(図138)

8は隆帯と沈線文が施されている。沈線が隆帯の下に延びており、下書きの後に粘土紐を貼り付けたと考えられる。9・10は口縁に横位の沈線文が2～3条、胴部に縄文や条線が施文される。後期前葉の十腰内I式に相当すると考えられる。

### (5) 縄文時代晩期(図138)

1点出土した(11)。鉢の底部で、LR縄文施文後、底面付近に横方向の沈線文が1条施される。

(藤原)

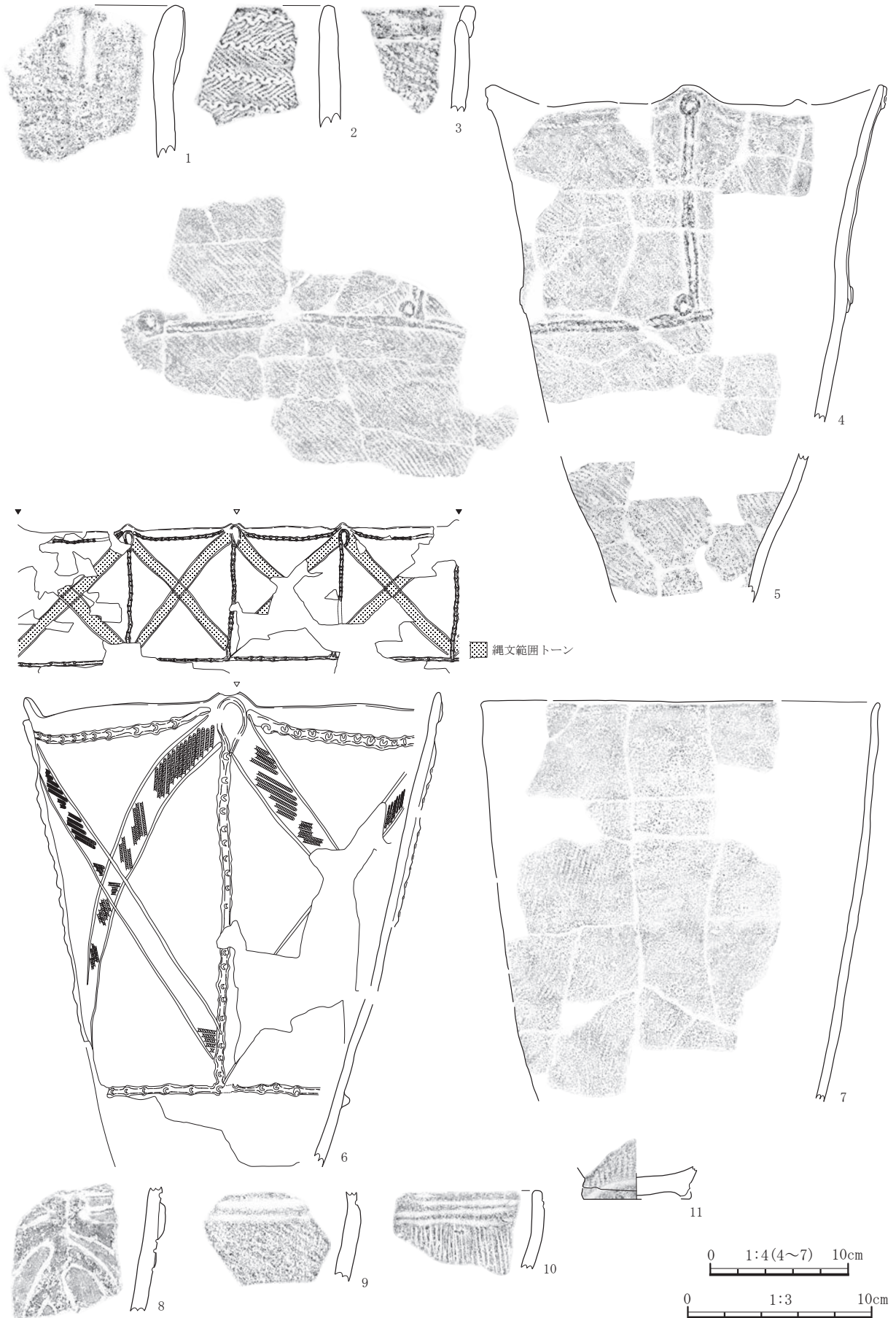


図138 遺構外出土土器

## 第4章 中世の遺構と遺物

### 第1節 掘立柱建物跡・柱穴

#### 1. 中世掘立柱建物跡（中SB）・柱穴（SP）

[数量等] 中SB3棟、SP94基を報告する(図6・8・140)。SPは118基検出、うち24基分を中SBとして復元。

[遺構分布] 柱穴および建物跡の分布は、遺構確認をⅢ層で行った範囲には多く存在するが、Ⅴ層で行った範囲には少ない傾向がある。特に209ラインより西とVNラインより南は、平安時代頃の大規模な流路形成(流路21)により、周囲よりも低地となっていた可能性があり、この部分における柱穴および建物等の構築そのものが低調だったとも考えられる。

[遺構名] 建物跡の名称は、県603集で報告した縄文時代の掘立柱建物跡(SB)と区別するため、県613集より中世掘立柱建物跡(中SB)として整理・報告された経緯がある。本報告もこの続きとなる。

[遺構確認・復元] 建物跡の復元は、基本、調査現場で柱穴の並びや規模を確認しながら行った。但し、中SB33の東側部分のみは、過去の報告図面(県613集)を参照・検討しながら図上復元した。

[凡例・表記等] 中SBの個別平面図(図54～66)は、 $S=1/100$ とし、柱間寸法をメートル、尺数値を( )内に示した。各SP番号の深さは、( )内にセンチメートルで表記した。建物の桁梁間規模や面積、各柱穴の規模は遺構一覧表にまとめた。表中の分類は、既報告(県613集P.244)を参照。

[時期推定] 出土遺物が僅かであるため、各遺構の年代推定は困難であるが、概ね平安時代に形成された第Ⅲ層以後に構築された柱穴群であること、中世の陶磁器を包含する流路・溝跡との位置・重複関係、同様に中世の遺構であることが確実視されるカマド状遺構との位置関係、本調査区内において近世遺物を伴う遺構が検出されていないことなどから、全て中世に帰属すると判断した。

#### (1) 中世掘立柱建物跡(中SB)

中SB34と中SB35は、位置・規模・桁方向の類似性より、建替の可能性を示している。

#### 第33号中世掘立柱建物跡(中SB33)

柱穴11基により構成(うち3基はH17年度調査分)。桁方向は東西方向。身舎は梁間三間、桁行三間相当。西側にSD39を伴う可能性が高く、敷地の南西側をSD36やSD42によって区画される可能性あり。

#### 第34号中世掘立柱建物跡(中SB34)

柱穴9基により構成。桁方向は、東西方向。身舎は梁間一間、桁行三間。

#### 第35号中世掘立柱建物跡(中SB35)

柱穴7基により構成。桁方向は、東西方向。身舎は梁間一間、桁行三間。

#### (2) 柱穴(SP)

構造物として復元できなかった柱穴について、特徴的と思われる事項2点を指摘する。

##### ①中SB33の構造に特に関わる可能性があると思われるもの

SP2152・2153・2154・2157・2158・2159・2160・2161・2163・2164・2245

##### ②SD35に関連・付随、またはそれ以前に形成された可能性があるもの(新旧不明)

SP2228・2229・2230・2236・2237・2238・2240・2243

(佐藤)



## 第2節 カマド状遺構 (SF)

Ⅲ層面から14基のカマド状遺構を検出した(図141～144)。規模等の属性は遺構一覧表に記載してあるため、本節では個別の事実記載は行わず、項目ごとにまとめて記載するものとする。

[調査年度] 令和2年度－SF 14～27(14基)。

[遺構配置] 巨視的に見ればV S～VI B-212～216グリッドの範囲に14基がまとまって検出されている。これまで野球場建設予定地内の調査区では1～4基が近接して検出されるものが一般的で、これだけまとまって検出されたのは初である。なお、隣接した調査区では『米山(2)遺跡V』(県456集)で10数基まとまって検出された例が報告されている。次に微視的に見れば、長軸方向や検出位置から以下の3カ所にまとめることができる。

A：V S・T-213・214グリッドに位置する4基(SF14～17)、

B：V T・VI A-214・215グリッドに位置する9基(SF18～25)、

C：VI A・B-216グリッドに位置する2基(SF26、27)

それぞれのまとまりと建物跡との位置関係を見ていくと、配置Aの南側4mにはSB34が位置し、配置B、Cの南～東側5～10mにはSB33が位置している。配置Aのカマド状遺構とSB34、35は長軸方向が同じ、もしくは直交している。また、配置CとSB33も長軸方向が直交しており、これらは強い関連性を指摘できる。最も密集している配置BはSB33との長軸方向が10～50°異なっており配置A、Cと建物跡の関係ほど強くない。ただし、SF21～24は10～30°前後のずれであるため、これらはSB33と関連する可能性もある。それ以外のカマド状遺構に関連する建物跡は流路跡によって消失した可能性もある。

[重複関係] カマド状遺構と溝跡の重複事例として、①SF15、16>SD35。②SF17>SD46。③SF21、22<SD45。の3例が確認された。事例①のSD35からは14世紀代のものと思われる珠洲焼播鉢片が出土し、さらに15世紀代の青磁碗片が出土したSD40よりも新しいことから、SD40(15世紀代)<SD35<SF15、16の関係が成り立つ。そのほかの事例では遺物が出土していないため年代観は不明である。また、土坑との重複ではSF21<SK203、SF24<SK209の事例が検出されたが、土坑からも遺物が出土していないため年代観は不明である。次にカマド状遺構同士の重複する例としては、配置AのSF15と16、配置CのSF26と27が長軸方向を同じくして直線上に重複しており、これらは極めて近い時期での重複と考えられる。また、8基が密集する配置B内ではSF19>SF20、SF21>SF22の事例がある。

[遺構確面] いずれもⅢ層上面からの検出である。削平を受けた状態で検出されていることから、本来の遺構構築面はⅡ層中、特にその下部と推定される。

[形状・基本構造] ①煙道部・②燃焼部・③焚口部(前庭部)から成ると考えられる。機能部の名称や計測基準は図139に示した。なお、『米山(2)遺跡Ⅷ』(県613集)では基準等を図示していないが、図139とほぼ同じである事を付記しておく。本報告分では燃焼部天井等の上部構造は見当たらない。燃焼部と焚口部の区別は、壁の被熱範囲や底面被熱範囲、底面の段差、堆積土中における上部被熱部分の崩落範囲などから総合的に判断した。しかし、一部、判別困難な遺構も存在する。

[煙道部] 有11基(SF 14～17、19、21、22、24～27)、無3基(SF18、20、23)。煙道は地下式(SF21、22、25)と半地下式(SF14～17、19、24、26、27)がある。煙道の長さは地下式の方が長く、半地下式の方が短い。前者は長軸40～60cm程度、後者は23～46cm程度である。

[燃焼部] 長軸80～150cm程度、短軸60～85cm程度である。被熱した範囲の色調は、壁が朱色に近い

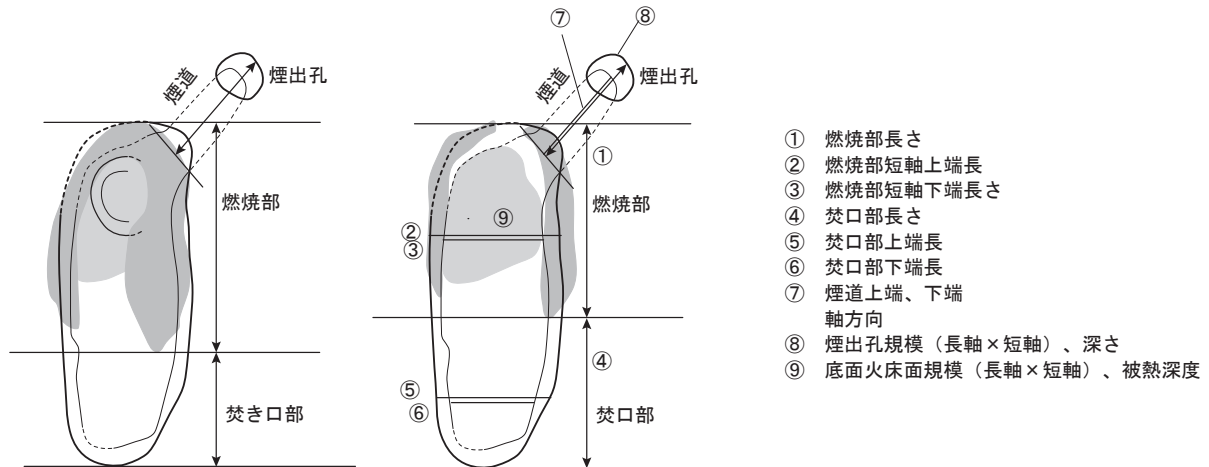


図139 カマド状遺構計測基準

状況で赤変しているのに対して、火床面はにぶい赤褐色に赤変している特徴がある。火床面の被熱深度は2～6cmほどである。また、SF17、20、26は検出時に燃烧部内から掛口と思われる範囲を検出した。[焚き口部] 長軸40～70cm、短軸40～60cm位の規模のもの、長軸71～100cm、短軸61～85cm程度の規模のものに概ね2分されるが、中にはSF17、25のように極端に焚口が短い形態のものもある。[堆積土] 燃烧部と焚き口部底面上に炭化物と灰が堆積するが、燃烧部ではこの直上に天井および上部構造の崩落に関連する白色系粘土・焼土・炭化物の混在層が堆積する。

[出土遺物] 出土しなかった。

[放射性炭素年代] SF18の火床面から採取した炭化物の測定を行った結果、15世紀後半の測定値が得られた(第5章第1節参照)。

[樹種同定] SF15の燃烧部から採取したサンプルからカエデ属、ニシキギ属、ブナ属、エゴノキ属、キブシが検出された(第5章第5節参照)。いずれも燃料材と考えられる。

[大型植物遺体] SF15の燃烧部から採取したサンプルから、エノキグサ属、ヒエ属、エノコログサ属、アサ、アガサ属が検出された(第5章第4節参照)。着火剤または燃料材の可能性はある。

[小結] 遺構との重複関係から配置A(SF14～17)は15世紀以降、放射性炭素年代測定の結果から配置B(SF18～25)は15世紀後半代に操業されていた可能性が考えられる。なお、配置C(SF26、27)に関しては時期推定の根拠に薄い、検出位置や長軸方向などからSB33との関連性が指摘できる。

(小山)

### 第3節 土坑 (SK)

Ⅲ層面から7基の土坑を検出した。『米山(2)遺跡Ⅷ』(県613集)では、井戸またはその可能性があるものの抽出を主眼として以下のとおり分類している。

I類：井戸材が出土、または井戸材は出土しないがその痕跡が残る。

Ⅱ類：I類以外で湧水が認められる。

Ⅲ類：湧水が認められない。

この分類でいくと、令和2年度の調査では、I類は検出されず、Ⅱ類に相当する遺構は井戸跡と認定しSE番号を付して調査を行ったため、SK番号を付したものは全てⅢ類に分類されるものである。Ⅲ類は断面形から深さのある縦型土坑(Ⅲ-1類)と、浅皿状の(Ⅲ-2類)に細分されている。本報告

でもこの分類基準に準拠し記載を進めていく。

### Ⅲ-1類 1基 (SK205)

[位置・確認] VM・N-215・216グリッドに位置し、Ⅲ層面で検出した。周辺には土坑が点在するのみで建物跡やカマド状遺構の分布域からは離れている。最も近いSB35までは約13m離れている。

[平面形、規模] 円形で、上面長軸規模は135cm、底面長軸規模は87cm、深さは77cmである。

[底面、堆積土] V層を底面とする。2、3層にはⅢ層由来の黄褐色砂質土のブロックが多く混在しており人為堆積の様相を示している。

[出土遺物] 2層上面から打割された台石(図148-6)、とともに自然礫が4個密集して出土した。出土状況から人為的行為によるものと考えられる。

[自然化学分析] 3層中(底面直上)から採取したサンプルで大型植物遺体と炭化材樹種同定を行った。種子としてはスゲ属、アゼスゲ節、スゲ属A、スミレ属、アカザ属が検出され、炭化種実としてはイネ、アワ、エノコログサ属、マメ科A、イヌタデ属、エノキグサ属が検出された。植物栽培であるイネやアワが得られたことから、これらを保管していた可能性が指摘された(第5章第4節参照)。炭化材樹種同定ではミズキが検出され、周辺に生育していたものである可能性が指摘された(第5章第4節参照)。

[用途・性格等] 底面には栽培植物であるイネやアワの炭化種子が含まれ、覆土中位には礫が配置されている。平面形や断面形は井戸跡に分離できる形状を呈している。これらのことから、貯蔵穴もしくは井戸跡であった可能性があるが、建物跡からは離れた所に位置している。また、礫の出土状況から廃棄時に儀式的なことが行われた可能性が想定される。

### Ⅲ-2類 6基 (SK203、204、206～209)

[平面形、重複] 楕円形(SK203、209)、円形(SK204、206～208)が認められる。楕円形の土坑はそれぞれカマド状遺構と重複しており、SK203はSF21より新しく、SK209はSF24より新しい。長軸の長さは楕円形の土坑で112、201cm、円形の土坑で78～168cmとばらつきがある。

[深さ、底面] 14～29cmと浅いことから、底面もⅢ層中にある。

[堆積土、出土遺物] 概ね自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

[用途・性格等] 形状や規模から井戸以外の機能をもっていたと推定されるが、詳細は不明である。

(小山)

## 第4節 井戸跡 (SE)

1基検出した(SE03)。井戸枠等は出土しなかったが、湧水が認められ深さが1m近くあったことから井戸跡と認定し調査を行った。

[位置と確認] VT-219グリッドに位置しており、東側に約4mの所にSB17が、南側に約1mの所にSB33が位置している。確認面はⅣ層上面で、19号流路跡の上面を精査時に検出した。

[平面形] 平面形は円形で、長軸127cm、短軸124cmである。

[深さ、底面] 検出面からの深さは100cmで、V層を底面としている。掘り込み面はⅢ層より上位にあると考えられことから、本来もっと深かったものと考えられる。

[堆積土] 炭化物やブロック状の堆積物を多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

[出土遺物] 縄文時代の剝片石器が3点出土したのみで、木枠等は出土しなかった。

(小山)

## 第5節 溝跡 (SD)

[数量等] 10条報告する(図8・147)。このうち、既報告(県613集)の続きとなるのがSD34と35である。前者の北側部分は更に次回以降の報告へ続く。SD37・38は、欠番である。

[分類・区分] 既報告(県613集)に則り、A類：人為的な区画溝・布掘り溝、B類：小規模な自然流路跡、C類：その他・不明の3種に区分。遺構計測表中の備考欄に記載。

[遺構確認面・堆積土] 確認面はⅢ～Ⅴ層。本来の遺構構築面はⅡ層以上と推定。遺構内の堆積土は、上記各層を含む自然堆積が主。但し、SD43・45については堆積土が異質(Ⅲ層形成以後か)である点、重複関係が最新となる点などから、本群中では最も新しく、中世以降に構築された可能性もある。

**第34号溝跡** 南東から北西へ向けてやや蛇行する。SD35と一連の遺構であり、VO-223付近より分岐。遺構の幅は一定。底面の形状は不安定。底面の傾斜は、東から西側へ低くなる。遺構構築年代は、下記SD35と同じく15世紀代以降。過去の調査では、VP-222付近に木杭の可能性のあるSPが並ぶ。当初は自然流路だったとみられるが、後に人工的造作が加えられた可能性も否定できない。

**第35号溝跡** 東から西へ向けて大きく蛇行する。SD34と一連の遺構。SD40よりも新しい。遺構の平面や底面の形状は不安定。底面の傾斜は、東から西へ低くなる。覆土3層相当より陶器片(珠洲Ⅲ～Ⅳ期、13世紀後葉～14世紀後半代)が出土。遺構構築年代は、下記SD40との重複関係より15世紀代以降である。当初は自然流路だったと考えられるが、一部に掘り直しがみられるなど、後に人工的造作が加わった可能性もある。

**第39号溝跡** 南北にかけて直線的に延びる細く浅い溝。遺構の幅は一定。底面の傾斜は、特に無い。堆積土は砂質。中SB33の梁側に平行する。本建物跡に伴う雨落溝や区画溝と推定。

**第40号溝跡** VP-215において東から北へ直角気味に屈曲。SD35よりも古い。SD41・42・44・46と一連か。遺構の幅や底面の形状は安定的。底面の傾斜は、東から北西へ低くなる。覆土中より青磁片(龍泉窯系D-2類、15世紀代)が出土。よって、遺構構築年代は同期以降。土地区画や排水を目的とする人工的な溝か。

**第41号溝跡** 蛇行しながらSD42に合流する細い溝。遺構の幅や底面の形状は安定的。底面の傾斜は、南東から北西へ低くなる。形状や位置関係よりSD44と同じ利用目的や存在意義があったと推定。土地区画ないしSD42への排水を目的とする人工的な溝か。

**第42号溝跡** 南北へ直線的に延びる溝。一定の幅と深さがある。SD35よりも古い。SD40・41・43・46と一連か。遺構の幅は安定的、底面形状はやや不安定。底面の傾斜は、南から北へ低くなる。覆土中に新旧の掘り直しが認められる部分がある。土地区画や排水を目的とする人工的な溝と推定。

**第43号溝跡** 南北へ延びる細く浅い溝。底面の高低差は特に無い。最新の遺構(本項冒頭)。

**第44号溝跡** SD42に合流する細い溝。遺構の幅や底面の形状は安定的。底面は南東から北西へ低くなる。SD41と同じ利用目的や存在意義があったと推定。土地区画ないしSD42への排水を目的とする人工的な溝か。

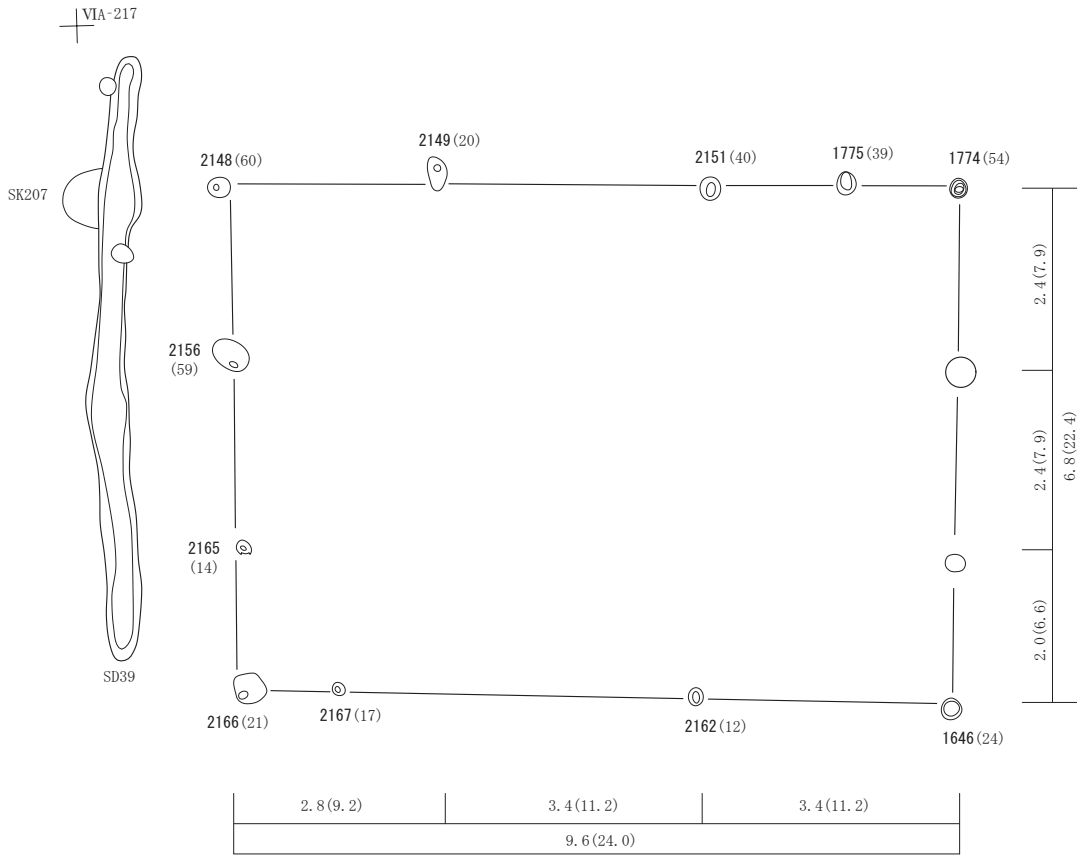
**第45号溝跡** 直線的に延びる短く浅い溝。底面の高低差は特に無い。最新の遺構(本項冒頭)。

**第46号溝跡** 南東から北西へ直線的に延びる溝。一定の幅と深さがある。遺構の幅は安定的、底面形状は不安定。底面の傾斜は、南東から北東へ低くなる。SD40やSD42と一連か。

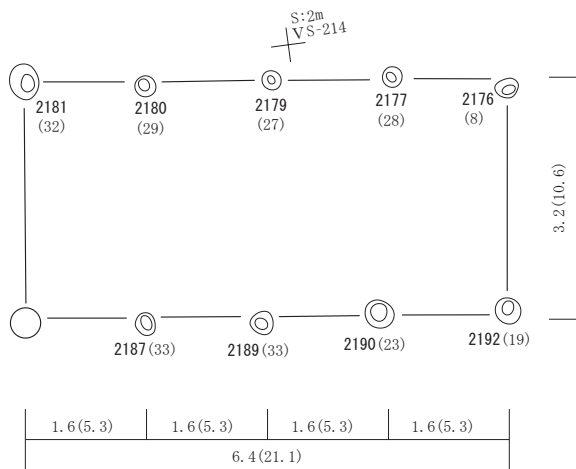
(佐藤)



第33号中世掘立柱建物跡



第34号中世掘立柱建物跡



第35号中世掘立柱建物跡

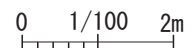
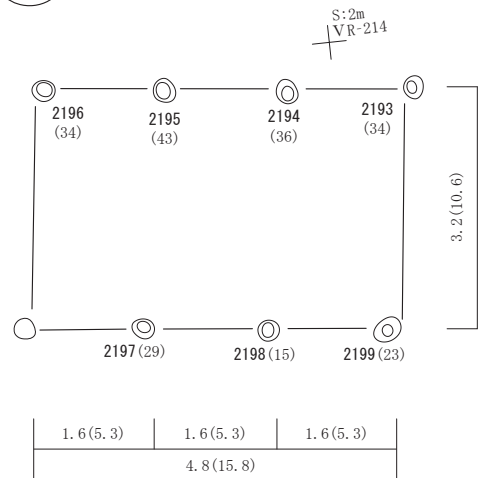
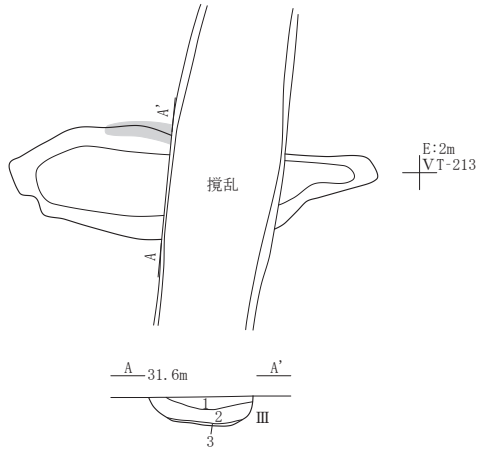


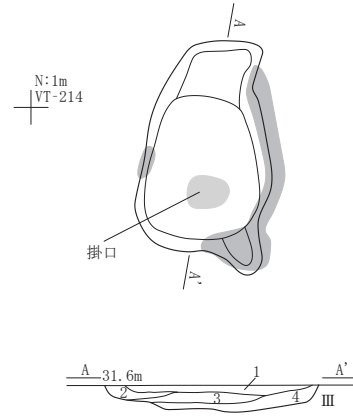
図140 掘立柱建物跡



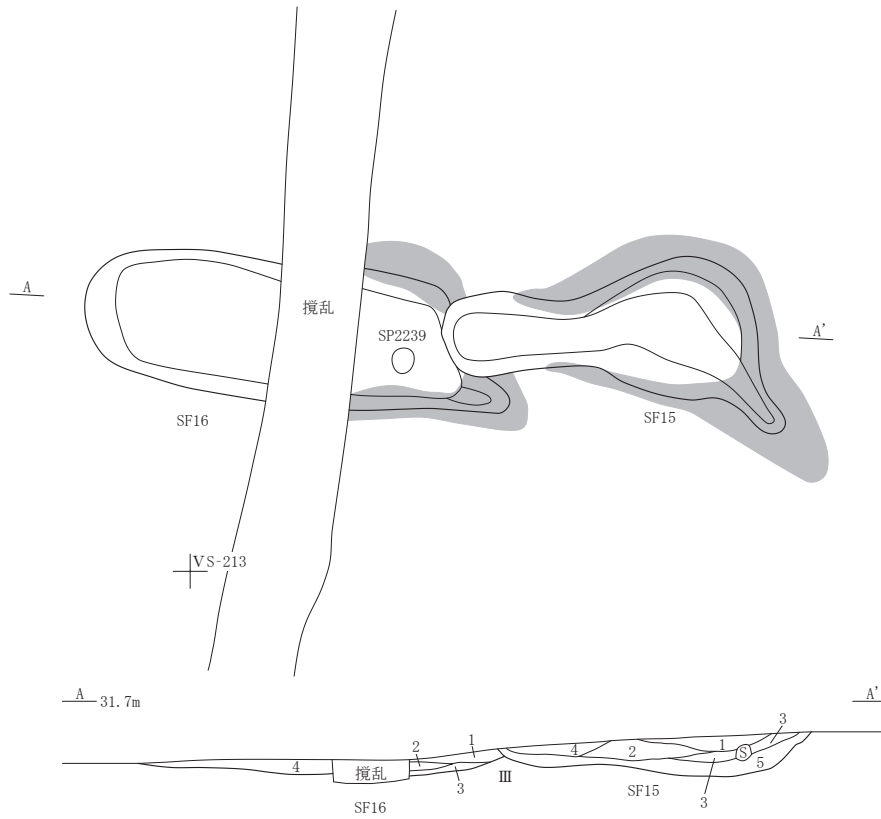
第14号カマド状遺構



第17号カマド状遺構



第15・16号カマド状遺構



3層 土壌サンプル (大型植物遺体・樹種同定分析No. 4-1~5)

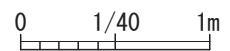
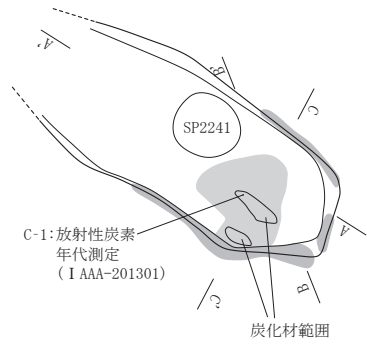


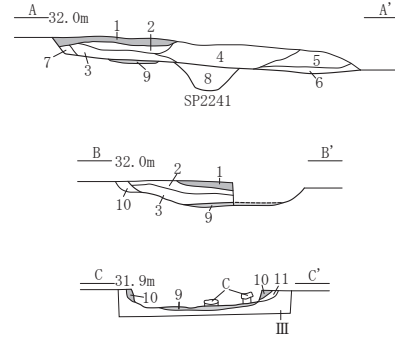
図141 カマド状遺構(1)



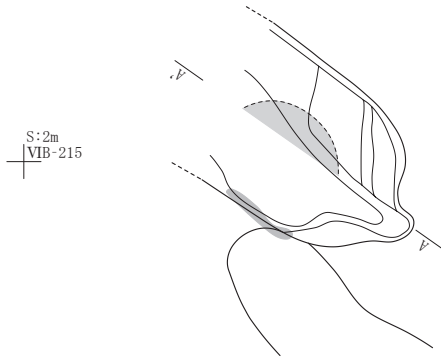
第18号カマド状遺構



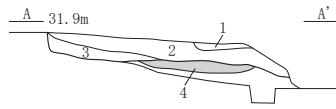
S:1m  
VIB-216



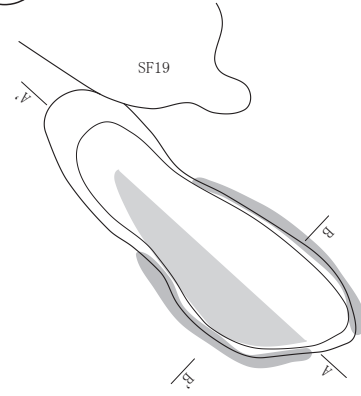
第19号カマド状遺構



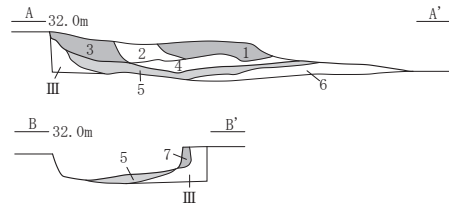
S:2m  
VIB-215



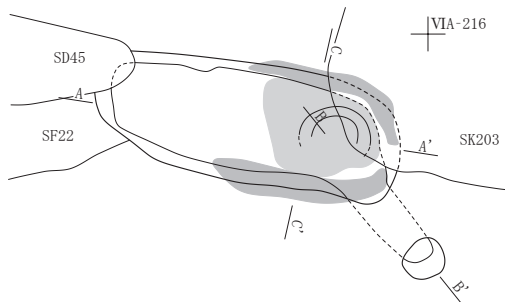
第20号カマド状遺構



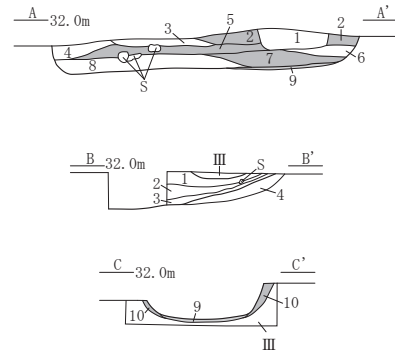
W:1m  
VIA-216



第21号カマド状遺構



VIA-216



■平面図では壁被熱範囲、土層図では崩落焼土 ■底面被熱範囲

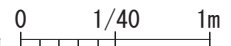
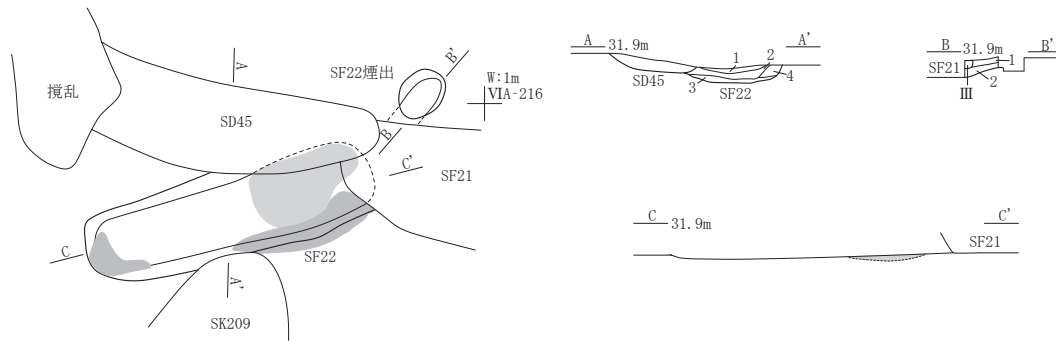


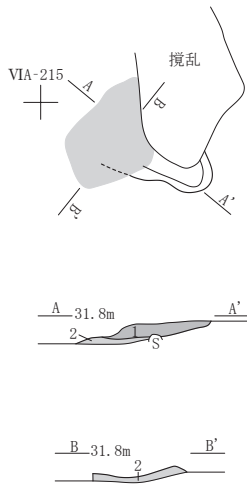
図142 カマド状遺構(2)



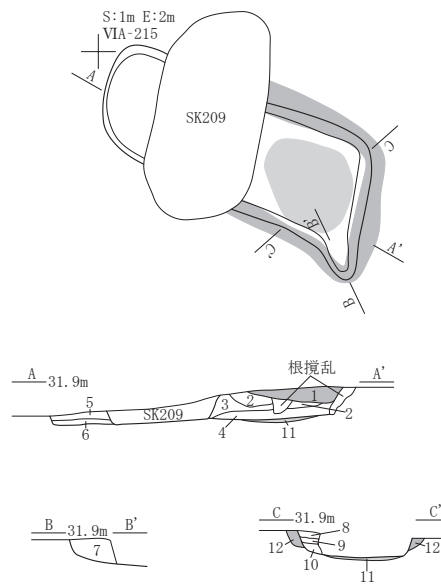
第22号カマド状遺構



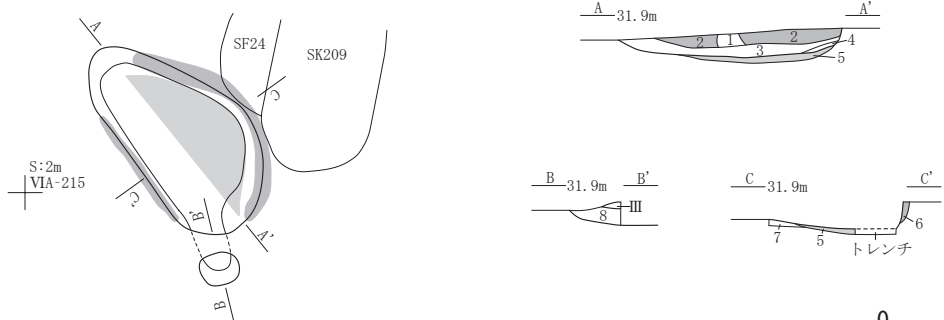
第23号カマド状遺構



第24号カマド状遺構



第25号カマド状遺構



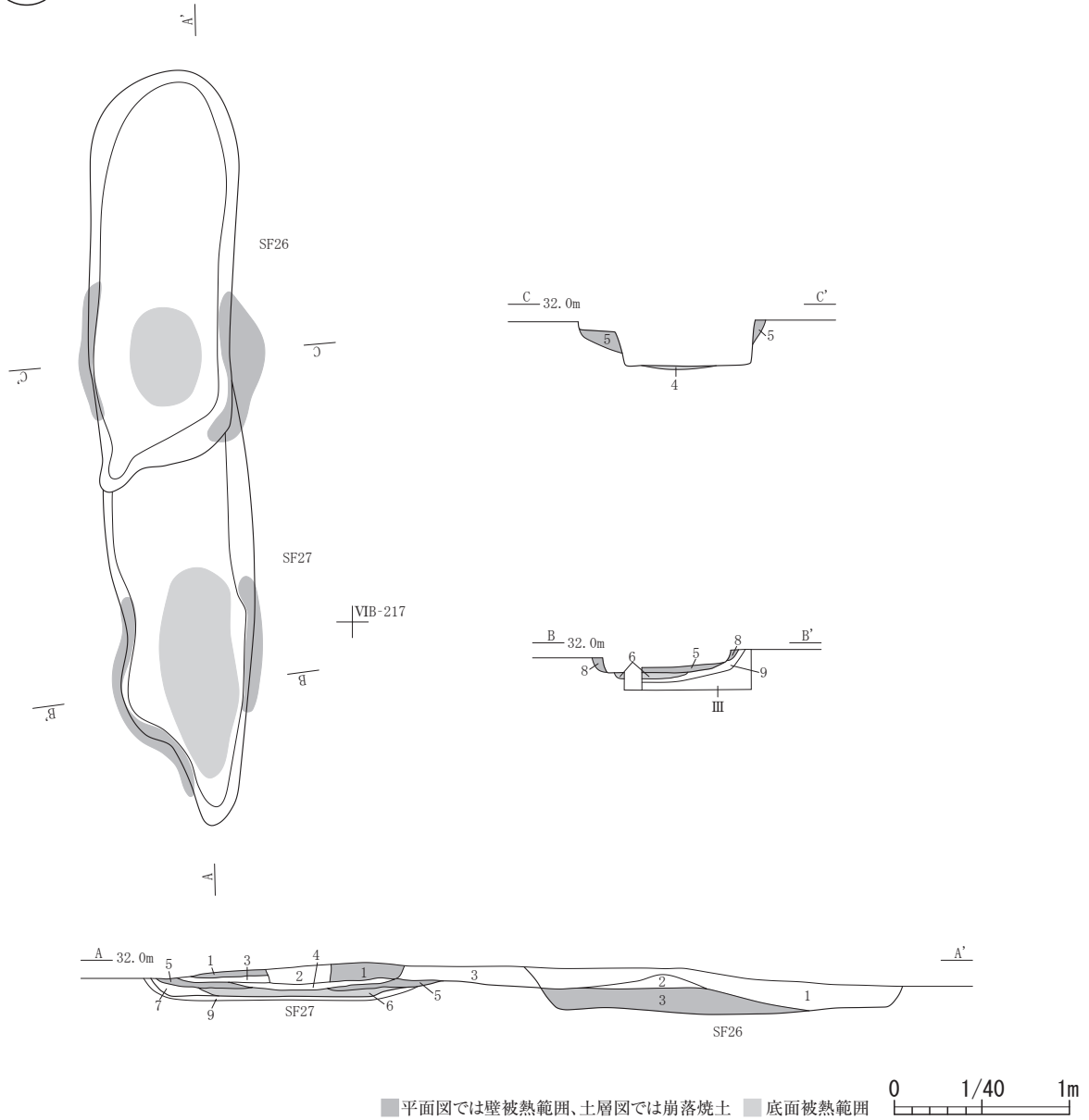
■平面図では壁被熱範囲、土層図では崩落焼土 ■底面被熱範囲 0 1/40 1m

図143 カマド状遺構(3)





第26・27号カマド状遺構



SF14

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	暗褐色土	7.5YR3/3	7.5YR5/6 明褐色土 10%、炭化物粒 1%
2	赤褐色土	5YR4/6	5YR7/3 にぶい橙色土 10%、炭化物粒 3%、崩落焼土
3	黒褐色土	5YR3/1	5YR4/6 赤褐色土 10%、炭化物粒 20%

SF15

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	褐灰色土	5YR4/1	炭化物粒 1%
2	褐色土	7.5YR4/4	炭化物粒 3%
3	黒色土	10YR1.7/1	炭化物層、土壌サンプル
4	灰黄褐色砂質土	10YR4/2	—
5	黒褐色土	7.5YR3/1	炭化物粒 3%

図144 カマド状遺構(4)

## SF16

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	褐灰色土	5YR4/1	5YR4/6 赤褐色土 10%。炭化物粒 1%
2	黒色土	10YR1.7/1	炭化物層
3	褐灰色土	7.5YR4/1	炭化物粒 1%、被熱・還元層か
4	灰黄褐色土	10YR4/2	砂質土

## SF17

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	赤褐色土	5YR4/6	5YR4/2 灰褐色土 10%、炭化物粒 5%、天井崩落焼土
2	黒褐色土	7.5YR3/1	炭化物粒 10%、炭化物層
3	明褐色土	7.5YR5/6	炭化物粒 3%、天井崩落焼土か底面焼土
4	極暗褐色土	7.5YR2/3	炭化物粒 3%、被熱・還元層か

## SF18 A-A'

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	明褐色土	7.5YR5/8	崩落焼土
2	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒、炭化物 1%
3	黒色土	10YR2/1	炭化物層
4	暗褐色土	10YR3/3	焼土ブロック 10 cm 大混入、炭化物ブロック 5 cm 大混入、焼土粒・炭化物粒 3%
5	暗褐色土	10YR3/4	白色粒 1% (B-Tm か)
6	黒褐色土	10YR2/3	
7	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒 1%
8	黒褐色土	10YR2/2	炭化物 1% (ヒット覆土か)
9	暗褐色土	7.5YR3/4	底面被熱層

## SF18 B-B' C-C'

層名	土色	マンセル記号	含有物
9	暗褐色土	7.5YR3/4	底面被熱層
10	褐色土	7.5YR4/6	壁被熱層
11	黒色土	10YR2/1	木根等で炭化物流入

## SF19 A-A'

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	暗褐色土	10YR3/3	白色粒 1% (B-Tm か)、炭化物 3%
2	褐色土	7.5YR4/6	崩落焼土層、炭化物ブロック状に混入
3	暗褐色土	10YR3/3	炭化物 3%
4	黒褐色土	10YR2/3	底面被熱層

## SF20 A-A' B-B'

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	褐色土	7.5YR4/6	崩落焼土層
2	暗褐色土	10YR3/4	B-Tm 粒 10%、掛口か
3	褐色土	7.5YR4/6	崩落焼土層
4	暗褐色土	10YR3/4	B-Tm 粒 1%
5	黒褐色土	10YR2/3	底面被熱層
6	暗褐色土	10YR3/3	B-Tm 粒 5%、炭化物 3%、掘方か
7	褐色土	7.5YR4/4	壁被熱層

## SF21 A-A' C-C'

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	褐色土	10YR4/4	掛口?小礫 (φ 10 ~ 50 mm) 5%、焼土粒 1%
2	褐色土	7.5YR4/6	崩落焼土層
3	黒褐色土	10YR2/2	炭化物、焼土主体層
4	褐色土	10YR4/4	
5	褐色土	7.5YR4/3	崩落焼土層
6	黒色土	10YR2/1	炭化物層
7	褐色土	7.5YR4/6	崩落焼土層
8	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒 1%
9	極暗褐色土	7.5YR2/3	底面被熱層
10	褐色土	7.5YR4/6	壁被熱層

## SF21 B-B'

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	暗褐色土	7.5YR3/4	煙道天井部被熱層
2	暗褐色土	10YR3/3	
3	黒色土	10YR2/1	炭化物層
4	褐色土	7.5YR4/6	煙道底面被熱層、小礫主体層 (φ 10 ~ 50 mm)

## SF22 A-A'

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	暗褐色土	10YR3/3	B-Tm 粒 1%
2	褐色土	7.5YR4/4	崩落焼土
3	黒色土	10YR2/1	炭化物層
4	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒 1%

## SF22 B-B'

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒 1%
2	にぶい黄褐色土	10YR4/3	砂質土

## SF23 A-A'

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	褐色土	7.5YR4/6	崩落焼土
2	暗褐色土	10YR3/4	底面被熱層

## SF24 A-A' B-B' C-C'

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	褐色土	7.5YR4/6	崩落焼土
2	灰黄褐色土	10YR4/2	炭化物・焼土粒 3%
3	褐色土	7.5YR4/6	焼土主体層
4	黒色土	10YR2/1	炭化物主体層
5	灰黄褐色土	10YR4/2	炭化物・焼土粒 3%
6	にぶい黄褐色土	10YR4/3	
7	褐色土	7.5YR4/6	崩落焼土
8	明褐色土	7.5YR5/6	崩落焼土
9	にぶい黄褐色土	10YR5/3	崩落焼土
10	にぶい褐色土	7.5YR5/4	崩落焼土
11	極暗褐色土	7.5YR2/3	底面被熱層
12	明褐色土	7.5YR5/6	壁被熱層

## SF25 A-A' B-B' C-C'

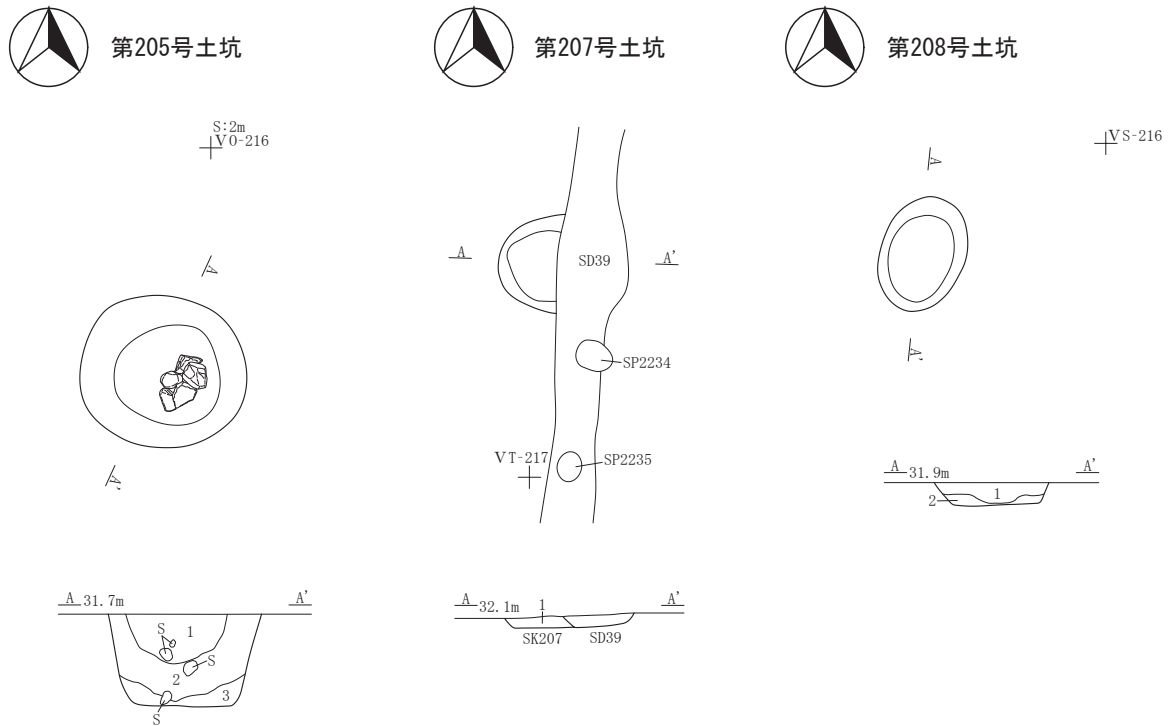
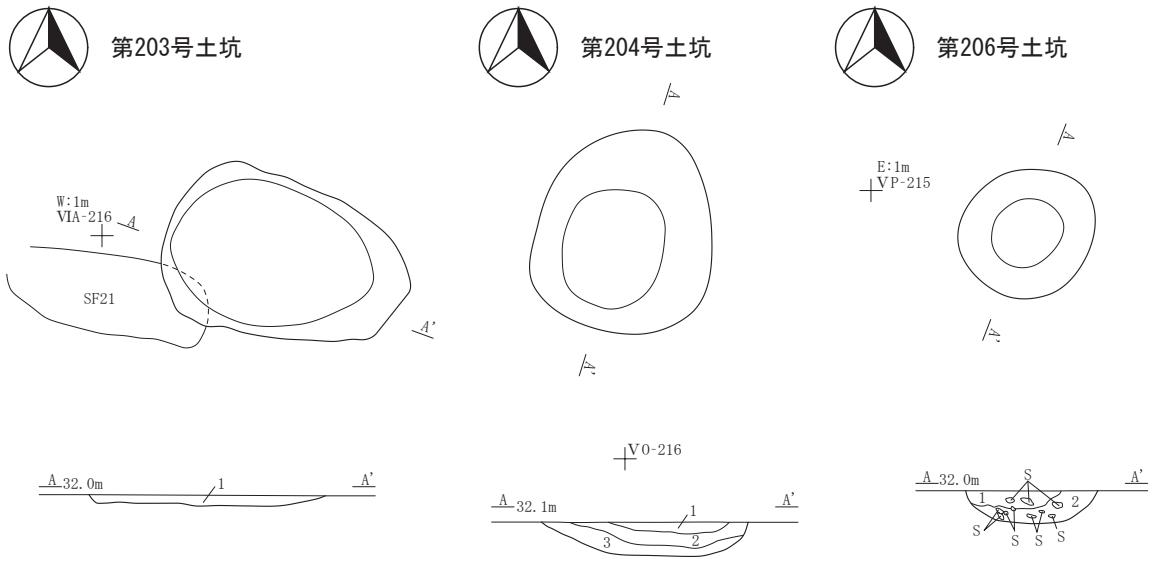
層名	土色	マンセル記号	含有物
1	黒褐色土	10YR2/2	焼土・炭化物 1% 掛口か
2	褐色土	7.5YR4/6	崩落焼土
3	黒土	10YR2/1	炭化物主体層
4	褐色土	7.5YR4/6	焼土層
5	極暗褐色土	7.5YR2/3	底面被熱層
6	明褐色土	7.5YR5/6	壁被熱層
7	にぶい褐色土	7.5YR5/4	SF24 の壁被熱層
8	黒色土	10YR2/1	炭化物主体層、煙出部

## SF26 A-A' C-C'

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	褐色土	10YR4/4	焼土、炭化物 1%
2	暗褐色土	10YR3/3	焼土、炭化物 5%
3	暗褐色土	7.5YR3/4	崩落焼土
4	極暗褐色土	7.5YR2/3	底面被熱層
5	明褐色土	7.5YR5/6	壁被熱層

## SF27 A-A' B-B'

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	褐色土	7.5YR4/6	崩落焼土
2	暗褐色土	10YR3/3	掛口か
3	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒 1%
4	黒色土	10YR2/1	炭化物主体層
5	明褐色土	7.5YR5/6	崩落焼土
6	極暗褐色土	7.5YR2/3	底面被熱層
7	暗褐色土	10YR3/3	
8	明褐色土	7.5YR5/6	壁被熱層
9	暗褐色土	10YR3/3	小礫主体層、掘方か



3層 土壌サンプル  
(大型植物遺体・樹種同定分析No. 6)

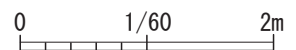
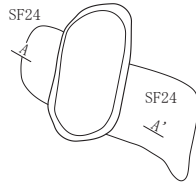


図145 中世の土坑(1)



第209号土坑

E: 1m  
VIA-215

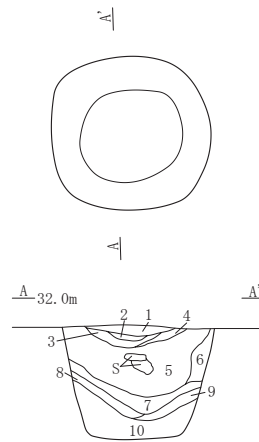


A-31.9m  
SF24 SK209 SF24



第3号井戸跡

VIA-220



A-32.0m  
A-A'

0 1/60 2m

SK203

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒、炭化物 1%

SK204

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	黒褐色土	10YR2/2	炭化物粒 3%
2	暗褐色土	10YR3/3	炭化物粒 3%
3	灰黄褐色土	10YR4/2	炭化物粒 1%

SK205

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	黒褐色土	10YR2/2	10YR4/3 にぶい黄褐色砂土 (第三層) 5%、炭化物粒 3%、礫 1%
2	黒色土	10YR2/1	10YR4/3 にぶい黄褐色砂土 (第三層) 10%、互層、炭化物粒 3%、礫 1%
3	にぶい黄褐色土	10YR4/3	10YR2/2 黒褐色土 5%、炭化物粒 1%、礫 1%、砂質土

SK206

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	灰黄褐色土	10YR4/2	礫 1%、炭化物粒 3%
2	黒褐色土	10YR3/2	礫 10%、炭化物粒 1%

SK207

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	暗褐色土	10YR3/4	

SK208

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	暗褐色土	10YR3/3	小礫 (φ 20 ~ 30 mm) 1%
2	黒褐色土	10YR2/3	小礫 (φ 40 ~ 50 mm) 2%、砂粒 (φ 1 ~ 2 mm) 5%

SK209

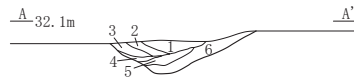
層名	土色	マンセル記号	含有物
1	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒 3%、B-Tm ブロック状に混入

SE03

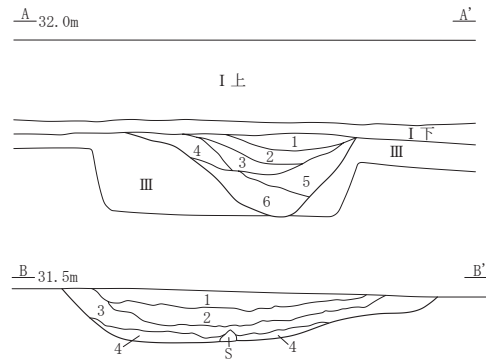
層名	土色	マンセル記号	含有物
1	暗褐色土	10YR3/4	炭化物 1%、白色浮石 1%
2	褐色土	10YR4/4	砂粒 (φ 1 mm) 10%
3	黒褐色土	10YR2/2	炭化物 3%
4	褐色土	10YR4/4	砂粒 (φ 1 mm) 主体層
5	黒褐色土	10YR2/3	炭化物 3%
6	褐色土	10YR4/6	壁の崩落度 (II層)
7	褐色土	10YR4/4	B-Tm を含む土層 (二次堆積)
8	黒褐色土	10YR2/3	炭化物 1%
9	黒褐色土	10YR2/2	
10	褐色土	10YR4/4	φ 10mm ~ 50mm 大の砂礫層

図146 中世の土坑(2)・井戸跡

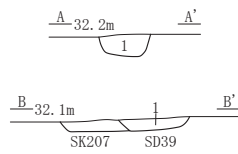
第34号溝跡



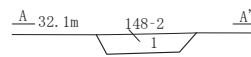
第35号溝跡



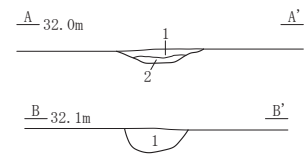
第39号溝跡



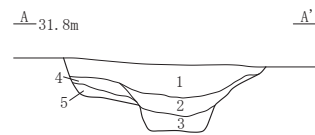
第40号溝跡



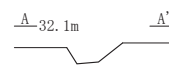
第41号溝跡



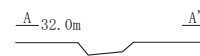
第42号溝跡



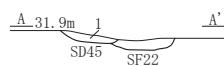
第43号溝跡



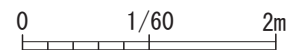
第44号溝跡



第45号溝跡



第46号溝跡



SD34 A-A'

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	暗褐色土	10YR3/4	鉄分ブロック (赤褐色) φ 50 mm大
2	黒褐色土	10YR2/3	炭化物 1%
3	暗褐色土	10YR3/3	小礫 (φ 5 ~ 20mm) 2%
4	褐色土	10YR4/4	壁の崩落土
5	黒褐色土	10YR2/3	小礫 (φ 5 ~ 10mm) 1%
6	暗褐色土	10YR3/4	小礫 (φ 5 ~ 10mm) 1%

SD35 A-A' B-B'

層名	土色	マンセル記号	含有物
1	暗褐色土	10YR3/3	10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 5%、炭化物粒 1%
2	黒褐色土	10YR3/1	10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 3%、炭化物粒 1%
3	黒褐色土	10YR3/2	10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 3%、炭化物粒 1%、B-Tm 5%
4	暗褐色土	10YR3/4	炭化物粒 3%、B-Tm 7%
5	黒褐色土	10YR2/3	礫 20%、炭化物粒 1%
6	灰黄褐色土	10YR4/2	B-Tm 5%、砂質土

図147 溝跡土層断面図

SD39 A-A'			
層名	土色	マンセル記号	含有物
1	黒褐色土	10YR2/3	砂粒 (φ 1mm) 5%
SD39 B-B'			
層名	土色	マンセル記号	含有物
1	黒褐色土	10YR2/3	炭化物 1%
SD40			
層名	土色	マンセル記号	含有物
1	暗褐色土	10YR3/3	炭化物粒 3%、礫 5%
SD41 A-A'			
層名	土色	マンセル記号	含有物
1	暗褐色土	10YR3/3	B-Tm 粒 1%
2	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒 1%
SD41 B-B'			
層名	土色	マンセル記号	含有物
1	暗褐色土	10YR3/4	小礫 (φ 20 ~ 30mm) 5%、B-Tm 粒 1%
SD42 A-A'			
層名	土色	マンセル記号	含有物
1	灰黄褐色土	10YR5/2	グライ化した層、砂粒 (φ 1mm) 及び鉄分粒 3%
2	黒色土	10YR2/1	砂 (φ 1mm) が層状に混入、流水の影響か
3	灰黄褐色土	10YR4/2	グライ化した層、鉄分粒 3%
4	黒褐色土	10YR2/2	鉄分粒 5%
5	灰黄褐色土	10YR5/2	グライ化した層、鉄分粒 1%
SD45 A-A'			
層名	土色	マンセル記号	含有物
1	暗褐色土	10YR3/3	

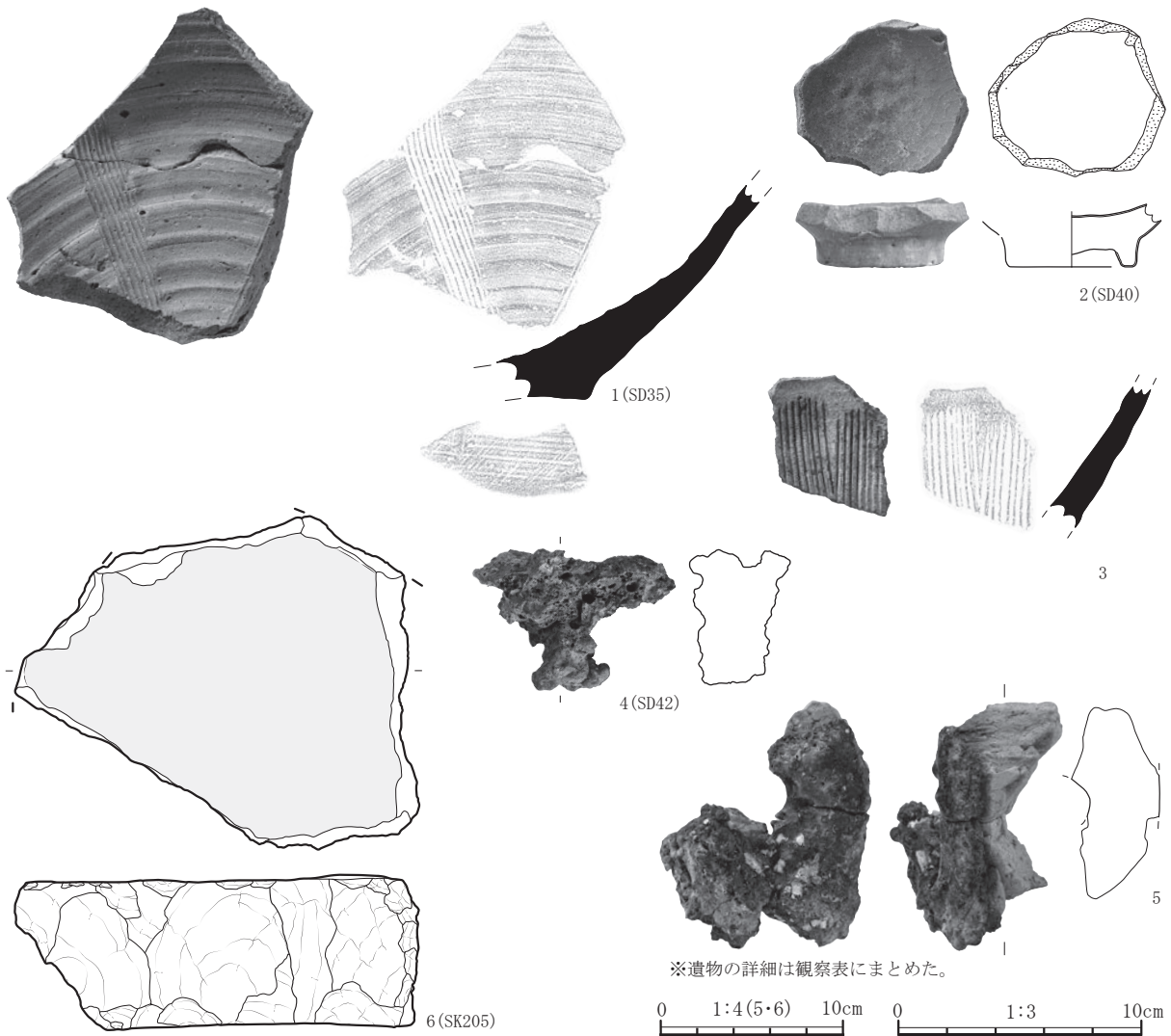


図148 陶磁器等

## 第5章 自然科学分析

### 第1節 放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

#### 1. 測定対象試料

米山(2)遺跡は、青森県青森市大字宮田字米山ほか(北緯 40° 50′ 26″、東経 140° 50′ 50″)に所在し、標高約 30m の扇状地扇端部から扇状地性低湿地に立地する。測定対象試料は、カマド状遺構と流路から出土した炭化物と種子(未炭化)の合計 3 点である(表 3)。

カマド状遺構 SF18 は 13 世紀後半～ 15 世紀と推定されている。また 19 号流路の試料が出土した層位からは縄文時代中期後葉(最花式)の土器が出土している。

#### 2. 測定の意義

カマド状遺構が機能していた時期、流路が流れていた最も古い時期を確認する。

#### 3. 化学処理工程

(1) メス・ピンセットを使い、付着物を取り除き、必要量の試料を採取、乾燥させ、秤量する(表 1「処理前試料量」)。

(2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させ、秤量する(表 1「処理後試料量」)。AAA 処理における酸処理では、通常 1 mol/l (1M) の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001M から 1 M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。

(3) 必要量を採取、秤量(表 1「燃焼量」)した試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を発生させる。

(4) 真空ラインで二酸化炭素を精製、定量する。この二酸化炭素中の炭素相当量を算出する(表 1「精製炭素量」)。

(5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。

(6) グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

表 1 試料の処理状況

測定番号	試料名	処理前試料量 (mg)	処理後試料量 (mg)	燃焼量 (mg)	精製炭素量 (mg)
IAAA-201301	20Yone(2)-No.1_SF18	28.48	3.12	2.96	2.11
IAAA-201302	20Yone(2)-No.2_	46.08	1.37	1.37	0.67
IAAA-201303	20Yone(2)-No.3_	32.54	2.72	2.72	1.66



#### 4. 測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)の測定を行う。測定では、米国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。測定回数、<sup>14</sup>Cカウント数、<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C比を表2に示す。

表2 試料のAMS測定状況

測定番号	試料名	測定回数	<sup>14</sup> C Count	<sup>13</sup> C/ <sup>12</sup> C (%)
<b>IAAA-201301</b>	20Yone(2)-No.1_SF18	14	175445	1.1142
<b>IAAA-201302</b>	20Yone(2)-No.2_	14	109303	1.1159
<b>IAAA-201303</b>	20Yone(2)-No.3_	14	121366	1.1185

#### 5. 算出方法

(1)  $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表3)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

(2) <sup>14</sup>C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表3に、補正していない値を参考値として表4に示した。<sup>14</sup>C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差( $\pm 1\sigma$ )は、試料の<sup>14</sup>C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

(3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の<sup>14</sup>C濃度の割合である。pMCが小さい(<sup>14</sup>Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(<sup>14</sup>Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表3に、補正していない値を参考値として表4に示した。

(4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の<sup>14</sup>C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の<sup>14</sup>C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差( $1\sigma = 68.3\%$ )あるいは2標準偏差( $2\sigma = 95.4\%$ )で表示される。グラフの縦軸が<sup>14</sup>C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない<sup>14</sup>C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal20較正曲線(Reimer et al. 2020)を用い、OxCalv4.4較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定の較正曲線、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表4に示した。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

## 6. 測定結果

試料の測定結果を表3、4に示す。

SF18 出土試料 20Yone (2) -No.1\_SF18 の  $^{14}\text{C}$  年代は  $440 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は 1440 ~ 1457cal AD の範囲で示される。推定される年代の範囲内となっている。

19号流路出土試料 20Yone (2) -No.2、20Yone (2) -No.3 の  $^{14}\text{C}$  年代は、20Yone (2) -No.2 が  $3970 \pm 30\text{yrBP}$ 、20Yone (2) -No.3 が  $3910 \pm 20\text{yrBP}$  である。暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、20Yone (2) -No.2 が 2562 ~ 2466cal BC の間に2つの範囲、20Yone (2) -No.3 が 2463 ~ 2349cal BC の間に2つの範囲で示される。20Yone (2) -No.2 が縄文時代中期末葉頃、20Yone (2) -No.3 が後期初頭頃に相当し (小林編 2008、小林 2017)、同じ層位から出土した土器の型式よりやや新しい年代値となった。

試料の炭素含有率は、49% (20Yone (2) -No.2) ~ 71% (20Yone (2) -No.1\_SF18) のおおむね適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

## 文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51 (1) , 337-360

小林謙一 2017 縄文時代の実年代 一土器型式編年と炭素 14 年代一, 同成社

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP) , Radiocarbon 62 (4) , 725-757

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, Radiocarbon 19 (3) , 355-363

表3 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
<b>IAAA-201301</b>	20Yone(2)-No.1_SF18	SF18 3層	炭化物	AAA	<b>-26.10 ± 0.18</b>	<b>440 ± 20</b>	<b>94.71 ± 0.25</b>
<b>IAAA-201302</b>	20Yone(2)-No.2	19号流路 IVc層	種子(トチか?)	AAA	<b>-24.61 ± 0.22</b>	<b>3,970 ± 30</b>	<b>60.98 ± 0.20</b>
<b>IAAA-201303</b>	20Yone(2)-No.3	19号流路 IVc層	種子(クルミか?)	AAA	<b>-22.32 ± 0.18</b>	<b>3,910 ± 20</b>	<b>61.46 ± 0.19</b>

[IAA 登録番号 : #A420]

表4 放射性炭素年代測定結果 (δ<sup>13</sup>C 未補正值、暦年較正用<sup>14</sup>C年代、較正年代)

測定番号	δ <sup>13</sup> C 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-201301	450 ± 20	94.49 ± 0.24	436 ± 20	1440calAD - 1457calAD (68.3%)	1431calAD - 1475calAD (95.4%)
IAAA-201302	3,970 ± 30	61.03 ± 0.19	3,973 ± 25	2562calBC - 2537calBC (31.5%) 2492calBC - 2466calBC (36.8%)	2574calBC - 2454calBC (94.0%) 2418calBC - 2409calBC (0.9%) 2364calBC - 2358calBC (0.5%)
IAAA-201303	3,870 ± 20	61.79 ± 0.19	3,910 ± 24	2463calBC - 2403calBC (44.2%) 2380calBC - 2349calBC (24.1%)	2469calBC - 2337calBC (88.2%) 2325calBC - 2300calBC (7.3%)

[参考値]

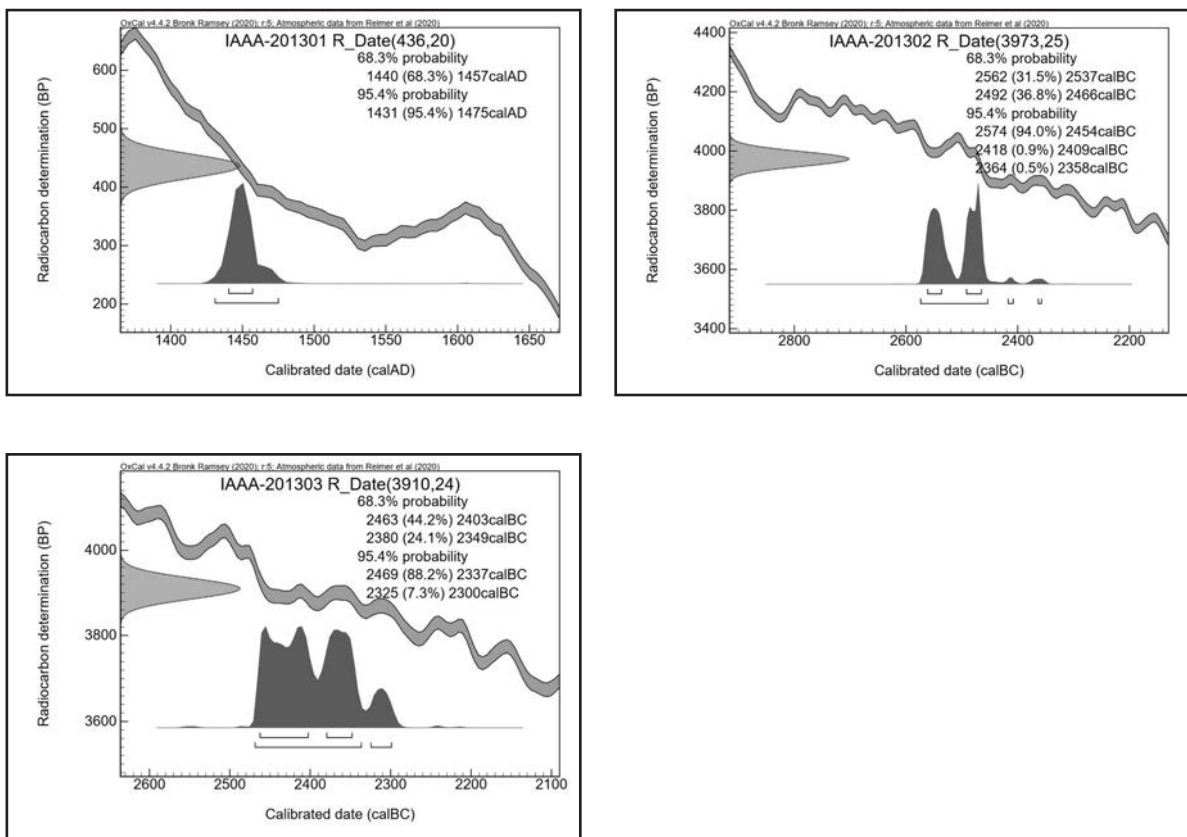


図1 暦年較正年代グラフ (参考)

## 第2節 翡翠石材同定

フォッサマグナミュージアム

### 1. 分析対象試料

分析試料は第19号流路跡から出土した玉2点、装飾品1点で、共に出土した土器から縄文時代後期後葉に帰属する試料である。

試料名	出土位置	層位	器種	分析結果	掲載図
試料1	第19号流路跡	IVa層	玉	硬玉(ヒスイ)	図111、137-6、7
試料2	第19号流路跡	IVa層	玉	硬玉(ヒスイ)	図111、137-6、7
試料3	第19号流路跡	IVa層	装飾品	軟玉(ネフライト)	図112、137-8

### 2. 分析手法

分析には、糸魚川フォッサマグナミュージアムが所有する走査型電子顕微鏡 (SEM)、日本電子製 JSM-6510LA 及び付属するエネルギー分散型 X 線分光器 (EDS) を利用した。

SEM は加速電圧 15kV、分析試料までの間隔 10mm、低真空モードにて表面を観察し、EDS を利用して組成を半定量分析した。

組成の分析結果から、硬玉 (ヒスイ) 又は軟玉 (ネフライト) の同定を実施した。

硬玉 (ヒスイ) の成分  $\text{NaAlSi}_3\text{O}_6$

軟玉 (ネフライト) の成分  $\text{Ca}_2(\text{Mg,Fe})_5\text{Si}_8\text{O}_{22}(\text{OH})_2$

硬玉の主要成分は、ナトリウムやアルミニウム、珪素となる。

軟玉の主要成分は、カルシウムやマグネシウム、鉄、珪素となる。

この組成の違いから硬玉と軟玉を同定した。

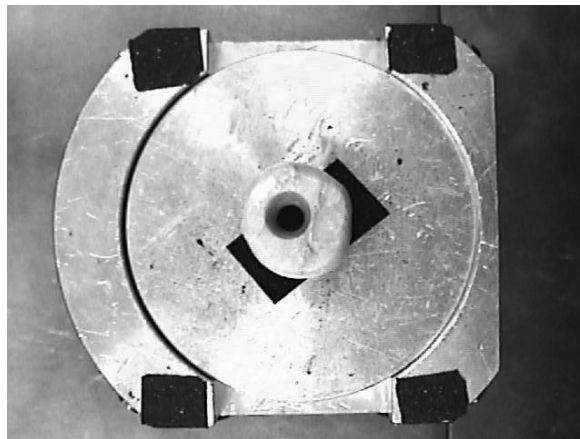


分析機器の外観

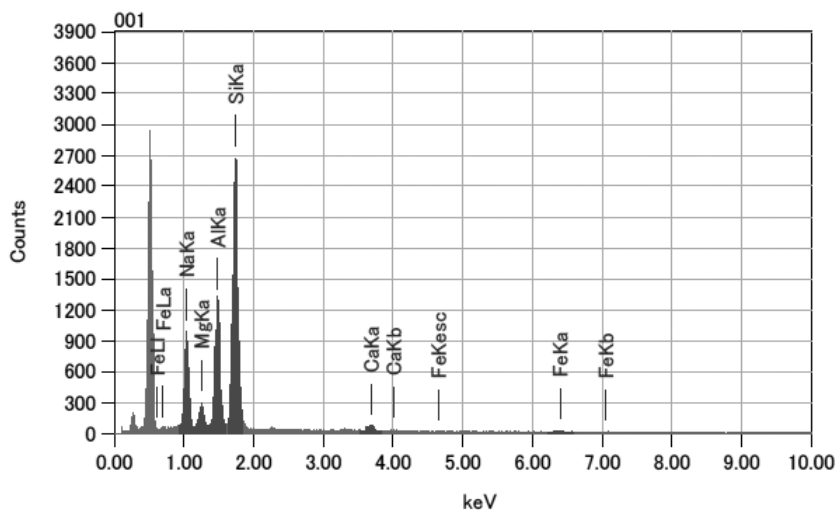
### 3. 分析結果

米山(2)遺跡の石材同定結果は以下の通りである。

試料 1 (2086)



試料写真



測定条件 : 6510 (LA)  
 装置名 : 15.0 kV  
 加速電圧 : 0.45402 nA  
 照射電流 : T3  
 PHAモード : T3  
 経過時間 : 29.90 sec  
 有効時間 : 10.00 sec  
 デッドタイム : 66 %  
 計数率 : 20292 cps  
 エネルギー範囲 : 0 - 20 keV

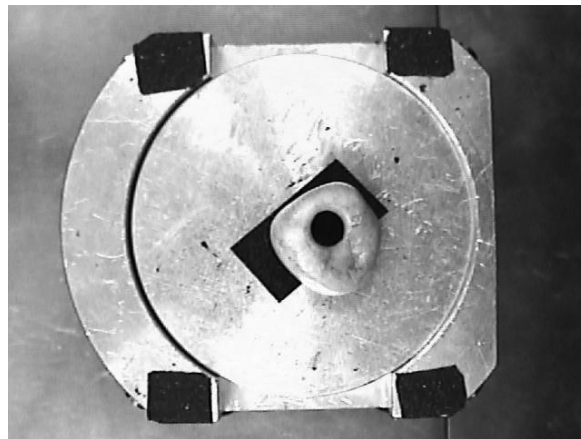
ZAF法 簡易定量分析(酸化物)  
 フィッティング係数 : 0.4742  
 全酸素数 : 6.0

元素	(keV)	質量%	誤差%	モル%	化合物	質量%	カチオン数	K
O		47.00						
Na K	1.041	9.98	0.83	14.14	Na2O	13.45	0.89	19.3406
Mg K	1.253	2.10	0.98	5.64	MgO	3.49	0.18	3.3987
Al K	1.486	11.63	1.14	14.03	Al2O3	21.97	0.88	21.1234
Si K	1.739	27.29	1.49	63.29	SiO2	58.37	1.98	51.5278
Ca K*	3.690	1.22	1.91	1.99	CaO	1.71	0.06	2.9882
Fe K*	6.398	0.78	5.02	0.91	FeO	1.01	0.03	1.6213
合計		100.00		100.00		100.00	4.02	

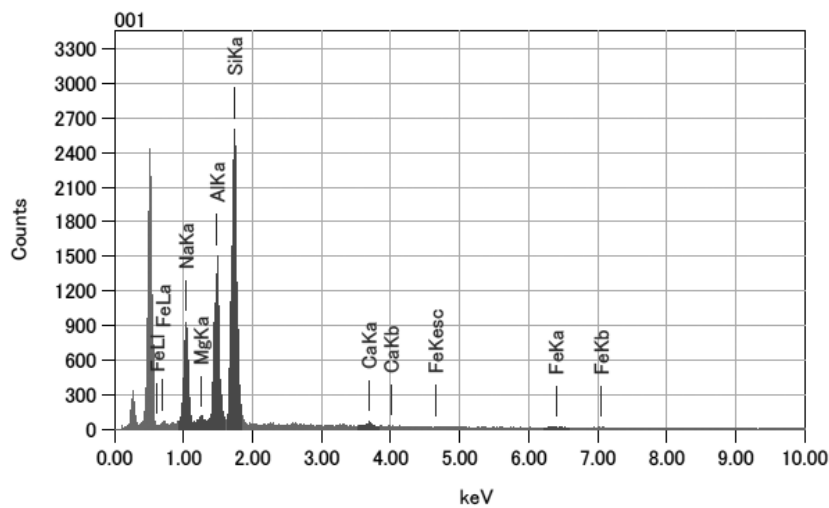
分析結果

組成分析の結果、ナトリウム (9.98 質量%)・アルミニウム (11.63 質量%)・珪素 (27.29 質量%) が主に含まれ、硬玉 (ヒスイ) と同定した。

試料 2 (2087)



試料写真



測定条件  
 装置名 : 6510(LA)  
 加速電圧 : 15.0 kV  
 照射電流 : 0.45402 nA  
 PHAモード : T3  
 経過時間 : 30.06 sec  
 有効時間 : 10.00 sec  
 デッドタイム : 66 %  
 計数率 : 20412 cps  
 エネルギー範囲 : 0 - 20 keV

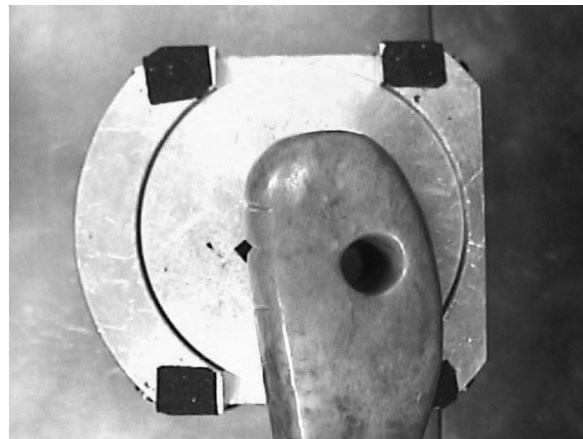
ZAF法 簡易定量分析(酸化物)  
 フィッティング係数 : 0.4890  
 全酸素数 : 6.0

元素	(keV)	質量%	誤差%	モル%	化合物	質量%	カチオン数	K
O		47.38						
Na K	1.041	10.08	0.76	14.67	Na <sub>2</sub> O	13.59	0.89	19.6338
Mg K	1.253	0.51	0.89	1.41	MgO	0.85	0.04	0.8277
Al K	1.486	13.16	1.02	16.32	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	24.86	0.99	24.3944
Si K	1.739	27.52	1.36	65.57	SiO <sub>2</sub>	58.87	1.98	52.0073
Ca K	3.690	0.88	1.74	1.47	CaO	1.23	0.04	2.1501
Fe K	6.398	0.48	4.58	0.57	FeO	0.61	0.02	0.9868
合計		100.00		100.00		100.00	3.97	

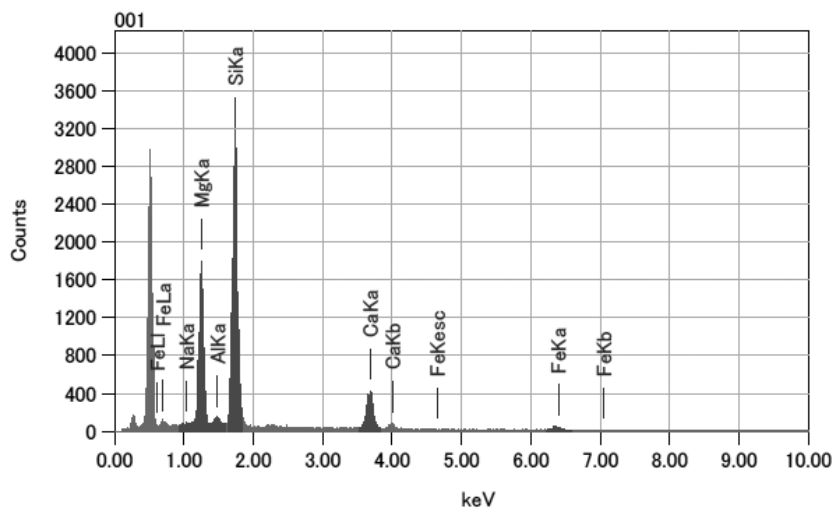
分析結果

組成分析の結果、ナトリウム (10.08 質量%)・アルミニウム (13.16 質量%)・珪素 (27.52 質量%) が主に含まれ、硬玉 (ヒスイ) と同定した。

試料3 (2088)



試料写真



測定条件 : 6510(LA)  
 装置名 : 15.0 kV  
 加速電圧 : 0.45402 nA  
 照射電流 : T3  
 PHAモード : T3  
 経過時間 : 29.09 sec  
 有効時間 : 10.00 sec  
 デッドタイム : 65 %  
 計数率 : 19835 cps  
 エネルギー範囲 : 0 - 20 keV

ZAF法 簡易定量分析(酸化物)  
 フィッティング係数 : 0.5087  
 全酸素数 : 23.0

元素	(keV)	質量%	誤差%	モル%	化合物	質量%	カチオン数	K
O		46.19						
Na K	1.041	0.04	0.88	0.05	Na2O	0.06	0.01	0.0696
Mg K	1.253	14.32	0.90	31.76	MgO	23.74	4.69	23.2500
Al K	1.486	0.65	1.22	0.65	Al2O3	1.23	0.19	1.0254
Si K	1.739	28.34	1.41	54.42	SiO2	60.63	8.04	52.3716
Ca K	3.690	7.94	1.87	10.68	CaO	11.11	1.58	18.3819
Fe K	6.398	2.52	4.96	2.44	FeO	3.24	0.36	4.9016
合計		100.00		100.00		100.00	14.87	

分析結果

分析の結果、マグネシウム (14.32 質量%)・カルシウム (7.94 質量%)・珪素 (28.34 質量%) が主に含まれ、軟玉 (ネフライト) と同定した。

### 第3節 花粉分析

(株) パレオ・ラボ

#### 1. はじめに

青森市に所在する米山(2)遺跡では、遺跡周辺の古環境を検討するために、堆積物が採取された。以下では、採取された試料について行った花粉分析の結果を示し、考察した。

#### 2. 試料と方法

分析試料は、19号流路ベルト A から採取された7試料である(表1)。時期は、縄文時代中期末葉～後期後葉に渡る。これら試料について、以下の手順で分析を行った。

試料(湿重量約4g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え、10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え、1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理(無水酢酸9:硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し、保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。いずれの試料も花粉が含まれていなかったため、各試料につきプレパラート1枚の全面を検鏡するにとどめた。

表1 分析試料一覧

試料 No.	位置	層位	時期	遺構の性格	堆積物の特徴	
サンプル①	19号流路ベルト A	IV a-1 層	縄文時代後期後葉 (十腰内IV~V式)	捨て場	黒褐色 (10VR2/3) 粘土質シルト	
サンプル②		19号流路上層			黒褐色 (10VR2/2) 粘土質シルト	
サンプル③					黒褐色 (10VR3/2) 粘土質シルト	
サンプル④		IV b-1 層	19号流路内中層	縄文時代後期前葉 (十腰内I式)	黒褐色 (10VR2/2) 粘土質シルト	
サンプル⑤		IV b-2 層			黒褐色 (10VR2/3) 粘土質シルト	
サンプル⑥		IV c-4 層	19号流路内下層	縄文時代 中期末葉～後期前葉	遺物包含層	暗褐色 (10VR3/3) 焼土混じり粘土質シルト
サンプル⑦		IV a-7 層				黒色 (2.5Y2/1) 炭混じり粘土質シルト

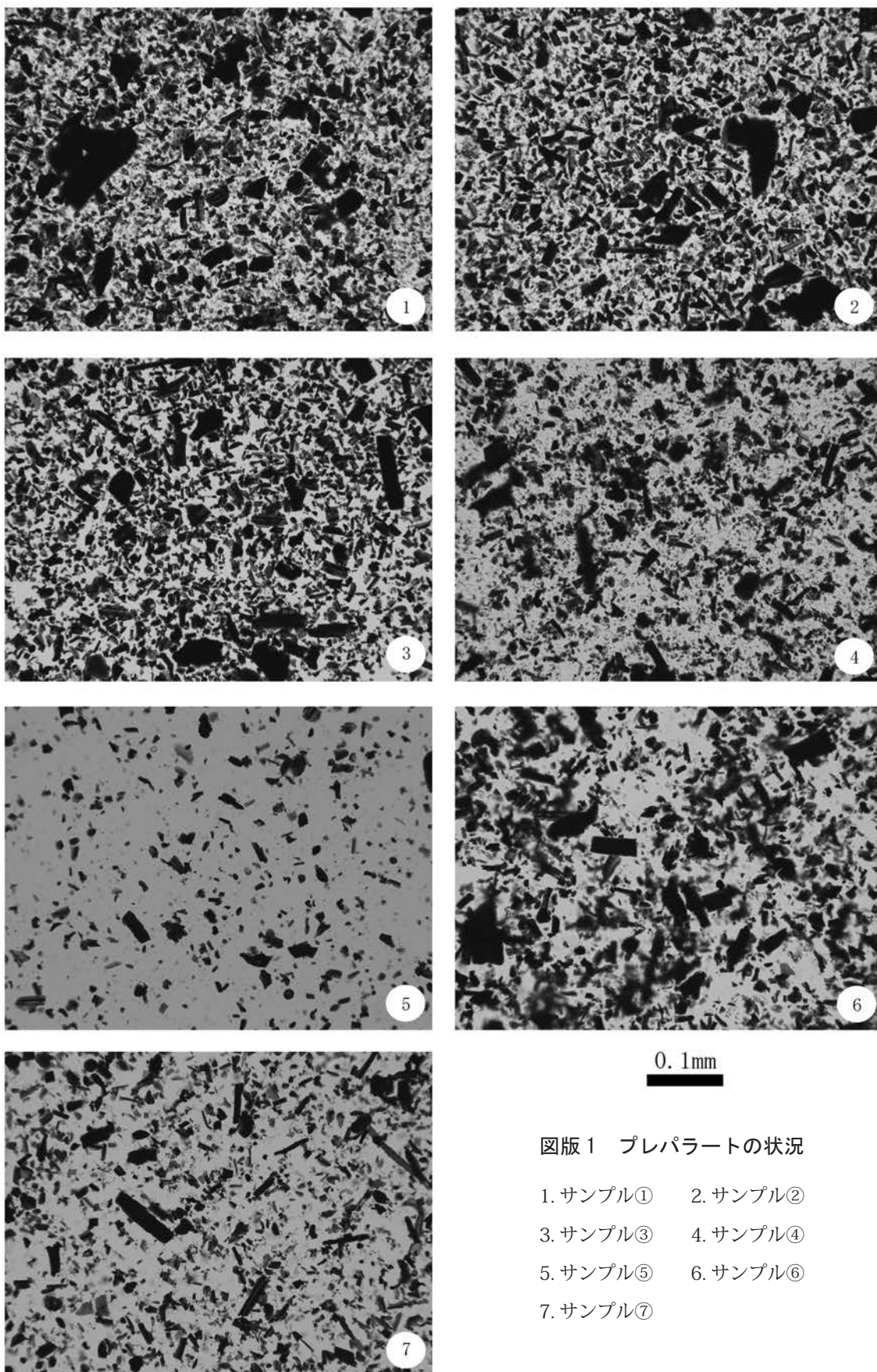
#### 3. 結果と考察

検鏡の結果、いずれの試料にも花粉化石は含まれていなかった。各試料のプレパラートの状況を図版1に示す。なお、花粉化石が得られていないため、図表は作成していない。

一般的に、花粉は湿乾を繰り返す環境に弱く、酸化的環境下で堆積すると紫外線や土壌バクテリアなどによって分解され、消失してしまう。したがって、堆積物が酸素と接触する機会の多い堆積環境では、花粉化石が残りにくい。今回の試料は、おそらく堆積時や堆積後に酸化的環境に晒されていたため、花粉化石が残っていないと思われる。あるいは、捨て場であったために堆積速度が速く、花粉が取り込まれにくかった可能性もある。いずれにしろ、今回の分析試料には花粉化石が含まれていないため、古植生について言及するのは難しい。

(森 将志)





## 第4節 大型植物遺体

(株)パレオ・ラボ

### 1. はじめに

青森県青森市に所在する米山(2)遺跡は、縄文時代後期後葉および中世の遺跡である。ここでは、縄文時代後期後葉の流路跡と、中世のカマド状遺構や溝跡、土坑から出土した大型植物遺体の同定結果を報告し、食用などとして利用された可能性のある植物や、遺跡周辺における栽培状況について検討する。なお、同じ堆積物試料から抽出された炭化材の樹種同定も行われている(本章第5節参照)。

### 2. 試料と方法

分析試料は、縄文時代後期後葉(十腰内Ⅳ～Ⅴ式)の19号流路の上層から採取された堆積物3試料と、中世のカマド状遺構SF15と溝跡SD42、土坑SK205から採取された堆積物各1試料の、計6試料である。

水洗は、パレオ・ラボにて堆積物を全量計量し、0.5mm目の篩を用いて行った。各試料の水洗量については表1を参照されたい。大型植物遺体の抽出および同定、計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。計数が難しい分類群については、おおよその数を記号(+)で表記した。試料は、青森県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

### 3. 結果

同定した結果、木本植物では広葉樹のブドウ属炭化種子と、キイチゴ属核、クワ属核、クリ炭化果実、オニグルミ炭化核、ウルシ属炭化内果皮、トチノキ炭化種子、キハダ炭化小核、マタタビ属種子、ニワトコ核、タラノキ核の11分類群、草本植物ではスゲ属アゼスゲ節果実と、スゲ属A果実、スゲ属B果実、ヒエ炭化種子(穎果)、ヒエ属炭化種子(穎果)、イネ炭化籾殻・炭化種子(穎果)、アワ炭化種子(穎果)、エノコログサ属炭化有ふ果、イネ科A炭化種子(穎果)、クサノオウ属種子、マメ科A炭化種子、オランダイチゴ属-ヘビイチゴ属果実、アサ炭化核、イヌタデ属炭化果実、エノキグサ属種子・炭化種子、スマレ属種子、ウシハコベ種子、アカザ属種子・炭化種子、ニガクサ属炭化果実、コウゾリナ果実、ウド核の21分類群、シダ植物のスギナ近似種無性芽の1分類群の、計33分類群が見いだされた。このほかに、科以上の詳細な同定ができなかった種実を不明A炭化種実とした。残存状態が悪く、微細な破片であるため科以上の細分に必要な識別点を欠く一群を同定不能種実・炭化種実とした。種実以外には、虫えいと子囊菌が含まれていた。また、種実以外には、不明昆虫遺体も得られたが、同定の対象外とした(表1)。

以下に、大型植物遺体の産出傾向について、時期ごとに、遺構別に記載する(不明Aや同定不能炭化種実は除く)。

[縄文時代後期後葉(十腰内Ⅳ～Ⅴ式)]

19号流路：オニグルミがやや多く、クリとトチノキが少量、クワ属とウルシ属、キハダ、アワ、ウシハコベ、アカザ属、スギナ近似種がわずかに得られた。

表1 米山(2)遺跡から出土した大型植物遺体(括弧内は破片数)

分類群	遺構名 層	19号流路			SF15	SD42	SK205	
		上層			-	-	-	
		取上げ番号	土壌サン	土壌サン	土壌サン	土壌サンプル④		
			プル①	プル②	プル③			
時期	縄文時代後期後葉			中世				
水洗量 (cc)	1000	1000	1000	500	1000	1000		
ブドウ属	炭化種子				(1)			
キイチゴ属	核				(3)			
クワ属	核	1						
クリ	炭化果実	(5)	(3)	(2)				
オニグルミ	炭化核	(8)	(33)	(54)				
ウルシ属	炭化内果皮		(3)					
トチノキ	炭化種子		(1)	(26)				
キハダ	炭化小核	(2)	(3)					
マタタビ属	種子				(1)			
ニワトコ	核				1			
タラノキ	核				8	(3)		
スゲ属アゼスゲ節	果実					1		
スゲ属A	果実					3		
スゲ属B	果実				2	(11)		
ヒエ	炭化種子				1			
ヒエ属	炭化種子			1				
イネ	炭化穀殻				3	2 (+)		
	炭化種子				(3)			
アワ	炭化種子	1				1 (1)		
エノコログサ属	炭化有ふ果			1		(1)		
イネ科A	炭化種子				1			
クサノオウ属	種子				2			
マメ科A	炭化種子				3	(1)		
オランダイチゴ属-ヘビイチゴ属	果実				(1)			
アサ	炭化核			(2)				
イヌタデ属	炭化果実					(2)		
エノキグサ属	種子				(1)	(8)		
	炭化種子			1	(12)			
スマレ属	種子				1	(38)		
ウシハコベ	種子	1				1 (3)		
アカザ属	種子			1		1 (2)		
	炭化種子				1	(2)		
ニガクサ属	炭化果実				1			
コウゾリナ	果実				1			
ウド	核				1			
スギナ近似種	無性芽	2	(5)					
不明A	炭化種実	1						
同定不能	炭化種実	(29)	(31)	(38)	(9)	(36)		
虫えい	炭化	(3)				1		
子囊菌	炭化子囊	2	10 (1)	1	12	2 (1)		
不明	昆虫遺体				(+++)	(+)		

+:1-9, ++:10-49, +++:50-99

## [中世]

カマド状遺構SF15：エノキグサ属が少量、ヒエ属とエノコログサ属、アサ、アカザ属がわずかに得られた。

溝跡SD42：タラノキとスゲ属B、スマレ属が少量、ブドウ属とキイチゴ属、マタタビ属、ニワトコ、ヒエ、イネ、イネ科A、クサノオウ属、マメ科A、オランダイチゴ属-ヘビイチゴ属、エノキグサ属、アカザ属、ニガクサ属、コウゾリナ、ウドがわずかに得られた。

土坑SK205：スゲ属アゼスゲ節果実とスゲ属A、イネ、アワ、エノコログサ属、マメ科A、イヌタデ属、エノキグサ属、スマレ属、アカザ属がわずかに得られた。

次に、主な分類群の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田(2003-)に準拠し、APGⅢリストの順とした。

(1) ブドウ属 *Vitis* sp. 炭化種子 ブドウ科

完形ならば上面観は楕円形、側面観は下端が尖る倒広卵形。背面の基部寄りに円形の着点があるが、残存していない。腹面には縦方向の2本の深い溝があるが、残存していない。残存長3.0mm、残存幅1.5mm。

(2) クワ属 *Morus* sp. 核 クワ科

黄褐色で、側面観はいびつな広倒卵形または三角状倒卵形、断面は卵形または三角形。背面は稜をなす。表面にはゆるやかな凹凸があり、厚く、やや硬い。基部に嘴状の突起を持つ。長さ1.4mm、幅1.2mm。

(3) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 炭化果実 ブナ科

完形ならば側面観は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。底面にある殻斗着痕はざらつくが、残存していない。残存高3.6mm、残存幅1.7mm。

(4) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitam. 炭化核 クルミ科

すべて破片であるが、完形ならば側面観は広卵形。木質で、壁は厚くて硬く、ときどき空隙がある。表面に縦方向の浅い縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。断面は角が尖るものが多く、内部は二室に分かれる。残存長8.5mm、残存幅5.6mm。

(5) トチノキ *Aesculus turbinata* Blume 炭化種子 ムクロジ科

完形ならば楕円形で、下半部は光沢がなく、上半部にはやや光沢がある。種皮は薄く、やや硬い。種皮は3層からなり、各層で細胞の配列方向が異なる。種皮の表面には指紋状の微細模様が密にあるが、残存していない。残存高6.0mm、残存幅4.8mm。

(6) マタタビ属 *Actinidia* spp. 種子 マタタビ科

赤褐色で、完形ならば上面観は長楕円形、側面観は倒卵形または楕円形。表面には五角形や六角形、円形、楕円形などの窪みが連なる規則的な網目状隆線がある。壁は薄く硬い。残存長1.5mm、幅1.1mm。

(7) ニワトコ *Sambucus racemosa* L. subsp. *sieboldiana* (Miq.) H.Hara var. *sieboldiana* Miq. 核 レンブクソウ科

黄褐色で、上面観は扁平、側面観は倒卵形で基部がやや尖る。基部に小さな着点があり、縦方向にやや反る。波状の凹凸が横方向に走る。長さ2.2mm、幅1.4mm。

(8) タラノキ *Aralia elata* (Miq.) Seem. 核 ウコギ科

黄褐色で、上面観は扁平、側面観は半月形。稜に沿って網目状の構造がある。長さ2.1mm、幅1.4mm。

(9) スゲ属アゼスゲ節 *Carex* sect. *Carex* sp. 果実 カヤツリグサ科

黒褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は下端が窄まる楕円形。表面には微細な網目状隆線があり、先端は明瞭に突出する。長さ1.6mm、幅1.1mm。

(10) スゲ属A *Carex* sp. A 果実 カヤツリグサ科

黄褐色で、側面観は倒卵形、断面は三角形。先端と着点がやや突出する。長さ1.6mm、幅0.9mm。

(11) スゲ属B *Carex* sp. B 果実 カヤツリグサ科

灰色で、上面観は三稜形、側面観はやや下端が窄まる倒卵形。三面はややくぼむ。表面には微細な網目状隆線がある。先端に円形の穴がある。長さ1.4mm、幅1.1mm。

(12) ヒエ *Echinochloa esculenta* (A.Braun) H.Scholz 炭化種子(穎果) イネ科

側面観が卵形、断面が片凸レンズ形で、厚みは薄く、やや扁平である。胚は幅が広く、長さは全長

の2/3程度と長い。臍は幅が広いうちわ型。長さ2.4mm、幅1.6mm。

(13) ヒエ属 *Echinochloa* spp. 炭化種子(穎果) イネ科

細長い円形。胚は幅が広いうちわ型で、長さは全長の2/3程度と長い。内穎は膨らまない。長さ1.5mm、幅1.0mm。種子の大きさから、栽培種のヒエや野生種のタイヌビエではないと考えられ、イヌビエの大きさに最も近い。

(14) イネ *Oryza sativa* L. 炭化籾殻・炭化種子(穎果) イネ科

籾殻は、完形ならば上面観が楕円形で、側面観が長楕円形。縦方向に明瞭な稜線があり、基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。残存長1.9mm、残存幅1.2mm。種子(穎果)は、完形ならば上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形。下端の胚は残存していない。両面に縦方向の2本の浅い溝があるが、不明瞭。残存長2.0mm、残存幅1.2mm。

(15) アワ *Setaria italica* P.Beauv. 炭化種子(穎果) イネ科

上面観は楕円形で、側面観は円形に近い。腹面下端中央の窪んだ位置に細長い楕円形の胚があり、胚の長さは全長の2/3程度。残存長1.1mm、幅1.2mm。

(16) イネ科A *Poaceae* sp.A 炭化種子(穎果)

上面観は楕円形、側面観は長楕円形。表面は平滑。下端に胚がある。長さ1.6mm、幅0.8mm。

(17) マメ科A *Fabaceae* sp.A 炭化種子 マメ科

やや変形しているが、上面観・側面観ともに楕円形、表面は平滑。ほぼ中央に円形の小さい臍がある。表面は平滑。長さ2.0mm、幅1.5mm。

(18) アサ *Cannabis sativa* L. 炭化核 アサ科

完形ならば上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形。下端にはやや突出した楕円形の大きな着点があるが、残存していない。表面には脈状の模様がある。残存長2.4mm、残存幅1.5mm。

(19) エノキグサ属 *Acalypha* spp. 種子・炭化種子 トウダイグサ科

上面観は円形、側面観は倒卵形。表面には細かい網目状隆線があり、ざらつく。種皮は断面が柵状で、薄く硬い。残存長1.3mm、幅1.0mm。

(20) スミレ属 *Viola* spp. 種子 スミレ科

淡い黄色で、卵形。表面には縦方向に薄く密な筋がある。下端中央にへそがある。長さ1.4mm、幅1.0mm。

(21) アカザ属 *Chenopodium* spp. 種子・炭化種子 ヒユ科

上面観はやや扁平、側面観は円形。種皮は強い光沢があり、硬い。着点の一端がやや突出し、中心部方向に向かって浅い溝がある。長さ0.9mm、残存幅1.0mm。

(22) 不明A Unknown A 炭化種実

上面観は円形、側面観は倒卵形。先端が短く突出する。表面は粗くて木質。長さ2.5mm、幅2.0mm。

#### 4. 考察

以下、産出した大型植物遺体について、時期ごとに考察する。

縄文時代後期後葉(十腰内IV~V式)の19号流路の上層から得られた大型植物遺体を同定した結果、食用可能な堅果類のクリとオニグルミ、トチノキ、しょう果類のキハダが得られた。アイヌの民族例によれば、キハダは食用だけでなく、香辛料や薬用にも利用される(アイヌ民族博物館, 2004)。破片

で得られたウルシ属は、栽培種のウルシと野生種のヤマウルシやツタウルシなどの両方の可能性があるが、種レベルの同定はできなかった。クリやオニグルミもほとんどが破片で産出しており、食用にならない果実や核が、内部の子葉を利用するために割られた後に、燃やされて、堆積した可能性が考えられる。トチノキは食べるにあたってアク抜きが必要であり、種子の出土は、遺跡の周辺でトチノキの加工が行われていた可能性を示している。栽培植物のアワと、未炭化の状態で作られた野生植物のクワ属とウシハコベ、スギナ近似種は、後世の混入物の可能性がある。

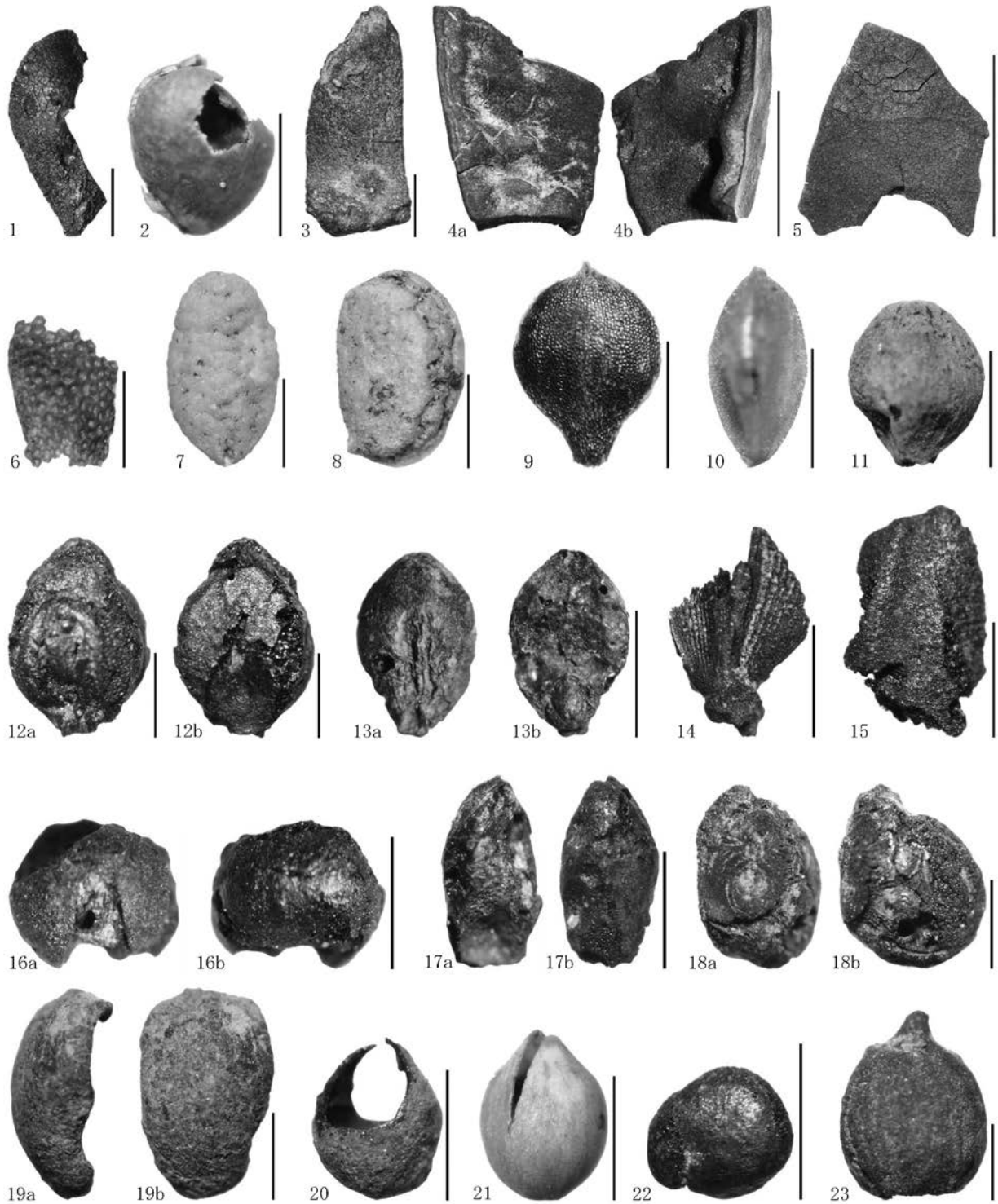
中世のカマド状遺構SF15からは、栽培植物のアサが得られた。また、ヒエ属やエノコログサ属などの種実、残存状況から乾燥させて着火材や燃料材などに使用した可能性があり、またエノキグサ属やアカザ属といった不要な雑草をカマド状遺構で燃やした可能性も考えられる。溝跡SD42からは、食用可能な野生植物として、しょう果類のブドウ属とキイチゴ属、マタタビ属、ニワトコ、タラノキ、ウドが得られた。タラノキやウドは若芽などが食用とされるが、核自体は利用されない。草本植物では、湿地性のスゲ属B、乾いた場所に生えるイネ科Aやクサノオウ属、マメ科A、オランダイチゴ属-ヘビイチゴ属、エノキグサ属、スマレ属、アカザ属、ニガクサ属、コウゾリナ、コウゾリナが産出しており、これらの分類群がSD42の周辺に生育していたと考えられる。マメ科Aの炭化種子は、形態から野生種の可能性が高いと判断される。栽培植物のヒエとイネが得られており、付近の水田や畑地から流れ込んで堆積した可能性が考えられる。土坑SK205からは、栽培植物のイネとアワが得られており、保管されていた穀類がなんらかの要因で炭化して土坑に堆積した可能性がある。エノコログサ属とマメ科A、イヌタデ属は利用されない分類群であり、偶発的に遺構内に堆積した可能性が考えられる。これら以外の草本植物では、湿地性のスゲ属アゼスゲ節とスゲ属A、乾いた場所を好むエノコログサ属やマメ科A、イヌタデ属、エノキグサ属、スマレ属、アカザ属が産出しており、これらの分類群がSK205の周辺に生育していたと考えられる。

(バンダリ スダルシャン)

#### 引用文献

アイヌ民族博物館(2004) アイヌと自然シリーズ第3集 アイヌと植物〈樹木編〉. 32p, アイヌ民族博物館.

米倉浩司・梶田 忠(2003-)BG Plants 和名-学名インデックス(YList), <http://ylist.info>



スケール 1-3, 6-23: 1mm, 4, 5: 5mm

図版1 米山(2)遺跡から出土した大型植物遺体

1. ブドウ属炭化種子 (SD42、溝跡)、2. クワ属核 (19号流路、上層、土壌サンプル①)、3. クリ炭化果実 (19号流路、上層、土壌サンプル②)、4. オニグルミ炭化核 (19号流路、上層、土壌サンプル③)、5. トチノキ炭化種子 (19号流路、上層、土壌サンプル③)、6. マタタビ属種子 (SD42、溝跡)、7. ニワトコ核 (SD42、溝跡)、8. タラノキ核 (SD42、溝跡)、9. スゲ属アゼスゲ節果実 (SK205、土坑)、10. スゲ属 A 果実 (SK205、土坑)、11. スゲ属 B 果実 (SD42、溝跡)、12. ヒエ炭化種子 (SD42、溝跡)、13. ヒエ属炭化種子 (SF15、カマド状遺構)、14. イネ炭化糊殻 (SK205、土坑)、15. イネ炭化種子 (SD42、溝跡)、16. アワ炭化種子 (SK205、土坑)、17. イネ科 A 炭化種子 (SD42、溝跡)、18. マメ科 A 炭化種子 (SD42、溝跡)、19. アサ炭化核 (SF15、カマド状遺構)、20. エノキグサ属炭化種子 (SF15、カマド状遺構)、21. スミレ属種子 (SD42、溝跡)、22. アカザ属炭化種子 (SD42、溝跡)、23. 不明 A 炭化種実 (19号流路、上層、土壌サンプル①)

## 第5節 樹種同定

(株)パレオ・ラボ

### 1. はじめに

青森市の米山(2)遺跡から出土した炭化材の樹種同定を行った。

### 2. 試料と方法

試料は、縄文時代後期後葉(十腰内IV～V式)の19号流路と、中世のカマド遺構SF15、溝跡SD42、土坑SK205で採取された土壌の水洗選別で得られた炭化材である。残存径がおおよそ5mm以上の試料を分析対象とした。

樹種同定に先立ち、実体顕微鏡観察でおおまかな分類群に分けた。その後、カミソリまたは手で3断面(横断面・接線断面・放射断面)を割り出し、試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡(KEYENCE社製 VHX-D510)を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

### 3. 結果

樹種同定の結果、広葉樹のカツラとキブシ、クリ?、ブナ属、コナラ属コナラ節(以下、コナラ節)、オニグルミ、クマシデ属イヌシデ節(以下、イヌシデ節)、ニシキギ属、カエデ属、トチノキ、ミズキ、エゴノキ属、トネリコ属シオジ節(以下、シオジ節)の13分類群と、単子葉類のイネ科の、合計14分類群が確認された。結果を表1に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

表1 樹種同定結果一覧

分析No.	取り上げ番号	遺構	樹種	形状	時期	
1-1	土壌サンプル①	19号流路 (C-C' ライン)	トチノキ	破片	縄文時代後期後葉 (十腰内IV～V式)	
1-2			クリ?	破片		
1-3			コナラ属コナラ節	破片		
1-4			カツラ	破片		
1-5			トネリコ属シオジ節	破片		
2-1	土壌サンプル②	19号流路 (D-D' ライン)	トネリコ属シオジ節	破片		
2-2			クリ?	破片		
2-3			トチノキ	破片		
2-4			カツラ	破片		
2-5			クマシデ属イヌシデ節	破片		
3-1	土壌サンプル③	19号流路 (E-E' ライン)	クマシデ属イヌシデ節	破片		
3-2			カツラ	破片		
3-3			オニグルミ	破片		
4-1	土壌サンプル④	SF15 (カマド状遺構)	カエデ属	破片		中世
4-2			ニシキギ属	破片		
4-3			ブナ属	破片		
4-4			エゴノキ属	破片		
4-5			キブシ	破片		
5-1		SD42 (溝跡)	クマシデ属イヌシデ節	破片		
5-2			カエデ属			
5-3			イネ科	破片		
6		SK205 (土坑)		ミズキ	破片	



(1) カツラ *Cercidiphyllum japonicum* Siebold et Zucc. ex Hoffm. et Schult. カツラ科 図版1 1a-1c(分析No.3-2)

小型で角張った道管が、ほぼ単独で密に分布する散孔材である。道管の穿孔は階段状で、30段程度となる。放射組織は1～3列幅で、平伏細胞と方形細胞からなる異性である。

カツラは暖帯から温帯に分布する落葉高木である。材は軽軟で韌性があり、加工は容易である。

(2) キブシ *Stachyurus praecox* Siebold et Zucc. キブシ科 図版1 2a-2c(分析No.4-5)

小型で角張った道管が、単独で均等に分布する散孔材である。道管の穿孔は40段以上の階段状である。放射組織は1～3列幅で、単列部の方形細胞もしくは直立細胞が長く連なる異性である。

キブシは温帯から暖帯にかけて分布する落葉小高木である。材はやや硬く、均質である。

(3) クリ? *Castanea crenata* Siebold et Zucc.? ブナ科 図版1 3a-3c(分析No.1-2)

晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。早材部での道管配列が確認できなかったため、クリ?とした。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(4) ブナ属 *Fagus* ブナ科 図版1 4a-4c(分析No.4-3)

小型で単独の道管が密に分布し、晩材部ではやや径を減ずる散孔材である。道管の穿孔は、単一のものと階段状の2種類がある。放射組織はほぼ同性で、単列のもの、2～数列のもの、広放射組織の3種類がある。

ブナ属は温帯に分布する落葉高木で、ブナとイヌブナがある。材は堅硬および緻密で、韌性があるが、保存性は低い。

(5) コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版1 5a-5c(分析No.1-3)

大型の道管が年輪のはじめに1列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

コナラ節は暖帯から温帯下部に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

(6) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitam. クルミ科 図版1・2 6a-6c(分析No.3-3)

やや大型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して散在し、晩材部で径を減ずる半環孔材である。軸方向柔組織は線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性で、1～4列幅である。

オニグルミは暖帯から温帯に分布する落葉高木で、川沿いなど湿気の多いところに生育する。材はやや軽軟で粘りがあるが、保存性は低い。

(7) クマシデ属イヌシデ節 *Carpinus* sect. *Eucarpinus* カバノキ科 図版2 7a-7c(分析No.3-1)

やや小型から中型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して分布する散孔材である。道管の穿孔は単一である。軸方向柔組織は晩材部で1列幅の接線状となる。放射組織は同性で1～3列幅、集

合放射組織がみられる。

イヌシデ節は暖帯から温帯の低山地に分布する落葉中高木で、イヌシデとイワシデ、アカシデがある。材は重硬で、韌性が大きく、割裂しにくい。

(8)ニシキギ属 *Euonymus* ニシキギ科 図版2 8a-8c(分析No.4.2)

小型の道管が、単独で年輪内に均等に分布する散孔材である。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、すべて平伏細胞からなる同性である。

ニシキギ属は暖帯から温帯に分布する落葉または常緑の高木ないし低木であるが、ときに藤本もある。ニシキギやマサキ、マユミなど18種がある。マユミの材は、やや硬堅だが、割裂は容易である。

(9)カエデ属 *Acer* ムクロジ科 図版2 9a-9c(分析No.4.1)

径が中型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して分布する散孔材である。横断面において木部繊維の壁厚の違いによる雲紋状の模様がみられる。道管の穿孔は単一で、道管壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織はほぼ同性で、1～5列幅である。

カエデ属は主に温帯に分布する落葉高木で、オオモミジやハウチワカエデ、イタヤカエデなど26種がある。木材組織からはチドリノキーカジカエデ以外は識別困難なため、この2種を除いたカエデ属とする。材は全体的に緻密で、韌性がある。

(10)トチノキ *Aesculus turbinata* Blume ムクロジ科 図版2 10a-10c(分析No.1-1)

やや小型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して均等に分布する散孔材である。道管の穿孔は単一である。放射組織は単列で、すべて平伏細胞で構成される同性である。接線断面において、放射組織は層界状に配列する。

トチノキは暖帯から温帯に分布する落葉高木で、やや湿り気のある肥沃な土地の深い谷間や中腹の緩傾斜地によく生育する。材は柔らかく緻密であるが、保存性は低い。

(11)ミズキ *Cornus controversa* Hemsl. ex Prain ミズキ科 図版2・3 11a-11c(分析No.6)

小型の道管が、単独もしくは数個複合して分布する散孔材である。道管の穿孔は20段程度の階段状である。放射組織は縁辺部に方形もしくは直立細胞が2～4程度ある異性で、細胞幅は5列程度である。

ミズキは落葉中高木で、温帯から亜寒帯に広く分布する。材はやや硬いが、加工は比較的容易である。

(12)エゴノキ属 *Styrax* エゴノキ科 図版3 12a-12c(分析No.4.4)

小型の道管が、放射方向に数個複合して分布する散孔材で、晩材部で道管が小型になり、数も減る。軸方向柔組織は短接線状となる。道管の穿孔は10段程度の階段状である。放射組織は1～4列幅で、異性である。

エゴノキ属は熱帯から温帯にかけて分布する落葉小高木で、エゴノキやハクウンボク、コハクウンボクの3種がある。材はやや重硬で、緻密である。

(13)トネリコ属シオジ節 *Fraxinus* sect. *Fraxinaster* モクセイ科 図版3 13a-13c(分析No.2-1)

年輪のはじめに大型の道管が数列並ぶ環孔材で、晩材部では厚壁の小道管が単独もしくは放射方向に2～3個複合して散在する。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、1～3列幅である。

シオジ節は温帯に分布する落葉高木で、シオジとヤチダモがある。材はやや重硬で、粘りがあり、加工性および保存性は中庸である。

## (14) イネ科 Poaceae 図版3 14a(分析No.5-3)

柔細胞と維管束で構成される単子葉類である。維管束が柔細胞中に散在する不斉中心柱で、維管束を囲む維管束鞘は薄い。稈の組織のみから属や種を識別するのは難しい。

## 4. 考察

遺構別の樹種同定結果を表2に示す。縄文時代後期後葉と推定されている19号流路では、カツラとクリ?、コナラ節、オニグルミ、イヌシデ節、トチノキ、シオジ節が確認された。用途は不明である。いずれも温帯に分布する落葉広葉樹であり、縄文時代後期の青森県の遺跡で比較的多く確認される樹種である(伊東・山田編, 2012)。

中世と推定されている遺構では、カマド状遺構SF15でキブシとブナ属、ニシキギ属、カエデ属、エゴノキ属が確認された。溝跡SD42ではイヌシデ節とイネ科が確認された。土坑SK205ではミズキが確認された。カマド状遺構SF15の炭化材は燃料材である可能性があるが、溝跡SD42と土坑SK205の炭化材は用途不明である。確認された木本は、いずれも温帯に分布する落葉広葉樹であり、遺跡周辺に生育していた樹木と推定される。

(黒沼保子)

表2 遺構別の樹種同定結果

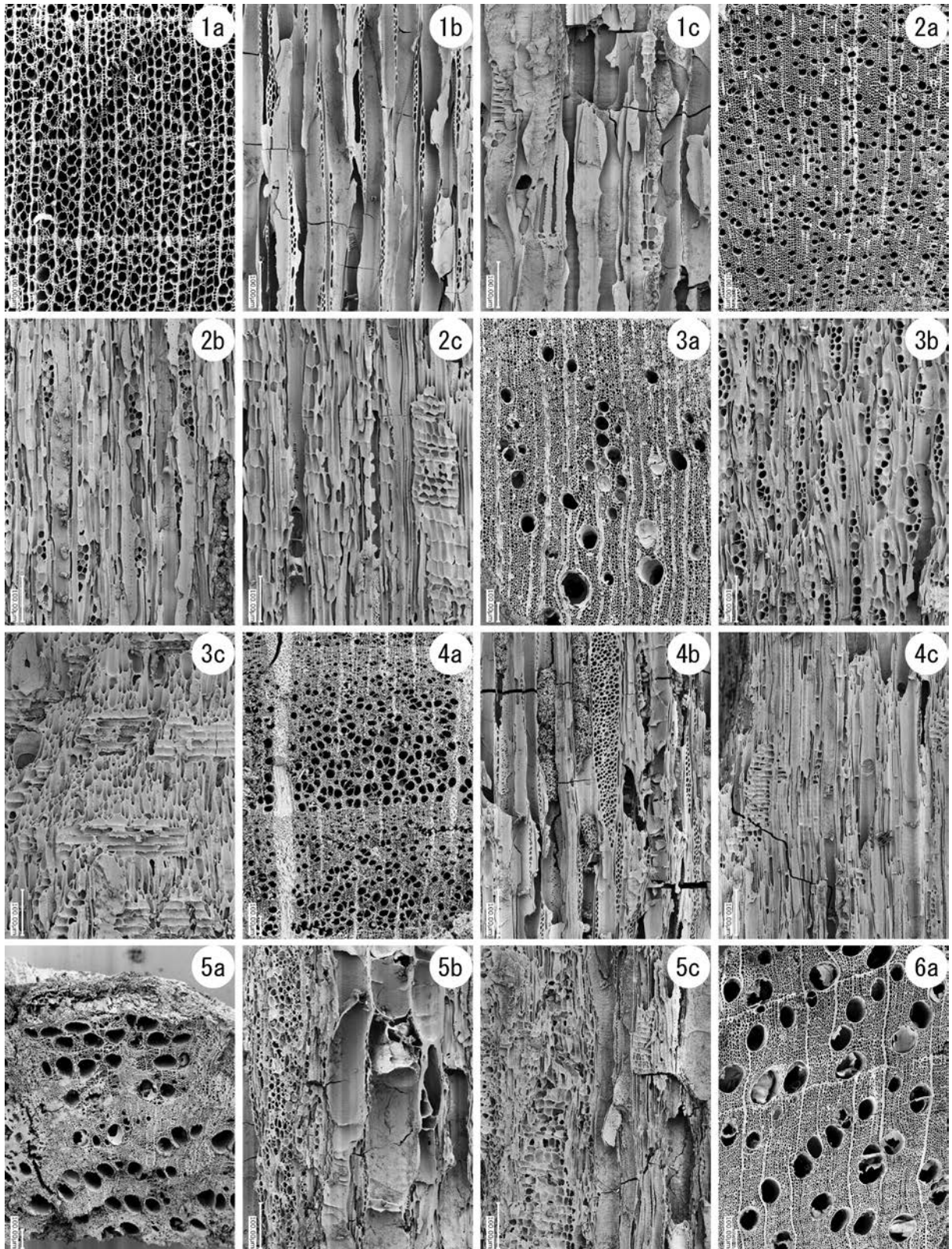
樹種	時期 取り上げ番号 遺構	縄文時代後期後葉 (十腰内IV~V式)			中世			合計
		土壌サンプル① 19号流路 (C-C'ライン)	土壌サンプル② 19号流路 (D-D'ライン)	土壌サンプル③ 19号流路 (E-E'ライン)	土壌サンプル④			
		19号流路 (C-C'ライン)	19号流路 (D-D'ライン)	19号流路 (E-E'ライン)	SF15 (カマド状遺構)	SD42 (溝跡)	SK205 (土坑)	
カツラ		1	1	1				3
キブシ					1			1
クリ?		1	1					2
ブナ属					1			1
コナラ属コナラ節		1						1
オニグルミ				1				1
クマシデ属イヌシデ節			1	1		1		3
ニシキギ属					1			1
カエデ属					1			1
トチノキ		1	1					2
ミズキ							1	1
エゴノキ属					1			1
トネリコ属シオジ節		1	1					2
イネ科						1		1
合計		5	5	3	5	2	1	21

## 引用・参考文献

平井信二(1996)木の大本科. 394p, 朝倉書店.

伊東隆夫・山田昌久編(2012)木の考古学-出土木製品用材データベース-. 449p, 海青社.

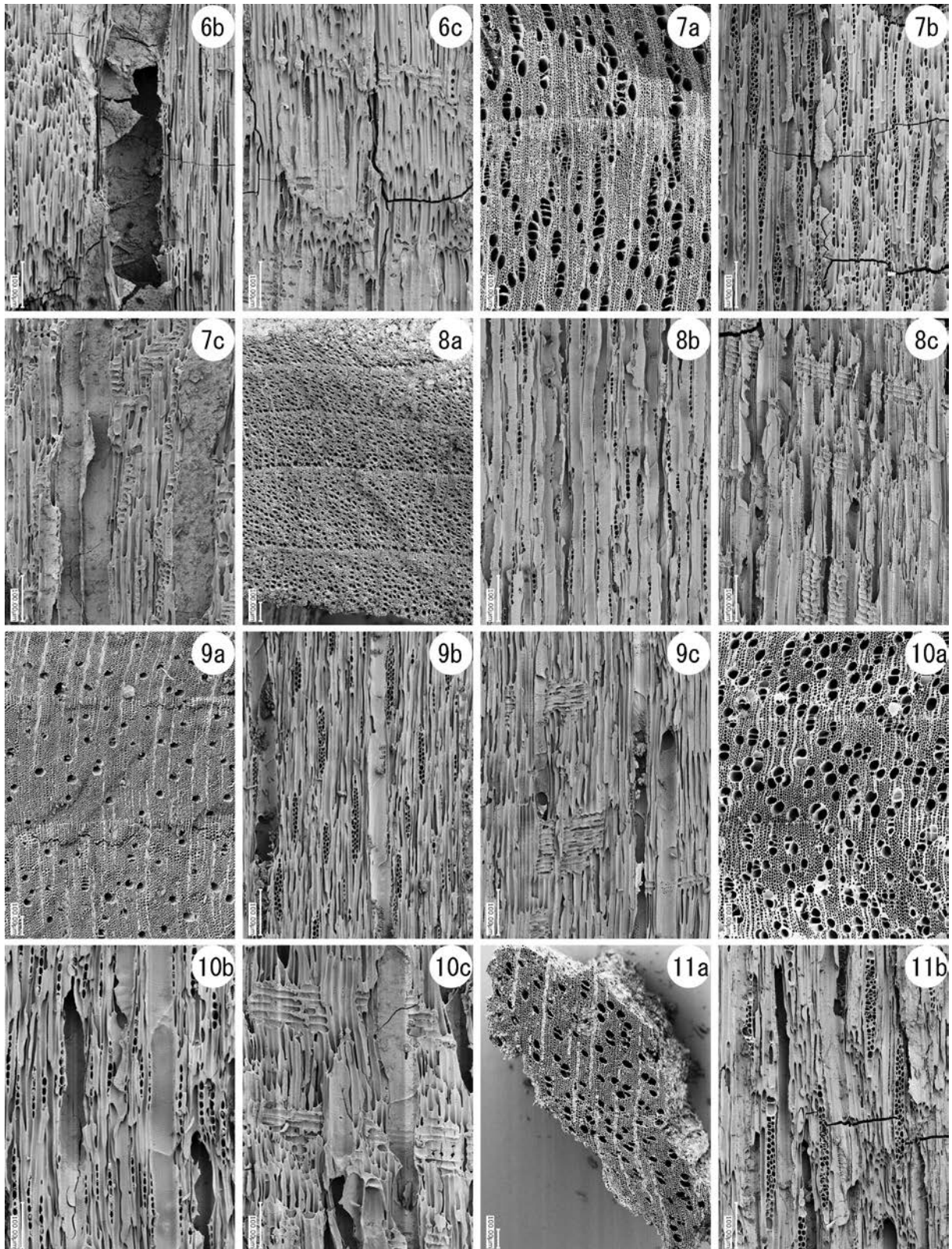
伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂(2011)日本有用樹木誌. 238p, 海青社.



図版1 炭化材の走査型電子顕微鏡写真(1)

1a-1c. カツラ(分析No.3-2)、2a-2c. キブシ(分析No.4-5)、3a-3c. クリ?(分析No.1-2)、4a-4c. ブナ属(分析No.4-3)、5a-5c. コナラ属コナラ節(分析No.1-3)、6a. オニグルミ(分析No.3-3)

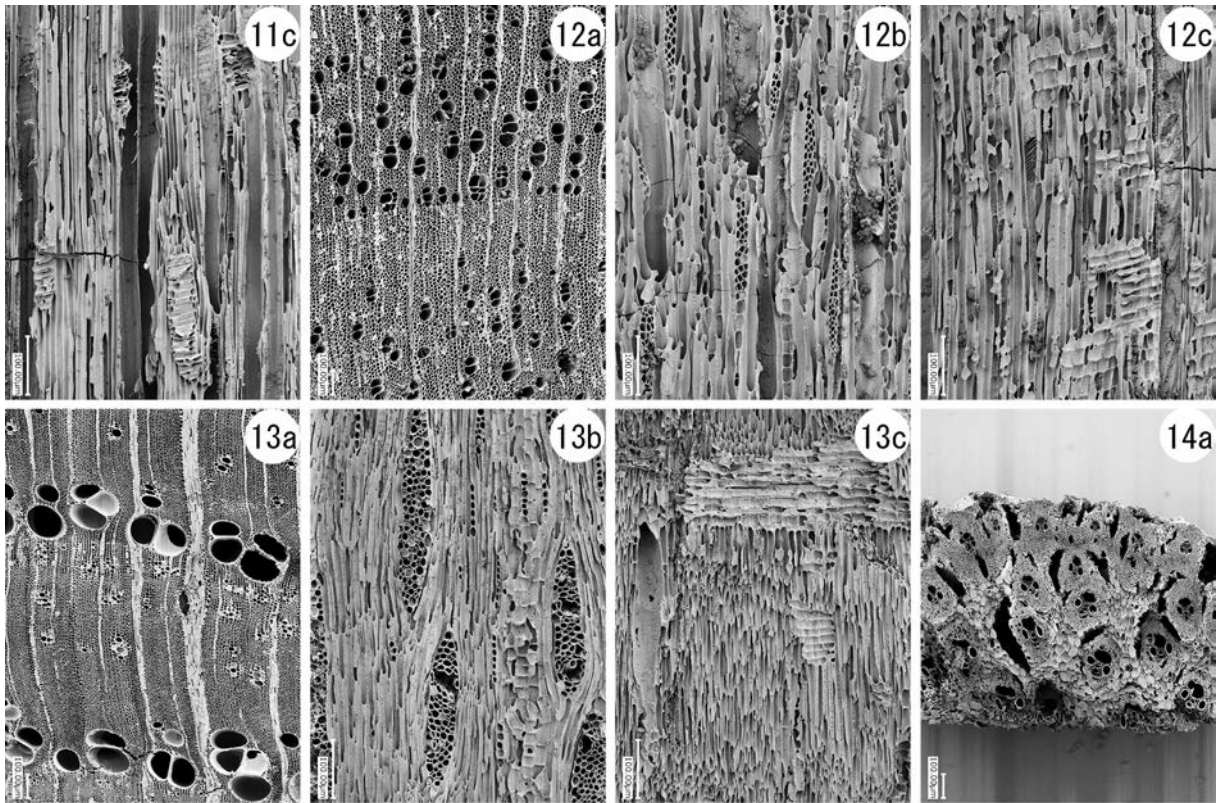
a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面



図版2 炭化材の走査型電子顕微鏡写真(2)

6b-6c. オニグルミ(分析No.3-3)、7a-7c. クマシデ属イヌシデ節(分析No.3-1)、8a-8c. ニシキギ属(分析No.4-2)、9a-9c. カエデ属(分析No.4-1)、10a-10c. トチノキ(分析No.1-1)、11a-11b. ミズキ(分析No.6)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面



図版3 炭化材の走査型電子顕微鏡写真(3)

11c. ミズキ(分析No.6)、12a-12c. エゴノキ属(分析No.4-4)、13a-13c. トネリコ属シオジ節(分析No.2-1)、14a. イネ科(分析No.5-3)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

## 第6章 総括

### 第1節 縄文時代

#### 1. 遺構

今回の調査では、縄文時代後期後葉を主体とする遺構が発見された。遺構種別の内訳は、土坑・柱穴(小穴)・流路跡(第19号流路跡)である。これらは、既に北隣で発見されている環状掘立柱建物群(径75×65m程と推定)の南西側縁辺部に形成された遺構となる(次図)。

土坑は、建物群の外縁側に沿って築かれた土坑群の一部に該当し、柱穴(小穴)は略完形土器が正立状態で埋置された1基のみとなるが、これも建物群に伴う施設とみなされる。

流路跡は、集落跡の捨て場(遺物集積・廃棄場)となっていたが、本来は縄文時代中期後葉以降より形成・埋没が進んだ自然流路だったとみなされる。その流れは、大きく見ると標高の高い東岳方向(東側)から、同じく標高の低い陸奥湾方向(北西側)へと向かうものであった。

本流路跡の要点を中心に述べると、その基盤・底面となるV層の形成時期は、同層によって大規模に開析されるVI層段階(前期末葉円筒下層d式)以降、特に中期後葉の最花式以降から後期初頭の牛ヶ沢式(下記)の間である可能性が今回の調査により高まった。

主な遺物のまとめり、つまり遺物包含層や文化層の形成は、IVb層段階(後期前葉十腰内I式前半期)から始まる。本層には土器・石器・土製品等を一定量含むため、周辺に小規模な集落跡の存在を予測させるが、その一部は既報告に竪穴建物跡や土器棺墓として垣間見えているほか(次図)、調査区外に広がる丘陵地に居が構えられていた可能性もあるといえよう。

この後、本報告の主体となるIVa層段階(後期後葉十腰内IV～V式期)が続くことになり、先の環状掘立柱建物群の外縁部に土坑帯、そして捨て場が数箇所形成される(第11号・12号・19号流路跡)。この時期としては、北の上野尻遺跡同様、本県を代表する規模・内容の集落跡である。当時としても、青森平野東端の要衝に位置し、東岳山麓の里山かつ陸奥湾にも近い本集落は、その規模のみならず、環状掘立柱建物群を核とする拠点集落だったと想定される。

ところで、本報告中の第19号流路跡内に形成された捨て場は、目下、本集落内では最大規模となっている。今回の発見は、そうした状況を示す大量の土器・石器・土製品・石製品などが自然流路内に集中し、当時の最終的な姿を偲ばせる。出土状態が良好だったのは、平安時代までに形成されたⅢ層に覆われていたからである。これにより、中世の集落形成や江戸時代以降の開墾による影響を免れた訳だが、一部、大地を深く刻んだ流路や用水路掘削、圃場整備により攪乱されている地点も認められる。

ちなみに、本段階で注目される出土状況を挙げると、建物群に近い場所に大量に捨てられた遺物群、注口土器多数が土器塚状に重なり合う地点、こうした土器の集積に硬玉・軟玉製装飾品や玉石、奇岩状の原礫・石核、異形石器、各種土製品や土偶などの第二の道具が伴うような姿が指摘される。特に、玉石のまとめりとともに現れた軟玉製装飾品は、該期としては稀な大きさであり、硬玉製小玉とともに当時の広域流通を物語る品となる。これは土器や石器にアスファルトが多く使われている点からしても、津軽地方を通じた日本海側との関連性がより強かったことを想起させる。無論、これら希少例以外にも、第一の道具というべき使用痕が顕著な各種土器や石器が大量に発見されている。つまり、第19号流路跡の出土品からは、当時の日常と非日常、その両方が垣間見えていることになる。

## 2. 遺物

縄文時代早期中葉から晩期までの遺物が出土した。主体となるのは、後期前葉と後葉である。後期初頭を除くと、その他は流路跡形成後に調査区北側を中心とする遺物包含層から混入した断片的遺物である。以下、各時期の要点を記載するが、1点のみとなる晩期は第3章4節を参照のこと。

### 早期

中葉段階：白浜式土器の破片が出土。北側隣接地に、目下、津軽地方最古の集落跡(Ⅶ層段階)が存在しており、そちらからの流入とみられる。一部、同一個体と推定される土器片が認められる。

### 前期

末葉段階：円筒下層d式土器の破片が出土。これも北側隣接地に形成されている包含層(Ⅵ層段階)からの流入であろう。本層中の遺物数や土器の個体数・残存率は今のところ低く、遺構も未発見だが、周辺に小規模な集落が存在する可能性も否定できない。

### 中期

後葉～末葉段階：最花式と大木10式併行の土器片が出土。前者はⅣc層より出土、北側隣接地で発見されている最花式の土器片敷石囲炉との関連性が先ず想起される(県603集)。後者はⅣa・Ⅳbへの混入。遺跡全体で見ると、本段階の竪穴建物跡は比較的知られており、特に調査範囲の南東側(県391・433・456・473集)。該期の集落規模や範囲は、後期後葉に次ぐ規模と推定され、今後、更なる発見と検討が期待される。

### 後期

初頭段階：牛ヶ沢式土器が3個体分出土。VS・VT-210のⅣb～Ⅴ層最上部の砂層より発見した。本遺跡における該期遺物の発見は稀である。当初、残存率の高い破片のまとまりとして確認し、慎重に精査した。直上部まで現代の攪乱を受けていたせいもあり、遺構認定には到らなかったが、当時の人為的な廃棄・混入であることは、遺存状況より明らかである。僅かな量ながら、これらがⅤ層最上部から発見された意義は大きく、本層の形成時期のみならず、遺跡全体の地形や考古学的変遷を考える上でも重要な成果といえる(上記)。

前葉段階：十腰内Ⅰ群土器前半期と、これに伴う土製品・石器・石製品がⅣb層から一括出土(上記)。その分布範囲は、VS-221周辺に集中する。各遺物の詳細は、第3章を参照のこと。本段階前後は、隣接する上野尻遺跡や山下遺跡における遺物出土量が増加、約2km離れた山野峙遺跡では石棺墓や再葬土器棺墓群、約3km離れた稲山遺跡に拠点集落が築かれるなど、周辺一帯における人的活動が活発化する時期でもある。しかしながら、この宮田地区において、竪穴建物等をはじめとする集落の痕跡は幾分不明瞭である。続く十腰内Ⅰ群土器後半期は、本遺跡の第12号流路跡に一定のまとまりをもつ遺物が知られるものの(県613集)、中葉に下った十腰内Ⅱ群段階以降、十腰内Ⅲ群とみられる土器片を僅かに認める程度の様相となり、青森県下全般と同じく空白的状况を迎える。

後葉段階：十腰内Ⅳ～Ⅴ群土器を中心に、土製品・石器・石製品等がⅣa層から良好な状態で多数出土(上記)。該期文化の解明に大きく貢献する成果となった。こちらも、各遺物の詳細は第3章を参照。本段階は、後期中葉の歴史的空白ないし後期後葉への萌芽的状况から、大規模な環状掘立柱建物群を核とする集落構造が確立した時期と評される。同時に、ここで培われた社会システムが、やがて上野尻遺跡で発見されている同様の集落へと移行・継承されていく段階と仮定される。(佐藤)





県613集『米山(2)遺跡Ⅷ』第6章第1節図102に加筆

米山(2)遺跡 遺構配置図(縄文時代後期中・後葉中心)

## 第2節 中世

今回の調査では、遺構が掘立柱建物跡3棟、柱穴94基(うち24基分は掘立柱建物跡)、カマド状遺構14基、土坑7基、溝跡(流路)10条、井戸跡1基、同じく遺物が青磁碗片1(SD36出土、龍泉窯系D-2類、15世紀代)、播鉢片1(SD35出土、珠洲Ⅲ～Ⅳ期、13世紀後葉～14世紀後半代)が発見された。遺構は、概ね平安時代までに形成されたⅢ層を掘り込んで形成されており、その種類・性格も過去の調査で発見された本時代の遺構群と同等と考えられる。

これらの位置関係・構築順序・出土遺物を検討した結果、今回発見された遺構群は、15世紀以降、少なくとも4期の変遷が想定された。以下、その概要と中世米山集落の概略をまとめ、結びとする。

### (1) 本調査の遺構および歴史の変遷

#### 1期

**概要** 15世紀代には成立していた区画と排水を兼ねた溝に囲まれた屋敷地と推定。掘立柱建物跡1ないし3棟、カマド状遺構6基以上、井戸跡1、溝跡6が関わっていると想定。

**掘立柱建物跡** SB33が該当。溝との位置関係から本期とした。母屋か。小屋とみられるSB34・35も本期または3期に属す可能性がある。

**カマド状遺構** SF21～24(N-90°-E前後)、SF26・27(N-180°-E前後)が、本期の掘立柱建物跡や溝跡と整合的な位置関係にある。付近にSF18・19・20・25(N-135°-E前後)も存在するが、上記とは長軸方向が45°前後異なり、南に位置するSD41や2期のSD34との類似性を示す。このため、本期以外、もしくは北側に建物跡(後世の流路22により破壊)の存在を考慮しておく必要性もあると考えられる。

**井戸跡** SE03が該当。これも隣接する掘立柱建物跡(SB01)との位置関係から本期とした。

**溝跡** SD39・40・41・42・44・46が該当。SD40覆土中より青磁碗片1(上述)が出土。SD39は、掘立柱建物(SB01)軒下の雨落溝ないし小区画溝、SD40・42・46は一連とみられる屋敷地の区画・排水等の区画溝、SD41・44はSD42に接続する区画ないし排水溝とみられる。SD42に新旧の掘り直しあり。

#### 2期

**概要** 1期の屋敷地を横断・破壊するように形成された自然流路を主体とする段階。

**カマド状遺構** SF18・19・20・25(N-135°-E前後)の長軸方向がSD34の長軸方向に類するが本期に属すか否か不明(1期参照)。

**溝跡** SD34・35が該当。両者は一連の遺構・流路が分岐したものである(VO-223付近)。SD35覆土中(3層相当)より、播鉢片1(冒頭)が出土。SD34は直線的かつ人工的であり、かつての調査では木杭が並んでいたような痕跡も認められる(VP-222付近)。他方、SD35は、後に人工的な手が加わっている可能性もあるが、大きく蛇行する形状からすると、当初は自然に形成された流路だったといえる。埋没は、いずれも自然堆積を主とする。自然的要素の強い本流(SD35)と人工的要素の強い支流(SD34)という見方が成り立つかもしれない。

### 3期

**概要** 2期の自然流路が埋没した後に形成された屋敷地と推定。SB34・35が本期となるか否かが鍵となる。

**掘立柱建物跡** SB34・35が該当する可能性あり(1期参照)。下記カマド状遺構との位置関係による。

**カマド状遺構** SF14～17が該当。主軸方向より、SF14～16(N-90°-E前後)、SF17(N-180°-E前後)に分かれる。1・2期の溝跡よりも後出し、SB34・35との位置関係も整合的である。

### 4期

**概要** 1～3期の遺構群とは堆積土が明らかに異なる最新の溝2条と土坑1基が該当。中世～現代に属す可能性を想定しておく必要もある。

**土坑** SK203が該当。下記SD43と同一の覆土である。

**溝跡** SD43・45が該当。具体的な機能や様相は不明。

さて、上記の変遷は、平安時代中期頃まで断続的に続いた東岳方向からの大規模な流路形成が収束に向かい、砂質土(第Ⅲ層)が堆積した後の15世紀以降に生じた事象となる。

最古となる1期は、遺構数が多く細分される可能性があるのに対し、次の2期は流路形成により遺構が希薄になったようにみえる。これもこの地で歴史的に繰り返されてきた東岳方向からの出水によるものか。この流路が埋没した後の3期は、再び屋敷地と化した模様である。なお、4期が中世に属すかどうかは定かではない。

このように、各期の遺構数および空間利用には粗密があり、具体的な年代や期間、連続性や継続性についても不明である。しかしながら、1～3期については、遺構の種類や選地をみる限り、時間差や世代差は比較的小さいと思われ、この変遷に繋がりがあったとすれば、2期の状況を重視した仮説を一つ示すことが可能である。

すなわち、1期以前の屋敷地ひいては村落の一部が、2期の流路形成を機に移転を余儀なくされ施設が一時的に希薄化、流路埋没後の3期に再び屋敷地に復したとする見方である。

要は、15世紀以降のある時期、青森平野と陸奥湾を望む東岳山麓の村の一角で生じた小規模な水害による屋敷地の一時的移転・衰退とその復旧・復興、という仮説となるが、今後、周辺の調査成果も考慮しつつ、是非が判断されることになろう。

## (2)中世米山集落の概略

ところで、こうした中世集落は、米山(2)遺跡のみならず、周辺の宮田館遺跡や上野尻遺跡にまで及んでいたことが、これまでの発掘調査成果から判明している。

中世米山集落は、東から西へ緩やかに下る低湿地性の扇状地上に位置し、地下水位が高く、今も水源地とされているほど湧水豊富な土地柄に構えられていた様子が解りつつある。現在も春先や長雨後などは出水があり、縄文時代以降、東岳方向より地形や景観を一変させるような土石流が発生したことも幾たびか認められるが、中世段階は砂質土(第Ⅲ層)や礫層(第Ⅴ層)を基盤とする比較的水はけの良い緩斜面と化し、その微高地上を中心に屋敷地が散在していたと想定される。

各屋敷地の概要については、やや規格性を欠く掘立柱建物跡・竪穴建物跡を中心に、カマド状遺構・井戸・柵(塀)・区画溝などが備わる構造が散見される。つまり、屋敷内は母屋・小屋・炊事場・水場・外構などにより構成されている。そして、付近には自然流路や、これから枝分かれする人工的な溝、カマド状遺構ばかりが集中する地区、火葬墓や土葬墓なども存在するような状況だったと推測される。

村落の時期は、時期を明確に示す遺物量が少なく具体性を欠く部分も多いが、早くも12世紀後半、少なくとも13世紀前半には成立しており、14～15世紀代を盛期として、中世末まで断続的に続いた可能性がある。江戸時代前期の正保年間(1645～1648)以前には、「大石村」が本遺跡北側周辺に存在していたとも伝わるが(『阿津摩岳郷土誌』)、貞享4年(1687)には米山一帯が田畑と化していたことが知られる(『陸奥国津軽郡田舎庄御検地水帳』)。なお、考古学的成果を中心とする歴史変遷案は、最近ようやく詳細が示されつつあるので別途参照されたい(鈴木2021)。

また、遺跡南側の丘陵地には、各種史料や伝説より寺・板碑・五輪塔などから成る宗教的空間が存在していた可能性が高く、これらが江戸時代中期から後期には既に伝説と化していた事実も知られる。とりわけ、多数あったとされる板碑や五輪塔の中でも青森平野において唯一現存する延文の板碑(延文2年(1357))、寺跡や寺屋敷と伝わる土地の脇に今なお樹勢を保つ樹齢800年の宮田のいちょうは特筆すべきものであり、中世米山集落の在り方を象徴する存在となるかも知れない(県613集2章)。

青森平野の東端に位置し、本県南部地方との窓口ともなり得る中世の当村は、一般集落的な側面に加え、時として宗教的要素や水源地を要する本地域の開発拠点だった要素も垣間見える訳だが、その村名は不詳である。

最後に、本遺跡が所在する青森市は、通称、外浜や合浦と称される地である。

その中世史は、平安時代の奥州藤原氏の支配と滅亡の後、鎌倉幕府の実質的支配者である北条氏が北奥一帯を得宗領とし、その被官たる安藤氏を外浜に配したとされるところより始まる。

14世紀に入ると、安藤家中を二分する嫡庶の争いが津軽大乱と称されるまでに拡大、これをうまく調停できなかった鎌倉幕府の求心力は低下したとも評されるが、やがて幕府は滅亡する。

直後の建武期、東の野尻郷に工藤氏、西の内摩部・泉田・湖方・中沢・真板等の郷村、すなわち安藤氏の拠点に近い要衝の油川近郊を南部氏が領有、ともに現在の青森市街地一帯を治めたことが知られる。

その後、15世紀半ばと推定される安藤氏滅亡より、その影響力も次第に外浜から消えていったとみられる。これと連動するのか、やや下った明応7年(1499)には、南部氏一族である南部光康(堤氏)が津軽郡代として堤ヶ浦城に入ったと伝わり、16世紀代における南部氏の津軽・外浜支配が強まる嚆矢となった可能性がある。この頃、南部氏の庇護の下にあったといわれる浪岡北畠氏の影響力も、外浜に及びつつあったことであろう。

戦国時代末期、南部氏の外浜支配は、先の堤ヶ浦城から移転した横内城、陸奥湾随一の港を抱える油川城を核に、配下諸士が治める高田城・荒川城・蓬田城などが構えられていたとされるが、大浦氏の独立により滅亡、以後、近世を通じてその末裔である津軽氏の支配するところとなった。

中世米山集落一帯の村々は、その名は未詳ながら、こうした外浜の中世史、奥州藤原氏から安藤氏、そして南部氏から津軽氏の支配への移り変わりとともに存り続けたといえる。しかし、近世前期には耕作地と化し、やがて寺跡などの宗教的要素を中心とする伝説や碑が伝わりつつ、今日の調査に到ったと概ね考えられる。

(佐藤)

## 引用・参考文献

- 青森県 2013『青森県史 資料編 考古2 縄文後期・晩期』
- 青森県 2017『青森県史 資料編 考古1 旧石器・縄文草創期～中期』
- 青森県教育委員会 1983『青森県の中世城館』
- 青森県教育委員会 1982『馬場瀬遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第70集
- 青森県教育委員会 1999『山下遺跡・上野尻遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第258集
- 青森県教育委員会 2000『山下遺跡Ⅱ・米山(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第274集
- 青森県教育委員会 2003『宮田館遺跡Ⅲ・米山(2)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第344集
- 青森県教育委員会 2005『米山(2)遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第391集
- 青森県教育委員会 2007『米山(2)遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第433集
- 青森県教育委員会 2008『米山(2)遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第456集
- 青森県教育委員会 2009『新田(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第471集
- 青森県教育委員会 2009『米山(2)遺跡Ⅵ・宮田館遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書第473集
- 青森県教育委員会 2019『米山(2)遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書第603集
- 青森県教育委員会 2020『米山(2)遺跡Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告書第613集
- 青森市 2005『新青森市史 資料編2 古代・中世』
- 青森市 2006『新青森市史 資料編1 考古』
- 青森市教育委員会 2002『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』青森市埋蔵文化財調査報告書第70集
- 青森市教育委員会 2004『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』青森市埋蔵文化財調査報告書第72集
- 浪岡町教育委員会 2003「浪岡町埋蔵文化財緊急発掘調査報告書第9集 中屋敷遺跡発掘調査報告書」『平成14年度浪岡町文化財紀要Ⅲ』
- 磯崎正彦他 1968「第16節 十腰内遺跡」『岩木山』岩木山刊行会
- 小林圭一 2008「瘤付土器」『総覧 縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会
- 鈴木和子 2021「青森市米山(2)遺跡」青森県考古学会発表資料
- 鈴木克彦 2001『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣
- 鈴木克彦 2008「宝ヶ峯式・手稲式土器」『総覧 縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会
- 鈴木克彦 2013『北日本縄文後期土器集成』弘前学院出版会
- 関根達人 2005「〔十腰内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ群土器〕に関する今日的な理解」『葛西勳先生還暦記念論文集 北奥の考古学』葛西勳先生還暦記念論文集刊行会
- 高柳圭一 1988「仙台湾周辺の縄文時代後期後葉から晩期初頭にかけての編年動向」『古代』第85号 早稲田大学考古学会
- 中門亮太 2013「東北地方北部における瘤付土器の基礎的研究」『古代』第131号 早稲田大学考古学会
- 成田滋彦 1989「入江・十腰内式土器様式」『縄文土器大観』4 小学館
- 村木 淳 2005「風張(1)遺跡の縄文時代後期後半の土器と住居」『葛西勳先生還暦記念論文集 北奥の考古学』葛西勳先生還暦記念論文集刊行会

## 縄文時代土坑 (SK)

図番	遺構名	主位置	確認面	底面	重複	上端 (cm)		下端 (cm)		深さ (cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
9	SK192	VI B-219	VIII	IX	—	173	162	140	128	46	縄文時代後期後葉。 形状：平面A、断面1。
	SK193	VI A・VI B -219	VIII	IX	—	172	172	192	185	74	縄文時代後期後葉。 形状：平面D、断面2か4。
	SK195	VI A-219・220	VIII	IX	>SK196	292	182	267	159	61	縄文時代後期後葉。 形状：平面D、断面2か4。
	SK196	VI A-220	VIII	IX	<SK195	84	74	(54)	40	24	時期不明。 形状：平面A、断面1。
	SK210	VI C-217	VIII	IX	—	195	162	180	140	54	縄文時代後期後葉。 形状：平面A、断面1。
	SK211	VI A・VI B -219	VIII	VIII	—	90	60	80	50	18	時期不明。 形状：平面B、断面1。
	SK212	VI B-218	VIII	IX	—	159	106	134	105	82	縄文時代後期後葉。 形状：平面D、断面2か4。

## 焼土遺構 (SN)

図番	遺構名	主位置	確認面	底面	重複	上端 (cm)		下端 (cm)		深さ (cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
10	SN05	V Q-223	IV	IV a	—	58	54	—	—	7	炭化物範囲 36 × 32 cmが隣接。

## 流路跡

図番	遺構名	主位置	確認面	底面	重複	上端 (m)		深さ (m)	備考
						長軸	短軸		
7	流路19	V 0 ~ VI C-214 ~ 225	IV	V	<SD34	42.9	25.5	1.8	

## 中世掘立柱建物跡 (中SB)

図番	遺構名	グリッド	桁方向	主軸 (°)	梁間	桁間	身舎梁寸法		身舎桁寸法		身舎面積 (㎡)	分類
							m	尺	m	尺		
140	中SB33	V R-217 他	東西	W-1-S	3	3	6.8	22.4	9.6	24.0	65.3	III -1 類
	中SB34	V Q-213 他	東西	W-7-S	1	4	3.2	10.6	6.4	21.1	20.5	I -1 類
	中SB35	V P-213 他	東西	W-6-S	1	3	3.2	10.6	4.8	15.8	15.4	I -1 類

## 中世掘立柱建物跡 (中SB)

図番	建物名	柱穴名	部位	位置	確認面	底面	上端		下端		深さ (cm)	備考
							長軸 (cm)	短軸 (cm)	長軸 (cm)	短軸 (cm)		
140	中SB33	SP1646	身舎	V R-219	IV相当	IV相当	29	27	21	20	24	柱痕上端：18cm × 16cm。2017年調査。第603集報告
		SP1774	身舎	V T-219	IV相当	IV相当	26	23	11	8	55	2017年調査。第603集報告
		SP1775	身舎	V T-219	IV相当	IV相当	31	26	24	14	41	2017年調査。第603集報告
		SP2148	身舎	V T-217	III	III~V	30	26	8	7	60	
		SP2149	身舎	V T-218	III	III~V	45	24	9	9	20	
		SP2151	身舎	V T-219	III	III~V	30	27	18	11	40	
		SP2156	身舎	V S-217	III	III~V	52	36	12	6	59	
		SP2162	身舎	V R-218	III	III~V	24	20	15	9	12	
		SP2165	身舎	V S-217	III	III~V	22	17	8	5	14	
	SP2166	身舎	V R-217	III	III~V	46	42	13	9	21		
	SP2167	身舎	V R-217	III	III~V	18	16	8	6	17		
	SP2176	身舎	V R-214	III	III~V	31	25	18	11	8		
	SP2177	身舎	V R-214	III	III~V	27	26	15	10	28		
	SP2179	身舎	V R-213	III	III~V	26	25	11	8	27		
	SP2180	身舎	V R-213	III	III~V	27	27	16	13	29		
	SP2181	身舎	V R-213	III	III~V	47	38	23	17	32		
	SP2187	身舎	V Q-213	III	III~V	30	26	20	13	33		
	SP2189	身舎	V Q-213	III	III~V	31	30	18	14	33		
	SP2190	身舎	V Q-214	III	III~V	39	36	23	21	23		
	SP2192	身舎	V Q-214	III	III~V	35	33	19	14	19		
	SP2193	身舎	V Q-214	III	III~V	30	25	16	12	34		
	SP2194	身舎	V Q-213	III	III~V	33	27	19	15	36		
	SP2195	身舎	V Q-213	III	III~V	32	28	22	18	43		
	SP2196	身舎	V Q-213	III	III~V	30	27	21	18	34		
	SP2197	身舎	V P-213	III	III~V	30	26	18	14	29		
	SP2198	身舎	V P-213	III	III~V	28	28	19	15	15		
	SP2199	身舎	V P-214	III	III~V	38	29	15	14	23		

カマド状遺構 (SF)

図番	遺構名	主位置	確認面	底面	重複	主軸 N- ○ -E	煙道部		燃焼部		焚口部		深さ	備考
							長軸 (cm)	短軸 (cm)	長軸 (cm)	短軸 (cm)	長軸 (cm)	短軸 (cm)		
141	SF14	V T-213	III	III	—	90°	38	20	143	60	50	51	15	煙道主軸：N-89° -E
	SF15	V S-213	III	III	>SF16>SD35	84°	33	15	120	77	44	43	22	煙道主軸：N-144° -E 炭化材樹種同定(分析No.4-1 ~5、カエデ属、ニシキギ属、 ブナ属、エゴノキ属、キブシ) 炭化種実：ヒエ属、エノコ ログサ属、アサ、エノキグ サ属、アカザ属
	SF16	V S-213	III	III	>SD35 <SF15	94°	32	18	(44)	71	(103)	73	21	煙道主軸：N-109° -E
	SF17	V T-214	III	III	>SD46	13°	23	19	83	68	42	31	19	煙道主軸：N-156° -E 燃焼部中央に還元面。 掛口：長軸22cm、短軸17cm
142	SF18	VI A-215	III	III	—	123°	—	—	119	70	(56)	61	20	被熱範囲：51×47cm、2cm の厚さで被熱 年代測定(測定番号 I AAA- 201301、1431-1475(95.4%))
	SF19	VI A-215	III	III	>SF20	123°	13	11	(134)	84	—	—	28	煙道主軸：N-123° -E 燃焼部のみを検出 被熱範囲：62×(18)cm、 6cmの厚さで被熱
	SF20	VI A-215	III	III	<SF19	132°	—	—	149	68	52	51	23	被熱範囲：134×(28)cm、 6.6cmの厚さで被熱
	SF21	V T-215	III	III	<SD45・ SK203 >SF22	100°	60	50	110	59	57	56	26	煙道：地下式 煙道主軸：N-140° -E 煙道主軸：N-140° -E 煙出し穴：22×20cm、深さ 6cm 被熱範囲：70×47cm、1.5cm の厚さで被熱
143	SF22	V T-215	III	III	<SF21・SD45	74°	59	56	83	(46)	75	42	18	煙道主軸：N-40° -E 煙出し穴：28×22cm、深さ 14cm 被熱範囲：60×36cm、2cm の厚さで被熱
	SF23	V T・VI A -215	III	III	—	118°	—	—	(79)	(33)	—	—	15	燃焼部のみを検出 被熱範囲：64×44cm、3cm の厚さで被熱
	SF24	V T-215	III	III	<SK209	114°	27	22	(76)	61	(76)	56	23	煙道主軸：N-165° -W 被熱範囲：55×42cm、2cm の厚さで被熱
	SF25	V T-215	III	III	—	141°	40	32	105	63	—	—	19	焚き口の無いタイプ 煙道主軸：N-167° -E 煙出し穴：20×17cm、深さ 12cm 被熱範囲：95×(31)cm、 4cmの厚さで被熱
144	SF26	VI B-216	III	III	>SF27	180°	23	15	126	80	100	85	24	煙道主軸：N-153° -W 被熱範囲：56×40cm、2cm の厚さで被熱
	SF27	VI A・VI B -216	III	III	<SF26	174°	46	27	101	72	(60)	85	14	煙道主軸：N-174° -E 被熱範囲：120×42cm、3cm の厚さで被熱

中世土坑 (SK)

図番	遺構名	主位置	確認面	底面	重複	上端 (cm)		下端 (cm)		深さ (cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
145	SK203	V T・VI A- 215・216	III	III	>SF21	201	125	164	109	14	
	SK204	V O-215・216	III	III	—	168	150	95	81	27	中世か。
	SK205	V M・V N- 215・216	III	V	—	135	125	87	83	77	中世か。 覆土中位(1~2層境)に礫が集中。 炭化材樹種同定(分析No.6、ミズギ) 種実：スゲ属、アゼスグ節、スゲ属A、ス ミレ属、アカザ属 炭化種実：イネ、アワ、エノコログサ属、 マメ科A、イヌタデ属、エノキグサ属
	SK206	V O・V P -215	III	III	—	112	103	59	52	29	中世か。
	SK207	V T-216・217	III	III	<SD39	78	(47)	57	(36)	11	
	SK208	V R-215	III	III	—	94	67	70	52	25	
146	SK209	V T-215	III	III	>SF24	112	58	102	48	20	

井戸跡 (SE)

図番	遺構名	主位置	確認面	底面	重複	上端 (cm)		下端 (cm)		深さ (cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
146	SE03	V T-219	III a	V	—	127	124	85	77	100	

## 溝跡 (SD)

図番	遺構名	主位置	確認面	底面	重複	上端 (cm)		下端 (cm)		深さ (cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
8	SD34	VI B-217 他	III	V	<SP2136・2137	(1668)	72-127	(1634)	10-53	41	第 613 集との合計→上端長軸 (4702) cm 下端長軸 (4656) cm N-140°-E。第 613 集の B 類。
	SD35	V Q-208 他	III	V	<SF16 <SF15 備考参照	(4745)	147-391	(4745)	41-276	70	覆土中に図 148-1 (珠洲 III ~ IV 期)。SD34・35・42・46 は一連か。SP2228・2229・2230・2236・2237・2238・2240・2243 が付随？第 613 集との合計→長軸 (6568) cm 第 613 集の B 類。
	SD39	V T-217 他	III	III	>SK207 <SP2169・2234 新旧不明 :SP2235	798	32-56	772	13-46	20	N-2°-E。第 613 集の A 類。もしくは中 SB33 の雨垂れ溝。
	SD40	V R-215 他	III	V		(1475)	72-358	(1430)	47-320	59	覆土中に図 148-2 (青磁)。第 613 集の A 類。SD36 から SD40 に変更
	SD41	V T-215 他	III	III	<SP2173	(943)	17-50	(936)	6-24	15	N-138°-E。第 613 集の A か B 類。
	SD42	V T-214 他	III	V	備考参照	(869)	96-182	(869)	33-119	58	中世。SD34・35・42・46 は一連か。炭化材樹種同定 (分析 No. 5-1 ~ 3、クマシデ属、イヌシデ属、カエデ属、イネ科) 種実: マタタビ属、ニフトコ、タラノキ、スゲ属 B、クサノオウ属、オランダイチゴ属、ヘビイチゴ属、エノキグサ属、スミレ属、コウゾリナ、ウド 炭化種実: ヒエ、イネ、イネ科 A、マメ科 A、アカザ属、ニガクサ属 第 613 集の AorB 類。
	SD43	V S-215 他	III	III	>SD44	466	31-48	421	8-24	16	N-165°-E。第 613 集の AorB 類。
	SD44	V S-215 他	III	III	<SD42・43	(622)	15-43	(617)	18-23	16	N-120°-E。第 613 集の AorB 類。
	SD45	VI A-215 他	III	III	>SF21・22	(141)	29-47	(132)	18-27	13	N-90°-E。第 613 集の C 類。
SD46	V T-213 他	III	V	<SF17 備考参照	(469)	56-137	(469)	32-65	45	中世。SD34・35・42・46 は一連か。第 613 集の AorB 類。	

## 柱穴 (SP)

図番	遺構名	主位置	確認面	底面	重複	上端 (cm)		下端 (cm)		深さ (cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
8	SP2136	V T-218	III相当	III~V	—	25	23	17	16	5	
	SP2137	VI A-218	III	III~V	—	29	24	17	15	12	
	SP2138	VI B-219	VIII a	VIII b	>SP2139	35	24	15	10	25	
	SP2139	VI B-219	VIII a	VIII b	<SP2138	(15)	17	8	8	11	
	SP2140	VI A-219	III	III~V	—	22	18	10	7	12	
	SP2141	VI A-219	III	III~V	—	37	28	31	17	7	
	SP2142	VI A-218	III	III~V	—	36	33	14	8	15	
	SP2143	VI A-218	III	III~V	—	24	23	14	10	13	
	SP2144	V T-217	III	III~V	—	19	16	8	6	7	
	SP2145	V T-217	III	III~V	—	32	31	16	9	40	
	SP2146	V T-217	III	III~V	—	29	27	9	6	30	
	SP2147	V T-217	III	III~V	—	24	19	5	3	37	
	SP2150	V T-218	III	III~V	—	33	25	16	13	19	
	SP2152	V S・V T-219	III	III~V	—	52	47	28	27	22	
	SP2153	V T-218	III	III~V	—	24	21	8	7	25	
	SP2154	V T-218	III	III~V	—	26	22	12	9	32	
	SP2155	V T-217	III	III~V	—	27	22	19	14	17	
	SP2157	V S-217	III	III~V	—	48	29	14	11	46	
	SP2158	V S-217	III	III~V	—	24	20	14	5	20	
	SP2159	V S-217・218	III	III~V	—	29	21	8	5	32	
	SP2160	V S-219	III	III~V	—	30	26	12	8	37	
	SP2161	V S-219	III	III~V	—	22	16	8	8	8	
	SP2163	V R-218	III	III~V	—	26	23	6	5	10	
	SP2164	V S-217	III	III~V	—	32	24	9	7	18	
	SP2168	V R-217	III	III~V	—	40	34	27	23	14	
	SP2169	V T-217	III	III~V	—	23	22	10	7	17	SD39 に関連付随？
	SP2170	VI B-217	III	III~V	—	30	25	19	12	28	
	SP2171	V S-216	III	III~V	—	19	16	7	3	37	
	SP2172	V S・V T-215	III	III~V	—	25	24	14	12	19	
	SP2173	V S-215	III	III~V	>SD41	27	21	18	15	7	
SP2174	V S-215	III	III~V	—	22	19	11	9	16		
SP2175	V S-215	III	III~V	—	22	20	6	4	22		
SP2178	V R-213・214	III	III~V	—	25	18	11	7	21		



図番	遺構名	主位置	確認面	底面	重複	上端 (cm)		下端 (cm)		深さ (cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
8	SP2182	V R-212	Ⅲ	Ⅲ～V	—	30	22	11	10	18	
	SP2183	V R-212	Ⅲ	Ⅲ～V	—	28	26	18	13	14	
	SP2184	V R-212	Ⅲ	Ⅲ～V	—	27	25	12	9	37	
	SP2185	V Q-212	Ⅲ	Ⅲ～V	—	28	25	15	12	26	
	SP2186	V Q・V R-213	Ⅲ	Ⅲ～V	—	21	18	11	9	28	
	SP2188	V Q-213	Ⅲ	Ⅲ～V	—	18	14	5	4	50	
	SP2191	V Q-214	Ⅲ	Ⅲ～V	—	21	16	9	6	13	
	SP2200	V P-213	Ⅲ	Ⅲ～V	—	25	19	15	14	10	
	SP2201	V P-213	Ⅲ	Ⅲ～V	—	18	18	9	8	13	
	SP2202	V O-213	Ⅲ	Ⅲ～V	—	29	28	13	7	31	
	SP2203	V O-213	Ⅲ	Ⅲ～V	—	30	28	20	18	13	
	SP2204	V O-212・213	Ⅲ	Ⅲ～V	—	57	40	14	9	27	
	SP2205	V P-212	Ⅲ	Ⅲ～V	—	36	33	14	11	20	
	SP2206	V P-212	Ⅲ	Ⅲ～V	—	21	18	13	7	7	
	SP2207	V N-212	Ⅲ	Ⅲ～V	—	25	19	13	8	21	
	SP2208	V N-211	Ⅲ	Ⅲ～V	—	33	27	22	20	39	
	SP2209	V N-212	Ⅲ	Ⅲ～V	—	28	25	15	14	28	
	SP2210	V M-212	Ⅲ	Ⅲ～V	—	21	20	6	5	12	
	SP2211	V M-212	Ⅲ	Ⅲ～V	—	42	37	14	10	14	
	SP2212	V M-213	Ⅲ	Ⅲ～V	—	28	27	8	7	21	
	SP2213	V M・V N-214	Ⅲ	Ⅲ～V	—	23	17	9	5	19	
	SP2214	V L-216	Ⅲ	Ⅲ～V	—	36	29	22	16	15	
	SP2215	V L-215	Ⅲ	Ⅲ～V	—	39	24	21	12	20	
	SP2216	V L-215	Ⅲ	Ⅲ～V	—	21	16	10	6	19	
	SP2217	V L-216	Ⅲ	Ⅲ～V	—	27	24	10	10	19	
	SP2218	V L-216	Ⅲ	Ⅲ～V	—	21	20	11	10	10	
	SP2219	V K-216	Ⅲ	Ⅲ～V	—	32	27	14	11	11	
	SP2220	V K-217	Ⅲ	Ⅲ～V	—	22	19	15	11	17	
	SP2221	V S-211	Ⅲ	Ⅲ～V	—	20	18	12	9	8	
	SP2222	V S-210	Ⅲ	Ⅲ～V	—	31	22	11	9	9	
	SP2223	V S-210・211	Ⅲ	Ⅲ～V	—	35	24	17	12	27	
	SP2224	V S-211	Ⅲ	Ⅲ～V	—	21	17	7	3	14	
	SP2225	V S-211	Ⅲ	Ⅲ～V	—	18	13	8	4	18	
	SP2226	V S-210	Ⅲ	Ⅲ～V	—	23	21	12	6	12	
	SP2227	V R-210	Ⅲ	Ⅲ～V	—	30	25	19	10	34	
	SP2228	V R-210	Ⅲ相当	Ⅲ～V	—	30	23	17	14	31	SD35 に関連付随?
	SP2229	V R-211	Ⅲ相当	Ⅲ～V	—	32	27	11	8	23	SD35 に関連付随?
	SP2230	V R-211	Ⅲ相当	Ⅲ～V	—	38	29	14	9	34	SD35 に関連付随?
	SP2231	V Q-211	Ⅲ	Ⅲ～V	—	19	13	12	8	10	
	SP2232	V P・V Q-211	Ⅲ	Ⅲ～V	—	49	38	35	26	8	
	SP2233	V P-212	Ⅲ	Ⅲ～V	—	27	24	17	14	6	
	SP2234	V T-217	Ⅲ	Ⅲ～V	—	29	23	15	13	24	SD39 に関連付随?
	SP2235	V S・V T-217	Ⅲ	Ⅲ～V	—	24	19	13	10	21	SD39 に関連付随?
	SP2236	V R-211	Ⅲ相当	Ⅲ～V	—	31	31	18	14	14	SD35 に関連付随?
	SP2237	V S-211	Ⅲ相当	Ⅲ～V	—	42	31	23	17	14	SD35 に関連付随?
SP2238	V S-212	Ⅲ相当	Ⅲ～V	—	31	26	16	15	32	SD35 に関連付随?	
SP2239	V S-213	Ⅲ相当	Ⅲ～V	>SF16	13	11	7	6	20		
SP2240	V R-213・214	Ⅲ相当	Ⅲ～V	>SD35	22	21	12	10	20		
SP2241	VI A-215	Ⅲ相当	Ⅲ～V	>SF18	47	36	35	29	18		
SP2242	VI A-217	Ⅲ	Ⅲ～V	—	26	24	12	9	25		
SP2243	V S-212	Ⅲ相当	Ⅲ～V	—	27	23	20	13	6	SD35 に関連付随?	
SP2244	V T-217	Ⅲ	Ⅲ～V	—	27	25	12	7	30		
SP2245	V T-217	Ⅲ	Ⅲ～V	—	52	46	35	30	12		
SP2246	V O-213	Ⅲ	Ⅲ～V	—	28	23	13	10	14		
SP2247	V O-213	Ⅲ	Ⅲ～V	—	25	23	11	10	10		
SP2248	V O-213	Ⅲ	Ⅲ～V	—	33	22	23	10	18		
SP2249	V M-212	Ⅲ	Ⅲ～V	—	25	21	11	10	8		
SP2250	V R-219	Ⅲ	Ⅲ～V	—	39	37	20	18	24		
10	SP2251	VI B-218	VIII a	VIII a	—	24	25	18	14	25	図 13-6 正立状態で出土。縄文時代後期後葉か。
5	SP2252	VI B-219	VIII a	VIII a	—	26	24	14	13	10	
	SP2253	V R-212	Ⅲ	Ⅲ～V	—	24	22	12	10	6	
8	SP2254	V Q-221	Ⅲ	Ⅲ～V	—	27	24	14	11	13	
	SP2255	V S-220	IV	—	—	(49)	(49)	—	—	—	2017 年調査区。

## 土坑・柱穴出土土器

図	番	出土地点	層位	取上番号	器種	外面	内面	備考
11	1	SK192	—	覆土	1	深鉢 下書沈線→LR・RL・沈線→ミガキ→黒変	ナデ→ミガキ→煤付着	口縁突起(大):無刻。4単位。 口縁突起(中):頂部押圧、二又状。4単位。 口縁突起(小):内刻。4単位。 口縁突起:大1:中1:小2の割合。 口径:29.0cm。 器高:28.6cm。 底径:7.0cm。容量:7,400cc。
	2	SK192 SK195	—	覆土	1-3 2	鉢 沈線→LR・RL→ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起:頂部押圧。8単位。 輪積痕:1.5cm。 口径:12.6cm。 器高:9.0cm。 底径:4.0cm。容量:490cc。
	3	SK193	VI A-219	覆土	3	注口 瘤A(無刻)→沈線→ミガキ	ナデ	口縁突起:無刻1:頂部刻2の割合か。各4単位か。 瘤:4単位。胴部の後正面は無刻・横方向の穿孔。把手的。 輪積痕:1.3cm。 口径:3.8cm。 器高:6.0cm。 底径:1.6cm。容量:60cc。
	4	SK193	VI B-219	覆土上 IV a	—	深鉢 瘤A(縦刻)→LR→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起:大(無刻)1:小(頂部刻)5以上の割合。各4単位か。 瘤:4単位か。 口径:28.0cm。
	5	SK193	—	覆土	—	ミニチュア ナデ	ナデ	器高:1.2cm。底径2.5cm。
	6	SK193	—	覆土	—	ミニチュア ナデ	ナデ	器高:1.7cm。
12	1	SK195	—	覆土	P1-2 P1-3 P1-4	深鉢 LR・RL→ミガキ→煤付着・赤変	ナデ→ミガキ→煤付着	口径:42.6cm。 器高:41.8cm。 底径:7.2cm。 容量:32,200cc。
	2	SK195	VI A-220	覆土上	P64-1(17) P64-2(17)	深鉢 LR・RL	ナデ→ミガキ	輪積痕:2.4cm。 口径:36.0cm。
13	1	SK195 19号流路	VI A-220	覆土上 IV a	P64-2(17)	深鉢 LR・RL→煤付着	ナデ→ミガキ→煤付着	輪積痕:3.0cm。 口径:38.2cm。 器高:36.5cm。 底径:7.4cm。 容量:21,400cc。
	2	SK195	VI A-219 VI A-220	覆土上	—	深鉢 LR・RL→沈線・ミガキ→煤付着	ナデ→ミガキ→煤付着	口縁突起:無刻。2個1組、4単位。 口径:24.8cm。 器高:22.2cm。 底径:6.5cm。 容量:4,000cc。
	3	SK195	VI A-220	覆土上位	—	深鉢 LR・沈線文	ナデ	後期前葉(十腰内I)。
	4	SK210	—	覆土	—	鉢 LR・RL→沈線・ミガキ→アスファルト付着	ナデ→ミガキ	口縁突起:無刻。
	5	SK212	—	覆土	—	鉢 LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起:内刻。
	6	SP2251	—	覆土	—	鉢 瘤A(無刻)→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起:大(無刻)1:小(内刻)4の割合。 瘤:無刻。口縁端部に20個以上か。 輪積痕:1.6cm。 口径:14.0cm。 器高:15.4cm。 底径:4.0cm。容量:800cc。

## 縄文時代早期出土土器

図	番	出土地点	層位	器種	外面	内面	備考
31	1	19号流路 VI B-217	IV a	深鉢	爪形状刺突	ナデ→ミガキ	胎土:繊維未混入。 施文具:長さ7mm。
	2	19号流路 VI B-217	IV a	深鉢	爪形状刺突	ナデ→ミガキ	胎土:繊維未混入。 施文具:長さ7mm。
	3	19号流路 V R-217	IV b	深鉢	連続刺突	ナデ→ミガキ	胎土:繊維未混入。 施文具:串状工具。直径2mm程度。先端に丸みあり。
	4	19号流路 VI B-215	IV a	深鉢	刻目・沈線	ミガキ	口縁部。 胎土:繊維混入。
	5	19号流路 VI B-216	IV a	深鉢	貝殻腹縁刺突	ミガキ	胎土:繊維混入。
	6	V T-227	検出面	深鉢	貝殻条痕	ミガキ	胎土:繊維混入。 内面:炭化物付着。
	7	V S-229	覆土	深鉢	貝殻条痕→貝殻腹縁刺突	ミガキ	胎土:繊維混入。
	8	19号流路 VI B-218	IV a	深鉢	ミガキ	ミガキ	底部(尖底)。 胎土:繊維混入。

## 第19号流路跡出土土器(前期~中期)

図	番	出土地点	層位	取上番号	器種	外面	内面	備考
31	9	V R-219	IV a	—	深鉢	平口縁、口頸部(L押?摩滅)	ナデ	胎土に繊維含む、前期末葉(円筒下層d)
	10	V T-219	IV b	—	深鉢	平口縁、口頸部(R押?摩滅)	ナデ	胎土に繊維含む、前期末葉(円筒下層d)
	11	A ベルト	IV a	—	深鉢	単軸絡状体第1類(LR)か	ナデ	胎土に繊維含む、前期中葉~末葉(円筒下層)

図	番	出土地点	層位	取上番号	器種	外面	内面	備考
31	12	VI B-215	IV a	68	深鉢	単軸絡状体第1類(LR)か	ナデ	胎土に繊維含む、前期中葉～末葉(円筒下層)
	13	VI B-216	IV a	—	深鉢	単軸絡状体第1類(LR)か	ナデ	胎土に繊維含む、前期中葉～末葉(円筒下層)
	14	V S-221	確認面	—	深鉢	単軸絡状体第1類(LR)か	ナデ	前期中葉～末葉(円筒下層)
	15	V R-219	IV c	206(17)	深鉢	RL横、沈線	ナデ	31-16と同一個体、中期後葉(最花)
	16	V R-219	IV c	207(17)	深鉢	RL横、炭化物付着	ナデ	31-15と同一個体、中期後葉(最花)
	17	トレンチ2	V	—	深鉢	RL横、沈線	ナデ	内面炭化物付着、中期後葉(最花)
	18	V S-221・222	IV c	209	深鉢	折返口縁(RL横)、RL横、沈線、炭化物付着	ナデ	31-19と同一個体、中期後葉(最花)
	19	V S-221・222	IV c	208	深鉢	折返口縁(RL横)、RL横、沈線	ナデ	31-18と同一個体、中期後葉(最花)
	20	V S-221	IV a	—	深鉢	折返口縁(RL横)、体部(LR横)	ナデ	中期後葉
	21	V T-219	IV a	—	深鉢	沈線、刺突、ミガキ	ミガキ	中期末葉(大木10)
	22	V S-219	IV b	—	深鉢	RL、沈線、刺突	ナデ	中期末葉(大木10)
	23	V P-222	6	—	深鉢	鱗状突起、刺突、ナデ	ナデ	中期末葉(大木10)
	24	V S-221	IV b	—	鉢類	同心円状の沈線文、中央に刺突	ナデ	中期末葉～後期前葉
	25	V S-220	IV a下	—	鉢類	同心円状の沈線文、中央に穿孔	ナデ	中期末葉～後期前葉

第19号流路跡出土土器(後期前葉)

図	番	出土地点	層位	取上番号	器種	外面	内面	備考
32	1	V S-221	IV b	170・188	深鉢	波状口縁、方形区画文(微隆帯)、楕円形文、ミガキ(摩滅)	ミガキ	口径(17.1)cm、器高(10.5)cm、後期前葉(十腰内I)
	2	V S-220	IV	—	深鉢	平口縁、方形区画文(微隆帯)、円形刺突、弧線文、ミガキ、黒色物質付着	ミガキ	後期前葉(十腰内I)
	3	V R-219	IV b	205	深鉢	方形区画文(微隆帯)、格子目文(擦糸圧痕)	ナデ	後期前葉(十腰内I)
	4	VI B-217	IV a	—	深鉢	方形区画文(微隆帯)、沈線文	ナデ	後期前葉(十腰内I)
	5	VI A・VI B-216	IV a	—	深鉢	粘土紐貼付(渦巻文)、赤褐色物質付着	ナデ	後期前葉(十腰内I)
	6	V S-220・221	IV a下(砂層) IV b IV b-2	200	深鉢	波状口縁(6単位)、方形区画文(微隆帯)、円文、楕円形文	ミガキ	口径26.0cm、器高(14.4)cm、後期前葉(十腰内I)
	7	V R-220 V S-221	IV IV b	197・200	深鉢	波状口縁(2単位か)、頂部に粘土紐貼付、貫通孔、方形区画文(微隆帯)、三角形文、弧線文、ミガキ	ミガキ	口径(10.4)cm、器高(8.0)cm、後期前葉(十腰内I)
33	1	V S-221	IV a下(砂層) IV b	191・196・178・200	深鉢	横位区画、渦巻文、斜行文、縦位の短沈線、長方形文、円文、ミガキ	ミガキ、下半ナデ	口径(27.1)cm、底径11.2cm、器高26.7cm、後期前葉(十腰内I)
	2	VI A-218	IV a	—	深鉢	LR、沈線文、三角形文	ナデ	後期前葉(十腰内I)
	3	VI A-218	IV a～IV b	—	深鉢	LR、波状入組文	ナデ	内面黒色物質付着、後期前葉(十腰内I)
	4	VI A-218	IV a	—	深鉢	LR、沈線文	ナデ	後期前葉(十腰内I)
	5	V S-220	IV	—	深鉢	沈線文、赤彩	ナデ	後期前葉(十腰内I)
	6	V S-221・222	IV a下(砂層) IV b	196	深鉢	三角形文、楕円形文	ミガキ	後期前葉(十腰内I)
	7	VI B-218	IV a 覆土	—	鉢	渦巻文、斜行文	ミガキ	底径6.5cm、器高(9.8)cm、内外面黒色物質付着、後期前葉(十腰内I)
	8	V S-215	IV a	51	鉢	渦巻文、斜行文、底面貫通孔、底面沈線(1条)	ミガキ	底径(7.4)cm、器高(3.9)cm、後期前葉(十腰内I)
34	1	V S-221・222	IV a下(砂層) IV b-2・4	191	鉢	平口縁、横位区画、RL磨消、うろこ状文、沈線内赤彩、ミガキ、底面沈線(1条)、底面貫通孔	ミガキ	口径(14.8)cm、底径6.4cm、器高11.9cm、後期前葉(十腰内I)
	2	V S-221	IV a	194	鉢	横位区画、渦巻文	ミガキ	後期前葉(十腰内I)
	3	V S-220	IV	—	鉢	平口縁、貫通孔(2カ所残存)、横位区画、渦巻文、斜行文、弧線文、円文、赤彩、ミガキ(摩滅)	ミガキ(摩滅)	口径(7.0)cm、器高(5.7)cm、後期前葉(十腰内I)
	4	V S-220	IV	—	鉢	波状口縁、波頂部刺突、弧線文、斜行文	ミガキ	後期前葉(十腰内I)
	5	V S-220	IV	—	鉢	波状口縁、波頂部貫通孔、弧線文、斜行文	ミガキ	後期前葉(十腰内I)
	6	V S-220	IV IV a	—	深鉢	波状口縁、折返口縁、うろこ状文、弧線文	ナデ	後期前葉(十腰内I)
	7	V R-222	IV下	3(17)	鉢	横位区画、弧線文、渦巻文	ナデ	後期前葉(十腰内I)
	8	V S-221	IV a IV b	199	鉢	弧線文、渦巻文、波頭文、方形区画、円文	ミガキ	底径6.8cm、器高(7.2)cm、後期前葉(十腰内I)
	9	V S-221	IV b	174・176	浅鉢	波状口縁(3単位)、波頂部貫通孔、横位区画、蛇行文、斜行文、ミガキ(摩滅)、底面沈線(1条)	ミガキ	口径(14.3)cm、底径8.0cm、器高8.0cm、後期前葉(十腰内I)
	10	V R・V S-221	IV a IV b	—	鉢	方形区画文、渦巻文、弧線文、ミガキ	ミガキ	後期前葉(十腰内I)

図番	出土地点	層位	取上番号	器種	外面	内面	備考
35	1 V R-222	IV IV下	3(17)	鉢	横位区画、渦巻文、楕円形文、弧線文、底部方形、底面貫通孔、底面沈線(1条)	ミガキ(摩滅)	口径(21.1)cm、底径10.1cm、器高14.8cm、後期前葉(十腰内I)
	2 V R-221 V S-220 ・221	IV a IV b IV b-2	176・178 ・179	鉢	平口縁、横位区画、弧線文、()状文、沈線内赤彩	ナデ	口径26cm、底径10.9cm、器高18.1cm、後期前葉(十腰内I)
36	1 VI A-219	IV b	213	台付鉢	RL→条痕→沈線→ミガキ クランク文4単位中1つにRL施文 RL施文単位:RL→条痕(縦下)→ 条痕(水平)→条痕(縦上) 条痕単位:条痕(縦上)→条痕(水 平)→条痕(縦下)	ミガキ 煤付着(体 部上半)	黒化(体部)、赤化(台部) 輪積痕2.0cm、器高(27.9)cm、台 部径13.3cm 後期前葉(十腰内I)
	2 VI B-218	IV a	6	壺	橋状把手、横位隆帯、曲線文、条痕、 赤彩	ナデ	後期前葉(十腰内I)
37	1 V R-218	IV a	-	深鉢	曲線文、条痕	ナデ	後期前葉(十腰内I)
	2 VI A-218	IV a~IV b	-	深鉢	条痕	ナデ	後期前葉(十腰内I)
	3 V S-219	IV b	-	深鉢	曲線文、条痕	ナデ	内面炭化物付着、後期前葉(十腰 内I)
	4 V Q-223	6	-	深鉢	平口縁、条線(4条)、沈線文、黒色 物質付着	ナデ	後期前葉(十腰内I)
	5 V S-219	IV b	-	深鉢	波状口縁、横位区画、渦巻文	ナデ	後期前葉(十腰内I)
	6 VI A-217	IV a~IV b	-	深鉢	LR、波状文	ナデ	後期前葉(十腰内I)
	7 V S-221	IV a上面	-	深鉢	LR、沈線文	ナデ	後期前葉(十腰内I)
	8 V T-219	IV a	140	深鉢	縦位の短沈線、沈線文	ナデ	後期前葉(十腰内I)
	9 V S-220	IV	-	深鉢	LR横、沈線、黒色物質付着	ナデ	後期前葉
	10 V R-221	IV a	-	深鉢	RL、沈線文、黒色物質付着	ナデ	後期前葉
	11 V P-224	IV a	-	壺	突起、RL横、楕円形文	ミガキ	後期前葉(十腰内I)
	12 V S-219 ・221 V R-221・ 222	IV IV上・下 IV a・b IV b-1・2	2(17)・3(17) 59・170・179 ・200	深鉢	平口縁、折返口縁、横位平行沈線、 単軸絡条体、沈線文	ナデ	口径26.3cm、底径12.0cm、器高 35.5cm、後期前葉(十腰内I)
	13 V S-221	IV b	169	深鉢	平口縁、横位平行沈線(1条)、格子 目文(捺糸圧痕)	ナデ	口径(25.0)cm、器高(13.0)cm、 後期前葉(十腰内I)
38	1 V S-221	IV b	171・172 ・177・180	深鉢	格子目文(捺糸圧痕)(摩滅)	ナデ	口径24.0cm、底径12.0cm、器高 31.0cm、後期前葉(十腰内I)
	2 V R-218	IV a上面	-	深鉢	折返口縁、格子目文	ナデ	後期前葉(十腰内I)
	3 V R-222	IV a	-	深鉢	LR→格子目文(沈線)	ナデ	後期前葉(十腰内I)
	4 V P-223	6	-	深鉢	条線	ナデ	後期前葉(十腰内I)
	5 V R-221 V S-220 ・221	IV a IV b IV c	176・179 ・190	深鉢	平口縁、折返口縁	ナデ	38-6と同一個体。口径22.4cm、 推定器高29.0cm、後期前葉
	6 V S-221	IV b	178・179	深鉢	ナデ、ミガキ	ナデ	38-5と同一個体。底径12.0cm、 後期前葉
	7 V S-220 ・221 VI A-219	IV a IV b IV b-2	169・175 ・178・189	深鉢	平口縁、格子目文(捺糸圧痕)	ナデ	口径24.2cm、器高(27.0)cm、後 期前葉(十腰内I)
	8 V S-221 ・222	IV c	208	深鉢	RL	ナデ	底径(7.5)cm、器高(12.5)cm、後 期前葉
39	1 V S-221	IV b	170	深鉢	波状口縁(8単位)、沈線、ミガキ	ミガキ	口径(25.0)cm、器高(8.7)cm、後 期前葉
	2 V R-221	IV b	168	深鉢	無文(摩滅)	ナデ	底径(10.4)cm、後期前葉
	3 V R-223	IV a	-	深鉢	無文	ナデ	後期前葉
	4 V Q-223	6	-	深鉢	無文、炭化物付着	ナデ	内面炭化物付着、後期前葉
	5 V Q-223	III	-	深鉢・ 鉢	横位沈線、無文	ナデ	後期前葉
	6 VI B-218	IV a	-	深鉢・ 鉢	横位沈線	ナデ	後期前葉
	7 VI B-218	IV a	-	深鉢・ 鉢	平口縁、突起、ナデ	口縁部粘 土紐貼付、 ナデ	後期前葉
	8 V Q-223 V R-222	III IV a	-	深鉢	LR、底面LR、木葉痕	ナデ	底径(10.0)cm、後期前葉
	9 -	IV a-1	-	深鉢	ナデ、底面木葉痕	ナデ	底径8.4cm、内面炭化物付着、後 期前葉
	10 VI A-218	IV a	-	深鉢	底面網代痕	ナデ	後期前葉
	11 V S-221	IV a IV b-2・4 IV c-1~4	-	鉢	平口縁、横位沈線、ミガキ	ミガキ	口径18.9cm、底径(9.4)cm、器高 12.1cm、後期前葉(十腰内I)
	12 V S-220	IV IV a・b	200	鉢	平口縁、底面付近に横位沈線、ミガ キ	ミガキ	口径(17.4)cm、底径(7.8)cm、器 高10.9cm、後期前葉(十腰内I)
40	1 V S-216	IV b	-	鉢	ミガキ(摩滅)、輪積痕	ナデ	40-2と同一個体、口径(28.0)cm、 胎土に海綿骨針含む、後期前葉
	2 V T-217	IV a IV a~IV b	-	鉢	ミガキ(摩滅)、輪積痕	ナデ	40-1と同一個体、底径9.2cm、器 高(13.7)cm、胎土に海綿骨針含む、 後期前葉
	3 V S-220	IV a	-	鉢	ミガキ(摩滅)、沈線文、底面沈線(1 条)	ミガキ (摩滅)	底径(10.4)cm、器高(9.7)cm、後 期前葉(十腰内I)

図番	出土地点	層位	取上番号	器種	外面	内面	備考	
40	4	V S-220	IV	—	鉢	沈線、底部貫通孔、底面沈線(1条)	ミガキ	底径(7.7)cm、後期前葉(十腰内I)
	5	V R・ V S-221	IV a IV b	179・190 ・196	鉢	沈線文、底面沈線(2条)	ミガキ (摩滅)	底径8.4cm、器高(3.1)cm、後期前葉(十腰内I)
	6	V R-221 VI B-218	IV a	—	鉢	平口縁、横位沈線、ミガキ	ミガキ	40-7と同一個体の可能性あり、後期前葉(十腰内I)
	7	VI B-218	IV a	—	鉢	平口縁、横位沈線、ミガキ	ミガキ	40-6と同一個体の可能性あり、後期前葉(十腰内I)
	8	V S-221	IV b	197	鉢	平口縁、ミガキ	ミガキ	口径(11.8)cm、底径6.0cm、器高9.5cm、後期前葉(十腰内I)
	9	V S-221	IV b IV b-2	173・197	壺	ミガキ	ナデ	胴部最大径19.6cm、器高(10.0)cm、後期前葉
	10	V S-221	IV b	177	脚付	ナデ	—	突起か、後期前葉
41	1	VI B-218	IV a	11	深鉢	平口縁、無文、LR→入組文→磨消、炭化物付着	ナデ	41-1～3同一個体、口径(27.6)cm、後期中葉(十腰内II)
	2	VI B-218	IV a	11	深鉢	平口縁、無文、LR→入組文→磨消、炭化物付着	ナデ	41-1～3同一個体、推定器高(30.0)cm、後期中葉(十腰内II)
	3	VI B-218	IV a	—	深鉢	ナデ	ナデ	41-1～3同一個体、底径10.5cm、後期中葉(十腰内II)

第19号流路跡出土土器(縄文時代後期後葉)

図番	出土地点	層位	取上番号	器種	外面	内面	備考	
42	1	V R-220	IV	—	鉢	把手→ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	把手:2個1対か。貫通孔あり。 口径:8.2cm。 器高:3.5cm。 底径:0.8cm。容量:90cc。
	2	V S-217	IV a	162	鉢	把手→ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	把手:2個1対か。貫通孔あり。 輪積痕:1.3cm。 口径:10.0cm。 器高:4.1cm。 底径:2.2cm。 容量:150cc。
	3	VI A-217	IV a	41	鉢	把手→ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	把手:2個1対か。貫通孔あり。 口径:10.0cm。 器高:4.7cm。 底径:3.2cm。容量:170cc。
	4	V S-217	IV a	118	鉢	把手→ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	把手:2個1対か。貫通孔あり。 口径:11.5cm。 器高:5.4cm。 底径:2.2cm。容量:280cc。
	5	V T-215 ・216	IV a直上 (砂層)	—	鉢	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	口径:12.9cm。 器高:3.8cm。 底径:2.6cm。 容量:200cc。
	6	V Q-222	IV a	—	鉢	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	口径:12.4cm。 器高:5.2cm。 底径:4.0cm。容量:300cc。
	7	V S-221	IV a	—	鉢	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	口径:11.5cm。 器高:6.1cm。 底径:2.6cm。容量:350cc。
	8	V P-224	IV a	—	鉢	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	口径:12.6cm。 器高:6.4cm。 底径:5.8cm。容量:350cc。
	9	V R-222	IV a	—	鉢	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	輪積痕:1.8cm。 口径:15.0cm。 器高:6.9cm。 底径:5.0cm。容量:680cc。
	10	V Q-223	IV a	—	鉢	ナデ	ナデ	輪積痕:1.8cm。 口径:15.0cm。 器高:7.2cm。 底径:1.0cm。容量:600cc。
	11	V S-216 V P-216	IV a	112 153	鉢	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	口径:12.2cm。 器高:7.8cm。 底径:3.2cm。 容量:430cc。
	12	VI B-217	IV a	16	鉢	ナデ→ミガキ?	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口径:12.8cm。 器高:8.2cm。 底径:5.4cm。容量:550cc。
	13	V P-218	IV a 黒色土	—	鉢	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	口径:14.0cm。 器高:9.0cm。 底径:3.6cm。 容量:850cc。
	14	V Q-223	IV a	40(17)	鉢	ナデ→ミガキ→煤付着	ナデ→ミガキ→ 煤付着?	輪積痕:2.0～2.5cm。 口径:20.0cm。 器高:13.0cm。 底径:5.5cm。容量:2,200cc。
	15	V P-224	IV a層	59(17)	鉢	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	輪積痕:2.4cm。 口径:24.4cm。 器高:12.6cm。 底径:5.0cm。 容量:3,260cc。

図番	出土地点	層位	取上番号	器種	外面	内面	備考
43	1	V P-223	IV IV a	—	鉢 ナデ・ケズリ	ナデ→ミガキ	輪積痕:2.3cm。 口径:19.6cm。 器高:14.2cm。 底径:4.0cm。容量:3,000cc。
	2	V R-222	IV a	—	鉢 ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	輪積痕:2.0cm。 口径:17.2cm。 器高:11.8cm。 底径:11.0cm。容量:1,900cc。
	3	V R-221	IV a	—	鉢 ナデ→沈線	ナデ	内面:絵画調の線刻、沈線幅0.5mm程度。 口径:10.8cm。 器高:7.2cm。 底径:3.0cm。容量:370cc。
	4	V R-222	IV a	—	鉢 ナデ→ミガキ	ナデ	輪積痕:1.5cm。 口径:12.0cm。
	5	V Q-224	IV a	53(17)	鉢 ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	輪積痕:1.8cm。 口径:18.0cm。 器高:9.4cm。 底径:9.0cm。 容量:1,230cc。
	6	V R-221	IV a	—	鉢 ナデ→ミガキ	ナデ	輪積痕:1.0~1.6cm。 口径:8.4cm。 器高:6.5cm。 底径:3.2cm。容量:150cc。
	7	V S-216	IV a	112	鉢 ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口径:10.2cm。 器高:7.4cm。 底径:4.8cm。 容量:320cc。
	8	V T-219	IV a	138	鉢 ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口径:15.0cm。 器高:10.9cm。 底径:4.4cm。 容量:930cc。
	9	V Q-223	IV a	43(17)	鉢 ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	口径:18.7cm。 器高:14.7cm。 底径:6.0cm。容量:2,200cc。
	10	VI B-216	IV a	78	鉢 ナデ→ミガキ→赤変・ 黒変	ナデ→ミガキ→ 煤付着	輪積痕:2.0cm。 口径:20.0cm。 器高:14.6cm。 底径:5.0cm。 容量:2,180cc。
44	1	VI A-217	IV a	25 90	鉢 ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口径:20.4cm。 器高:14.9cm。 底径:5.8cm。 容量:2,600cc。
	2	V P-223 ・224 V Q-223	IV IV a	60(17)	鉢 ナデ→ミガキ	ナデ	内面:板状工具によるナデか。 輪積痕:1.8cm。 口径:22.0cm。 器高:16.4cm。 底径:8.0cm。容量:3,600cc。
	3	V S-221 V R-221 V R-224	IV a IV a 上面	—	深鉢 ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ→ 煤付着	輪積痕:2.2cm。 口径:20.8cm。 器高:17.0cm。 底径:8.0cm。容量:2,850cc。
	4	V R-222	IV a	33(17)	深鉢 ナデ・ケズリ→ミガ キ→煤付着・赤変・ 黒変	ナデ・ケズリ→ ミガキ→煤付着	輪積痕:2.2cm。 口径:23.6cm。 器高:22.4cm。 底径:8.6cm。 容量:6,300cc。
	5	V P-224	IV a	—	深鉢 ナデ→ミガキ→煤付 着	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口径:24.2cm。 器高:20.2cm。 底部:10.6cm。容量:5,300cc。
	6	VI B-216	IV a	97 98	深鉢 ナデ→ミガキ→赤変	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口縁突起:内刻。6単位。 輪積痕:1.5~2.5cm。 口径:24.5cm。 器高:20.4cm。 底径:6.5cm。 容量:4,200cc。
45	1	VI B-216	IV a	71	深鉢 ナデ→ミガキ	ミガキ→煤付着	輪積痕:2.0cm。 口径:25.2cm。 器高:22.4cm。 底径:5.8cm。 容量:5,000cc。
	2	V S-220 トレンチ	IV上	2(17)	鉢 ナデ→ミガキ→赤変・ 黒変	ナデ→ミガキ→ 煤付着	輪積痕:2.0cm。 口径:25.8cm。 器高:21.6cm。 底径:8.4cm。容量:6,500cc。
	3	VI B-217	IV a	14 15	深鉢 指頭圧痕(口縁部)→ 条痕→煤付着・赤変	ナデ→ミガキ→ 煤付着	輪積痕:2.0cm。 口径:24.0cm。 器高:21.2cm。 底径:7.1cm。 容量:5,000cc。
46	1	VI B-216	IV a	95 97 98	深鉢 ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ→ 煤付着	輪積痕:2.5cm。 口径:27.8cm。 器高:21.0cm。 底径:4.8cm。 容量:6,900cc。

図番	出土地点	層位	取上番号	器種	外面	内面	備考	
46	2	V Q-223	IV a	—	深鉢	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ→ 煤付着	補修孔：外面→内面へ穿孔。 口径：33.0 cm。 器高：25.6 cm。 底径：8.0 cm。容量：11,100cc。
	47	1	V P-216	IV a	252 253 254	深鉢	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ→ 煤付着
2		VI A-215 VI B-215	IV a	65	深鉢	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	輪積痕：2.8 cm。内面：顔料付着？
48	1	V R-223	IV a	36(17)	鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ	口径：11.1 cm。 器高：4.2 cm。 底径：1.4 cm。容量：180cc。
	2	V Q-223	IV a	—	鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ	口径：11.2 cm。 器高：7.3 cm。 底径：2.6 cm。容量：500cc。
	3	V P-224	IV a	—	鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ	口径：14.0 cm。 器高：6.4 cm。 底径：2.4 cm。容量：430cc。
	4	V P-223	IV a	—	鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ	口径：15.4 cm。 器高：7.1 cm。 底径：4.6 cm。容量：620cc。
	5	VI B-218	IV a	11	鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ	口径：17.7 cm。 器高：10.2 cm。 底径：2.3 cm。容量：1,350cc。
	6	V S-217	IV a	162 166 184	鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ	口径：25.0 cm。 器高：15.4 cm。 底径：5.6 cm。 容量：4,700cc。
	7	V R-221	IV	—	鉢	LR・RL→ミガキ	ナデ→ミガキ	口径：23.2 cm。 器高：18.8 cm。 底径：6.6 cm。容量：4,900cc。
	8	V Q-223	IV a	—	鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ	輪積痕：1.6 cm。 口径：8.0 cm。 器高：5.6 cm。 底径：3.4 cm。容量：150cc。 底辺部に別色の褐色粘土を貼付・焼成か。
	9	VI A-215	IV a	—	鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ	口径：9.2 cm。 器高：6.2 cm。 底径：4.2 cm。容量：230cc。
	10	V S-219	IV a	13(17)	鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口径：12.2 cm。 器高：9.5 cm。 底径：4.8 cm。容量：550cc。
	11	V S-217	IV a	123	鉢	LR・RL→煤付着	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口径：14.0 cm。 器高：10.6 cm。 底径：5.2 cm。 容量：940cc。
	12	V Q-223	IV a	47(17)	鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口径：13.4 cm。 器高：11.0 cm。 底径：4.6 cm。容量：830cc。
49	1	VI A-219	IV a	150	鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ	口径：16.6 cm。 器高：12.6 cm。 底径：5.0 cm。容量：1,600cc。
	2	VI A-219	IV a	109	鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口径：16.0 cm。 器高：12.5 cm。 底径：7.0 cm。容量：1,400cc。
	3	V Q-223	IV IV a	45(17)	鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ	口径：17.0 cm。 器高：13.1 cm。 底径：4.8 cm。容量：1,500cc。
	4	V Q-223 V R-223	IV a	41(17)	鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ	口径：15.2 cm。 器高：14.0 cm。 底径：7.0 cm。容量：1,500cc。
	5	VI B-215	IV a	69	鉢	LR・RL→煤付着	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口径：17.4 cm。 器高：14.0 cm。 底径：6.2 cm。 容量：1,400cc。
	6	V S-217	IV a	123 133	鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ	口径：18.0 cm。 器高：14.2 cm。 底径：7.0 cm。容量：2,140cc。
	7	V P-223	IV a	—	鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ	口径：17.0 cm。 器高：12.0 cm。 底径：7.0 cm。容量：1,500cc。
	8	V T-219 VI A-219	IV a IV a～b	138	鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口径：17.8 cm。
50	1	V R-223	IV a-1	215 付近	鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口径：19.4 cm。 器高：16.0 cm。 底径：7.4 cm。容量：2,600cc。
	2	V S-220 トレンチ V S-220	IV IV a IV 上	2(17) 17(17) 18(17)	深鉢	LR・RL→ミガキ→赤 変・黒変	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口径：24.0 cm。 器高：22.6 cm。 底径：7.8 cm。容量：5,900cc。
	3	V Q-223	IV a	39(17)	鉢	LR・RL→ミガキ	ナデ→ミガキ	口径：23.8 cm。 器高：22.6 cm。 底径：10.0 cm。容量：5,800cc。

図番	出土地点	層位	取上番号	器種	外面	内面	備考
51	1 V P-224	IV a	—	深鉢	LR・RL → ミガキ	ナデ→ミガキ	輪積痕 : 2.5 ~ 3.0 cm。 口径 : 25.3 cm。 器高 : 23.4 cm。 底径 : 8.5 cm。容量 : 7,300cc。
	2 V P-224	IV a	60(17)	深鉢	L・LR → 煤付着・赤変・黒変	ナデ→ミガキ→煤付着	縄文原体 : 無節L。 輪積痕 : 2.4 cm。 口径 : 26.4 cm。 器高 : 25.0 cm。 底径 : 8.2 cm。 容量 : 6,700cc。
	3 V R-220 A ベルト	IV a-1 IV a-1 下	201	鉢	LR・RL → 煤付着・赤変・黒変	ナデ→ミガキ→煤付着	輪積痕 : 2.0 cm。 口径 : 29.0 cm。 器高 : 22.8 cm。 底部 : 9.0 cm。容量 : 8,900cc。
52	1 V S-219	IV a	13(17)	深鉢	LR・RL → ミガキ→煤付着・赤変	ナデ→ミガキ→煤付着	口径 : 26.2 cm。 器高 : 24.8 cm。 底径 : 8.0 cm。容量 : 8,500cc。
	2 V R-221	IV a	—	鉢	LR・RL → 煤付着・赤変・黒変	ナデ→ミガキ→煤付着	口径 : 27.6 cm。
	3 V R-223 V Q-223	IV a IV a-1	215 付近	深鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ→煤付着	輪積痕 : 2.0 ~ 2.5 cm。 口径 : 28.0 cm。
53	1 V P-220 V Q-220	IV a	—	鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ→煤付着	口径 : 28.0 cm。
	2 V T-215・216	IV a	58	深鉢	LR・RL → 煤付着・赤変	ナデ→ミガキ→煤付着	口径 : 30.4 cm。
54	1 V P-223	IV a	60(17)	鉢	LR・RL → 煤付着	ナデ→ミガキ→煤付着	輪積痕 : 2.5 ~ 3.0 cm。 口径 : 30.0 cm。
	2 VI A-217	IV a	32	深鉢	LR・RL → 煤付着	ナデ→ミガキ→煤付着	輪積痕 : 1.0 ~ 2.0 cm。 口径 : 33.2 cm。
55	1 V S-219 V R-221	IV a	13(17)	深鉢	LR・RL	ナデ→ミガキ→煤付着	輪積痕 : 2.4 cm。口径 : 34.0 cm。
	2 V S-221	IV a IV b IV a 上面	—	鉢	LR・RL → ミガキ	ナデ→ミガキ	口径 : 34.2 cm。 器高 : 26.8 cm。 底径 : 9.3 cm。 容量 : 11,700cc。
56	1 VI B-216	IV a	99 100	深鉢	LR・RL → 煤付着	ナデ→ミガキ	輪積痕 : 2.5 cm。 口径 : 34.4 cm。
	2 VI A-218・219	IV a	4	深鉢	LR → 煤付着	ナデ→ミガキ	口径 : 34.0 cm。
57	1 V R-222	IV a 覆土	31(17)	深鉢	LR・RL → 煤付着	ナデ→ミガキ	口径 : 38.2 cm。
	2 V R-220 V R-221 V P-221	III IV IV a IV a 上面	—	深鉢	LR・RL → 煤付着	ナデ→ミガキ→煤付着	口径 : 37.6 cm。
58	1 V R-223 トレンチ 1	IV a-1 表探	215	深鉢	LR・RL → ミガキ	ナデ→ミガキ→煤付着	補修孔 : 外面→内面へ穿孔。 口径 : 42.6 cm。 器高 : 44.2 cm。 底径 : 10.0 cm。容量 : 37,000cc。
	2 V R-221	IV a	27(17)	深鉢	LR・RL → ミガキ	ナデ→ミガキ	補修孔 : 外面→内面へ穿孔。 口径 : 41.6 cm。 器高 : 43.2 cm。 底径 : 11.0 cm。容量 : 36,600cc。
59	1 V Q-223 V Q-224 V P-223 V P-224	IV IV a	46(17) 52(17)	深鉢	LR・RL → ミガキ→煤付着	ナデ→ミガキ	輪積痕 : 2.5 ~ 3.0 cm。 底径 : 9.6 cm。
	2 VI B-215・216	IV a	68 69	深鉢	条痕→煤付着	ナデ→ミガキ	輪積痕 : 2.4 cm。口径 : 44.0 cm。
60	1 V S-221	IV a	24(17)	鉢	下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	縄文原体 : LR は口縁部の一部のみに施文(正面性か)。 輪積痕 : 3.0 cm。 口径 : 27.4 cm。 器高 : 18.2 cm。 底径 : 9.6 cm。 容量 : 5,670cc。
	2 V T-220	IV a	—	深鉢	沈線→LR・RL→ミガキ?	ナデ→ミガキ	摩滅。充填縄文か。 口径 : 16.0 cm。 器高 : 16.0 cm。 底径 : 5.8 cm。容量 : 1,800cc。
	3 V S-220	IV a	—	鉢	下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口径 : 15.0 cm。
	4 V Q-221	IV a	—	鉢	下書沈線?→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起 : 無刻。4 単位か。
	5 V P-224	IV a	61(17)	鉢	沈線→LR・RL→ミガキ	ナデ→ミガキ→煤付着	口径 : 25.2 cm。 器高 : 21.0 cm。 底径 : 6.4 cm。 容量 : 6,100cc。
	6 V P-224	IV a	—	鉢 (台付)	沈線→LR・RL→沈線・ミガキ→煤付着	ナデ→ミガキ→煤付着	口縁突起 : 大(内刻)1 : 小(内刻)1 の割合。各 4 単位。 輪積痕 : 2.0 cm。 口径 : 19.2 cm。 器高 : 20.8 cm。 台径 : 9.0 cm。容量 : 2,350cc。



図番	出土地点	層位	取上番号	器種	外面	内面	備考
61	1 V P-224	IV a	11(17) 61(17) 63(17)	深鉢	下書沈線→LR・RL→ 沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：大(内刻)3個1組。小(内刻)2個1組。 各4単位。 輪積痕：2.0cm。 口径：31.5cm。
	2 VI A-216 VI B-216	IV a 直上 (砂層) IV a	50 95	深鉢	下書沈線→LR・RL→ 沈線・ミガキ→煤付 着	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口縁突起：大(無刻)2：小(無刻)1の割合か。 輪積痕：2.2cm。 口径：30.5cm。 器高：30.6cm。 底径：6.0cm。 容量：13,000cc。
62	1 VI B-218	IV a	5	鉢	沈線→LR・RL→沈線・ ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：無刻。 輪積痕：2.4cm。 口径：18.0cm。 器高：16.7cm。 底径：4.0cm。容量：3,600cc。 正面性？：縄文を施文せず、ミガキを施す箇所あり(胴 部下位)。
	2 VI A-217	IV a	18	鉢	下書沈線→LR・ RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口径：20.4cm。 器高：22.8cm。 底径：5.2cm。容量：7,000cc。
	3 V P-224	IV a	—	鉢 (台付)	沈線→ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：内刻。単位不明。 輪積痕：1.2cm。 口径：8.2cm。 容量：170cc。
	4 V S-221 V R-221	IV a 上面 確認面 III	—	鉢	下書沈線→LR・ RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	
63	1 V S-216 V R-216	IV a 直上 (砂層)	153 112	鉢	瘤A(無刻)・下書 沈線→LR・RL→沈線・ ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：頂部刻。3個1組か。 瘤：4単位。 輪積痕：2.0cm。 口径：21.1cm。 器高：21.8cm。 底径：4.0cm。 容量：5,500cc。
	2 V S-220	IV a	17(17)	鉢	LR・RL→沈線・ミガ キ→煤付着	ナデ・ケズリ→ ミガキ	口径：22.5cm。 器高：17.0cm。 底径：8.0cm。容量：4,200cc。
	3 V S-221 V R-221 V R-220	IV a 上面 III	—	鉢	下書沈線→LR・ RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：4単位か。 輪積痕：2.0cm。
	4 VI B-216 VI B-217 VI C-217 V R-217	IV a	9 10 146	鉢	瘤A(縦刻)・下書 沈線→RL→沈線・ミ ガキ→煤付着・赤変	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口縁突起：頂部押圧。7単位か。 瘤：3か6単位か。 輪積痕：2.0cm。 口径：22.5cm。
	5 V S-217	IV a	126	鉢	下書沈線→LR・ RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：無刻。2個1組。8単位か。
	6 V Q-223	IV a	44(17) 43(17)	鉢	下書沈線→LR・RL→ 沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ→ 煤付着?	口縁突起：大(内刻)1：小(内刻)1の割合か。各4 単位か。 輪積痕：2.0cm。 口径：14.8cm。 器高：12.0cm。 底径：4.4cm。容量：850cc。
64	1 V P-224 V R-223	IV a 覆土 IV a-1	215 付近	鉢	瘤(無刻)→LR→沈 線・ミガキ	ナデ→ミガキ 瘤A(口縁部)	瘤(口縁部)：縦刻。8単位か。 瘤(胴部)：4単位か。 口径：22.0cm。 底径：4.0cm。
	2 V R-222	IV a	31(17)	深鉢	下書沈線→LR・RL→ 沈線・ミガキ→煤付 着・赤変	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口縁突起：無刻。2個1組。6単位。 輪積痕：2.2cm。 口径：24.4cm。
	3 VI A-216	IV a	36	鉢	瘤A(縦刻)→LR・ RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	瘤：3単位か。 単位文様(胴部)：7単位か。 口径：24.5cm。 器高：22.4cm。 底径：5.4cm。 容量：5,900cc。
65	1 V S-217 V T-217	IV a	116	鉢	下書沈線→LR・RL→ 沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	輪積痕：2.0～3.0cm。 口径：24.0cm。 器高：22.3cm。 底径：5.4cm。容量：6,000cc。
	2 V Q-223	IV a	50(17)	深鉢	下書沈線→LR・RL→ 沈線・ミガキ→煤付 着・赤変	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口縁突起：大(無刻)2個1組。4単位。 輪積痕：2.4cm。 口径：26.7cm。 器高：24.9cm。 底径：7.7cm。容量：6,000cc。
66	1 VI A-218 .219	IV a	3 150	深鉢	下書沈線→LR・RL→ 沈線・ミガキ→煤付 着	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口縁突起：大(無刻)1：小(無刻)1の割合。各5単位。 輪積痕：2.0cm。 口径：28.7cm。 器高：29.0cm。 底径：8.6cm。容量：8,500cc。
	2 V Q-218	IV a	128	深鉢	下書沈線→LR・RL→ 沈線・ミガキ→補修 孔→煤付着・赤変・ 黒変	ナデ→ミガキ→ 煤付着	口縁突起：大(頂部横刻)1：小(頂部縦刻)1の割合。 各8単位。 輪積痕：2.0cm。 口径：28.2cm。 器高：28.2cm。 底径：7.0cm。 容量：8,000cc。 補修孔：外面→内面へ穿孔。

図番	出土地点	層位	取上番号	器種	外面	内面	備考	
67	1	V Q-223	IV a	42(17)	鉢	沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：大（無刻）1：小（無刻）1の割合。各4単位。 口径：14.4 cm。
	2	V P-224	IV a	61(17)	鉢	沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ→煤付着	口縁突起：大（内刻）1：小（内刻）1の割合。各4単位か。 輪積痕：2.2 cm。 口径：17.4 cm。 器高：16.6 cm。 底径：6.0 cm。 容量：1,560cc。
	3	V P-224	IV a	63(17)	鉢	沈線→LR・RL→沈線・ミガキ→煤付着	ナデ→ミガキ	口縁突起：内刻。4単位か。 輪積痕：2.0 cm。 口径：27.4 cm。
	4	V P-224 V Q-224 V R-223	IV IV a	—	鉢	沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：無刻。4単位か。 口径：16.0 cm。
	5	V P-224 V R-224	IV a	29(17) 56(17)	鉢	下書沈線？→LR・RL→沈線・ミガキ→煤付着	ナデ→ミガキ	口縁突起：無刻。4単位か。 口径：25.0 cm。
	6	V S-220	IV a	16(17)	深鉢	下書沈線？→沈線→LR・RL→ミガキ	ミガキ	口縁突起：無刻。2個1組。6単位。 輪積痕：1.5 cm。 口径：16.5 cm。
68	1	V R-220 V S-220 トレンチ	V IV IV a IV a 上面 IV a-7	—	深鉢	沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ→煤付着	波状口縁：6単位か。 口縁突起：大（無刻）1：小（無刻2個1組）2の割合。各6単位か。 口径：31.8 cm。
	2	V T-219	IV a	19(17) 20(17)	深鉢	下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ→煤付着・赤変	ナデ→ミガキ	口縁突起：大突起（無刻）+透孔6単位。小突起（無刻）6単位。 輪積痕：2.0 cm。 口径：29.0 cm。 器高：38.4 cm。 底径：10.3 cm。容量：9,300cc。 補修孔：外面→内面へ穿孔。
69	1	V Q-223 V Q-222	IV a IV	49(17)	深鉢	下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ→煤付着	口縁突起：大（頂部押圧）1：小（無刻）1の割合。各6単位か。 輪積痕：2.0 cm。 口径：27.4 cm。
	2	VI B-216	IV a	87	深鉢	下書沈線→RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ→煤付着	口縁突起：大（二叉無刻）1：中（無刻）2：小（頂部刻）2の割合か。各4単位か。 口径：25.0 cm。 底径：5.5 cm。
70	1	SK192 SK193 VI A-216 VI B-219	IV a IV a 覆土上	36	鉢	LR・RL→沈線・ミガキ→アスファルト付着	ナデ→ミガキ	口縁突起：大（側面刻）・中（頂部刻）・小（頂部刻）。大1に小2併う。大1：中4～5の割合。 口径：30.5 cm。 アスファルト：中突起1ヶ所へのみ付着。
	2	VI A-217	IV a	33 34	深鉢	下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ→煤付着 瘤（口縁大突起部）	口縁突起：大（内刻）1：小（内刻）5の割合。各4単位。 瘤：4単位。 輪積痕：2.0 cm。 口径：22.0 cm。 器高：23.0 cm。 底径：5.5 cm。 容量：4,000cc。
	3	V P-224 V P-223	IV a IV	55(17)	鉢	沈線→LR・RL→ミガキ	ナデ→ミガキ→煤付着	口縁突起：頂部（内刻）1：谷部（内刻）4以上の割合。各4単位か。 口径：20.4 cm。 器高：20.6 cm。 底径：5.6 cm。 容量：1,800cc。
	4	V R-223	IV a	38(17)	鉢	沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：大（無刻）1：小（無刻）1の割合。各4単位。 輪積痕：1.8 cm。 口径：19.0 cm。 器高：16.8 cm。 底径：6.8 cm。 容量：1,900cc。
71	1	V Q-218・219	IV a	128	鉢	下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ→赤色顔料・アスファルト付着	ナデ→ミガキ	波状口縁：5単位。 口縁突起：大（二叉無刻）1：小（頂部刻）2の割合。谷部に小を配置。各5単位。 口径：29.0 cm。 アスファルト：波状口縁の一つを補修。
	2	V T-215	IV a	56	深鉢	LR・RL？→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ→煤付着	口縁突起：大（無刻）1：小（頂部刻）3の割合か。各6単位か。 口径：27.0 cm。
72	1	V Q-218 V Q-219 V Q-224	IV IV a	128	鉢	沈線→LR・RL？→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	波状口縁：8単位か。 口縁突起：大（頂部刻）1：小（頂部刻）2の割合か。波頂部にも突起の痕跡あり。 口径：27.0 cm。
	2	V R-222	IV a	—	深鉢	下書沈線→LR・RL→煤付着・黒変・赤変	ナデ→ミガキ→煤付着	口縁突起：大（頂部押圧、二叉状）1：中（無刻）1：小（頂部刻）6の割合。各5単位。 補修孔：外面→内面へ穿孔。 輪積痕：2.5 cm。 口径：24.6 cm。 器高：28.0 cm。 底径：8.4 cm。 容量：5,500cc。
73	1	VI A-215 VI B-215	IV a	—	鉢	瘤C・下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ→煤付着・赤化	ナデ→ミガキ→煤付着	波状口縁：6単位か。 口縁突起：内刻。 瘤：縦長。6単位か。

図番	出土地点	層位	取上番号	器種	外面	内面	備考	
73	2	V R-222	—	深鉢	瘤A(縦刻)・下書 沈線→LR・RL→沈線 ・ミガキ	ナデ→ミガキ→ 煤付着	波状口縁:6単位か。 口縁突起:大(無刻)1:小(無刻2個1組)3の割合。 各6単位か。 瘤:4単位か。 口径:28.4cm。 底径:8.0cm。	
74	1	V P-223 V P-224	IV a	60(17)	深鉢	瘤A(無刻)・下書 沈線→LR・RL→沈線・ ミガキ	瘤A(縦刻、波 頂部)→ナデ→ ミガキ	波状口縁:5単位か。 口縁突起:波頂部(無刻)1:大(内刻)1:小(内刻) 4の割合。各5単位か。 輪積痕:2.0cm。 口径:34.0cm。 器高38.4cm。 底径:6.4cm。 容量:12,600cc
75	1	SD42	覆土	—	鉢	沈線→刻目	ナデ→ミガキ	十腰内Ⅲ式か。
	2	V Q-219	IV a~b	—	鉢	沈線→刻目→沈線・ ミガキ	ナデ→ミガキ	波状口縁。
	3	V Q-223	IV a	—	鉢	沈線→刻目→沈線・ ミガキ	ナデ→ミガキ	波状口縁。
	4	VI B-218	IV a	5	鉢	沈線→刻目→沈線・ ミガキ	ナデ→ミガキ	波状口縁か。 口縁突起:無刻。 図75-5と同一個体か。
	5a	V T・VI A-219	IV a 上面	—	鉢	沈線→刻目・LR・ RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	波状口縁。 図75-4と同一個体か。
	5b	SK193 V S-221 ・220 トレンチ	覆土 IV IV a	—	鉢	沈線→刻目・LR・ RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	
	6	VI B-218	IV a	—	鉢	沈線→刻目→沈線・ ミガキ	ナデ→ミガキ	
	7	V R-223	IV a	—	鉢	沈線→刻目・LR・ RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	図75-4・5と同一個体か。
	8	V S-217	IV a	—	鉢か	沈線→刻目・円形刺 突→ミガキ?	ナデ→ミガキ	
	9	V S-217	IV a	—	鉢	沈線→刻目→沈線・ ミガキ	ナデ→ミガキ	
	10	VI B-216	IV a	—	鉢か	沈線→刻目・LR・ RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	
	11	V R-220	IV IV a	—	深鉢	沈線→LR・RL→刺突 →沈線・ミガキ→煤 付着	ナデ→ミガキ→ 煤付着	波状口縁:単位不明。 口縁突起:無刻。波頂部。 輪積痕:2.2cm。 底径:6.0cm。
	12	VI A-215	IV a	—	鉢	瘤A(無刻)→LR・ RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	波状口縁:単位不明。 口縁突起:波頂部(内刻)1:谷部(内刻)2の割合。 瘤:多数。輪積痕:3.0cm。
13	—	Ⅲ~Ⅳ	—	鉢	瘤A(無刻)→LR→ 沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起:大(無刻+瘤)1:小(無刻)3以上の割合。 各4単位か。	
76	1	V R-221	IV a	25(17)	壺	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	口径:5.7cm。 器高:8.3cm。 底径:2.7cm。容量:190cc。
	2	V Q-223	IV a	50(17)	壺	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	輪積痕:1.2cm。 口径:4.2cm。 器高:9.2cm。 底径:0.6cm。容量:150cc。
	3	V T-219	IV a	23(17)	壺	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	輪積痕:1.2cm。 口径:5.2cm。 器高:9.8cm。 底径:3.0cm。容量:270cc。
	4	VI B-218 トレンチ 2	IV	6	壺	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	輪積痕:1.2~1.5cm。 口径:7.0cm。 器高:11.5cm。 底径:1.0cm。容量:450cc。
	5	VI A-215	IV a	63	壺	ナデ	ナデ	輪積痕:1.8cm。 底径:2.0。
	6	V P-224	IV a	10(17)	壺	ナデ→ミガキ	ナデ	底径:3.0cm。
	7	V P-224	IV a	—	壺	ナデ→ミガキ	ナデ	輪積痕:1.0~1.5cm。 底径:3.0cm。
	8	VI A-216 ・217 VI A-216 V S-216	IV a	35 40 111	壺	瘤A(縦刻)・橋状 把手→沈線→ミガキ	ナデ・ミガキ	口縁突起:内刻。8単位 瘤・橋状把手:2個1対か。計4単位。 輪積痕:1.4cm。 口径:7.5cm。 器高:9.6cm。 底径:3.0cm。 容量:720cc。
	9	V P-224	IV a	—	鉢	下書沈線→LR・RL→ 沈線・ミガキ	ナデ	輪積痕:2.2cm。 口径:16.1cm。 器高:19.7cm。 底径:5.8cm。容量:4,300cc。
	10	V S-217 V R-217	IV a	103 105 116 164 163	壺	瘤A(縦刻)→LR・ RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起:欠損。 輪積痕:1.8cm。 口径:8.0cm。 器高:15.6cm。 底径:3.0cm。 容量:1,570cc。

図番	出土地点	層位	取上番号	器種	外面	内面	備考	
77	1	VI A-217	IV a	27	壺	沈線→ミガキ	ナデ	口径:8.9 cm。 器高:15.2 cm。 底径:4.0 cm。 容量:1,000cc。
	2	V P-223	IV	—	壺	下書沈線?→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	輪積痕:2.0 cm。 口径:7.8 cm。 器高:15.0 cm。 底径:4.0 cm。容量:820cc。
	3	VI B-216	IV a	100	壺	瘤A(無刻)→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ	口縁突起:大(無刻)1:小(無刻)1の割合か。各4単位か。 瘤:4単位か。 輪積痕:1.2 cm。 口径:7.2 cm。 器高:13.5 cm。 底径:2.6 cm。 容量:820cc。
	4	V R-221	IV a	28(17)	壺	瘤A(無刻)・下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ	瘤:4単位。 輪積痕:1.0~1.5 cm。 口径:4.4 cm。 器高:15.3 cm。 底径:2.5 cm。容量:450cc。
	5	V P-224・225	IV a	—	壺	下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ	輪積痕:1.2 cm。 口径:2.5 cm。 器高:18.0 cm。 底径:5.0 cm。容量:550cc。
	6	V S-217	IV a	101	壺	瘤A(無刻)→LR・RL→沈線→ミガキ	ナデ	瘤:3単位 口径:4.8 cm。 器高:15.4 cm。 底径:5.4 cm。 容量:600cc。
	7	VI B-216	IV a	80	壺	LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口径:4.1 cm。 器高:19.5 cm。 底径:2.0 cm。容量:750cc。
	8	V S-217	IV a	152	壺	瘤A(縦刻)→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	瘤:6単位か。 輪積痕:1.6 cm。 口径:7.8 cm。 器高:21.5 cm。 底径:3.0 cm。 容量:2,400cc。
78	1a	VI A-216 VI B-216	IV a IV a上 (砂層)	50 95 48	壺か	瘤A(無刻)・下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	瘤:4単位か。 輪積痕:2.0 cm。 口径:8.0 cm。
	1b	VI B-216	IV a	70	壺か	LR・RL→沈線・ミガキ→アスファルト付着	ナデ→ミガキ	
	2	VI A-217	IV a	34 29 30 34	壺	瘤A(無刻)→ミガキ→アスファルト付着?	ナデ→ミガキ	瘤:4単位か。 輪積痕:3.0 cm。 口径:12.0 cm。 底径:3.0 cm。
	3	V Q-219	IV a	202	壺	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	輪積痕:2.0 cm。 口径:13.0 cm。
4	VI B-216	IV a	77	壺	瘤A(無刻)→ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	瘤:4単位か。 口径:8.6 cm	
79	1	V S-217	IV a	158 163 166 183 184	壺	下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	輪積痕:2.5 cm。 底径:9.0 cm。 正面性:肩部単位文様(3本1組)。
	2	V R-221	IV a	30(17)	壺	瘤A(横刻・無刻)→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ	瘤:4単位。頸部(横刻)、胴部(無刻)。 輪積痕:1.8 cm。
	3	V S-217	IV a	108	壺	瘤A(縦刻・横刻)・下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ	瘤:大(縦刻)4単位。小(横刻)4単位。 輪積痕:1.4 cm。 底径:4.2 cm。
	4	V P-224	IV a	10(17)	鉢か壺	瘤A(無刻)→沈線→LR・RL→ミガキ	ナデ→ミガキ	瘤:4単位か。 輪積痕:2.5 cm。 底径:7.0 cm。
	5	V Q-219	IV a	149	壺	瘤A(無刻)→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ	瘤:4単位。
	6	VI A-217	IV a	43	壺	LR・RL?→沈線・ミガキ	ナデ	瘤:4単位か。 底径:3.6 cm。
	7	VI B-218	IV a	—	壺か	瘤A(無刻)・下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	瘤:単位不明。 底径:4.0 cm。
	8	V S-217	IV a	118 159	壺	瘤A(横刻)→RL→沈線・ミガキ	ナデ	瘤:4単位。 輪積痕:1.6 cm。 底径:2.8 cm。
80	1	VI A-216	IV a	38	壺か	瘤A(縦刻・無刻)→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起:大(内刻)1:小(内刻)1の割合。各4単位。 瘤:4単位か。 輪積痕:1.8 cm。 口径:8.6 cm。
	2	V P-224	IV a	10(17)	壺	瘤A(無刻)・下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起:大(内刻)1:小(内刻)1の割合。各4単位か。 瘤:頸部小、胴部大。各4単位か。 輪積痕:1.0~1.5 cm。 口径:7.0 cm。

図番	出土地点	層位	取上番号	器種	外面	内面	備考	
80	3	VI A-216・217	IV a	36	壺	LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	波状口縁：2単位か。 口縁突起：大（二叉無刻）1：小（無刻）1の割合か。 各2単位か。谷部に小突起。 口径：16.0 cm
	4	VI A-217	IV a	30	壺	瘤A（無刻）→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	瘤：4単位か。 輪積痕：1.8 cm。 口径：14.0 cm。
	5	V T-219	IV a	20(17)	壺	下書沈線？→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	輪積痕：1.8 cm。 口径：13.8 cm 大型3段構成。
	6	V P-224	IV a	10(17)	壺	沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	図81-1と同一個体か。
81	1	V P-224	IV a	63(17)	壺	沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ	図80-6と同一個体か。
	2	V P-224	IV a	57(17)	鉢	沈線→LR・RL→ミガキ	ナデ→ミガキ	底径：4.0 cm。
	3	V R-221	IV a	26(17)	壺	瘤A（無刻）→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ	瘤：4単位か。 底径：3.0 cm。
	4	V R-222	IV a	32(17)	壺	瘤A（無刻）→下書沈線？→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ	瘤：4単位。 輪積痕：1.8 cm。 底径：3.4 cm。
	5	V Q-224	IV a	—	壺	沈線	ナデ	口径：8.4 cm。器高：10.5 cm。
	6	—	—	—	壺	沈線	ナデ	口縁突起：内刻。4単位か。口径：3.6 cm
	7	—	IV a-1	—	壺か	沈線→刻目→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：無刻。4単位か。
	8	V Q-223	VI	—	壺か	隆帯→刻目、沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ	
	9	VI A-219	IV a-1	204	壺か(台付)	沈線→刻目・LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口径：8.0 cm 台径：4.4 cm
	10	V Q-223 V S-221	IV a IV a 上面	—	壺	微隆起線・ミガキ	ナデ	
	11	V Q-223	IV a	—	壺か(環状)	瘤A（無刻）→沈線→LR→ミガキ	ナデ	胴部が環状となる壺か。（上野尻遺跡に類例あり） 輪積痕：1.5 cm。
82	1	VI A-219	IV a	1	注口	瘤A（無刻）→沈線・ミガキ	ナデ	口縁突起：無刻。2個1組。4単位。 瘤：4単位。 注口：基部に隆帯。 口径：3.8 cm。 器高：6.5 cm。 底径：2.2 cm。容量：100cc。
	2	V S-219	IV a	14(17)	注口	瘤A（縦刻）→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：内刻。4単位。 瘤：4単位。 輪積痕：1.5 cm。 口径：5.8 cm。 器高：8.3 cm。 底径：4.7 cm。容量：300cc。
	3	V S-216	IV a 直上(砂層) IV a	111	注口	瘤A（縦刻）→LR→沈線→ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：大（内刻）1：小（内刻）2の割合。各4単位。 瘤：4単位か。 輪積痕：1.8 cm。 口径：7.4 cm。
	4	SD40 V P-218	IV a	—	注口	瘤A（縦刻）→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：大（内刻）1：小（内刻）1の割合。各4単位か。 瘤：4単位。 口径：7.0 cm。 器高：10.4 cm。 底径：3.8 cm。 容量：450cc。
	5	V S-217	IV a	118 159	注口	瘤A（無刻）・下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：大（内刻）1：小（内刻）1の割合か。各4単位か。 瘤：4単位か。 輪積痕：1.4 cm。 口径：8.6 cm。
	6	VI A-219	IV a	2	注口	瘤A（無刻）→下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：内刻。4単位。無刻。4単位。 注口部：隆帯。 口径：6.0 cm。 器高：13.0 cm。 底径：3.0 cm。容量：860cc。
	7	V S-217	IV a	118 159	注口	瘤A（縦刻・横刻）→LR・RL→沈線→ミガキ→アスファルト付着	ナデ	口縁突起：大（無刻）1：小（内刻）2の割合。各4単位と推定。 瘤：4単位。 輪積痕：1.8 cm。 口径：7.0 cm。 器高：11.9 cm。 底径：3.0 cm。 容量：700cc。
	8	VI A-216 VI B-216	IV a	39 49 70	注口	瘤（不明）→LR・RL→ミガキ	ナデ	瘤：4単位。形状不明。 口径：6.4 cm。 器高：12.4 cm。 底径：2.2 cm。容量：680cc。
83	1	V S-217	IV a	117 160 161 166	注口	瘤A（縦刻）→LR→沈線→ミガキ	ナデ	口縁突起：大（内刻）1：小（内刻）2の割合。各4単位。 瘤：4単位。 口径：6.8 cm。 器高：13.8 cm。 底径：2.5 cm。 容量：650cc。

図番	出土地点	層位	取上番号	器種	外面	内面	備考	
83	2	VI A-217	IV a	21	注口	瘤A?→沈線→ミガキ	ナデ	瘤：4単位。輪積痕：2.0～2.5cm。 口径：6.4cm。 器高：13.5cm。 底径：4.5cm。 容量：820cc。
	3	V P-224	IV a	63(17)	注口	瘤A(無刻)・下書 沈線→LR・RL→沈線 ・ミガキ→アスファ ルト付着	ナデ→ミガキ	口縁突起：無刻。4単位。 瘤：4単位。 輪積痕：1.5～2.0cm。 口径：6.2cm。器高：14.8cm。 底径：2.8cm。容量：1,000cc。
	4	VI S-217	IV a	94	注口	瘤A(無刻)→下書 沈線→LR・RL→沈線 ・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：大(頂部～外刻)1：小(頂部刻)1の割合。 各4単位。 瘤：4単位。 輪積痕：2.0cm。 口径：6.6cm。 器高：14.5cm。 底径：2.0cm。容量：570cc。
	5	VI B-216 VI B-217	IV a	89	注口	瘤A(無刻)→LR・ RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：無刻。 瘤：4単位か。 口径：6.8cm。 器高：13.8cm。 底径：4.0cm。 容量：770cc。 アスファルト付着(注口部)
	6	V S-217	IV a	155	注口	瘤A(縦刻)→沈線 →ミガキ→アスファ ルト付着	ナデ→ミガキ	口縁突起：大(内刻)1：小(内刻)1の割合。各4単位。 瘤：6単位か。 口径：7.7cm。 器高：14.4cm。 底径：4.0cm。 容量：570cc。
	7	V S-217	IV a	105 116	注口	瘤A(無刻)・下書 沈線→LR・RL→沈線 ・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：無刻。8単位。 瘤：4単位か。 口径：7.8cm。 器高：11.9cm。 底径：2.2cm。 容量：480cc。
	8	VI A-215 VI B-216 VI B-215	IV a直上 (砂層) IV a	65	注口	瘤A(縦刻)→RL→ 沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：無刻か。4単位か。瘤：4単位か。 口径：6.0cm。 器高：13.2cm。 底径：2.0cm。 容量：570cc。
	84	1	V S-217	IV a直上 (砂層)	117	注口	瘤A(無刻)・下書 沈線→LR・RL→沈線 ・ミガキ	ナデ
2		V T-219	IV a	110 145	注口	瘤A(無刻)→LR・ RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：無刻。8単位か。 瘤：4単位。 輪積痕：1.6cm。 口径：9.2cm。 器高：18.2cm。 底径：4.0cm。容量：2,800cc。
3		V S-217	IV a	115 116	注口	瘤A(無刻?)・下 書沈線→LR・RL→沈 線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：無刻。8単位。 瘤：4単位か。 輪積痕：1.6cm。 口径：9.6cm。 器高：22.7cm。 底径：3.0cm。 容量：4,200cc。
4		V T-216 VI A-216	IV a	45	注口	LR・RL→沈線・ミガ キ	ナデ→ミガキ	口縁突起：頂部刻。 瘤：8単位以上。 口径：13.2cm。
5		VI A-217	IV a	31	注口 (台付)	瘤A(無刻)→LR・ RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：内刻。4単位。 瘤：4単位。注口部は大。 輪積痕：1.5cm。 口径：11.2cm。 器高：16.0cm。 台部径：5.6cm。容量：1,100cc。
6		V S-217	IV a	107 118 166 185	注口 (台付)	瘤A(縦刻・無 刻)→LR→沈線→刺 突→沈線・ミガキ→ 赤色顔料・アスファ ルト付着	ナデ→ミガキ	瘤：4単位。 底径：5.5cm。
85	1	V S-217	IV a	102	注口	瘤A(横刻・無刻)・ 下書沈線→LR→沈 線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起：内刻。8単位。 瘤：3単位(頸部)・4単位(胴部)。 口径：6.7cm。 器高：14.3cm。 底径：2.0cm。 容量：650cc。
	2	V S-216	IV a	167 114	注口	瘤A(縦刻)・下書 沈線→LR・RL→沈線 ・ミガキ	ナデ→ミガキ	瘤：4単位か。 底径：5.0cm。

図番	出土地点	層位	取上番号	器種	外面	内面	備考
85	3	V S-217	IV a	118	注口 瘤A(無刻(頸部・注口部)・縦刻(胴部))→LR・RL→沈線→ミガキ	ナデ	口縁突起:大(内刻)1:小(内刻)2の割合。各4単位と推定。 輪積痕:2.0cm。 口径:8.9cm。 器高:20.5cm。 底径:3.0cm。 容量:1,700cc。
	4	V S-217	IV a	104 116 151	注口 瘤A(縦刻)→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起:大(無刻)1:小(内刻)1の割合。各5単位。 瘤:4単位。 口径:9.0cm。 器高:20.6cm。 底径:3.6cm。 容量:1,900cc。
	5	V S-217	IV a	166 184 161	注口 瘤A(縦刻・無刻)・下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	口縁突起:頂部刻。8単位。 瘤:4単位。 輪積痕:1.8cm。 口径:8.4cm。 器高:23.5cm。 底径:3.0cm。 容量:2,600cc。
	6	V S-215	IV a	52	注口 瘤AかB(無刻)→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	瘤:4単位か。 輪積痕:2.5cm。 口径:9.8cm。 器高:25.2cm。 底径:4.4cm。 容量:3,800cc。
86	1	V S-217 V R-217	IV a IV a直上(砂層)	164 103 116 182	注口 瘤A(横刻・無刻)・下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ→アスファルト付着	ナデ→ミガキ	口縁突起:内刻。4単位か。瘤:4単位。 輪積痕:2.5cm。 口径:10.0cm。 器高:26.7cm。 底径:2.6cm。容量:4,200cc。
	2	V Q-220	IV a	7(17)	注口 瘤A(縦刻・穿孔)・下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ	口縁突起:頂部~内刻。4単位か。 瘤:3単位(頸部)。4単位(胴部)。胴部の後正面は無刻・横方向の穿孔。把手的。 口径:4.9cm。 器高:8.6cm。 底径:1.7cm。容量:130cc。
	3	V S-217	IV a	166 118	注口 瘤A(無刻)・下書沈線→LR→沈線・ミガキ	ナデ	瘤:4単位。 底径:4.0cm。 注口基部に貼瘤?
	4	VI B-217	IV a	12	注口 瘤A(無刻)・下書沈線?→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	瘤:4単位か。 輪積痕:1.8cm。口径:7.9cm。
	5	V S-220 V S-219 V T-218 ・219	IV a IV a覆土	13(17)	注口 瘤A(無刻)→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ	瘤:4単位。 輪積痕:2.2cm。
87	1	V Q-219	覆土	—	注口 瘤A(無刻)・沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ	瘤:4単位(注口部以外は3単位の配置)。 底径:1.2cm。
	2	VI A-216	IV a	—	注口 瘤A(縦刻)→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	瘤:4単位か。 底径:2.8cm。
	3	V S-216	IV a	113	注口 瘤A(無刻)→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ	輪積痕:2.0cm。瘤:4単位か。 底径:2.8cm。
	4	V Q-220・221 V R-221 V Q-221	IV a	—	注口 瘤A(縦刻)→LR→沈線・ミガキ	ナデ	瘤:4単位か。
	5	V S-222	IV a	8(17)	注口 瘤A(無刻)→下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ	瘤:4単位。 輪積痕:2.0cm。 底径:2.2cm。
	6	V R-221	IV a	34(17)	注口 瘤A(無刻)→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	瘤:4単位か。 輪積痕:2.0cm。 底径:2.0cm。
	7	V R-221	IV a IV a上	—	注口 瘤A(無刻)→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ	瘤:4単位か。 底径:3.0cm。
	8	V P-218・219	IV a	136	注口 瘤A(無刻)・下書沈線?→RL→ミガキ	ナデ	瘤:注口基部下。単位不明。
88	1	VI A-217	IV a	25	注口 瘤A(縦刻・横刻)→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	瘤:大(横刻)・小(縦刻)。各4単位か。 底径:2.8cm。
	2	V S-217	IV a	162 163	注口 瘤A(縦刻・無刻)・下書沈線→LR→沈線・ミガキ	ナデ	瘤:4単位か。 底径:4.0cm。
	3	V S-217	IV a	158 162	注口 瘤A(無刻)→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ	瘤:4単位か。 底径:6.0cm。
	4	V Q-223	IV a	51(17)(上部・下部)	注口 瘤A(無刻)・下書沈線→LR・RL→沈線→ミガキ	ナデ→ミガキ	瘤:4単位。 輪積痕:1.8cm。 底径:2.8cm。
	5	V T-219	IV a	140 145	注口 瘤A(無刻)・下書沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→ミガキ	瘤:4単位。 底径:5.0cm。

図番	出土地点	層位	取上番号	器種	外面	内面	備考	
89	1	V R-222	III	—	鉢 (台付)	LR・RL→沈線・ミガキ	沈線→LR・RL→ミガキ	口縁突起：内刻。4単位。 口径：8.4 cm。 器高：5.6 cm。 底径：7.8 cm。容量：30cc。
	2	V Q-219	IV a 上面	—	鉢 (台付)	沈線	ナデ→ミガキ	口縁突起：大（頂部刻）1：小（無刻）1の割合か。各4単位か。 輪積痕：1.5 cm。 口径：11.8 cm。 器高：6.8 cm。 台径：6.0 cm。 容量：100cc。
	3	VI A-217	IV a	30	鉢 (台付)	RL→沈線・ミガキ	ナデ→RL→ミガキ	口縁突起：頂部刻。各4単位か。 口径：9.8 cm。 器高：7.0 cm。 台径：8.0 cm。容量：50cc。
	4	V R-223	IV a	—	鉢 (台付)	沈線	ナデ→ミガキ？	
	5	VI A-216	IV a 直上 (砂層)	—	鉢 (台付)	沈線	ナデ→沈線	
	6	V T-216	IV a	—	鉢 (台付)	沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	ナデ→沈線→LR・RL→沈線・ミガキ	
	7	VI B-217 VI B-218	IV a	—	香炉形	瘤・沈線→LR→沈線・ミガキ	ナデ	口縁突起：頂部有刻か。 瘤：形状不明。4単位か。 口径：7.6 cm。器高：9.3 cm。台径：5.6 cm。 容量：20cc。
	8	V T-217	IV a	—	香炉形	隆帯→瘤A、沈線→LR	ナデ	口縁突起：小波状。 瘤：4単位か。
	9	V S-221	IV a	—	香炉形	沈線	ナデ	口縁突起：無刻。
	10	VI B-215 VI B-216	IV a	80 81	壺か	隆帯→瘤A（縦刻）→ 下書沈線→LR・RL→ 沈線・ミガキ	ナデ	瘤：4単位か。下部単孔土器の形状に類似。
	12	V R-222	IV a	—	鉢 (台付)	沈線→ミガキ	ナデ→ミガキ	台径：5.8 cm。
	11a	V T-219	IV a	—	鉢	沈線	沈線	口縁突起：無刻。皿状。
11b	V T-217	—	—	鉢	沈線	沈線	口縁突起：無刻。皿状。	

第19号流路跡出土土製品

図番	種別	出土地点	層位	取上番号	文様等	内面	備考	
108	1	小型土器（鉢類）	V Q-223	IV a	—	沈線→LR・RL→ミガキ	ナデ	口径4.4 cm、器高3.0 cm、底径1.8 cm
	2	小型土器（鉢類）	VI B-215	IV a	66	ナデ	ナデ	口径6.5 cm、底径2.5 cm、器高1.9 cm
	3	小型土器（鉢類）	V S-219	IV a	—	ナデ	ナデ	口径5.6 cm、底径0.6 cm、器高2.1 cm
	4	小型土器（鉢類）	V P-224	IV a	—	ナデ	ナデ	口径(5.2) cm、底径2.3 cm、器高2.2 cm
	5	小型土器（鉢類）	V S-221	IV a	198	ミガキ	ナデ	口径4.6 cm、底径2.2 cm、器高2.1 cm
	6	小型土器（鉢類）	V S-221	IV a	—	ナデ	ナデ	口径(2.3) cm、底径(1.0) cm、器高1.1 cm
	7	小型土器（鉢類）	V P-224	IV a	—	沈線文、ミガキ	ナデ	口径4.8 cm、器高(2.1) cm
	8	小型土器（注口）	V R-222	覆土	3(17)	ナデ、貼瘤3単位	ナデ	口径2.1 cm、底径1.5 cm、器高3.2 cm
	9	小型土器 (壺・注口)	V R-221	IV a	—	ナデ	ナデ	口径(2.4) cm、底径0.8 cm、器高(6.1) cm
	10	土偶	VI A-217	IV a	—	左乳房、胴部残存。胴部に縦方向、腰部に横方向の刺突列、ナデ	—	長さ(3.2) cm、幅(2.5) cm、厚さ(1.1) cm
	11	キノコ形土製品	V Q-223	IV a	—	上面中央に穿孔、中央から放射状に沈線文、同心円状に刺突	—	長さ3.1 cm、幅2.6 cm、厚さ1.0 cm、赤色顔料付着
	12	鐸形土製品	V S-221	IV b	181	頂部つまみに縦方向の刺突、つまみ下部に穿孔、表面ナデ、沈線文	ナデ	長さ(4.5) cm、幅(2.8) cm
	13	スタンプ形土製品	V R-222	IV a	—	頂部円環状、下面平坦、LR	—	長さ5.0 cm、幅2.8 cm
	14	スタンプ形土製品	V S-220	IV a	—	頂部二股、下部球形、LR・RL	—	長さ(4.6) cm、幅3.3 cm
	15	スタンプ形土製品	V S-220	IV a	—	つまみに穿孔、下面球状、ナデ	—	摩滅、長さ6.3 cm、幅3.1 cm
	16	スタンプ形土製品	—	覆土	—	沈線文、ミガキ、下面ミガキ	—	長さ5.5 cm、幅3.7 cm
	17	スタンプ形土製品	V R-223	IV	—	円錐形、上部穿孔、ナデ、下面ナデ	—	長さ5.4 cm、幅3.5 cm
	18	スタンプ形土製品	V Q-223	IV a	—	円錐状、ナデ、上下に剝落痕、下面に同心円状の沈線文、中央穿孔	—	長さ(4.5) cm、幅2.6 cm、穿孔深さ2.5 cm
	19	不明土製品	V R-220	IV	—	中空、端部欠損、開口部下貼瘤、ミガキ	—	注口か 長さ(7.4) cm、幅3.8 cm、開口部径6mm
	20	土器片利用円盤	V S-221	IV b	—	沈線文	ナデ	長さ4.1 cm、幅4.3 cm
	21	土器片利用円盤	V R・ V S-221	IV b	178	格子目文（捺糸圧痕）	ナデ	長さ3.1 cm、幅3.1 cm
	22	土器片利用円盤	VI A-215	IV	—	沈線文	ナデ	長さ3.2 cm、幅3.2 cm
	23	土器片利用円盤	—	—	—	沈線文	ナデ	長さ2.9 cm、幅2.7 cm
	24	土器片利用円盤	VI B-217	IV a	—	LR・RL	ナデ	長さ3.3 cm、幅3.4 cm
	25	土器片利用円盤	VI B-217	IV a	—	LR	ナデ	炭化物付着、長さ4.3 cm、幅3.9 cm
	26	土器片利用円盤	VI A-216	IV a	—	ナデ	ナデ	長さ4.6 cm、幅4.6 cm
	27	土器片利用円盤	V S-219	IV b	—	ナデ	ナデ	長さ7.1 cm、幅7.6 cm
	28	三角形土製品	V S-219	IV b	—	ナデ	ナデ	長さ4.5 cm、幅5.5 cm



遺構外出土土器

図番	出土地点	層位	取上番号	器種	外面	内面	備考	
138	1	V P-216	I~III	—	深鉢	口頭部(原体押圧摩滅、縦位隆帯)、体部(摩滅)	ナデ	胎土に繊維含む、前期末葉(円筒下層d)
	2	V T-228	VI	—	深鉢	平口縁、口唇部(LR)、体部(結束羽状)	ミガキ	胎土に繊維含む、前~中期
	3	VI B-219	I	—	深鉢	横位平行沈線、RL横	ナデ	中期か
	4	V S-210	IV b~V	1	深鉢	平口縁、突起、口縁に沿ってRL原体押圧、粘土紐貼付、突起部分・胴部との境に粘土紐円形貼付、粘土紐上にRL原体押圧施文	ミガキ(摩滅)	口径(28.0)cm、器高(24.5)cm、後期初頭(牛ヶ沢)
	5	V S・V T-210	IV相当 IV b~V	1	深鉢	RL	ナデ	後期初頭(牛ヶ沢)
	6	V T・V S・VI A-210	IV相当 IV b~V IV b相当	1	深鉢	平口縁、突起(4単位)、粘土紐貼付、突起部分ループ状、粘土紐上刺突、区画内沈線文(×状)、沈線間に縄文充填、ナデ	ナデ	口径30.4cm、器高(35.0)cm、後期初頭(牛ヶ沢)
	7	V S-210	IV b~V	1	深鉢	LR?(摩滅)	ナデ	口径28.5cm、器高(28.8)cm、後期初頭(牛ヶ沢)
	8	V Q-213 付近	IV b	—	深鉢	微隆帯、楕円形文	ナデ	後期前葉(十腰内I)
	9	V P-214	IV a	—	深鉢・鉢	沈線(横2条)、RL横	ナデ	後期前葉
	10	V K-214	IV b主体付近	—	深鉢・鉢	沈線(横3条)、条線(縦)	ナデ	後期前葉
	11	V Q-213 付近	IV b	—	鉢	LR横、沈線	ナデ	底径(5.5)cm、晩期

陶磁器等観察表

図番	出土地点	層位	取上番号	種別	器種	外面	内面	外底面	備考	時期	
148	1	SD35	覆土	1	珠洲	播鉢	ロクロナデ	ロクロナデ、卸目(8条/2.0cm)	静止糸切	器高(8.8)cm、還元やや軟質焼成	珠洲III~IV期
	2	SD40 V P-216	I	1	青磁	碗	施釉	施釉	高台部施釉	龍泉窯系D-2類 底径5.2cm、器高(2.6)cm	15世紀
	3	遺構外	表採	—	珠洲	播鉢	ロクロナデ	ロクロナデ、卸目	—		珠洲IV~V期

羽口観察表

図番	出土地点	層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備考	
148	5	VI A-210	IV相当	13.8	12.0	6.3	446.4	先端部、ガラス質に溶解、内径2.7cm

鉄滓観察表

図番	出土地点	層位	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	磁着度	メタル度	
148	4	SD42	黒色土	鍛冶滓	6.0	8.1	4.2	116.5	6	H

出土石器観察表

図	番	器種	石材	細分	遺構名	S No.	グリッド	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
14	1	石鏃	珪 頁	凹基	SK192			覆土	22	17	40	0.9	
	2	両極剥片	玉髓珪		SK192			覆土	41	39	24	32.5	
	3	台石	デイト		SK192			覆土	(234)	(191)	80	3234.8	破断面の両面から打撃痕有。
	4	石匙	珪 頁	B: 横型	SK193			覆土	53	44	11	17.5	
	5	石錐	玉髓珪	A	SK193			覆土	30	6	5	1.3	
	6	玉石	玉 随		SK193			覆土	28	17	9	5.4	
	7	磨石	安山岩		SK193			覆土	105	84	45	580.6	
	8	凹石・敲石	凝灰岩	ホミ	SK193			覆土	122	109	48	737.6	凹み(1面)。
	9	台石	デイト		SK193	2		覆土	292	158	37	2218.6	完形品。
	10	台石	安山岩		SK193	3		覆土	(278)	(273)	36	1058.1	738・740と接合。ハツ品、連続する打撃痕。
	11	台石	デイト		SK193	1		覆土	284	234	37	2804.8	完形品。
15	1	両極剥片	玉髓珪		SK195			覆土	45	37	11	20.8	
	2	磨石・敲石	デイト		SK195	2		覆土	119	85	62	826.5	
	3	石鏃	珪 頁	有茎	SK210			覆土	40	16	5	2.9	先端欠損。
	4	スレイパー	珪 頁	A1	SK210			覆土	68	48	12	38.6	黒色物質。
	5	スレイパー	玉髓珪	A1	SK210			覆土	61	37	14	23.2	光沢。
	6	スレイパー	珪 頁	A1	SK210			覆土	91	48	18	38.1	
	7	スレイパー	珪 頁	B2	SK210			覆土	82	68	23	62.4	光沢。
114	1	石鏃	珪 頁	尖基	19号流		VI A-220	IV b	57	14	9	5.7	槍?
	2	石鏃	玉髓珪	尖基	19号流		V R-221	IV a	40	13	6	2.0	先端欠損。
	3	石鏃	玉髓珪	尖基	19号流		VI B-216	IV a	21	6	4	0.6	
	4	石鏃	玉髓珪	尖基	19号流		V R-221	IV a	20	8	4	0.5	
	5	石鏃	玉髓珪	尖基	19号流		A ベルト	IV a-1	(21)	8	3	0.6	先端欠損。
	6	石鏃	玉髓珪	尖基	19号流		VI A-216	IV a	24	10	5	1.3	
	7	石鏃	玉髓珪	尖基	19号流		VI B-217	IV a	16	9	3	0.5	黒色物質。
	8	石鏃	玉髓珪	円基	19号流		VI A-219	IV a	(15)	12	3	0.5	先端欠損。
	9	石鏃	玉髓珪	円基	19号流		VI A-218	IV a	18	13	3	0.8	
	10	石鏃	玉髓珪	尖基	19号流		V Q-220・221	IV a	26	16	6	1.7	未製品?
	11	石鏃	玉髓珪	尖基	19号流		不明	IV a	28	18	7	2.9	先端欠損。
	12	石鏃	玉髓珪	尖基	19号流		V S-220	IV a	32	19	7	3.2	未製品?
	13	石鏃	玉髓珪	尖基	19号流		不明	IV a	17	8	2	0.3	
	14	石鏃	珪 頁	尖基	19号流		V R-223	IV a	(27)	12	5	1.2	先端欠損。
	15	石鏃	珪 頁	有茎	19号流		VI B-217	IV a	28	9	3	0.7	
	16	石鏃	珪 頁	有茎	19号流		-	IV a	28	11	5	1.2	
	17	石鏃	玉髓珪	有茎	19号流		V Q-222	IV a	(22)	11	4	0.7	先端欠損。
	18	石鏃	玉髓珪	有茎	19号流		VI B-216	IV a	20	10	3	0.6	
	19	石鏃	玉髓珪	有茎	19号流		V Q-220	IV a	(27)	12	5	0.9	先端欠損。
	20	石鏃	玉髓珪	有茎	19号流		VI A-217	IV a	(27)	12	4	1.0	先端欠損。
	21	石鏃	玉髓珪	有茎	19号流		VI B-216	IV a	(24)	11	4	0.8	先端欠損。
	22	石鏃	玉髓珪	有茎	19号流		VI B-216	IV a	(25)	10	4	1.0	基部欠損。黒色物質。
	23	石鏃	玉髓珪	有茎	19号流		VI B-217	IV a	(24)	11	4	0.8	基部欠損。
	24	石鏃	玉髓珪	有茎	19号流		VI B-216	IV a	(27)	9	3	0.7	先端欠損。
	25	石鏃	珪 頁	有茎	19号流		VI A-219	IV a	38	10	6	1.8	
	26	石鏃	玉髓珪	有茎	19号流		VI B-216	IV a	31	11	4	1.2	
	27	石鏃	玉髓珪	ハツ品	19号流		VI B-216	IV a	(23)	10	5	1.0	先端・基部欠損
	28	石鏃	玉髓珪	ハツ品	19号流		VI B-218	IV a	(21)	11	3	0.7	黒色物質、基部欠損
	29	石匙	玉髓珪	A: 縦型	19号流		VI B-216	IV a	43	22	9	6.0	
	30	石匙	玉髓珪	A: 縦型	19号流		VI A-217	IV a	46	16	6	3.1	
	31	石匙	珪 頁	A: 縦型	19号流		V Q-223	IV a	54	23	10	8.3	光沢。
	32	石匙	珪 頁	A: 縦型	19号流		VI A-215	IV a	102	36	13	35.2	
	33	石匙	珪 頁	A: 縦型	19号流		VI B-216	IV a	81	34	13	35.6	
	34	石匙	珪 頁	A: 縦型	19号流	129	VI A-219	IV a	80	51	11	32.5	
115	1	石匙	珪 頁	A: 縦型	19号流		-	IV a	68	24	12	17.1	
	2	石匙	珪 頁	A: 縦型	19号流		V Q-223	IV a	75	29	17	18.0	
	3	石匙	珪 頁	A: 縦型	19号流		V Q-223	IV a	83	39	11	29.6	黒色物質、光沢。
	4	石匙	珪 頁	A: 縦型	19号流		V S-221	IV a	67	34	10	24.1	黒色物質、光沢。
	5	石匙	珪 頁	A: 縦型	19号流		V P-224	IV a	63	38	10	16.3	黒色物質、光沢。
	6	石匙	珪 頁	A: 縦型	19号流		V Q-223	IV a	71	28	12	21.9	黒色物質、光沢。

図	番	器種	石材	細分	遺構名	S No.	グリッド	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
115	7	石匙	玉髓珪	A: 縦型	19号流	212	V Q-217	IV a	56	30	11	12.3	
	8	石匙	珪 頁	A: 縦型	19号流		V S-220	IV a	48	19	7	3.7	
	9	石匙	玉髓珪	A: 縦型	19号流		VI B-217	IV a	35	16	5	2.3	ニチュア?
	10	石匙	玉髓珪	A: 不明	19号流		V R-223	IV a	(53)	25	13	14.9	破損品。
	11	石匙	珪 頁	B: 縦型	19号流		V Q-224	IV a	67	23	13	13.4	黒色物質。
	12	石匙	珪 頁	B: 縦型	19号流		V S-221	IV a	51	26	8	8.0	黒色物質、光沢。
	13	石匙	珪 頁	A: 斜型	19号流		VI A-219	IV a	62	28	7	7.8	
	14	石匙	珪 頁	A: 斜型	19号流		V Q-223	IV a	65	36	14	21.1	
116	15	石匙	珪 頁	A: 斜型	19号流		V R-222	IV a	61	41	12	17.5	黒色物質。
	1	石匙	珪 頁	A: 斜型	19号流		V S-220	IV a	73	30	13	17.5	光沢。
	2	石匙	玉髓珪	A: 斜型	19号流		V Q-222	IV a	45	35	9	12.1	光沢。
	3	石匙	珪 頁	A: 斜型	19号流		V Q-223	IV a	54	42	14	23.0	光沢。
	4	石匙	玉髓珪	A: 斜型	19号流		V P-221	IV a	54	43	11	24.2	
	5	石匙	玉髓珪	B: 斜型	19号流		V S-221	IV a	23	16	3	0.9	超小型、石製品か?
	6	石匙	玉髓珪	B: 斜型	19号流		VI B-216	IV a	26	23	5	2.6	小型。
	7	石匙	珪 頁	B: 斜型	19号流	203	V S-217	IV a	66	47	14	20.0	黒色物質。
	8	石匙	玉髓珪	B: 斜型	19号流		VI A-216	IV a	57	51	15	28.6	光沢。
	9	石匙	珪 頁	B: 斜型	19号流		V S-221	IV a	72	44	10	23.9	黒色物質。
	10	石匙	玉髓珪	B: 斜型	19号流		VI B-216	IV a	65	43	13	32.9	光沢。
	11	石匙	玉髓珪	B: 斜型	19号流		VI B-217	IV a	40	54	11	21.5	黒色物質。
	12	石匙	玉髓珪	A: 横型	19号流		-	IV a	62	42	12	23.6	光沢、黒色物質。
117	13	石匙	玉髓珪	A: 横型	19号流		VI B-216	IV a	68	48	11	25.6	光沢。
	1	石匙	珪 頁	A: 横型	19号流		V S-221	IV a	67	33	9	16.8	光沢。
	2	石匙	玉髓珪	B: 横型	19号流		VI A-217	IV a	52	31	9	9.1	
	3	石匙	珪 頁	B: 横型	19号流		VI B-217	IV a	47	(40)	12	18.2	右側一部欠損。
	4	石匙	玉髓珪	B: 横型	19号流		V R-221	IV a	(71)	32	9	11.6	黒色物質。刃部一部欠損。
	5	石匙	珪 頁	B: 横型	19号流		V S-217	IV a	49	38	10	14.4	
	6	石匙	珪 頁	B: 横型	19号流		V Q-223	IV a	83	51	9	13.1	
	7	石匙	玉髓珪	B: 横型	19号流		V Q-223	IV a	60	47	13	17.0	光沢、黒色物質。
	8	石匙	珪 頁	B: 横型	19号流		VI A-220	IV a	66	47	13	31.7	光沢。
	9	石匙	玉髓珪	B: 横型	19号流	157	V S-217	IV a	79	73	15	71.6	光沢、黒色物質。
	10	石匙	珪 頁	B: 横型	19号流		VI B-218	IV a	53	48	9	22.7	光沢、黒色物質。
	118	11	石筥	玉髓珪		19号流		V Q-223	IV a	38	29	10	9.3
12		石筥	玉髓珪		19号流		V R-223	IV a	62	39	13	18.6	基部に光沢。
1		石錐	珪 頁	A	19号流		V R-223	IV a	56	9	5	2.3	黒色物質。
2		石錐	玉髓珪	A	19号流		VI B-216	IV a	40	8	7	2.4	
3		石錐	玉髓珪	A	19号流		-	IV a	32	8	6	1.4	黒色物質。
4		石錐?	水晶?	A	19号流		-	IV a	33	8	8	2.3	
5		石錐	玉髓珪	A	19号流		VI B-216	IV a	45	12	7	3.1	黒色物質。
6		石錐	珪 頁	A	19号流		VI A-219	IV a	25	15	6	1.9	
7		石錐	玉髓珪	A	19号流		V Q-222	IV a	(44)	19	8	4.8	錐部欠損。
8		石錐	玉髓珪	A	19号流		VI B-218	IV a	54	18	12	4.6	
9		石錐	玉髓珪	B	19号流		V S-220	IV a	43	21	10	6.6	
10		石錐	玉髓珪	B	19号流		V Q-222	IV a	45	18	7	3.2	
11		石錐	玉髓珪	B	19号流		VI B-216	IV a	39	24	9	6.2	
12		石錐	珪 頁	B	19号流		VI B-217	IV a	42	25	7	4.4	黒色物質。
13		石錐	玉髓珪	B	19号流		V Q-223	IV a	37	24	9	4.5	黒色物質。
14		石錐	玉髓珪	B	19号流		VI B-218	IV a	41	25	7	1.8	
15		石錐	珪 頁	B	19号流		VI B-217	IV a	(38)	43	10	8.0	錐部欠損。
16		石錐	玉髓珪	B	19号流		V Q-224	IV a	43	27	9	5.0	
17		石錐	珪 頁	B	19号流		V P-221	III	41	32	12	8.7	
18		石錐	玉髓珪	B	19号流		V T-219	IV a	29	29	8	3.2	
19		石錐	玉髓珪	B	19号流		(トレンチ2)	IV b	46	35	15	14.9	
20		石錐	玉髓珪	B	19号流		V Q-216	IV a	55	28	9	8.1	錐部の作出弱い、光沢。
21		石錐	珪 頁	B	19号流		V P-221	IV a	57	48	12	25.0	尖端部2カ所。
22		石錐	玉髓珪	B	19号流	77	VI B-216	IV a	37	19	6	2.7	
23		石錐	玉髓珪	B	19号流		VI B-216	IV a	34	17	7	2.4	
24		石錐	玉髓珪	B	19号流	79	VI B-216	IV a	25	19	7	1.7	小型。
25	石錐	玉髓珪	B	19号流		VI B-216	IV a	21	19	5	2.3	小型。	
26	石錐	玉髓珪	B	19号流		VI A-216	IV a	21	16	6	1.4	小型。	

図	番	器種	石材	細分	遺構名	S No.	グリッド	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
118	27	石錐	玉髓珪	B	19号流		VI A-215	IV a	16	15	3	0.6	小型。
	28	石錐	玉髓珪	B	19号流		VI B-218	IV a	20	17	5	1.5	小型。
	29	石錐	玉髓珪	B	19号流		V P-224	IV a	15	10	5	0.6	小型。
	30	石錐	玉髓珪	B	19号流		VI B-217	IV a	21	13	4	1.1	小型。
119	1	スレイパ-	玉髓珪	A1	19号流		べ っ ち C	IV a-1	52	22	9	8.9	
	2	スレイパ-	玉髓珪	A1	19号流		V R-221	IV a	41	20	9	7.3	
	3	スレイパ-	珪 頁	A1	19号流		VI A-218	IV a	47	25	12	14.0	
	4	スレイパ-	玉髓珪	A1	19号流		VI B-219	IV a	45	31	12	14.8	
	5	スレイパ-	玉髓珪	A1	19号流		V Q-223	IV a	69	33	18	34.0	
	6	スレイパ-	珪 頁	A1	19号流		VI A-219 ~ 220	IV a	60	33	12	25.0	SK195 検出面。
	7	スレイパ-	珪 頁	A1	19号流		VI A-216	IV a	54	40	8	15.9	
	8	スレイパ-	玉髓珪	A1	19号流		VI B-218	IV a	51	32	13	16.5	黒色物質。
	9	スレイパ-	珪 頁	A1	19号流		V Q-223	III	47	36	12	12.4	光沢、両極剥片使用。
	10	スレイパ-	玉髓珪	A1	19号流		VI A-219	IV a	54	24	17	13.4	SK195 検出面。
	11	スレイパ-	珪 頁	A1	19号流		V S-221	IV a	60	47	14	24.9	
	12	スレイパ-	珪 頁	A1	19号流		V X-220	IV a	62	44	12	19.1	
	13	スレイパ-	珪 頁	A1	19号流		V Q-223	IV a	(83)	36	13	25.6	
	14	スレイパ-	珪 頁	A1	19号流		V R-221	IV a	91	61	22	71.8	黒色物質。
120	1	スレイパ-	珪 頁	A1	19号流		VI B-219	IV a	81	75	19	74.4	
	2	スレイパ-	珪 頁	A1	19号流		V P-224	IV a	110	41	15	53.2	
	3	スレイパ-	珪 頁	A1	19号流		VI B-219	IV a	77	59	11	43.1	光沢。
	4	スレイパ-	珪 頁	A1	19号流		V R-219	IV a	79	59	15	46.0	光沢。
	5	スレイパ-	玉髓珪	A1	19号流	84	VI B-216	IV a	99	43	14	58.5	
	6	スレイパ-	玉髓珪	A1	19号流		V S-220	IV a	74	57	18	59.7	
	7	スレイパ-	玉髓珪	A1	19号流		VI B-219	IV a	66	52	15	43.7	
	8	スレイパ-	珪 頁	A1	19号流		V Q-223	IV a	46	36	7	10.2	
	9	スレイパ-	玉髓珪	A1	19号流		V S-217	IV a	56	29	10	9.9	
	10	スレイパ-	珪 頁	A1	19号流		V S-220	IV a	68	39	13	20.4	黒色物質。
121	1	スレイパ-	珪 頁	A1	19号流		VI A-217	IV a	65	31	17	25.2	
	2	スレイパ-	珪 頁	A2	19号流		V R-220	IV a-1	46	26	10	10.5	
	3	スレイパ-	珪 頁	A2	19号流		V S-221	IV a	(45)	34	12	15.0	
	4	スレイパ-	玉髓珪	A2	19号流		V P-224	IV a	40	34	12	13.7	
	5	スレイパ-	珪 頁	A2	19号流		VI A-217	IV a	50	23	10	8.4	
	6	スレイパ-	珪 頁	A2	19号流		V T-219	IV a	(60)	37	11	19.7	
	7	スレイパ-	玉髓珪	A2	19号流		V Q-223	III	49	37	12	21.2	
	8	スレイパ-	玉髓珪	A2	19号流		V R-222	IV a	51	32	7	9.8	
	9	スレイパ-	珪 頁	A2	19号流		V Q-223	IV a	75	37	18	32.8	
	10	スレイパ-	珪 頁	A2	19号流		V Q-223	IV a	64	45	13	34.6	
	11	スレイパ-	珪 頁	A2	19号流		V R-223	III	54	47	11	17.8	
	12	スレイパ-	玉髓珪	A2	19号流		VI B-216	IV a	51	41	11	22.4	光沢。
	13	スレイパ-	珪 頁	A2	19号流	32	VI B-217	IV a	106	34	16	52.3	
	14	スレイパ-	珪 頁	A2	19号流	235	べ っ ち C	IV a-1	(102)	70	13	61.8	
122	1	スレイパ-	珪 頁	A2	19号流		V S-220	IV a	77	43	16	32.9	
	2	スレイパ-	玉髓珪	A2	19号流		V R-223	IV a	55	53	12	21.5	
	3	スレイパ-	珪 頁	A2	19号流		V Q-221	IV a	70	43	11	26.0	黒色物質。
	4	スレイパ-	珪 頁	A2	19号流		V R-219	IV a	64	59	19	54.2	
	5	スレイパ-	珪 頁	A2	19号流		V R-223	IV a	85	53	16	37.5	黒色物質。
	6	スレイパ-	珪 頁	A2	19号流		V Q-223	IV a	86	44	11	27.5	
	7	スレイパ-	珪 頁	A3	19号流		-	IV a	105	79	20	148.5	
	8	スレイパ-	珪 頁	A3	19号流		V R-220	IV a-1	84	41	12	25.4	
123	1	スレイパ-	珪 頁	A3	19号流		V Q-224	IV a	44	29	11	11.0	
	2	スレイパ-	珪 頁	A3	19号流		V Q-224	IV a	45	32	12	14.1	黒色物質。
	3	スレイパ-	玉髓珪	A3	19号流		VI B-216	IV a	40	27	11	10.8	
	4	スレイパ-	珪 頁	A3	19号流		V S-221	IV a	60	48	18	40.4	光沢。
	5	スレイパ-	珪 頁	A3	19号流		V Q-223	IV a	61	29	7	7.2	
	6	スレイパ-	玉髓珪	A3	19号流		VI A-215	IV a	67	29	15	17.8	
	7	スレイパ-	玉髓珪	B1	19号流		V T-216	IV a	62	30	12	14.4	光沢。
	8	スレイパ-	珪 頁	B1	19号流		V S-221	IV a	(63)	35	10	16.7	
	9	スレイパ-	珪 頁	B1	19号流		V T-220	IV a	41	35	9	10.1	

図	番	器種	石材	細分	遺構名	S No.	グリッド	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
123	10	スレイパー	珪 頁	B1	19号流		V Q-223	IV a	88	54	19	62.0	
	11	スレイパー	珪 頁	B1	19号流		V Q-221	IV a	85	39	16	32.4	
	12	スレイパー	珪 頁	B1	19号流		V Q-223	IV a	62	49	12	26.6	
	13	スレイパー	珪 頁	B1	19号流		V S-221	IV a	62	40	13	24.3	
124	1	スレイパー	珪 頁	B1	19号流		V Q-223	IV a	108	49	17	56.6	
	2	スレイパー	玉髓珪	B2	19号流		V S-221	IV a	34	18	8	3.3	
	3	スレイパー	珪 頁	B2	19号流		VI B-217	IV a	36	22	7	5.0	
	4	スレイパー	玉髓珪	B2	19号流		VI B-218	IV a	35	33	11	7.6	
	5	スレイパー	玉髓珪	B2	19号流		VI B-216	IV a	36	27	14	9.9	
	6	スレイパー	珪 頁	B2	19号流		V P-223	IV a	37	17	9	3.9	
	7	スレイパー	珪 頁	B2	19号流		VI B-216	IV a	47	38	11	10.6	
	8	スレイパー	玉髓珪	B2	19号流		V Q-222	IV a	46	35	10	10.3	
	9	スレイパー	玉髓珪	B2	19号流		VI A-216	IV a	45	26	12	11.4	光沢。
	10	スレイパー	珪 頁	B2	19号流		V Q-222	IV a	49	35	7	8.7	
	11	スレイパー	珪 頁	B2	19号流		V R-216	IV a	44	41	11	22.2	
	12	スレイパー	珪 頁	B2	19号流		V R-216	IV a	49	38	18	30.0	
	13	スレイパー	玉髓珪	B2	19号流		V Q-223	IV a	53	48	12	14.3	
	14	スレイパー	珪 頁	B2	19号流	150	V S-218	IV a	77	42	15	36.9	
	15	スレイパー	珪 頁	B2	19号流		V S-217	IV a	69	44	12	29.4	
125	1	スレイパー	珪 頁	B2	19号流		V Q-223	IV a	64	41	10	16.5	
	2	スレイパー	珪 頁	B2	19号流		VI B-217	IV a	58	36	14	18.1	
	3	スレイパー	珪 頁	B2	19号流		VI A-216	IV a	59	46	10	18.9	
	4	スレイパー	珪 頁	B2	19号流		V R-223	IV a	102	59	16	64.3	
	5	スレイパー	玉髓珪	B3	19号流		VI B-218	IV a	53	31	16	10.6	
	6	スレイパー	玉髓珪	B3	19号流		VI B-218	IV a	38	24	10	8.4	
	7	スレイパー	珪 頁	B3	19号流		VI A-219	IV a	50	44	17	20.9	光沢、黒色物質。
	8	両極剥片	玉髓珪		19号流		V R-223	IV a	24	16	9	3.7	
	9	両極剥片	玉髓珪		19号流		V S-221	IV a	31	19	7	4.4	ピエス?
	10	両極剥片	玉髓珪		19号流		V R-221	IV a	27	22	9	5.0	
	11	両極剥片	玉髓珪		19号流		VI A-216	IV a	35	19	10	7.0	光沢。
	12	両極剥片	玉髓珪		19号流		V R-220	IV a	30	28	10	9.6	
	13	両極剥片	玉髓珪		19号流	178	V S-217	IV a	34	38	13	16.0	黒色物質。
	14	両極剥片	玉髓珪		19号流		VI B-217	IV a	42	33	14	20.2	
	15	両極剥片	玉髓珪		19号流		V Q-223	IV a	40	31	20	23.9	
	16	両極剥片	玉髓珪		19号流		VI B-219	IV a	37	36	11	13.7	SK192 検出面。
126	1	二次加工	玉髓珪		19号流		VI B-216	IV a	25	16	6	2.2	
	2	二次加工	玉髓珪		19号流		VI B-216	IV a	28	23	8	3.8	黒色物質。
	3	二次加工	玉髓珪		19号流		VI B-216	IV a	25	16	6	2.1	
	4	二次加工	玉髓珪		19号流		VI B-218	IV a	31	21	8	4.7	黒色物質。
	5	二次加工	珪 頁		19号流		V Q-223	IV a	31	25	8	3.9	
	6	二次加工	玉髓珪		19号流		V T-217	IV a	29	18	7	2.6	
	7	二次加工	玉髓珪		19号流		V R-221	IV a	36	21	10	7.3	
	8	二次加工	珪 頁		19号流		V T-218	IV a	36	25	11	9.6	光沢。
	9	二次加工	玉髓珪		19号流		V Q-223	IV a	25	28	8	4.5	
	10	二次加工	玉髓珪		19号流		V Q-223	IV a	32	24	8	6.3	
	11	二次加工	玉髓珪		19号流		V Q-222	IV a	51	33	16	17.9	
	12	二次加工	珪 頁		19号流		V S-221	IV a	43	36	12	17.4	黒色物質。
	13	二次加工	玉髓珪		19号流		V S-221	IV a	39	16	10	5.9	
	14	石核	珪 頁		19号流		VI B-219	IV a	54	68	38	96.6	
	15	石核	珪 頁		19号流		V R-223	IV a	56	34	35	97.5	
	16	石核	珪 頁		19号流		V S-221	IV b	39	41	18	34.0	
	17	石核	玉髓珪		19号流		V S-217	IV a	36	74	14	34.1	
127	1	打製石斧	珪 頁		19号流	83	VI C-216	IV a	139	71	24	182.9	縁辺：摩滅、つぶれ 黒色物質、光沢。
	2	磨製石斧	緑色岩		19号流		VI B-218	IV a	85	46	22	124.6	両刃、偏刃、刃部摩滅
	3	磨製石斧	粘板岩		19号流		VI A-215	IV a	(69)	25	10	28.1	
	4	磨製石斧	花崗閃		19号流		V S-221	IV b	(52)	48	25	77.5	敲打整形
	5	磨製石斧	花崗閃		19号流		VI A-229	IV a	100	39	23	121.9	
	6	磨製石斧	安山岩		19号流	46	V T-216	IV a	(111)	(56)	30	262.5	敲打整形
	7	磨製石斧	緑色岩		19号流		V R-223	IV a	(70)	32	15	52.3	

図	番	器種	石材	細分	遺構名	S No.	グリッド	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
128	1	磨石	デ 伊 卜		19号流	198	VI B-216	IV a	110	80	61	687.4	
	2	磨石	安山岩		19号流	31	VI B-217	IV a	103	83	70	834.4	
	3	磨石	安山岩		19号流	38	VI B-216	IV a	105	89	70	902.1	
	4	磨石	凝灰岩		19号流	6	VI B-218	IV a	118	83	63	884.6	
	5	磨石	安山岩		19号流		VI A-215	IV a	128	73	48	635.8	
	6	磨石	安山岩		19号流	197	VI B-218	IV a	118	98	48	805.3	
	7	磨石	安山岩		19号流	9	VI B-218	IV a	100	84	48	455.0	
	8	磨石	黒曜石		19号流		V T-216	IV a	107	88	27	271.7	
	9	磨石	粗粒凝		19号流		V T-218	IV b	55	51	43	138.9	
	10	磨石	デ 伊 卜		19号流		V S-220	IV b-3	(72)	58	47	264.9	ハソ品、明瞭な打撃痕はなし。
	11	磨石・敲石	デ 伊 卜		19号流	71	VI B-215	IV a	103	85	57	647.2	
	12	磨石・敲石	凝灰岩		19号流	20	VI A-218	IV a	114	72	53	571.7	
	13	磨石・敲石	凝灰岩		19号流	41	VI A-217	IV a	105	82	59	738.2	
	14	磨石・敲石	安山岩		19号流	23	VI A-217	IV a	99	64	46	357.1	
129	1	磨石・敲石	安山岩		19号流	233	ベルトA周辺	IV a-1	135	97	57	937.8	
	2	磨石・敲石	デ 伊 卜		19号流	61	VI A-216	IV a	115	81	82	812.0	
	3	磨石・敲石	粗粒凝		19号流	40	VI A-217	IV a	100	89	72	802.6	
	4	磨石・敲石	デ 伊 卜		19号流	253	V T-217	IV a	100	78	55	490.9	
	5	磨石・敲石	デ 伊 卜		19号流	76	VI B-216	IV a	166	133	48	1188.9	刃の方が新しい。
	6	磨石・敲石	デ 伊 卜		19号流	57	VI A-216	IV a	(122)	(90)	43	582.8	破断面に連続する剥離痕。
	7	凹石・敲石	凝灰岩	クボミ	19号流	252	VI A-215	IV a	(123)	83	50	539.1	凹み(1面) 破断面に剥離痕。
130	1	凹石・敲石	凝灰岩	クボミ	19号流	24	VI A-217	IV a	106	88	33	275.2	凹み(2面)。
	2	凹石・敲石	緑色凝	クボミ	19号流	45	V T-216	IV a	92	71	48	435.8	凹み(2面)。
	3	凹石・敲石	凝灰岩	クボミ	19号流	69	VI A-215	IV a	110	85	65	689.0	凹み(2面)。
	4	凹石・敲石	緑色凝	クボミ	19号流	14	VI C-217	IV a	133	77	43	348.0	凹み(2面)。
	5	凹石・敲石	凝灰岩	クボミ	19号流	67	V T-214	IV a	123	88	48	587.4	凹み(2面)。
	6	凹石・敲石	デ 伊 卜	クボミ	19号流	29	VI B-217	IV a	123	103	43	453.5	凹み(2面)。
	7	凹石・敲石	凝灰岩	クボミ	19号流	222	V S-220	IV a-1	215	98	58	1910.4	凹み(1面)。
	8	凹石・敲石	凝灰岩	クボミ	19号流	145	VI A-219	IV a	103	65	38	197.9	凹み(2面)。
	9	凹石・敲石	凝灰岩	クボミ	19号流	131	VI A-219	IV a	113	72	32	381.5	凹み(3面)、端部に敲打痕。
131	1	凹石・敲石	凝灰岩	クボミ	19号流	225	V R-220	IV a-1	150	103	60	962.1	凹み(1面)、側面敲打痕。
	2	凹石・敲石	凝灰岩	クボミ	19号流	64	V S-215	IV a	145	73	35	635.7	凹み(1面)。
	3	凹石・敲石	凝灰岩	クボミ	19号流	230	V R-220	IV a-1	(105)	(99)	35	287.5	凹み(1面)ハソ品、顕著な打面はない。
	4	凹石・敲石	砂質凝	クボミ	19号流	228	V S-220	IV a-1	147	137	74	1264.6	
	5	凹石・敲石	安山岩	クボミ	19号流	17	VI B-218	IV a	140	52	31	300.1	敲打痕(2面)。
	6	凹石・敲石	安山岩	クボミ	19号流	223	V S-220	IV a-1	105	98	77	906.6	
	7	凹石・敲石	デ 伊 卜	ハンマー	19号流	X	VI A-216	IV a	50	39	27	70.7	
	8	凹石・敲石	凝灰岩	クボミ	19号流		VI B-219	IV a	132	76	36	457.7	SK193 検出面、石錘に転用。
132	1	石錘	凝灰岩		19号流	36	VI B-217	IV a	85	64	22	142.1	器面に敲打痕。
	2	石錘	デ 伊 卜		19号流		VI B-217	IV a	(89)	(74)	31	226.1	
	3	台石	凝灰岩		19号流	126	VI A-218	IV a	230	205	70	4231.2	完形品。
	4	台石	粗粒凝		19号流	X	VI A-217	IV a	230	165	72	2004.9	735 と接合。
	5	台石	デ 伊 卜		19号流	65	V T-215	IV a	(340)	(269)	47	5718.5	破断面に連続する剥離痕。
	6	台石	安山岩		19号流	47	V T-216	IV a	302	233	30	2256.4	
133	1	台石	安山岩		19号流	103	V S-217	IV a	399	278	83	12780.0	完形品。
	2	台石	安山岩		19号流	X		表採	292	176	65	3233.5	
	3	台石	安山岩		19号流	X	ベルトA	IV a-1	221	(208)	63	3168.3	破断面に連続する剥離痕。
	4	台石	デ 伊 卜		19号流	151	V Q-218	IV a	(182)	(176)	30	921.4	破断面に連続する剥離痕。
	5	台石	デ 伊 卜		19号流	138	VI A-219	IV a	(174)	125	45	1295.5	破断面に連続する剥離痕。
134	1	台石	安山岩		19号流	X	ベルトA周辺	IV c	(291)	(196)	71	5277.7	破断面に連続する剥離痕。
	2	台石	安山岩		19号流	55	VI A-216	IV a	(255)	(225)	39	2754.4	破断面に連続する剥離痕。
	3	台石	デ 伊 卜		19号流	X	VI B-217	IV a	(211)	(181)	47	2323.6	破断面に連続する剥離痕。
	4	台石	デ 伊 卜		19号流	97	VI B-215	IV a	(248)	(168)	34	1532.1	破断面に連続する剥離痕。
	5	台石	安山岩		19号流	X	VI A-210	IV a	(165)	(246)	72	3340.2	破断面に連続する剥離痕。
	6	台石	デ 伊 卜		19号流	130	VI A-219	IV a	(447)	(143)	37	997.7	破断面に連続する剥離痕。

図	番	器種	石材	細分	遺構名	S No.	グリッド	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
135	1	台石	ゲイ付		19号流	X	VI A-210	IV a	(188)	(152)	125	3417.8	破損品。機能面に黒色変化あり→被熱？。
	2	台石	凝灰岩		19号流	120	V S-218	IV a	(190)	(123)	64	1079.7	破断面に打撃痕、意図的に破壊。
	3	台石	凝灰岩		19号流	60	VI B-216	IV a	(279)	(90)	30	295.0	小型、ハツ品。
	4	石棒状製品	流紋岩		19号流	8	VI B-218	IV a	151	45	35	329.3	
	5	石棒状製品	流紋岩		19号流	X	VI B-216	IV a	(115)	50	51	464.7	ハツ品、1方向からの打撃。
	6	石棒状製品	流紋岩		19号流	X	ベルトAトレンチ	不明	(213)	67	51	1175.9	ハツ品、2方向からの打撃。
	7	石棒状製品	安山岩		19号流	X	V S-221	IV c	151	59	59	243.3	706と接合。
	8	石棒状製品	流紋岩		19号流	88	VI B-216	IV a	143	45	39	388.1	面の1面にだけ顕著なスリ痕。
136	1	軽石製品	軽石	ヒト形？	19号流	195	VI B-216	IV a	121	61	17	27.0	貫通孔2、三角形形状。
	2	軽石製品	軽石	ヒト形？	19号流		V R-223	IV a	84	58	15	12.6	
	3	軽石製品	軽石		19号流	251	VI A-215	IV a	86	62	37	31.2	
	4	軽石製品	軽石		19号流		VI A-219-220	IV a	(62)	41	7	10.1	SK195(遺構外扱い)
	5	軽石製品	軽石		19号流		V R-221	IV a	30	27	10	2.3	半円状の挟り。
	6	軽石製品	軽石		19号流		VI A-216	IV a	(70)	(40)	16	17.1	
	7	円盤状石製品	流紋岩		19号流	209	V S-221	IV b	27	24	19	14.5	
	8	円盤状石製品	砂岩		19号流		V S-221	IV b	32	30	11	14.9	
	9	円盤状石製品	凝灰岩		19号流		VI B-218	IV a	35	32	17	22.7	側面敲打。
	10	円盤状石製品	凝灰岩		19号流		V S-221	IV a	39	38	9	15.8	
	11	円盤状石製品	凝灰岩		19号流	229	ベルトA	IV b-2	34	30	6	8.8	
	12	球状石製品	凝灰岩		19号流	208	V R-221	IV b	31	30	29	24.1	頂部に凹痕。
137	1	石偶	玉髓		19号流		V Q-223	IV a	24	19	6	1.0	
	2	石偶	玉髓珪		19号流	149	V S-216	IV a	34	22	7	3.2	
	3	石偶	玉髓珪		19号流	4	VI A-217	IV a	62	39	12	14.0	
	4	石偶	玉髓珪		19号流	3	VI B-215	IV a	30	20	7	1.8	
	5	石偶	玉髓珪		19号流	142	VI A-219	IV a	22	8	3	0.6	
	6	玉	翡翠(硬玉)		19号流	1	VI B-216	IV a	11	11	5	0.9	片面穿孔、孔径5-3mm。
	7	玉	翡翠(硬玉)		19号流	2	VI B-216	IV a	11	10	6	0.7	片面穿孔、孔径11-4mm。
	8	軟玉製装飾品	初付(軟玉)		19号流	181	VI A-217	IV a	40	17	13	13.9	片面穿孔、孔径7mm、側面に4~5条の線刻。
	9	棒状石製品	砂岩		19号流	215	ベルトA	IV a-1	56	18	18	19.5	
	10	三角形岩版	緑色凝		19号流		V S-221	IV a	44	44	12	26.3	正三角形。
	11	石刀	片岩		19号流		V R-220	IV a	(210)	35	17	168.9	
	12	石製品	凝灰岩		19号流		VI B-218	IV a	(62)	(28)	11	14.3	石刀状。
	13	奇石	凝灰岩	雨垂れ石	19号流	7	VI B-218	IV a	95	44	20	78.9	
	14	玉石	頁岩		19号流	193	VI A-217	IV a	38	26	15	19.4	一括出土、擦痕顕著。
	15	玉石	頁岩		19号流	191	VI A-217	IV a	33	28	14	17.9	一括出土、擦痕顕著。
	16	玉石	頁岩		19号流	188	VI A-217	IV a	33	29	11	15.0	一括出土、擦痕顕著。
	17	玉石	頁岩		19号流	186	VI A-217	IV a	30	25	13	12.9	一括出土、擦痕顕著。
	18	玉石	頁岩		19号流	189	VI A-217	IV a	30	20	9	8.1	一括出土、擦痕顕著。
	19	玉石	頁岩		19号流	185	VI A-217	IV a	26	19	8	5.5	一括出土。
	20	玉石	頁岩		19号流	190	VI A-217	IV a	30	21	10	9.5	一括出土、擦痕顕著。
	21	玉石	石英安		19号流	194	VI A-217	IV a	38	32	16	25.3	一括出土。
	22	玉石	頁岩		19号流	183	VI A-217	IV a	38	31	20	29.8	一括出土。
	23	玉石	玉髓		19号流	182	VI A-217	IV a	41	27	12	15.6	一括出土。
	24	玉石	頁岩		19号流	187	VI A-217	IV a	36	24	10	12.4	一括出土。
	25	玉石	頁岩		19号流	184	VI A-217	IV a	31	25	12	12.7	一括出土。
	26	玉石	玉髓		19号流	192	VI A-217	IV a	24	19	15	8.5	一括出土。
	27	玉石	翡翠？		19号流		V S-221	IV a	17	11	9	2.2	
	28	玉石	翡翠？		19号流		V S-221	IV b	16	11	8	1.6	浅いボリ有。穿孔点か？
	29	玉石	頁岩		19号流		VI A-215	IV a	28	21	14	3.9	
148	6	台石	ゲイ付		SK205	X		覆土	(222)	(183)	82	4566.9	破断面の両面から打撃痕有。



SK192 土層断面 A-A' (SW →)



SK192 遺物出土状況 (S →)



SK192 遺物出土状況 (SE →)



SK192 完掘 (SE →)



SK193 土層断面 (E →)



SK193 図 11-3 (SE →)



SK193 完掘 (S →)



SK195 周辺 遺物出土状況 (W →)

写真1 縄文時代の土坑(1)





SK195 周辺 遺物出土状況 (NE →)



SK195 周辺 遺物出土状況 (E →)



SK195 遺物出土状況 (W →)



SK195 土層断面 (E →)



SK195 底面ピット土層断面 (E →)



SK195 完掘 (E →)



SK210 土層断面 (NW →)



SK210 完掘 (NW →)

写真2 縄文時代の土坑(2)



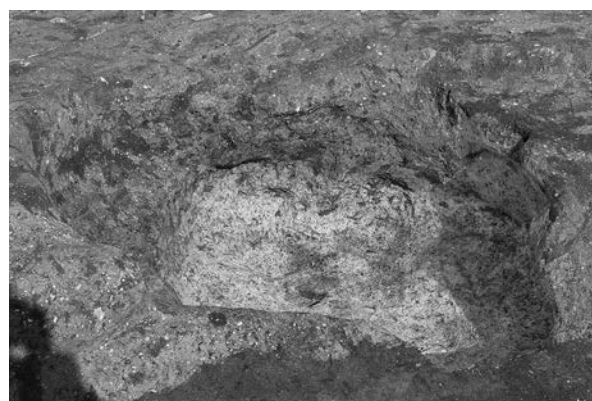
SK211 土層断面 (NE →)



SK211 完掘 (E →)



SK212 土層断面 (W →)



SK212 完掘 (W →)



流路 19・掘立柱建物跡 (NE →)

写真3 縄文時代の土坑(3)・第19号流路跡(1)



流路 19 遺物出土状況 (W →)



流路 19 遺物出土状況 [V R-221 付近] (直上→)



流路 19 遺物出土状況 [VI B-216 付近] (W →)



流路 19 遺物出土状況 [VI B-215 付近] (直上→)



流路 19 遺物出土状況 [VI B-217 付近] (W →)

写真 4 第 19 号流路跡 (2)



流路 19 遺物出土状況 [V S-217 付近] (S →)



流路 19 遺物出土状況 [V S-217 付近] (SW →)



流路 19 遺物出土状況 [V R-221 付近] (直上→)



流路 19 遺物出土状況 [V S-221 付近] (直上→)



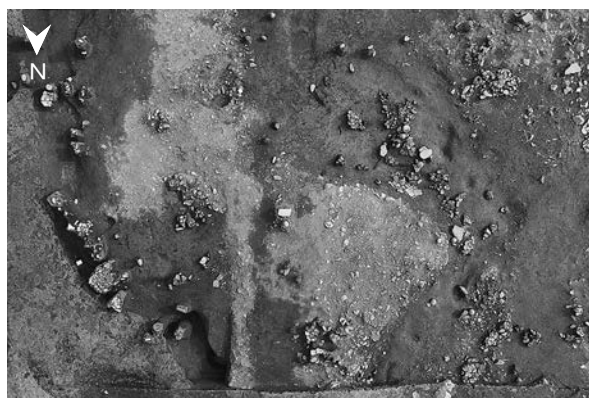
流路 19 遺物出土状況 [VI A-216 付近] (直上→)



流路 19 遺物出土状況 [VI A-219 付近] (直上→)



流路 19 遺物出土状況 [V S-217 付近] (直上→)



流路 19 遺物出土状況 [VI B-218 付近] (直上→)

写真5 第19号流路跡(3)



流路 19 遺物出土状況 [V Q-223 付近]



流路 19 遺物出土状況 [V P-224 付近]



流路 19 図 82-2 [V S-219] (W →)



流路 19 図 67-6 [VI B-217] (W →)



流路 19 図 82-1 [VI A-219]



流路 19 図 66-1 [VI A-219] (NE →)



流路 19 図 82-6 [VI A-219] (E →)

写真 6 第 19 号流路跡 (4)



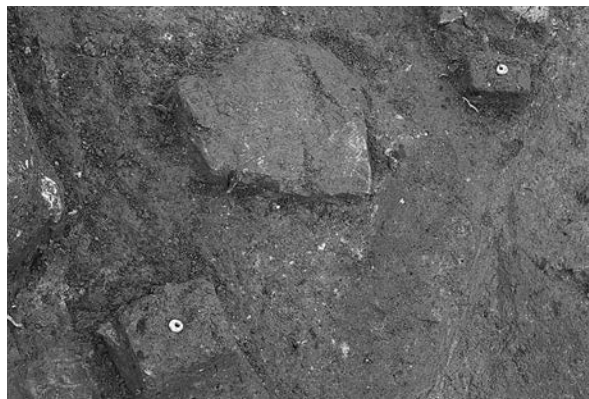
流路 19 図 36-1 [VI A-219 IV b 層]



流路 19 図 58-1 [V R-223]



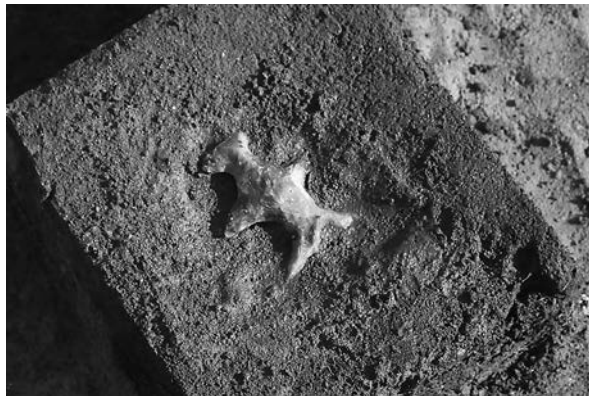
流路 19 石偶 図 137-2 [V S-216] (SW →)



流路 19 ヒスイ 図 137-6・7 [VI B-216 付近] (N →)



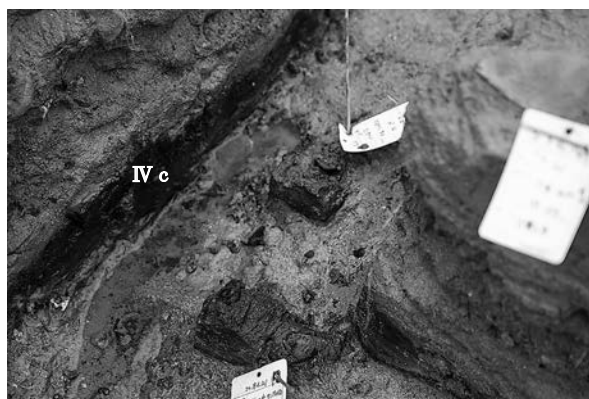
流路 19 石偶 図 137-3 [VI A-217] (NW →)



流路 19 石偶 図 137-3 [VI A-217] (NW →)

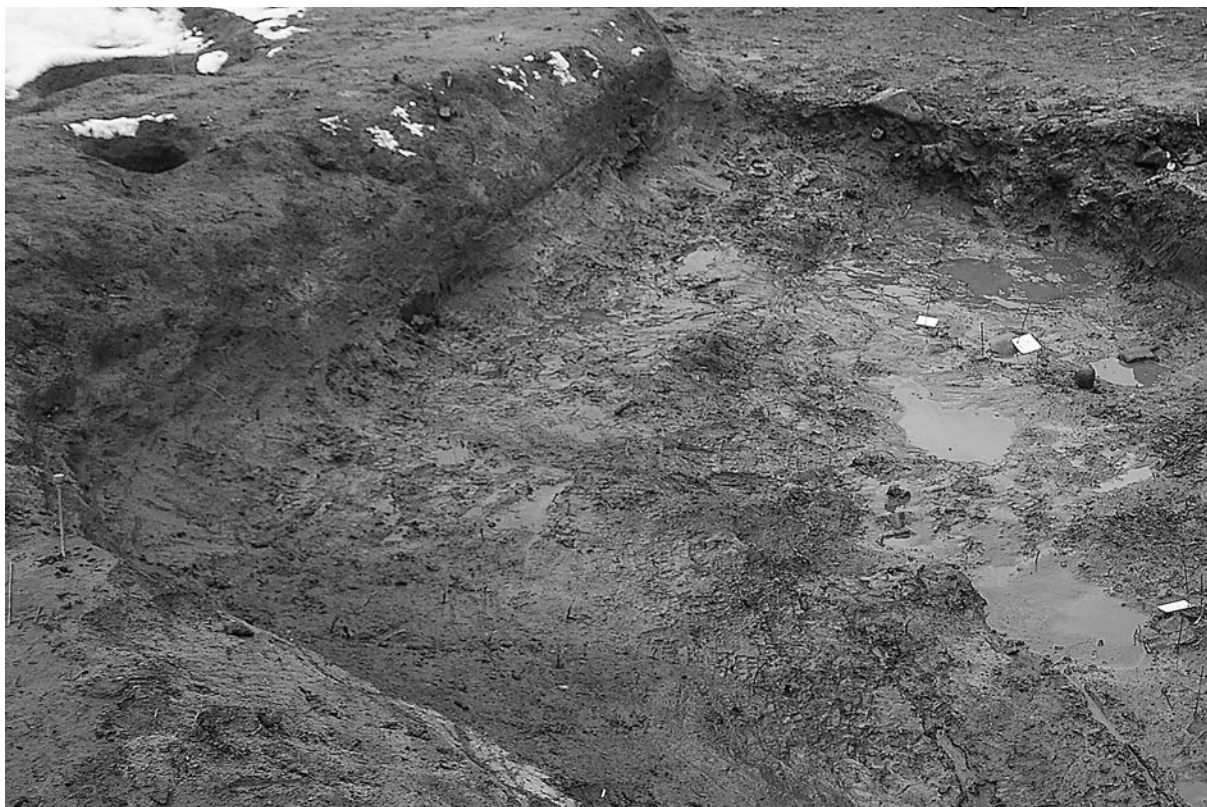


流路 19 棒状装飾品 図 137-10 [V S-221]



流路 19 第 5 章 第 1 節 分析試料出土状況 (NE →)

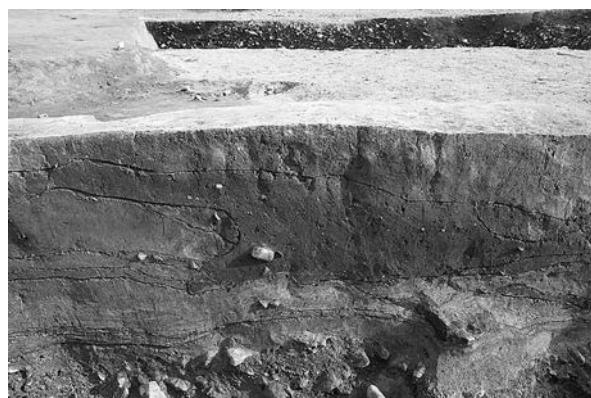
写真 7 第 19 号流路跡 (5)



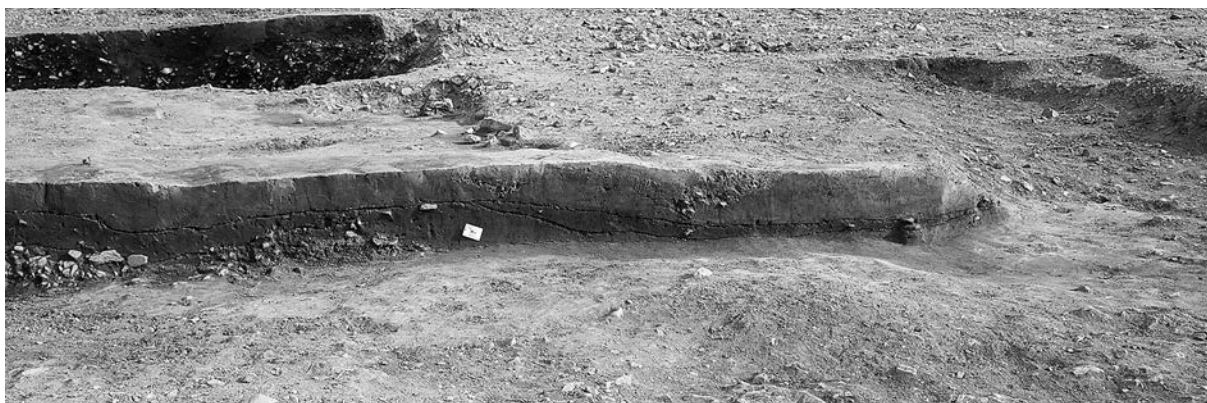
流路 19 IV c 層 [V S-221・222] (W →)



流路 19 土層断面 A-A' 北側 (NW →)



流路 19 土層断面 A-A' 中央 (NW →)



流路 19 土層断面 A-A' 南側 (NW →)

写真 8 第 19 号流路跡 (6)



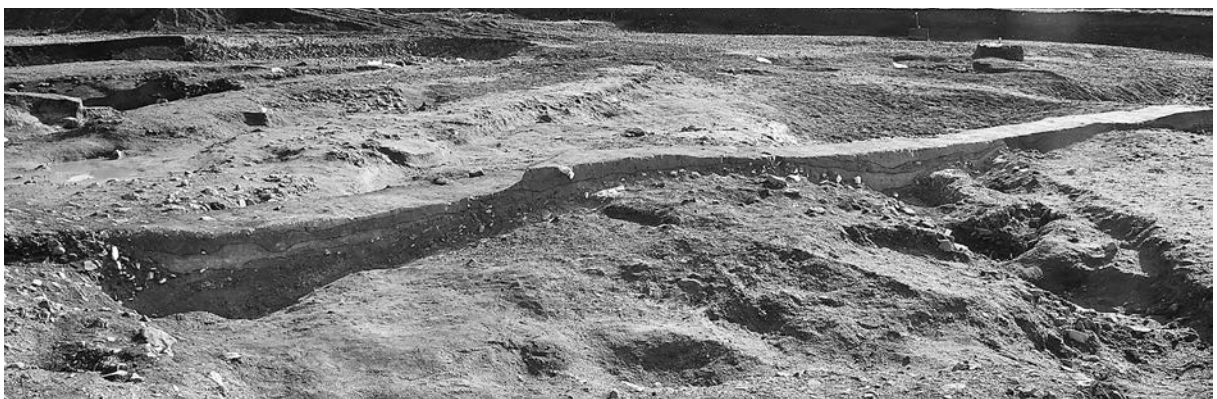
流路 19 A-A' IV a-1 下層遺物出土状況



流路 19 土層断面 C-C' (E →)



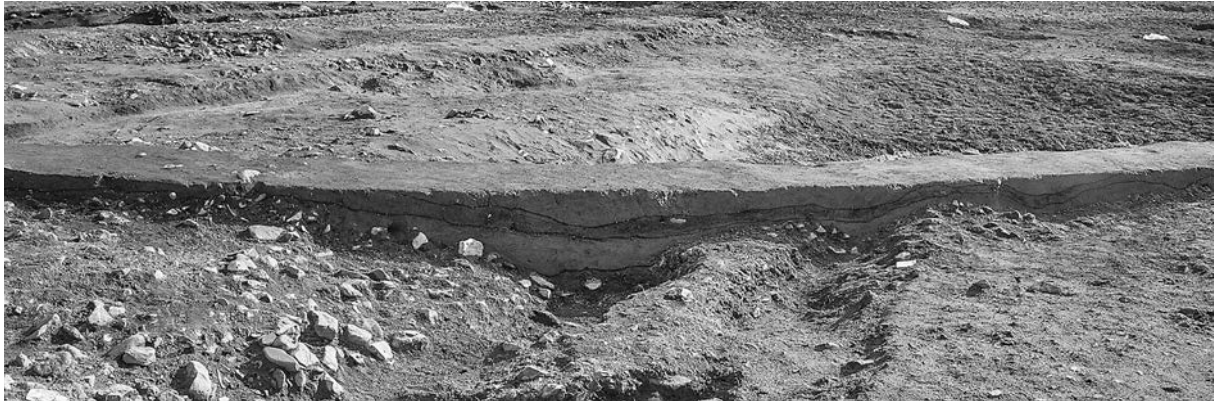
流路 19 土層断面 B-B' (W →)



流路 19 土層断面 D-D' (N →)

写真 9 第 19 号流路跡 (7)

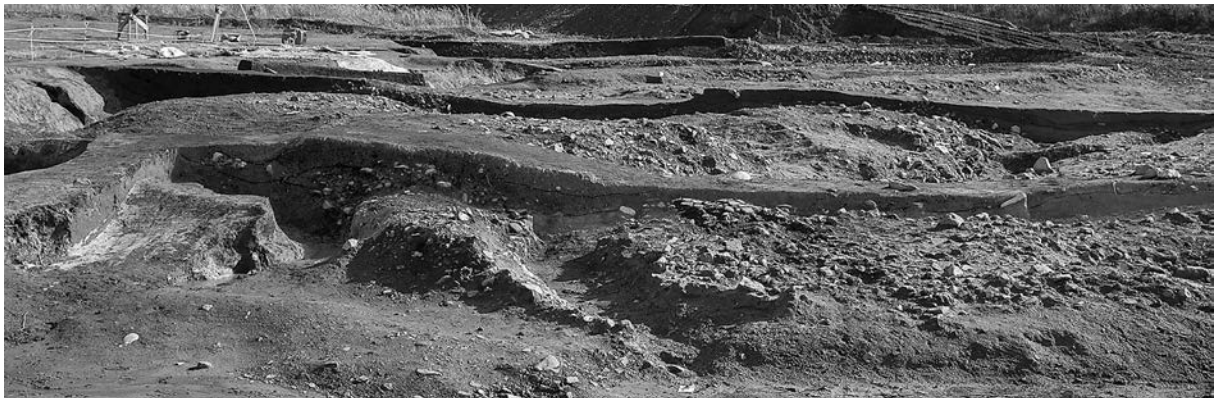




流路 19 土層断面 D-D' 中央 (NW →)



流路 19 土層断面 D-D' 北側 (NW →)



流路 19 土層断面 E-E' (NW →)



流路 19 SN05 検出 (N →)



流路 19 SN05 土層断面 (N →)

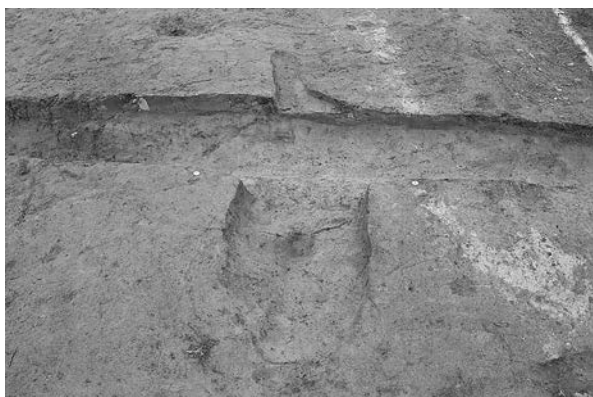
写真 10 第 19 号流路跡 (8)



SF14 確認 (E →)



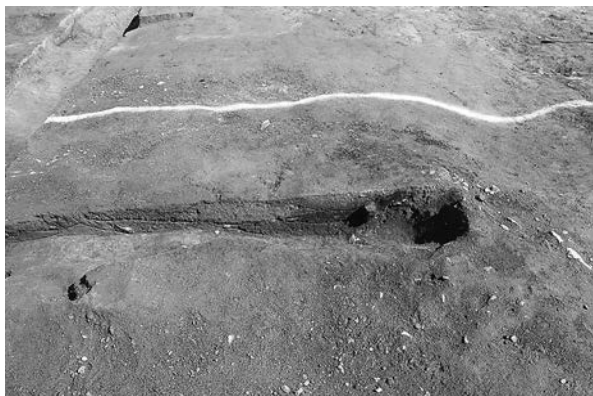
SF14 土層断面 (E →)



SF14 完掘 (W →)



SF15・16 検出 (W →)



SF15 土層断面 A-A' (S →)



SF15 完掘 (W →)

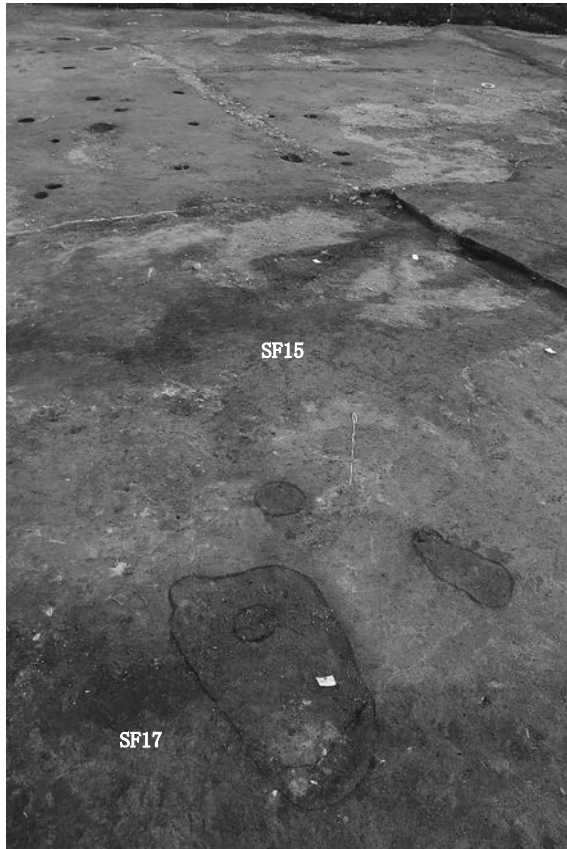


SF16 土層断面 A-A' (S →)



SF16 完掘 (W →)

写真11 カマド状遺構(1)



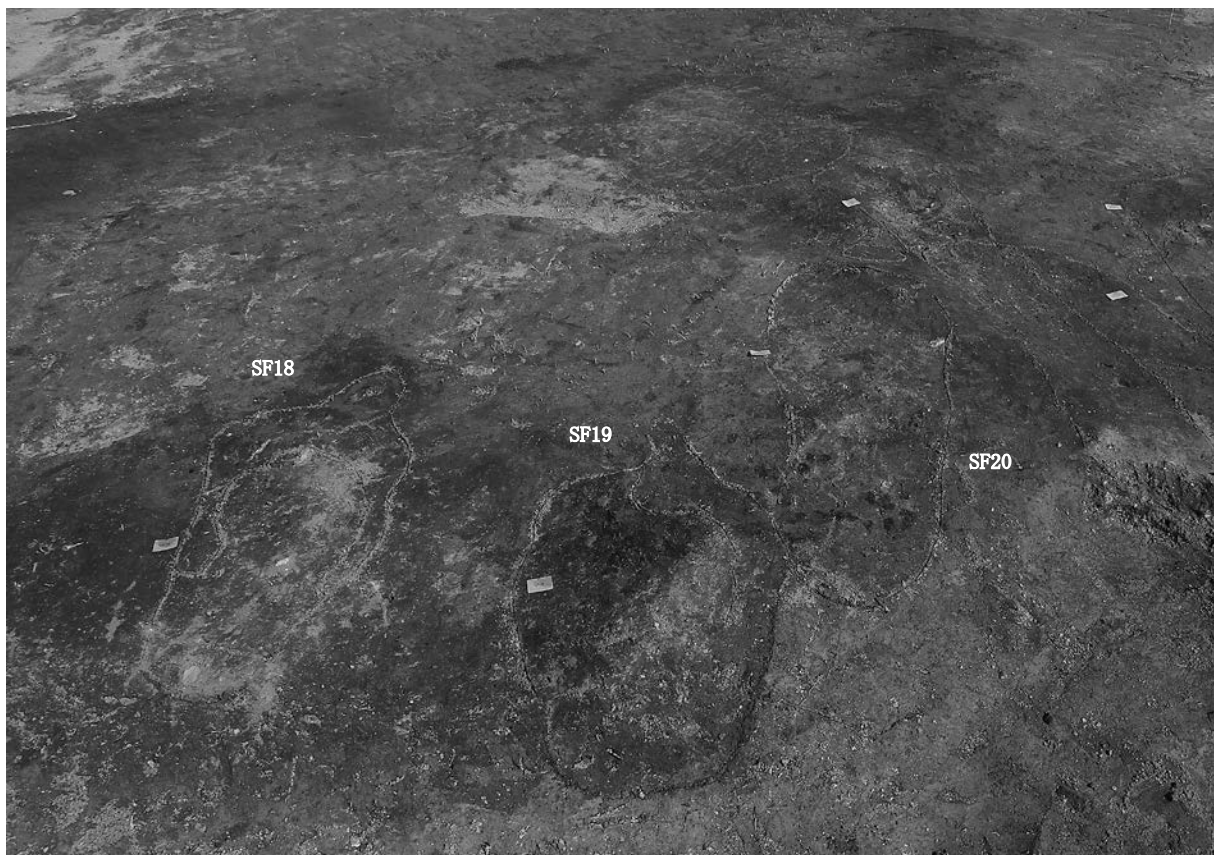
SF17 検出 (N →)



SF17 土層断面 (W →)

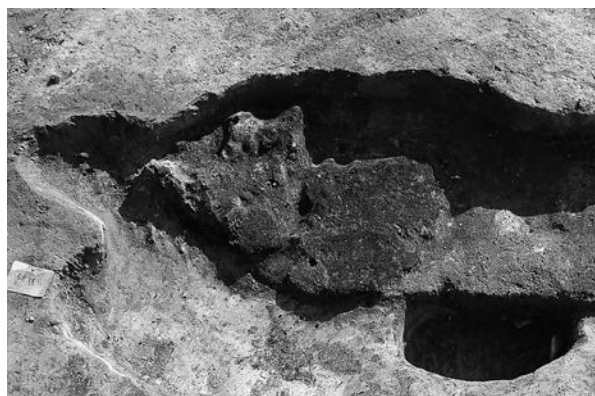


SF17 完掘 (N →)



SF18・SF19・SF20 検出 (NW →)

写真12 カマド状遺構(2)



SF18 炭化物検出 (NE →)



SF18 燃焼部検出 (NE →)



SF18 土層断面 A-A' (NE →)



SF18 土層断面 B-B' (NE →)



SF18 土層断面 C-C' (NW →)



SF19 土層断面 A-A' (NE →)



SF19 完掘 (NE →)



SF20 掛口検出 (NE →)

写真 13 カマド状遺構 (3)



SF20 土層断面 A-A' (NE →)



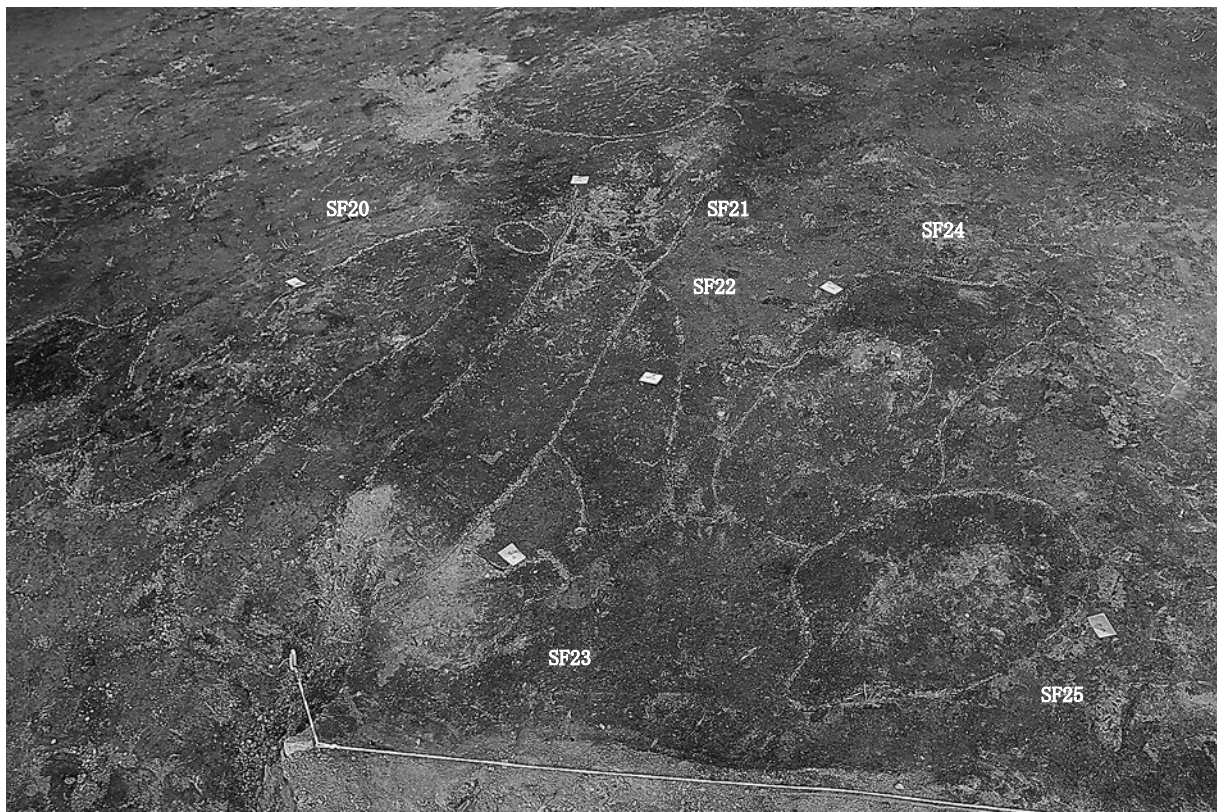
SF20 土層断面 A-A' (NE →)



SF20 土層断面 B-B' (NW →)



SF20 完掘 (NE →)



SF20 ~ 25 検出 (NW →)

写真 14 カマド状遺構 (4)



SF21 煙出検出 (W →)



SF21 土層断面 A-A' (S →)



SF21 土層断面 B-B' (SW →)



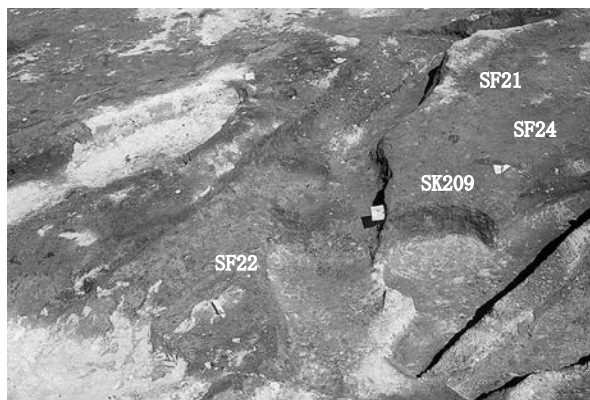
SF21 完掘 (W →)



SF21 土層断面 C-C' (W →)



SF22 土層断面 B-B' (SE →)



SF22 完掘 (SW →)

写真 15 カマド状遺構 (5)



SF23 土層断面 A-A' (SW →)



SF23 土層断面 B-B' (NW →)



SF24+SK209 土層断面 A-A' (SW →)



SF24 土層断面 A-A' (SW →)



SF24 土層断面 C-C' (NW →)



SF24 土層断面 B-B' (SW →)



SF25 土層断面 A-A' (SW →)



SF25 土層断面 C-C' (NW →)

写真 16 カマド状遺構 (6)



SF25 完掘 (SW →)



SF26・27 検出 (NE →)



SF26 土層断面 A-A' (E →)



SF26 完掘 (NE →)



SF26・27 完掘 (NE →)



SF27 土層断面 B-B' (N →)



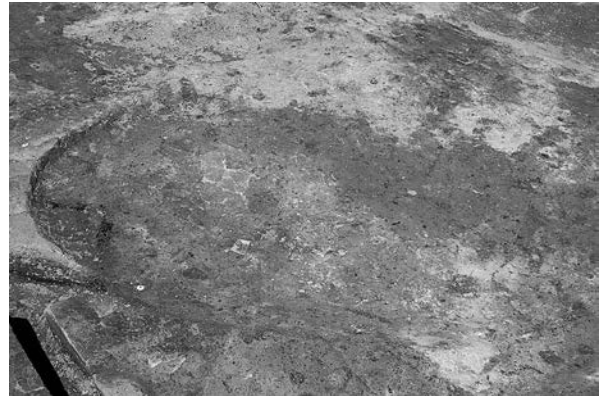
SF27 完掘 (N →)

写真17 カマド状遺構(7)





SK203 土層断面 (S →)



SK203 完掘 (S →)



SK204 土層断面 (W →)



SK204 完掘 (W →)



SK205 土層断面 (W →)



SK205 礫出土状況 (W →)



SK205 完掘 (W →)



SK206 土層断面 (W →)

写真 18 中世の土坑 (1)



SK206 完掘 (W →)



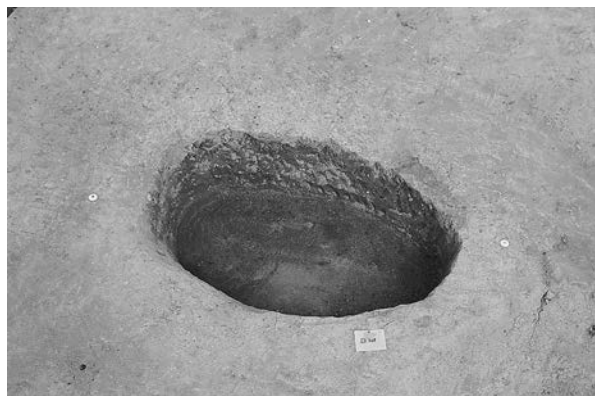
SK207・SD39 土層断面 (S →)



SK207 完掘 (S →)



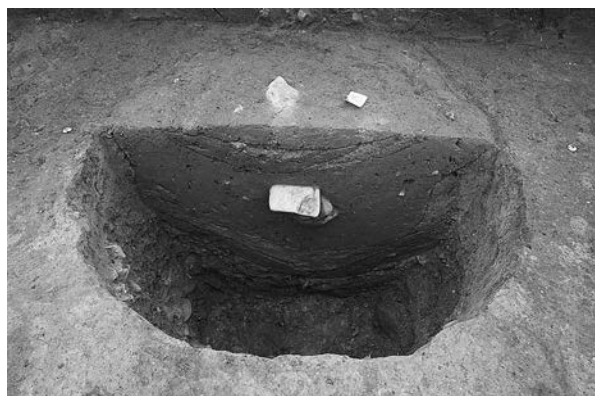
SK208 土層断面 (W →)



SK208 完掘 (W →)



SP2251 遺物出土状況 (N →)



SE03 土層断面 (E →)



SE03 完掘 (E →)

写真 19 中世の土坑 (2)・縄文時代の柱穴・井戸跡



SD 上空から



SD 上空から

写真 20 溝跡 (1)



SD34 土層断面 (SE →)



SD35 土層断面 B-B' (W →)



SD39 土層断面 A-A' (S →)



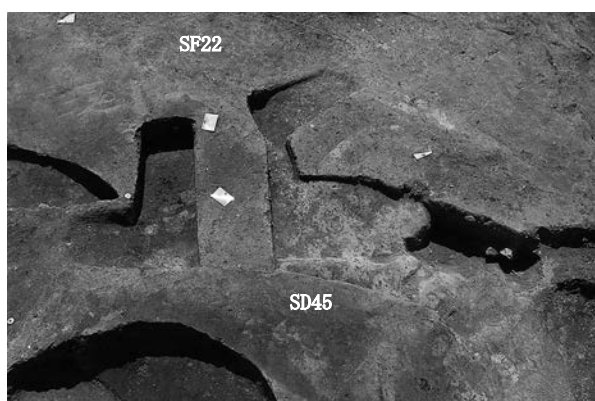
SD41 土層断面 A-A' (W →)



SD41 土層断面 B-B' (E →)



SD42 土層断面 (N →)

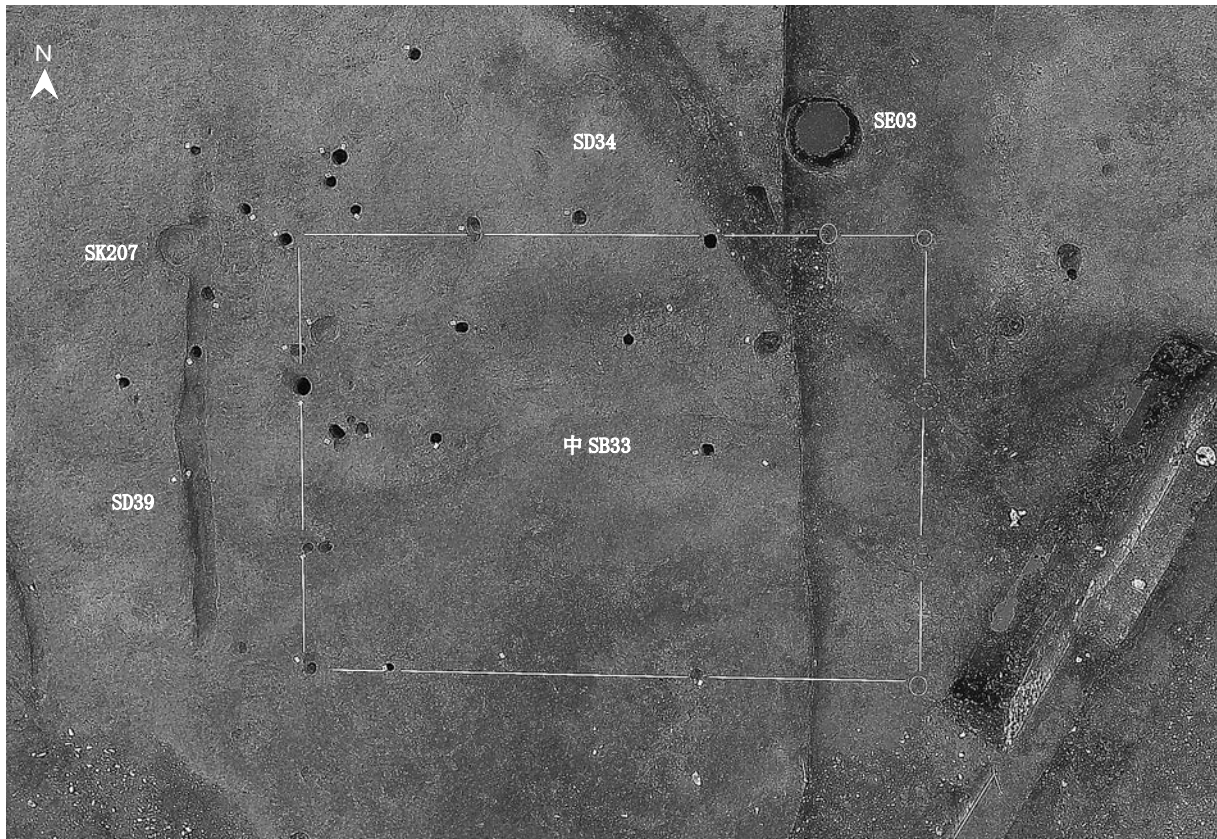


SD45 完掘 (N →)

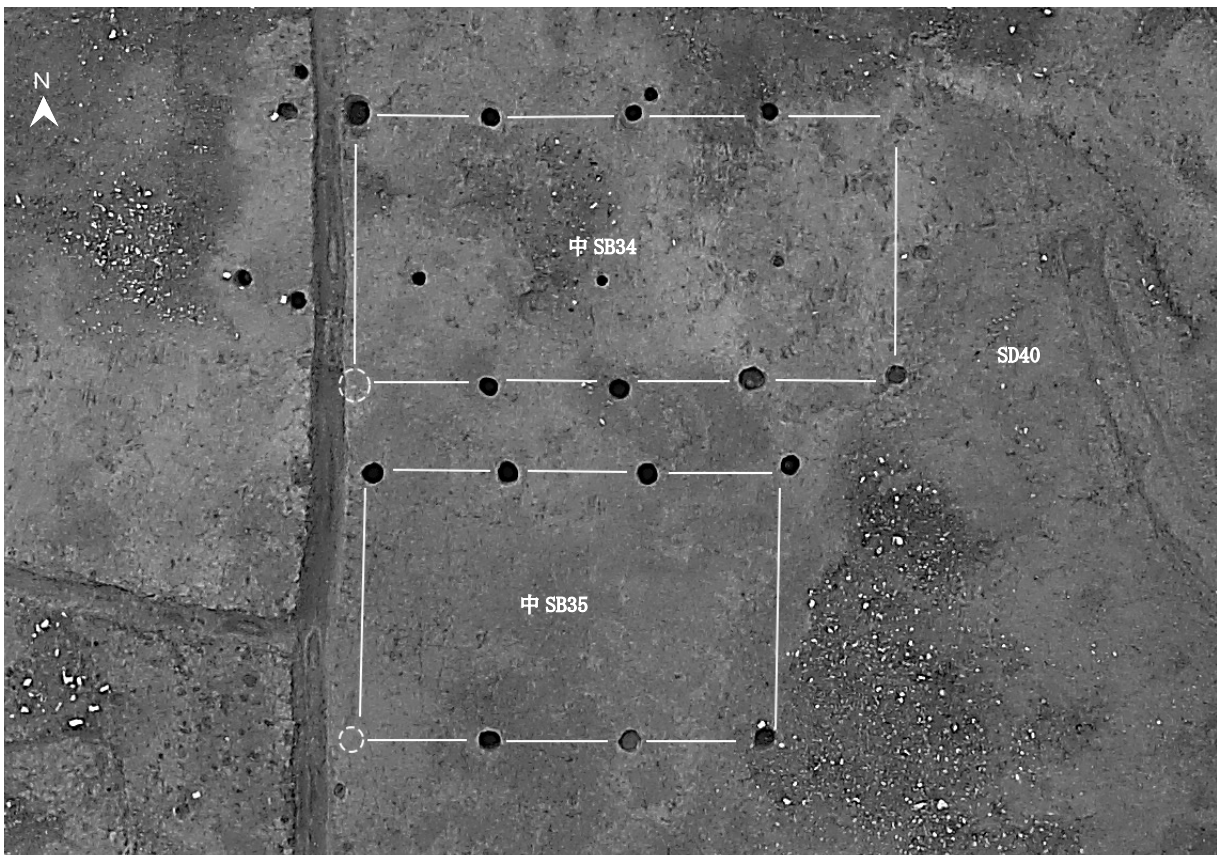


SD34 作業状況 (N →)

写真 21 溝跡 (2)



中 SB33 (上空から)



中 SB34・35 (上空から)

写真 22 掘立柱建物跡

SK192・193



11-1



11-2



11-3

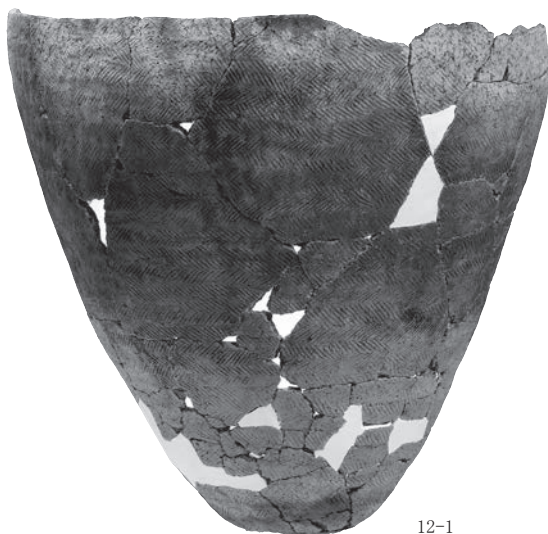


11-4a



11-4b

SK195



12-1



12-2

写真 23 縄文時代の土坑出土土器（1）

SK195



SP2251



流路 19

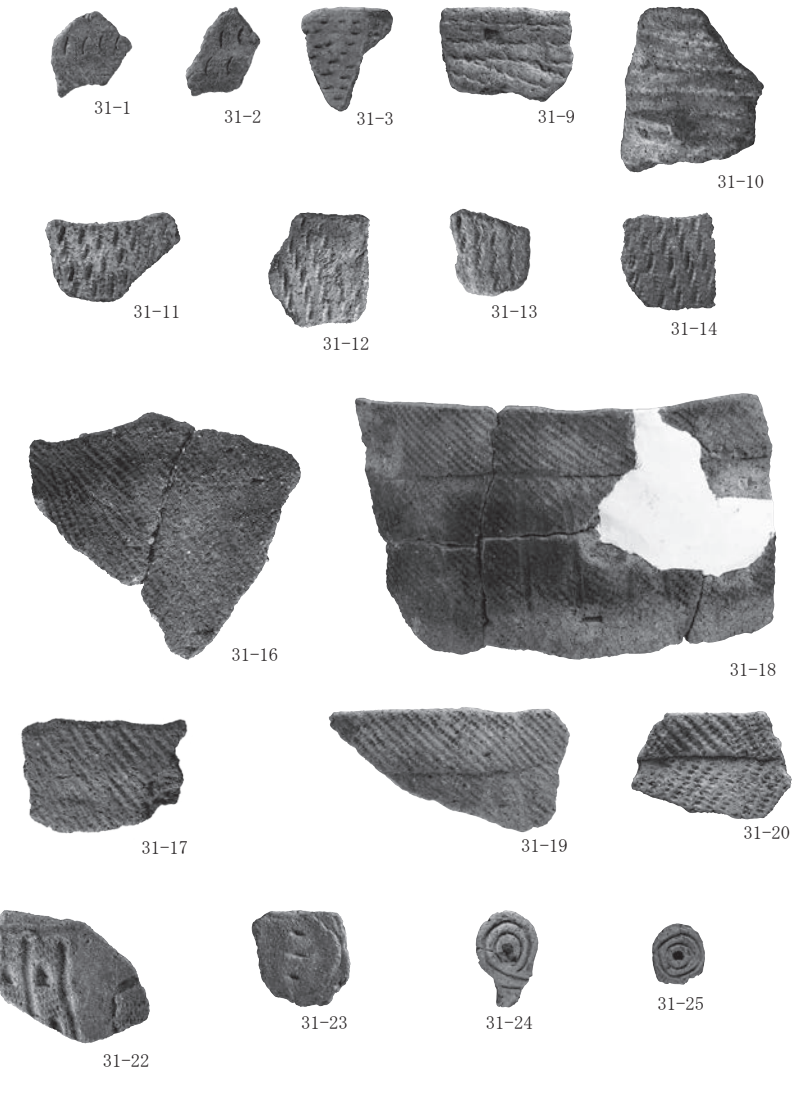


写真 24 縄文時代の土坑出土土器(2)・柱穴出土土器・第19号流路跡出土土器(1)

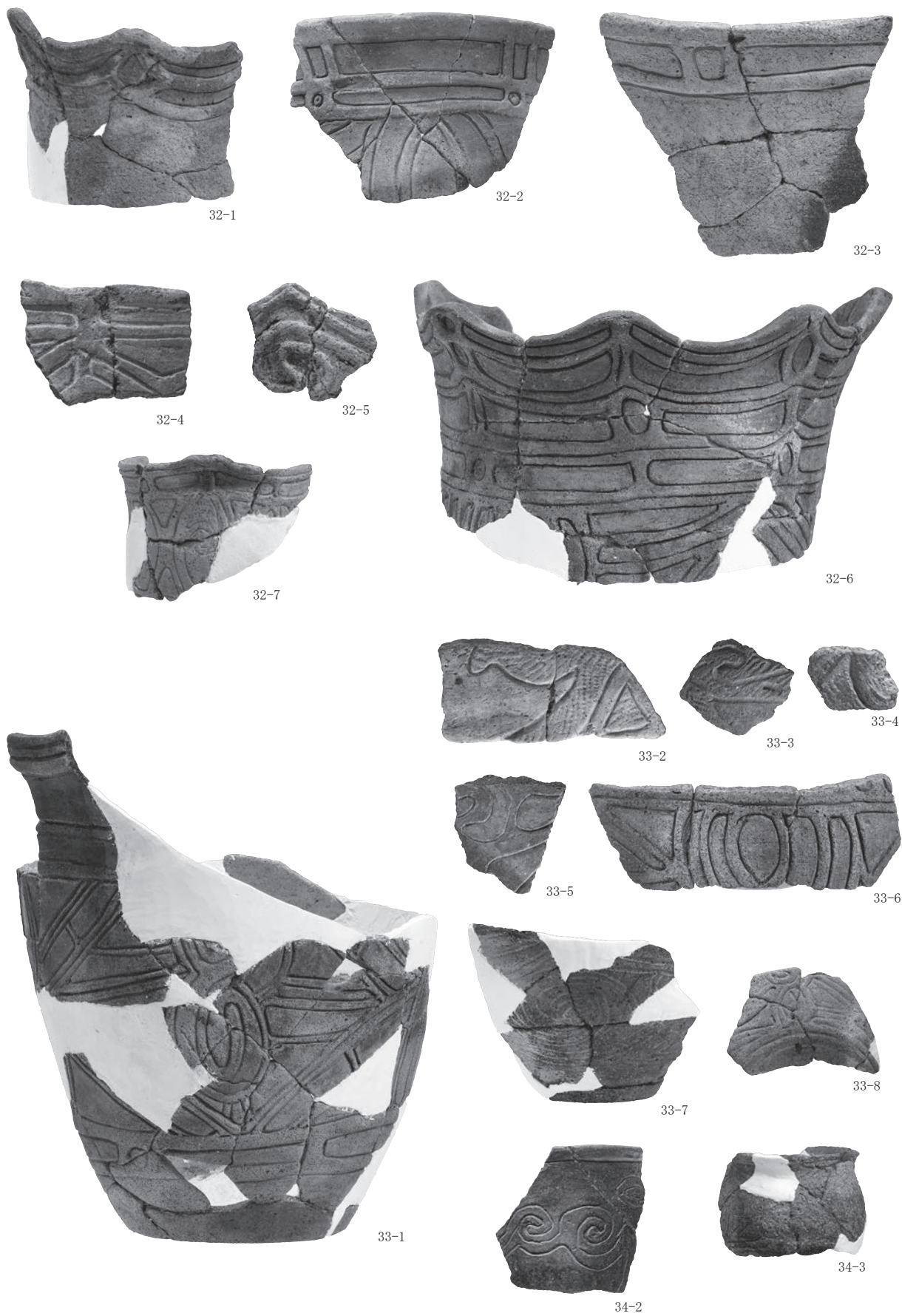


写真 25 第 19 号流路跡出土土器 (2)





写真 26 第 19 号流路跡出土土器 (3)



写真 27 第 19 号流路跡出土土器 (4)

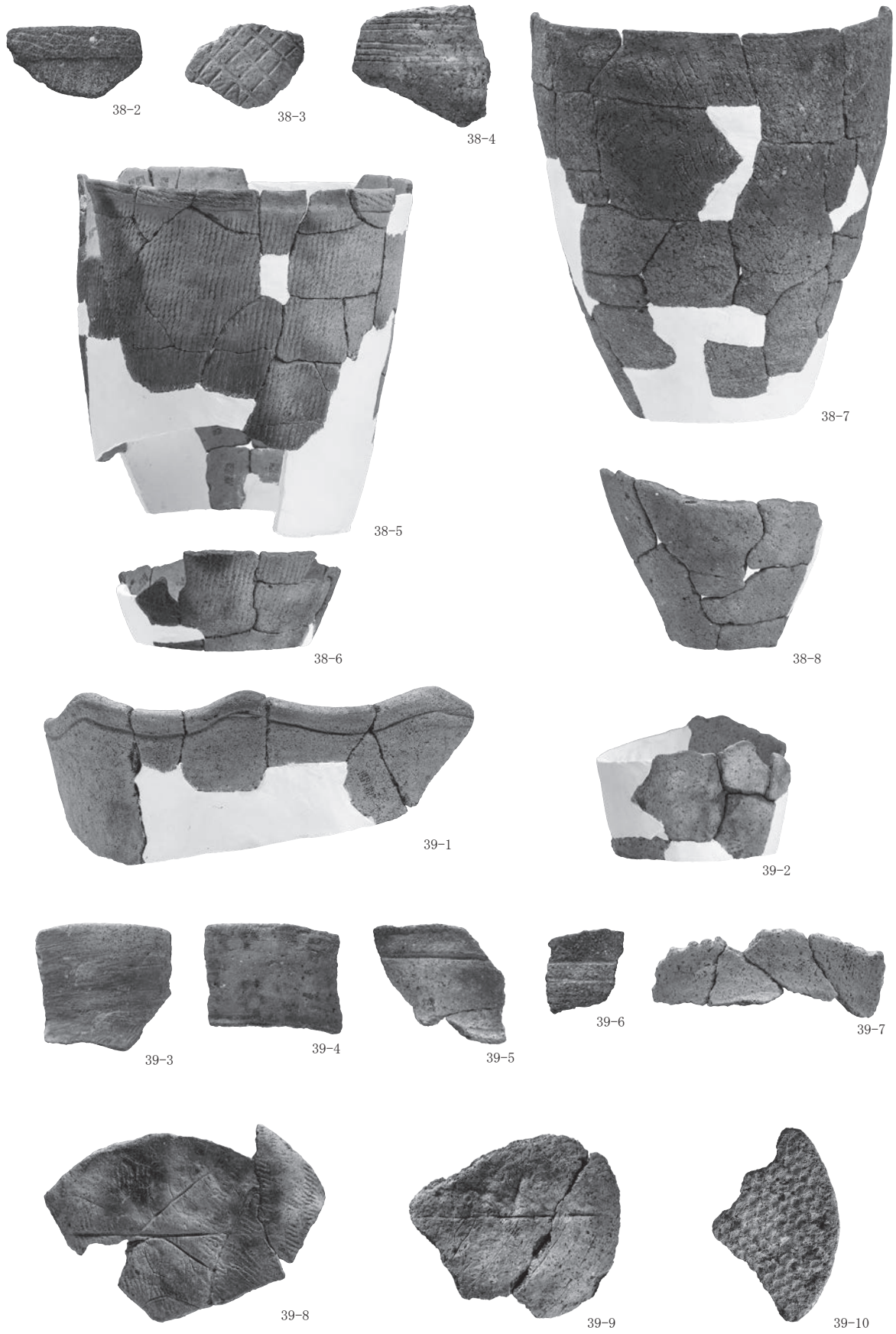


写真 28 第 19 号流路跡出土土器 (5)

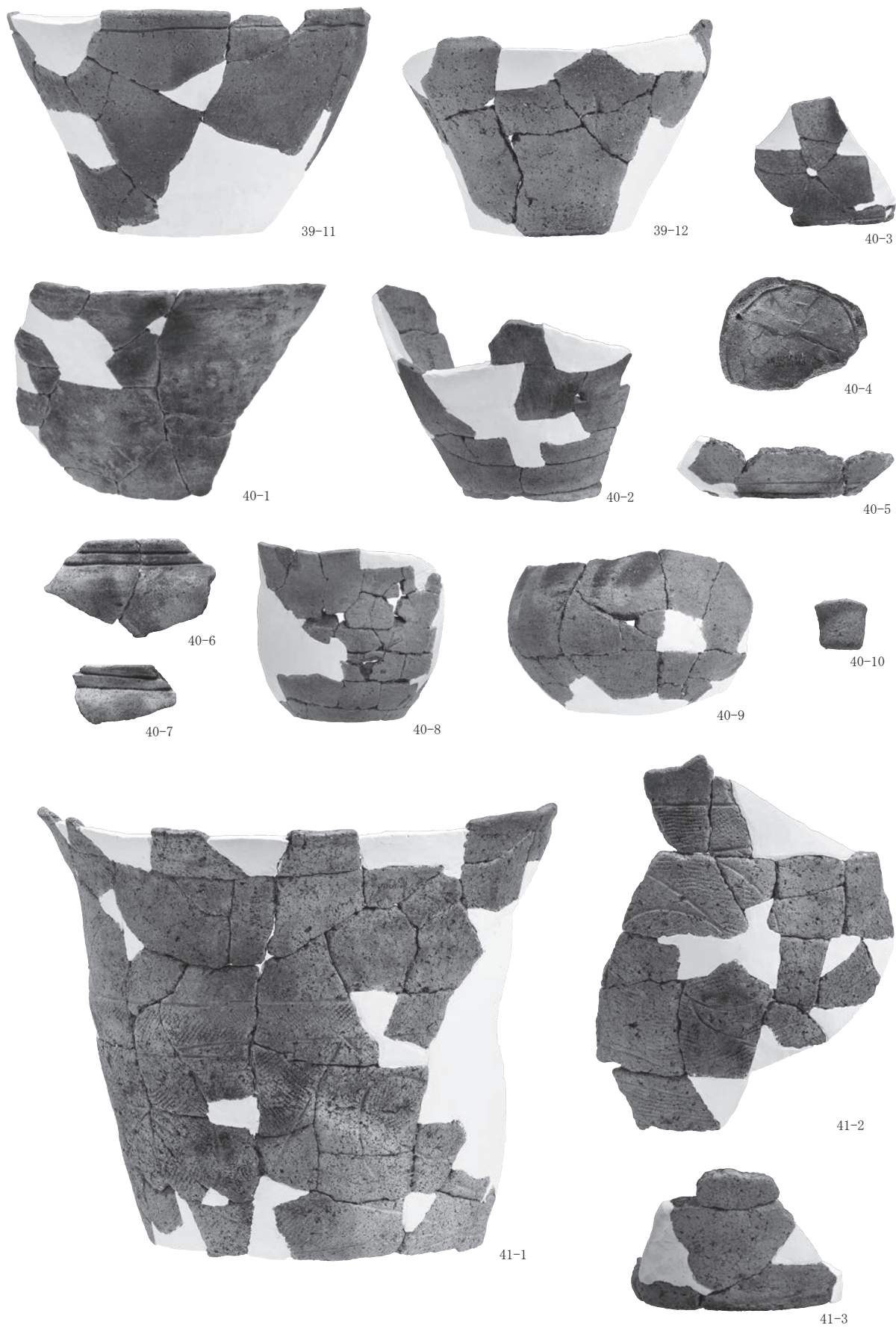


写真 29 第 19 号流路跡出土土器 (6)

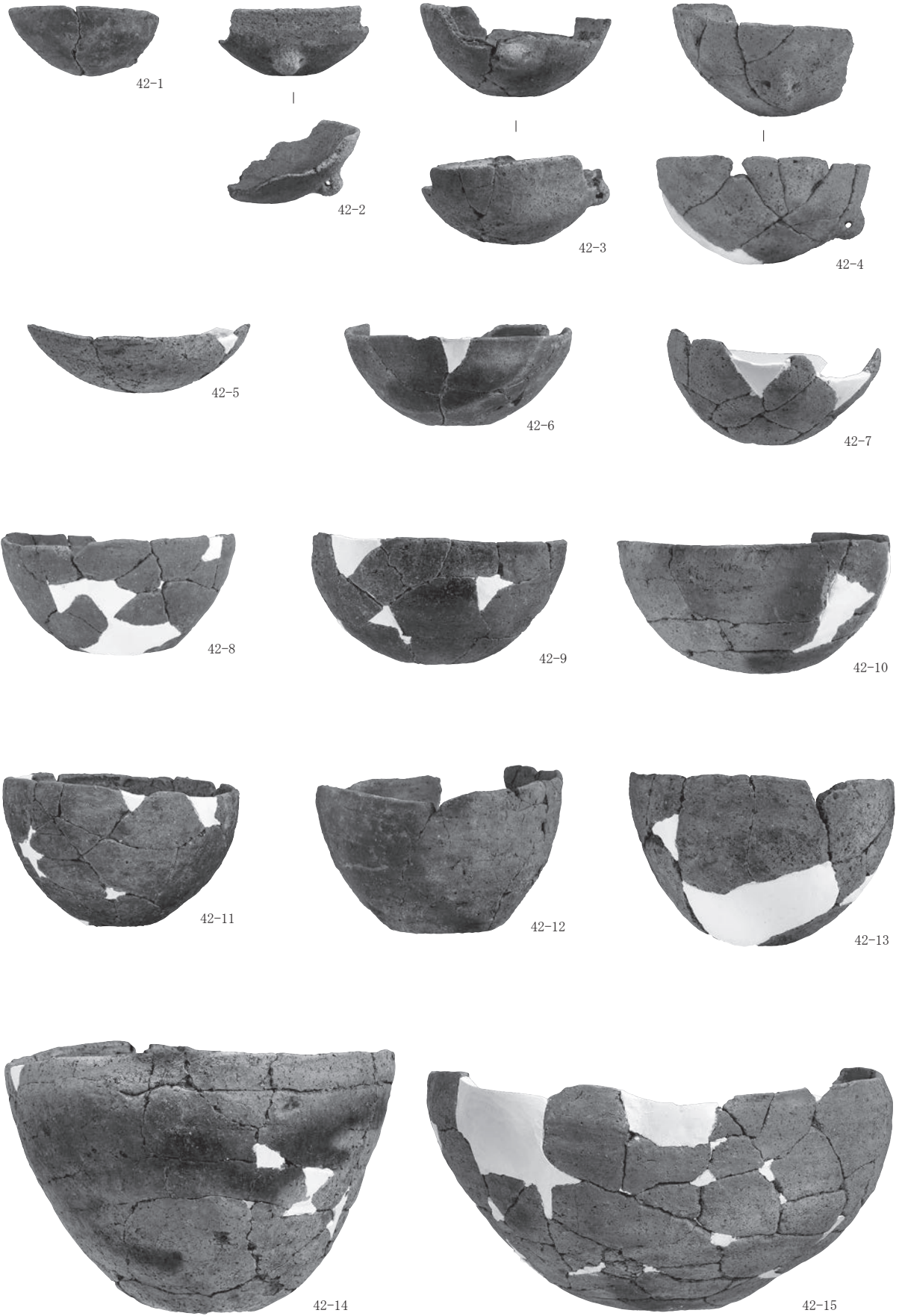


写真 30 第 19 号流路跡出土土器 (7)

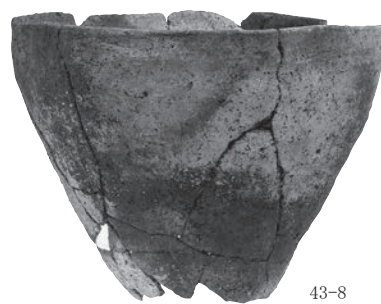
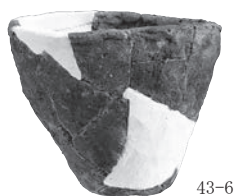


写真 31 第 19 号流路跡出土土器 (8)



写真 32 第 19 号流路跡出土土器 (9)



45-1



45-2



45-3



46-2



46-1



47-1

写真 33 第 19 号流路跡出土土器 (10)



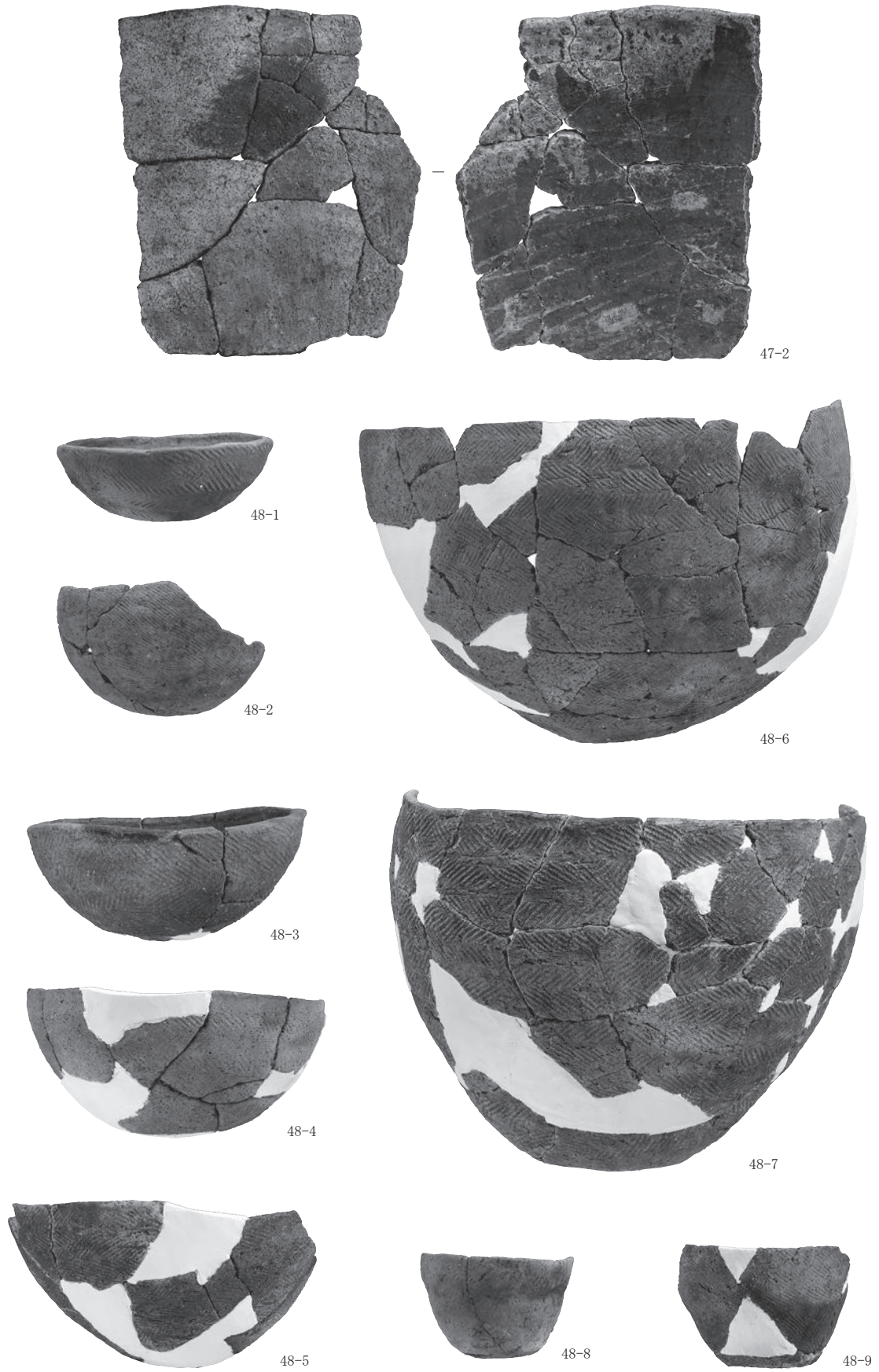


写真 34 第 19 号流路跡出土土器 (11)



48-10



48-11



48-12



49-1



49-2



49-3



49-4



49-5



49-6

写真 35 第 19 号流路跡出土土器 (12)



49-8



50-1



50-2



50-3



51-1



51-2

写真 36 第 19 号流路跡出土土器 (13)



51-3



52-1



52-2



52-3



53-1



53-2

写真 37 第 19 号流路跡出土土器 (14)



54-1



54-2



55-1



55-2



56-1



56-2

写真 38 第 19 号流路跡出土土器 (15)

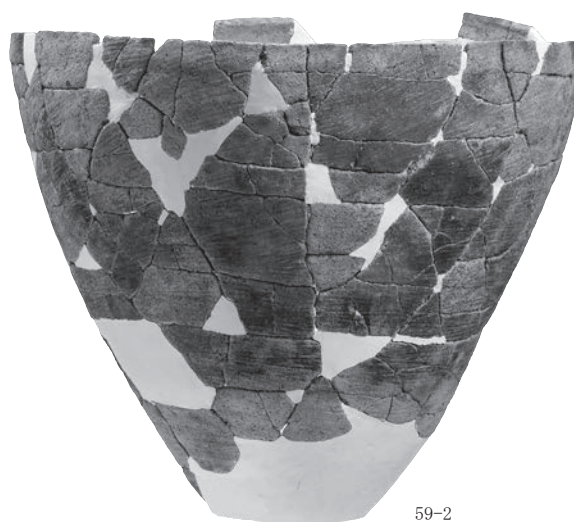


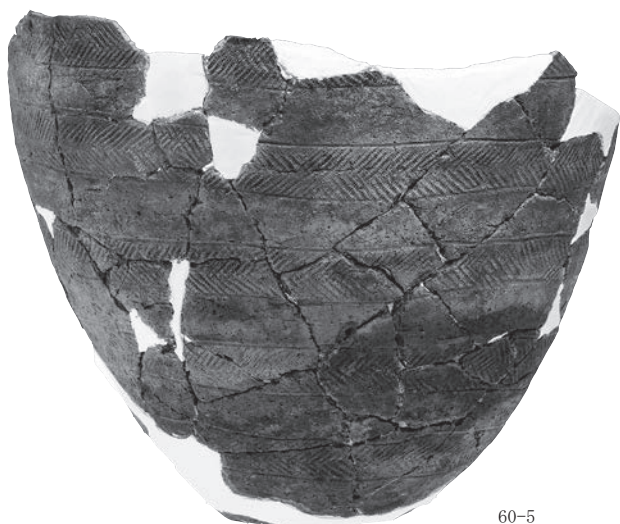
写真 39 第 19 号流路跡出土土器 (16)



60-1



60-2



60-5



60-6



61-1

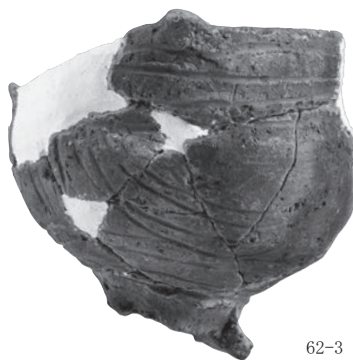


61-2

写真 40 第 19 号流路跡出土土器 (17)



62-1a



62-3



62-2a



62-2b



62-4a



63-1



63-2

写真 41 第 19 号流路跡出土土器 (18)





63-3



63-4



63-6



64-1a



64-2

写真 42 第 19 号流路跡出土土器 (19)



64-3



65-1



65-2



66-1



66-2

写真 43 第 19 号流路跡出土土器 (20)

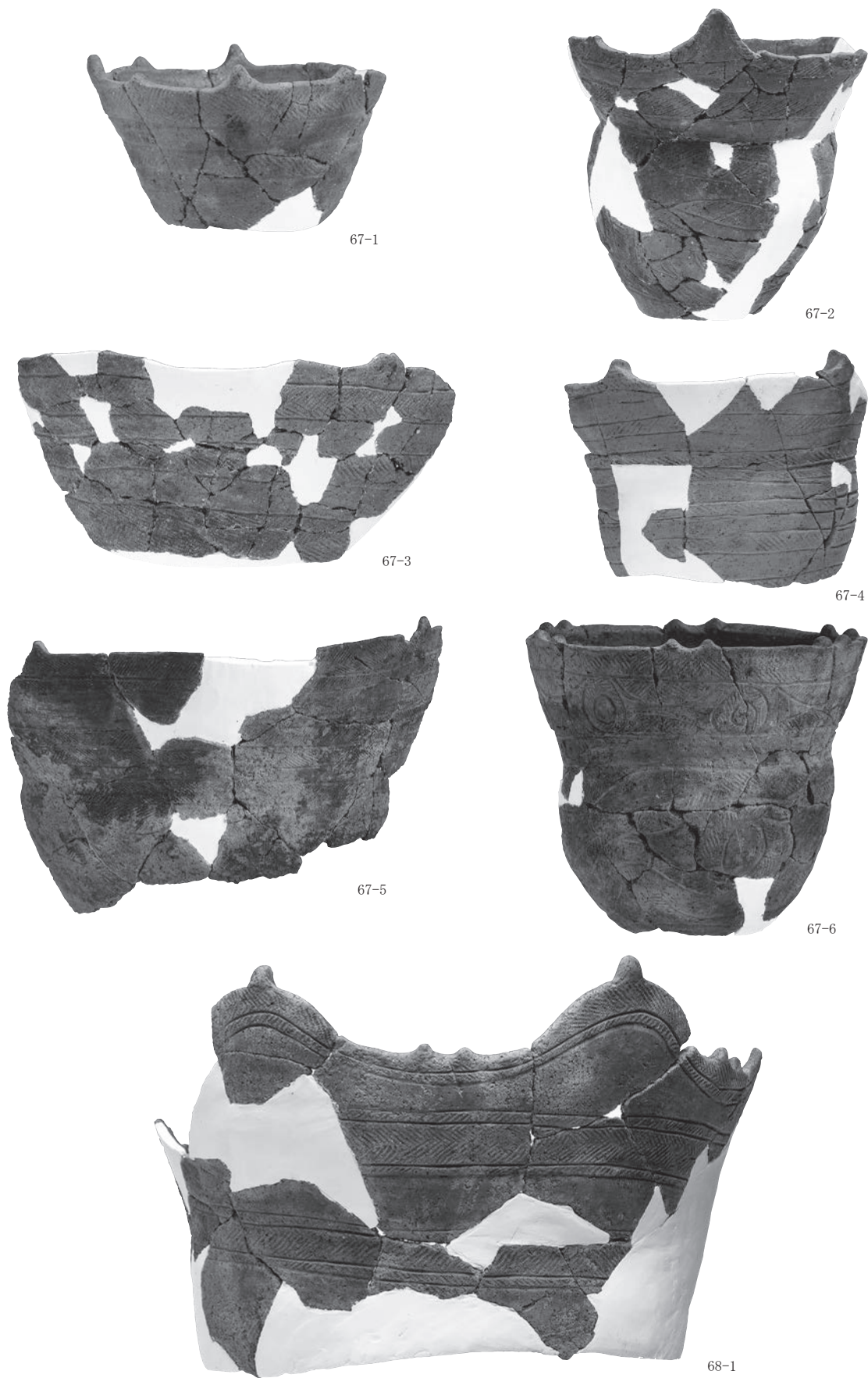


写真 44 第 19 号流路跡出土土器 (21)



68-2



69-1a



69-2a



69-2b



70-1

写真 45 第 19 号流路跡出土土器 (22)

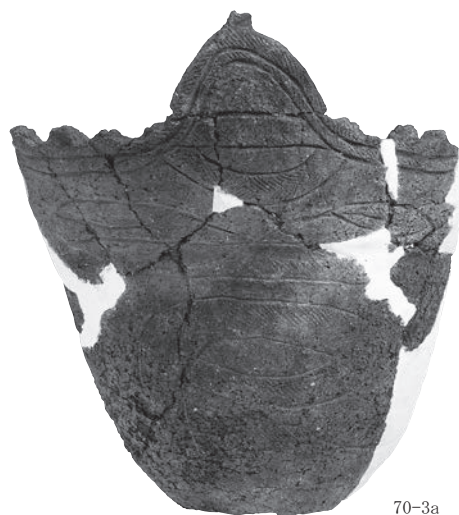


写真 46 第 19 号流路跡出土土器 (23)



72-1a



72-1b



72-2



73-1a



73-2a



73-1b

写真 47 第 19 号流路跡出土土器 (24)

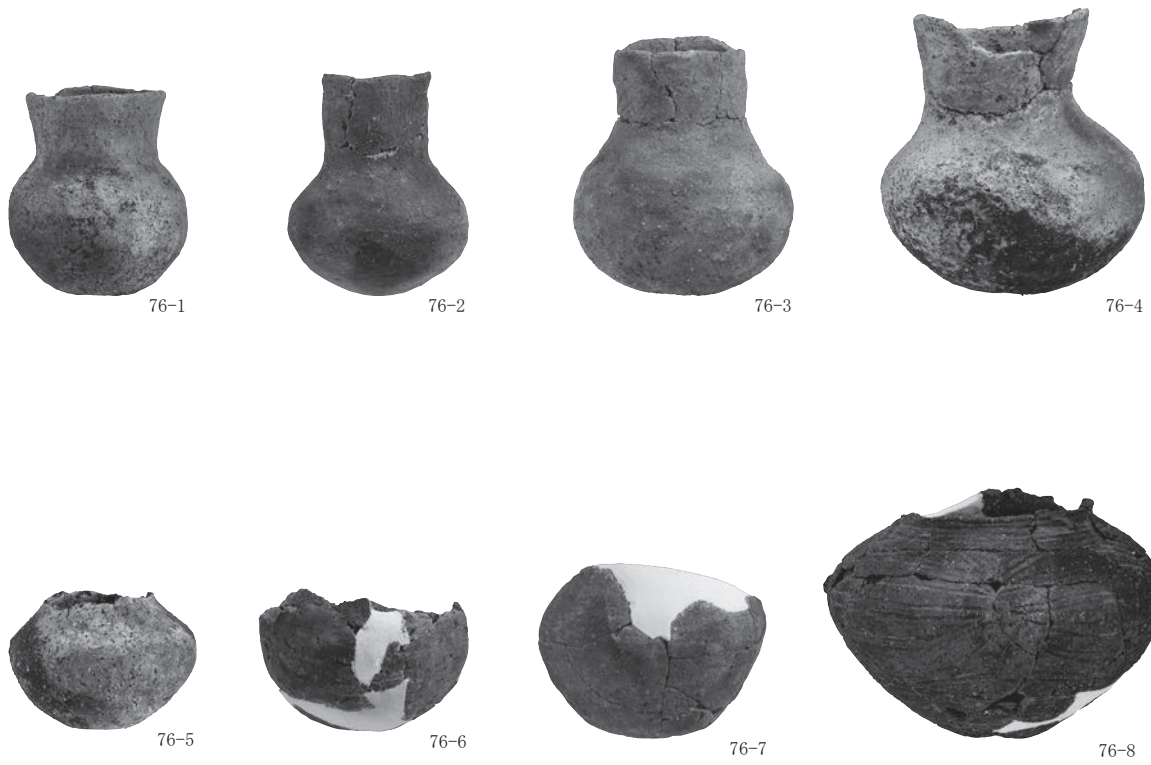
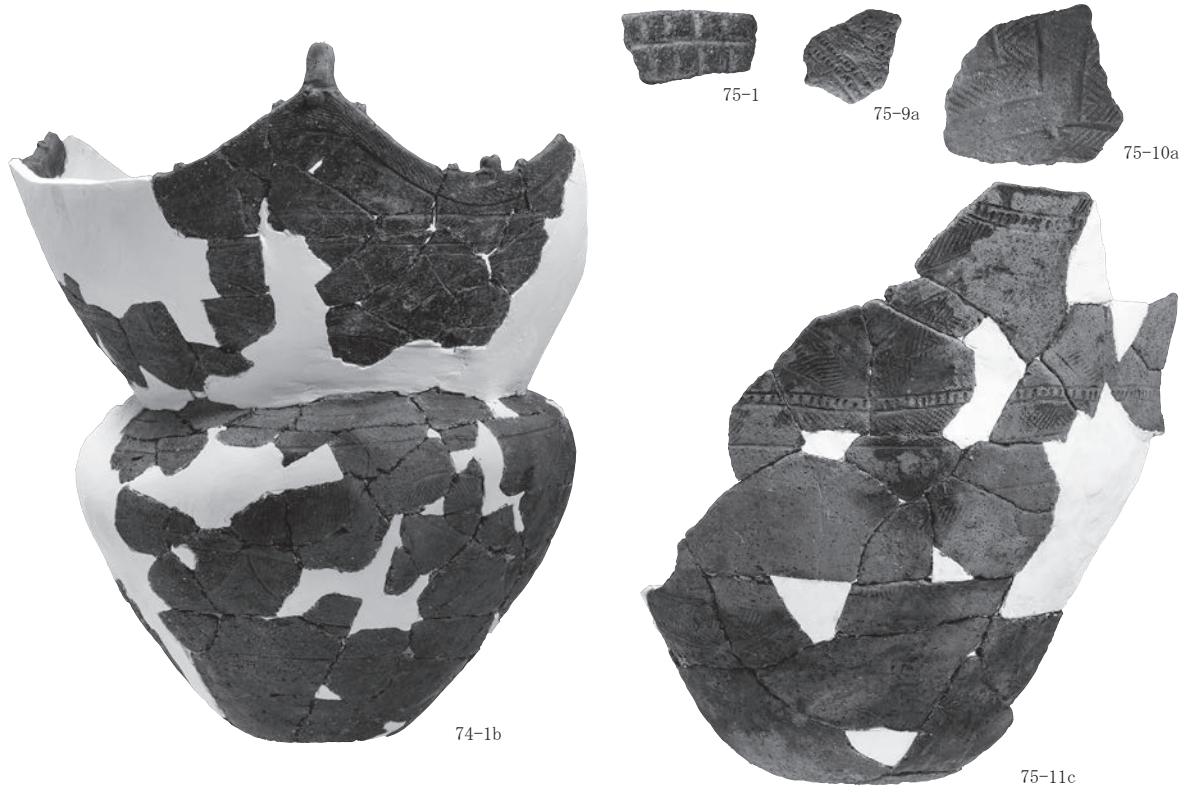
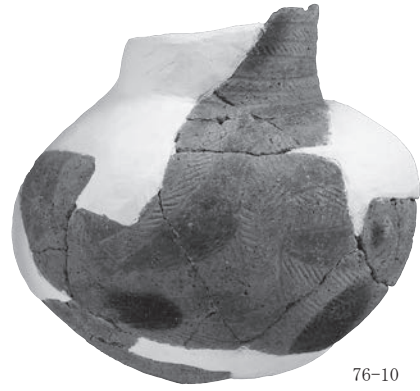


写真 48 第 19 号流路跡出土土器 (25)



76-9



76-10



77-1



77-2



77-3



77-4



77-5



77-6

写真 49 第 19 号流路跡出土土器 (26)





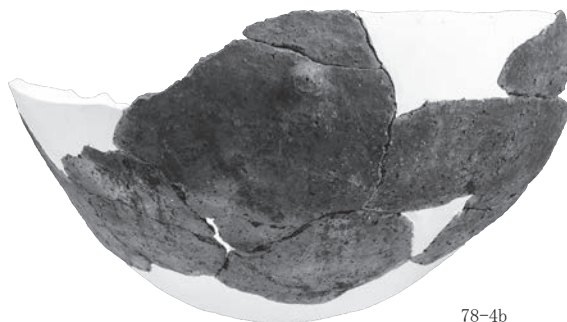
写真 50 第 19 号流路跡出土土器 (27)



78-3



78-4a



78-4b



79-1



79-2



79-3

写真 51 第 19 号流路跡出土土器 (28)

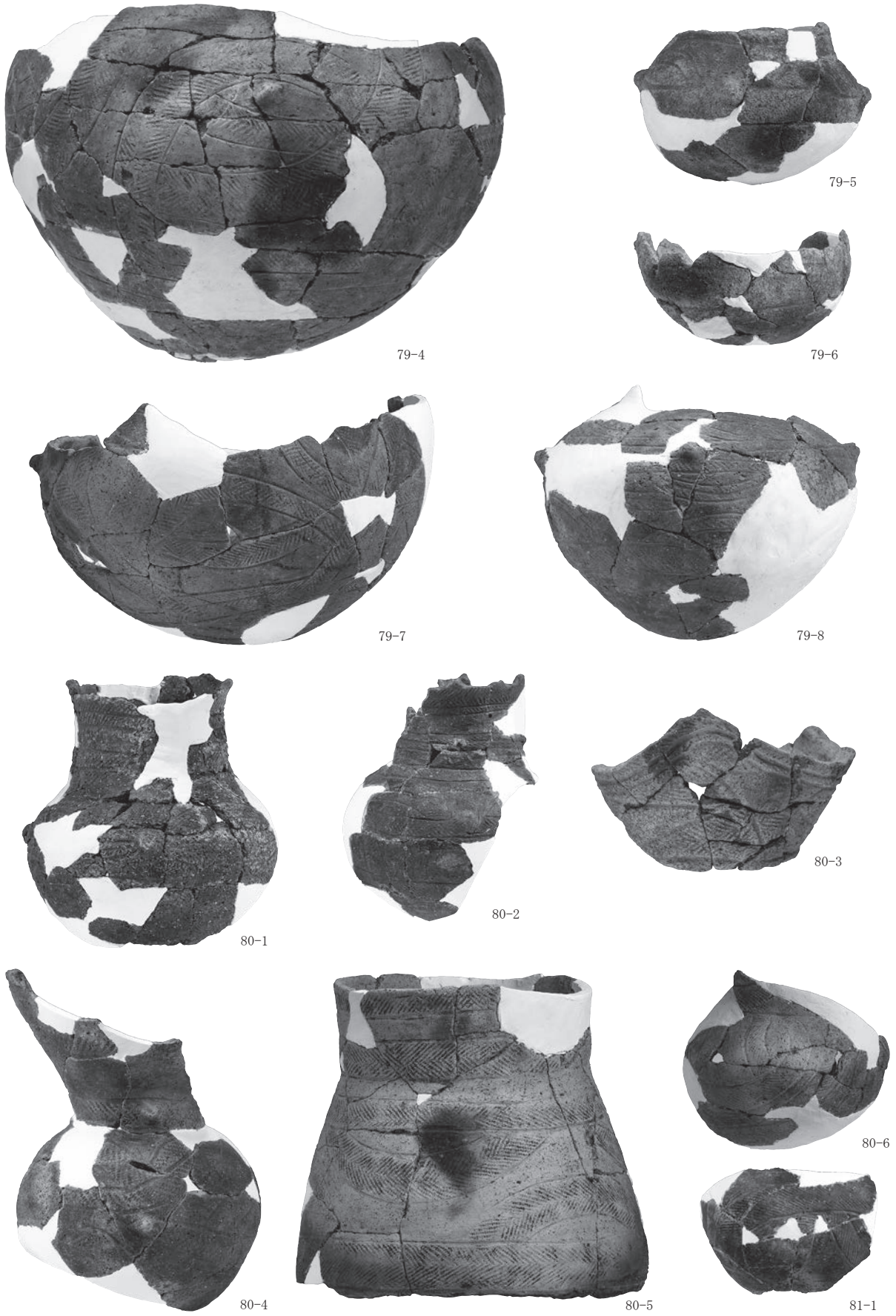


写真 52 第 19 号流路跡出土土器 (29)

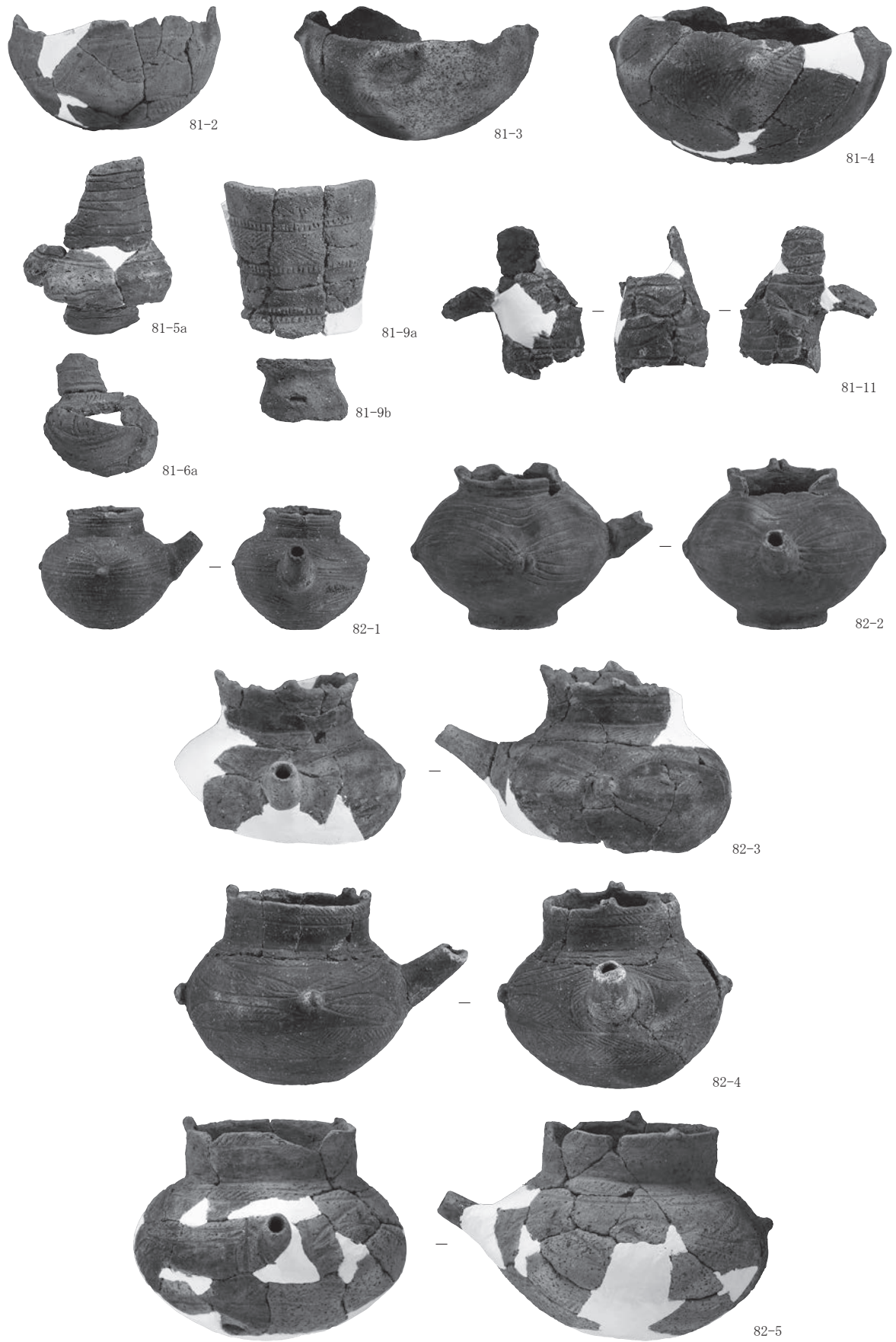


写真 53 第 19 号流路跡出土土器 (30)

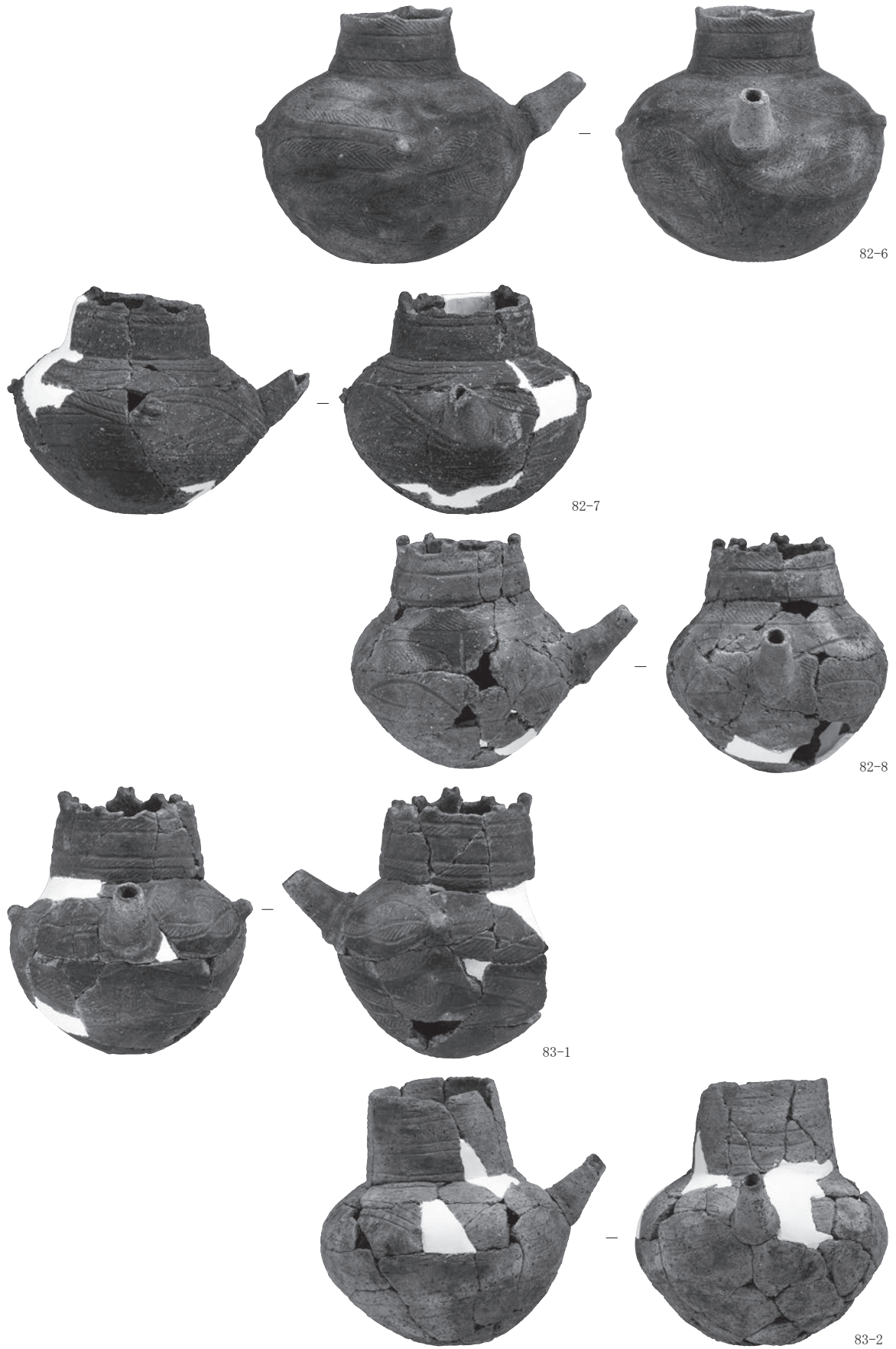


写真 54 第 19 号流路跡出土土器 (31)

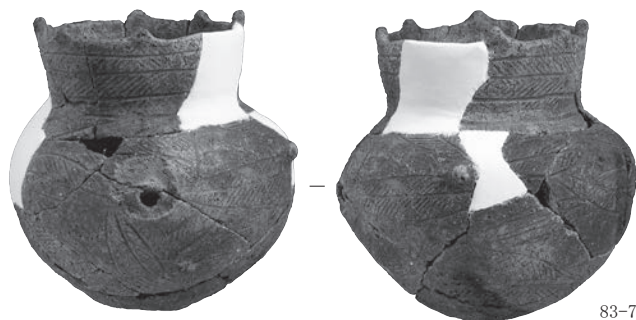
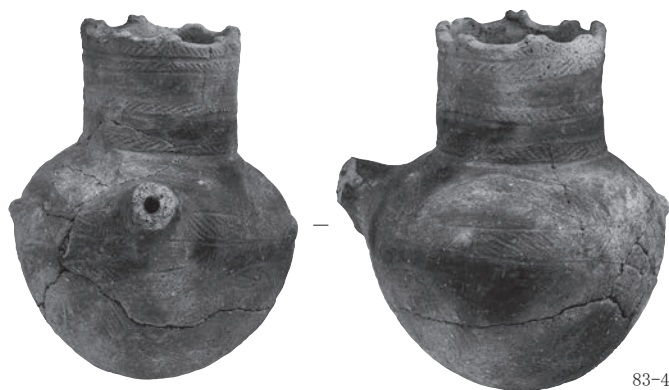
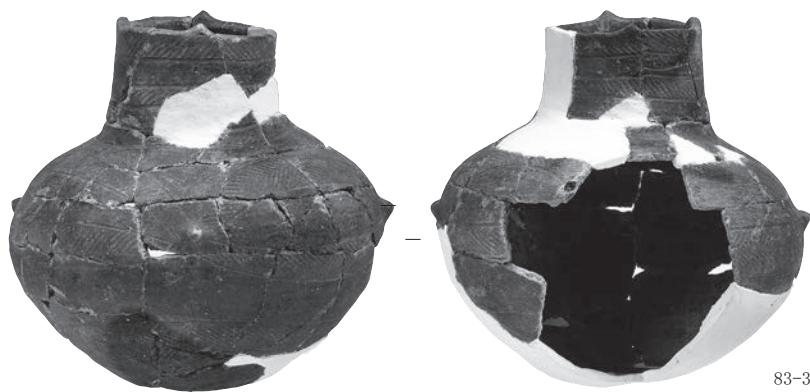


写真 55 第 19 号流路跡出土土器 (32)

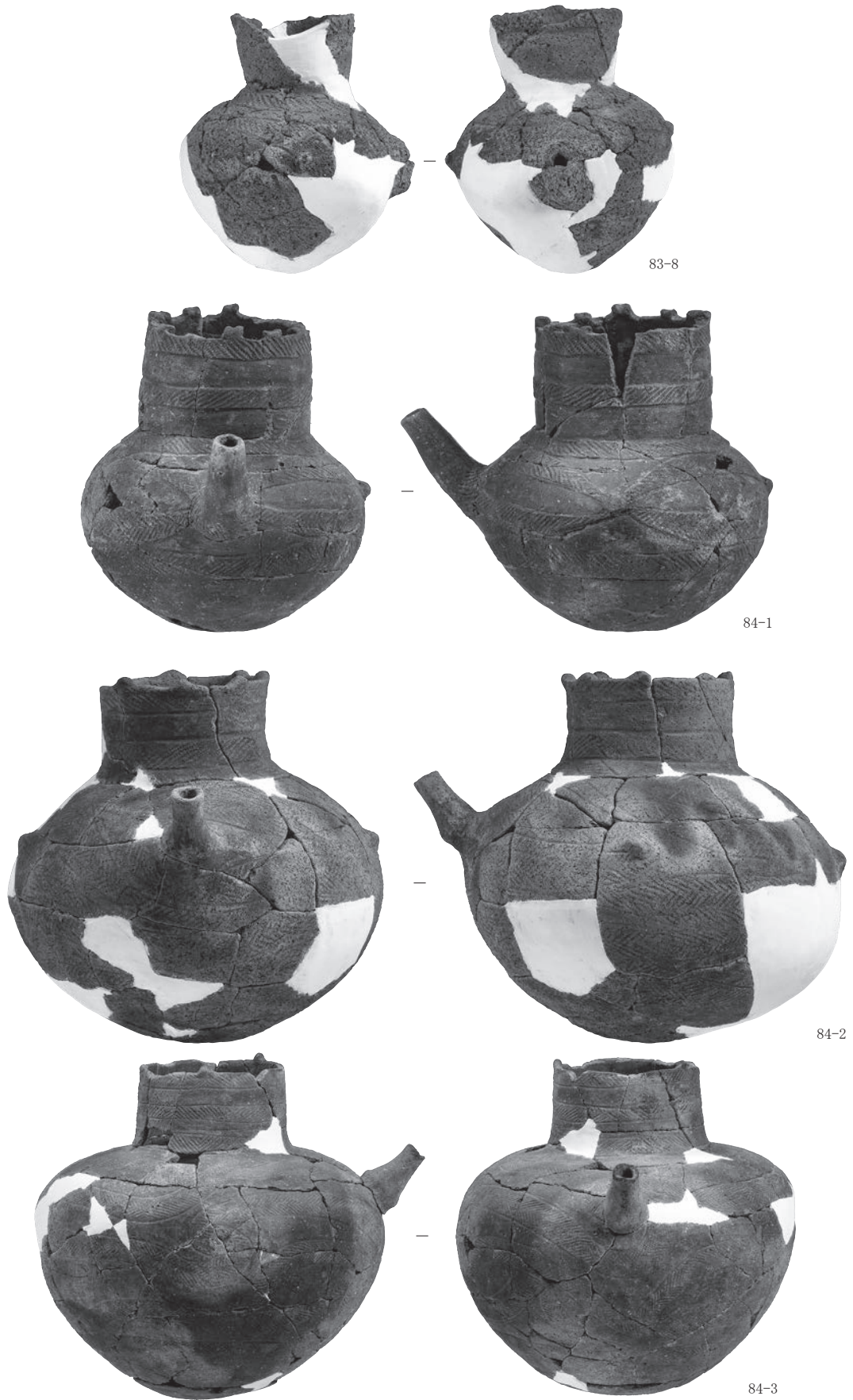


写真 56 第 19 号流路跡出土土器 (33)

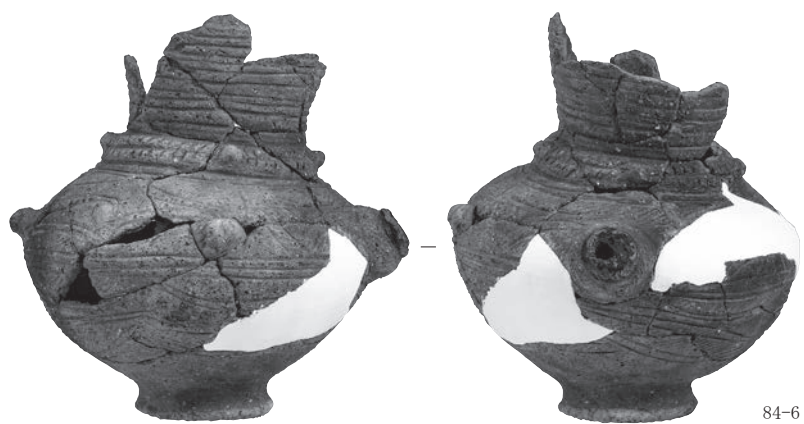
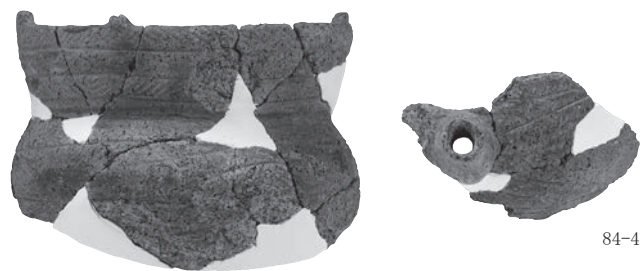
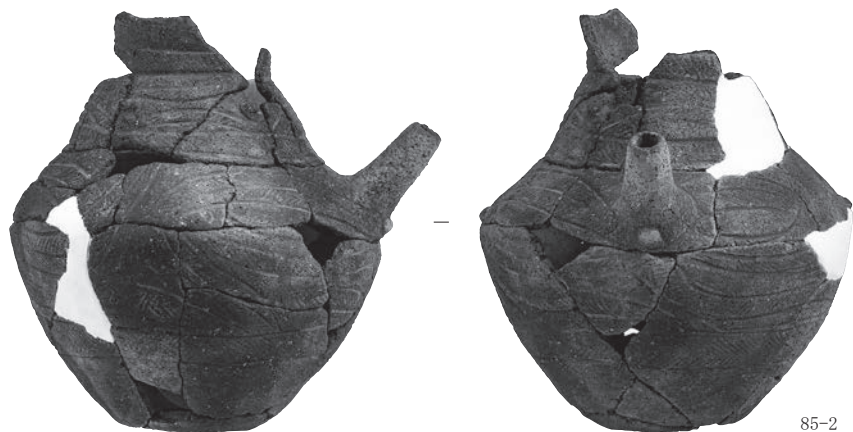
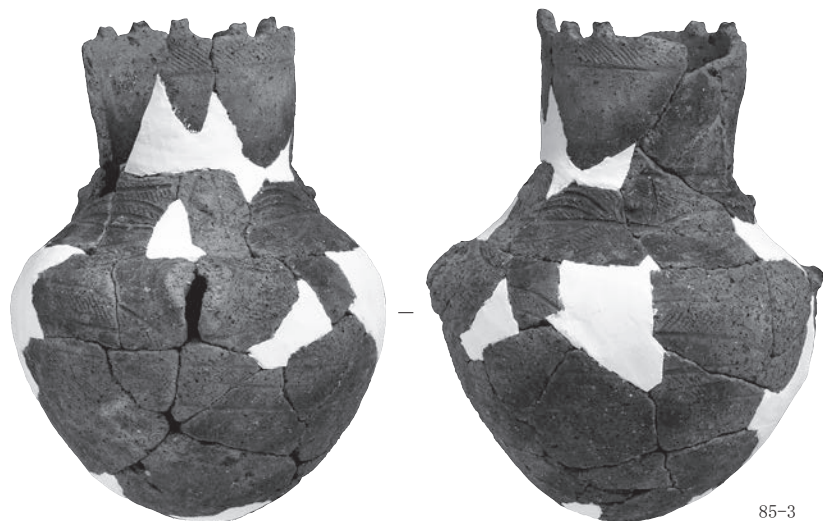


写真 57 第 19 号流路跡出土土器 (34)





85-2



85-3



85-4

写真 58 第 19 号流路跡出土土器 (35)



85-5



85-6



86-1b

写真 59 第 19 号流路跡出土土器 (36)

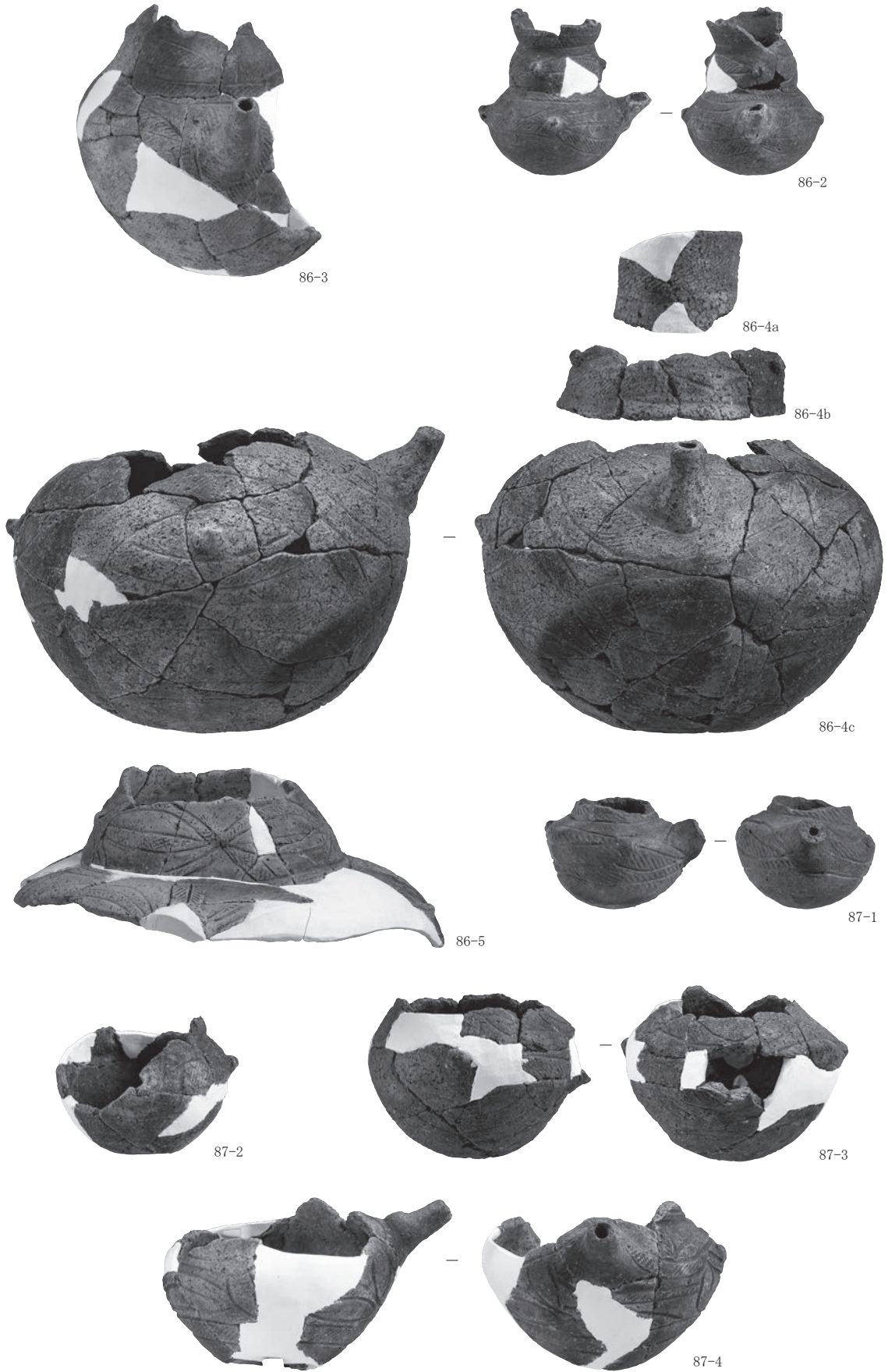


写真 60 第 19 号流路跡出土土器 (37)

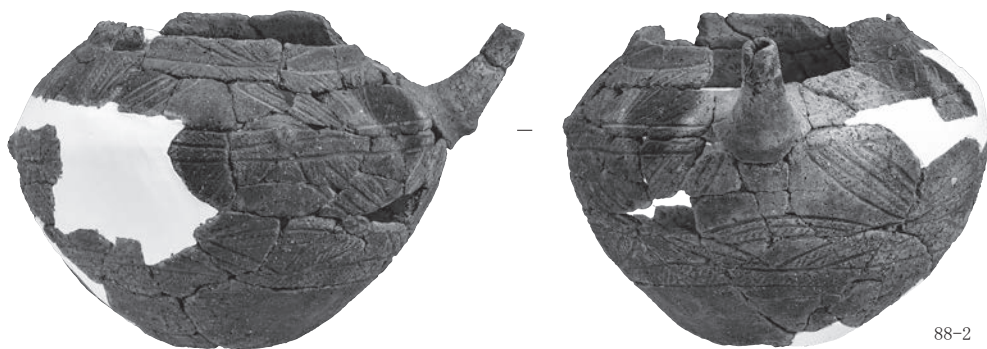
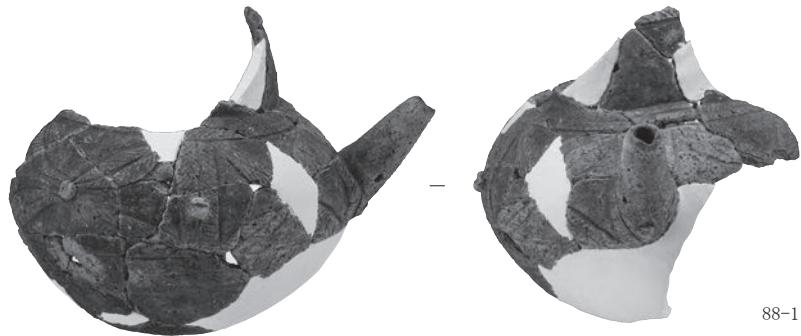
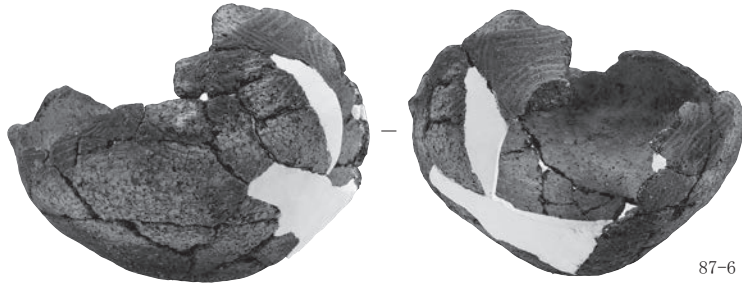
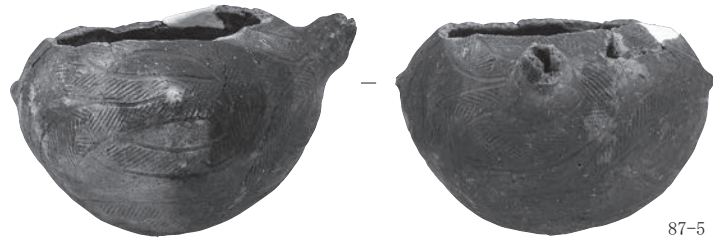


写真 61 第 19 号流路跡出土土器 (38)

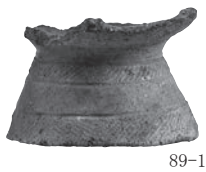
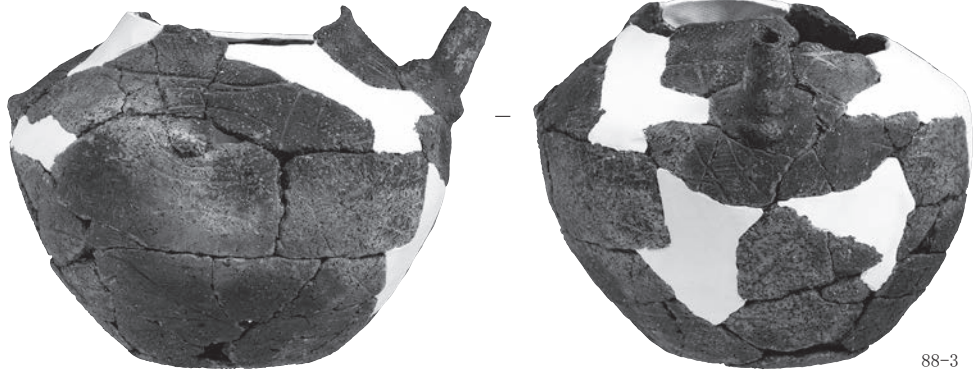


写真 62 第 19 号流路跡出土土器 (39)

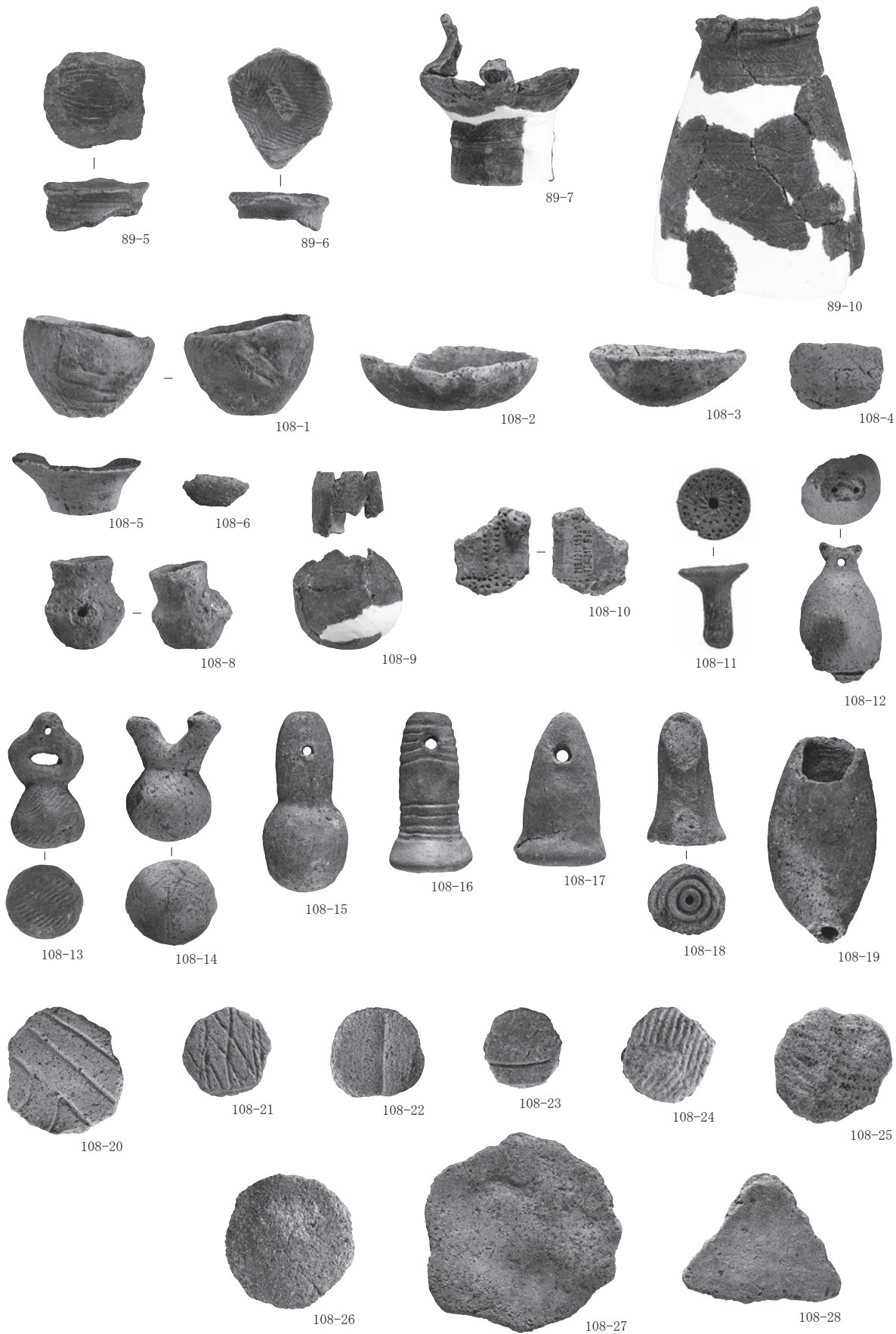
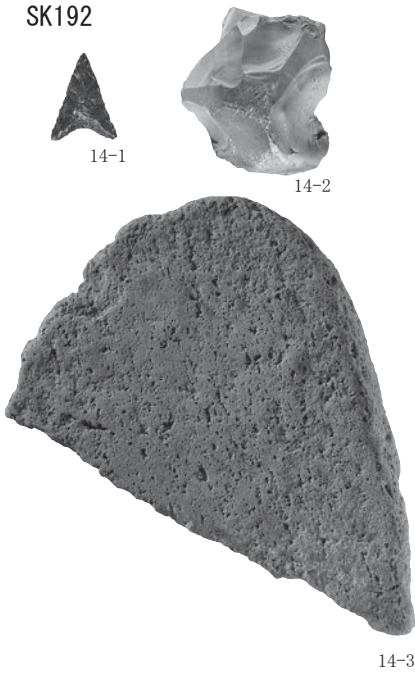


写真 63 第 19 号流路跡出土土器 (40)・土製品

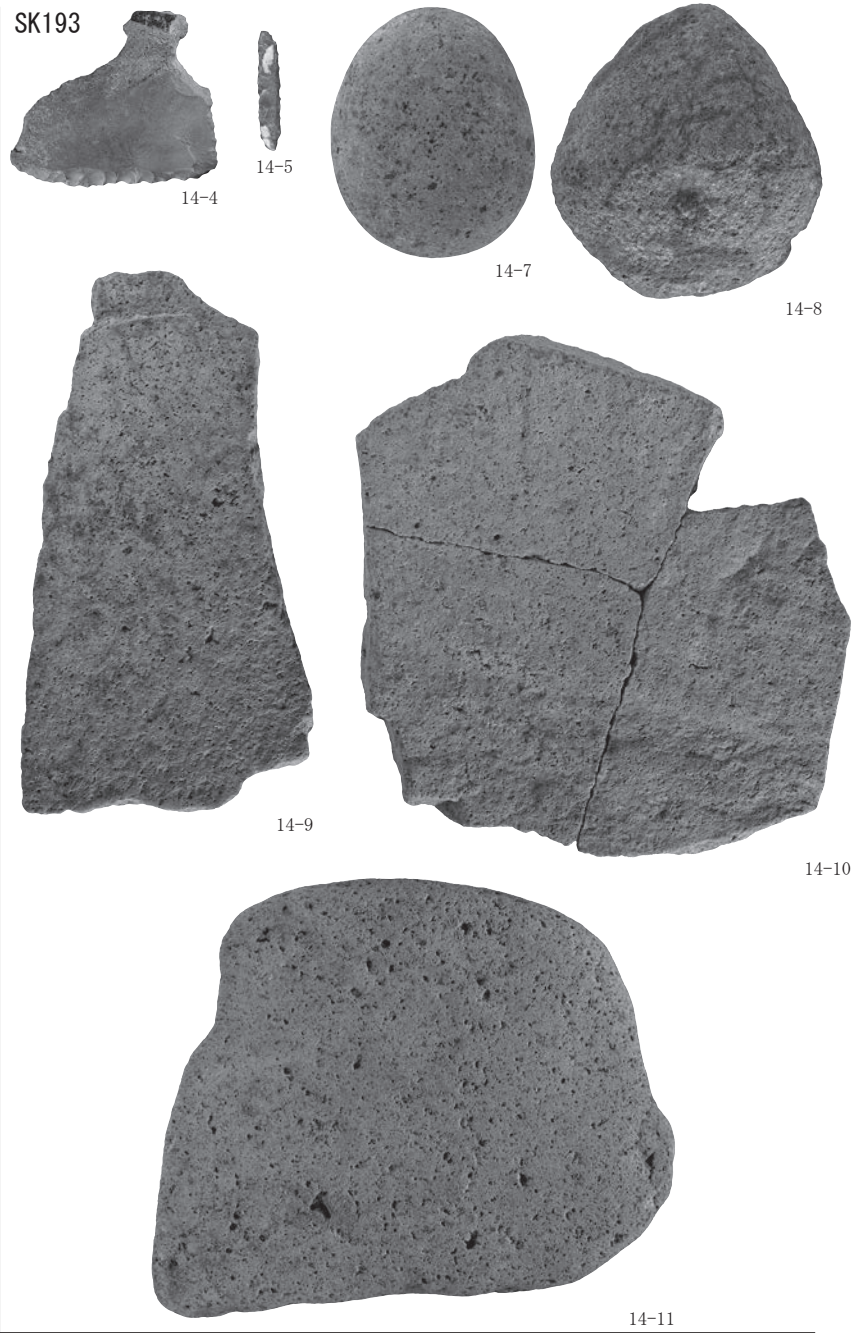


写真 64 遺構外出土土器

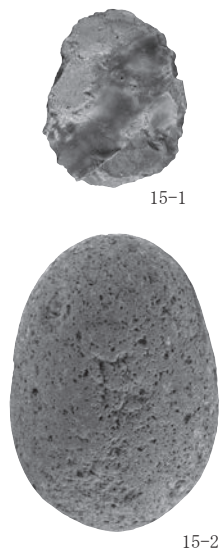
SK192



SK193



SK195



SK210

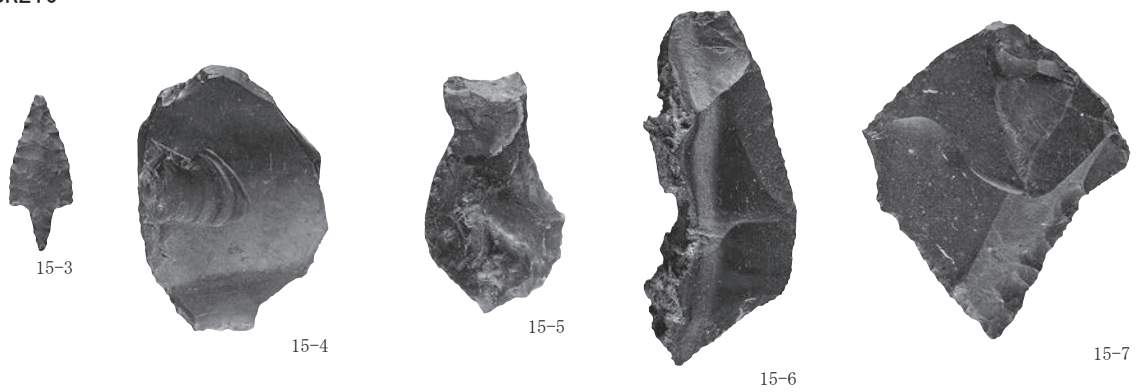


写真 65 縄文時代の土坑出土石器



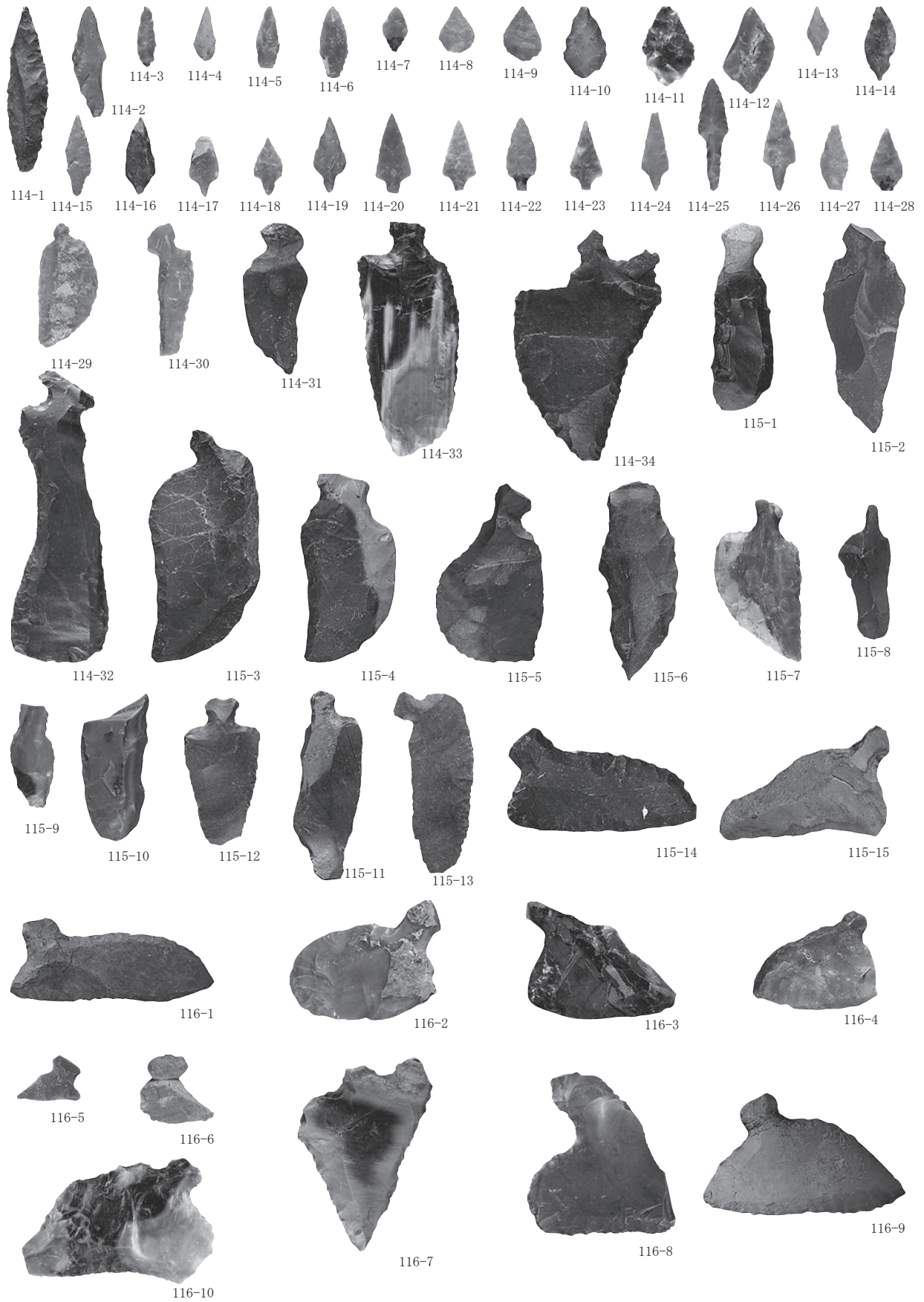


写真 66 第 19 号流路跡出土石器 (1)

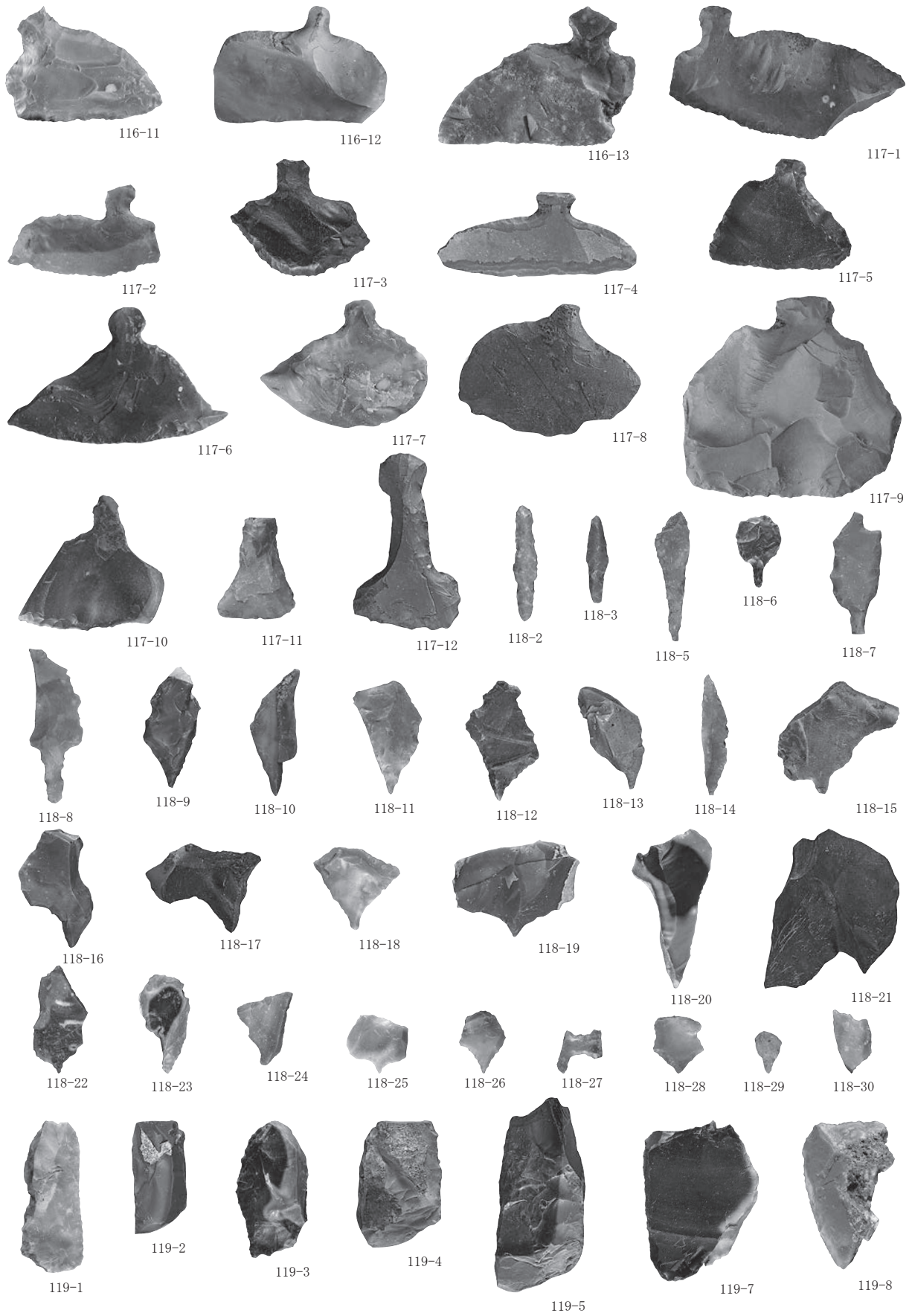


写真 67 第 19 号流路跡出土石器 (2)

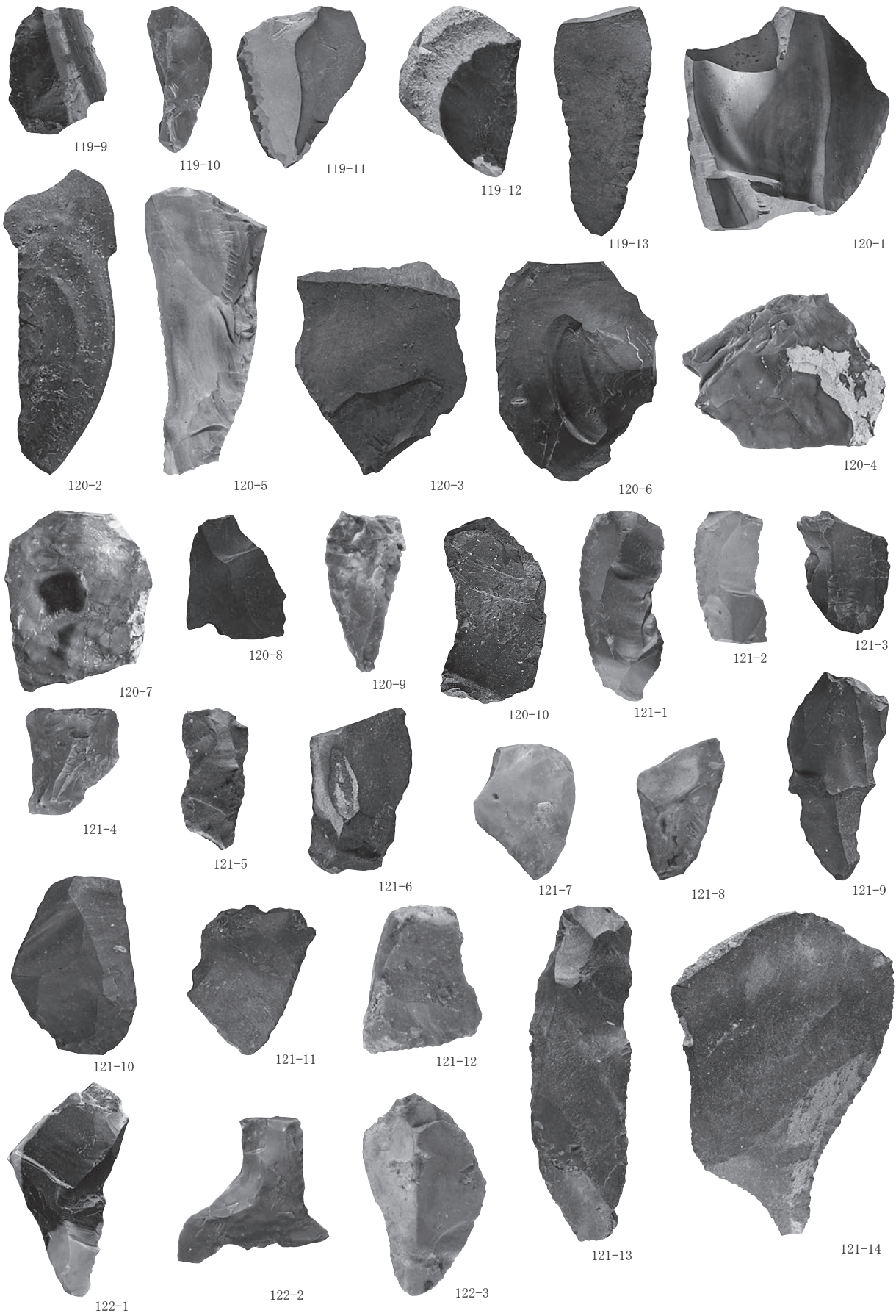


写真 68 第 19 号流路跡出土石器 (3)

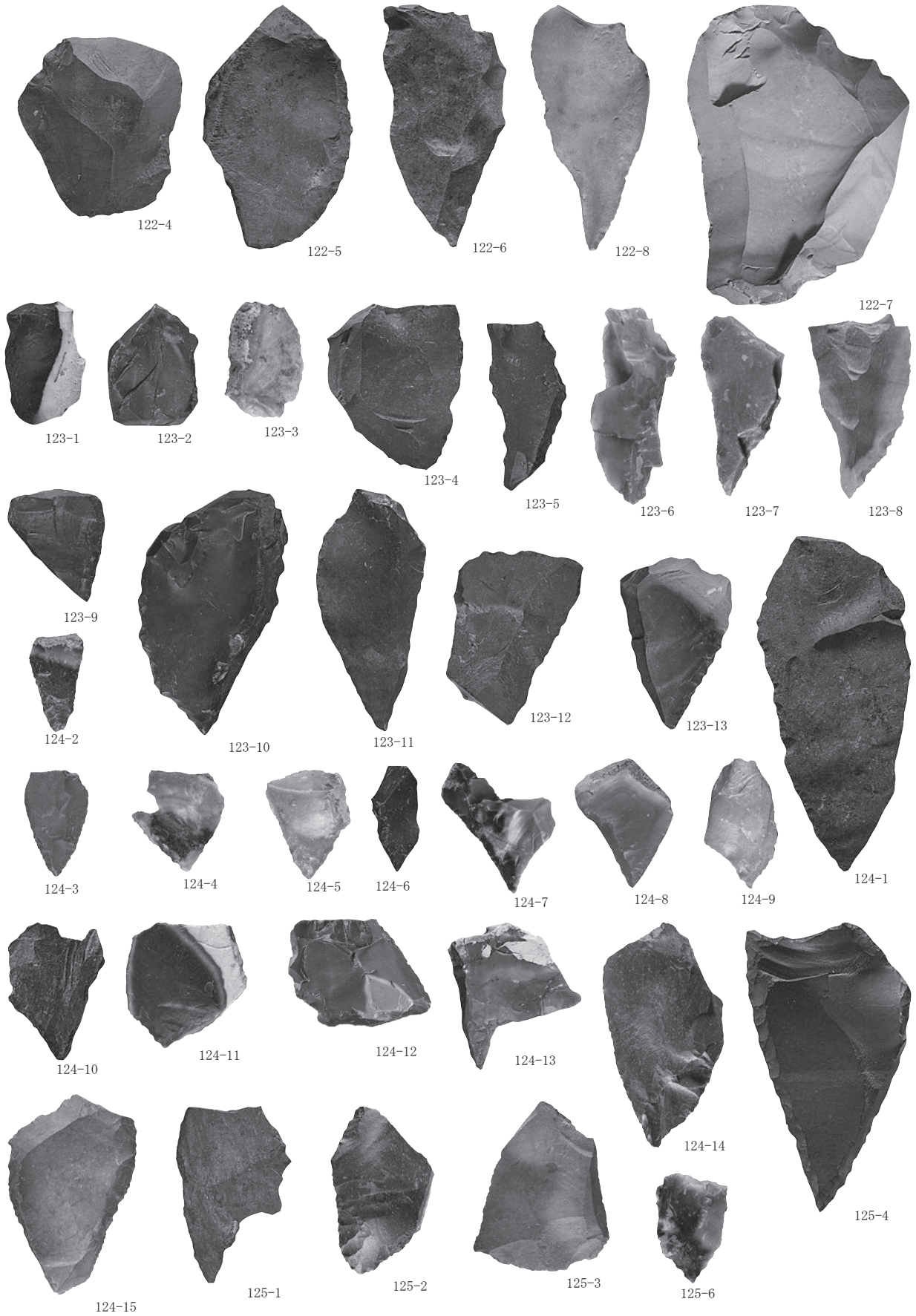


写真 69 第 19 号流路跡出土石器 (4)

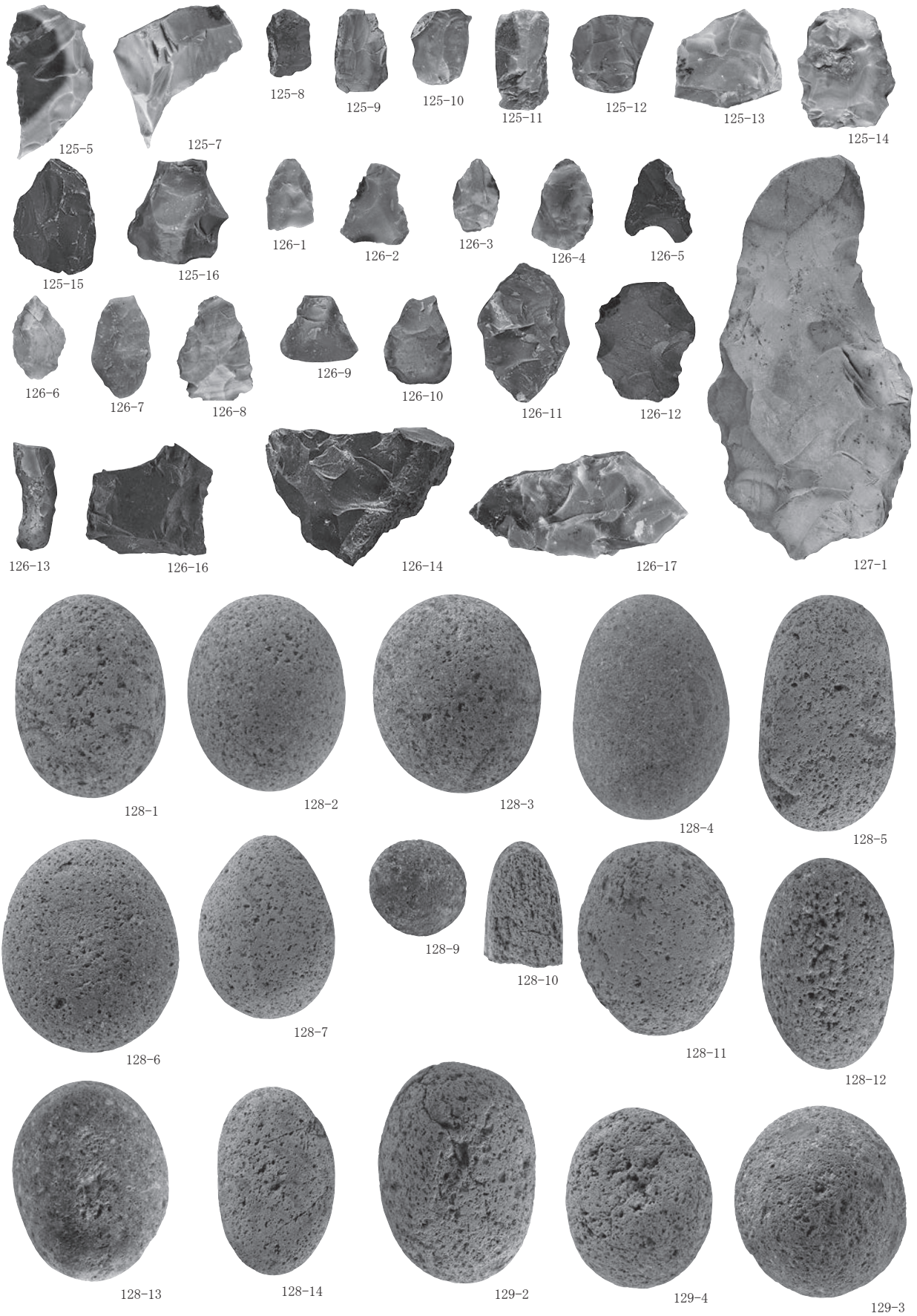


写真 70 第 19 号流路跡出土石器 (5)

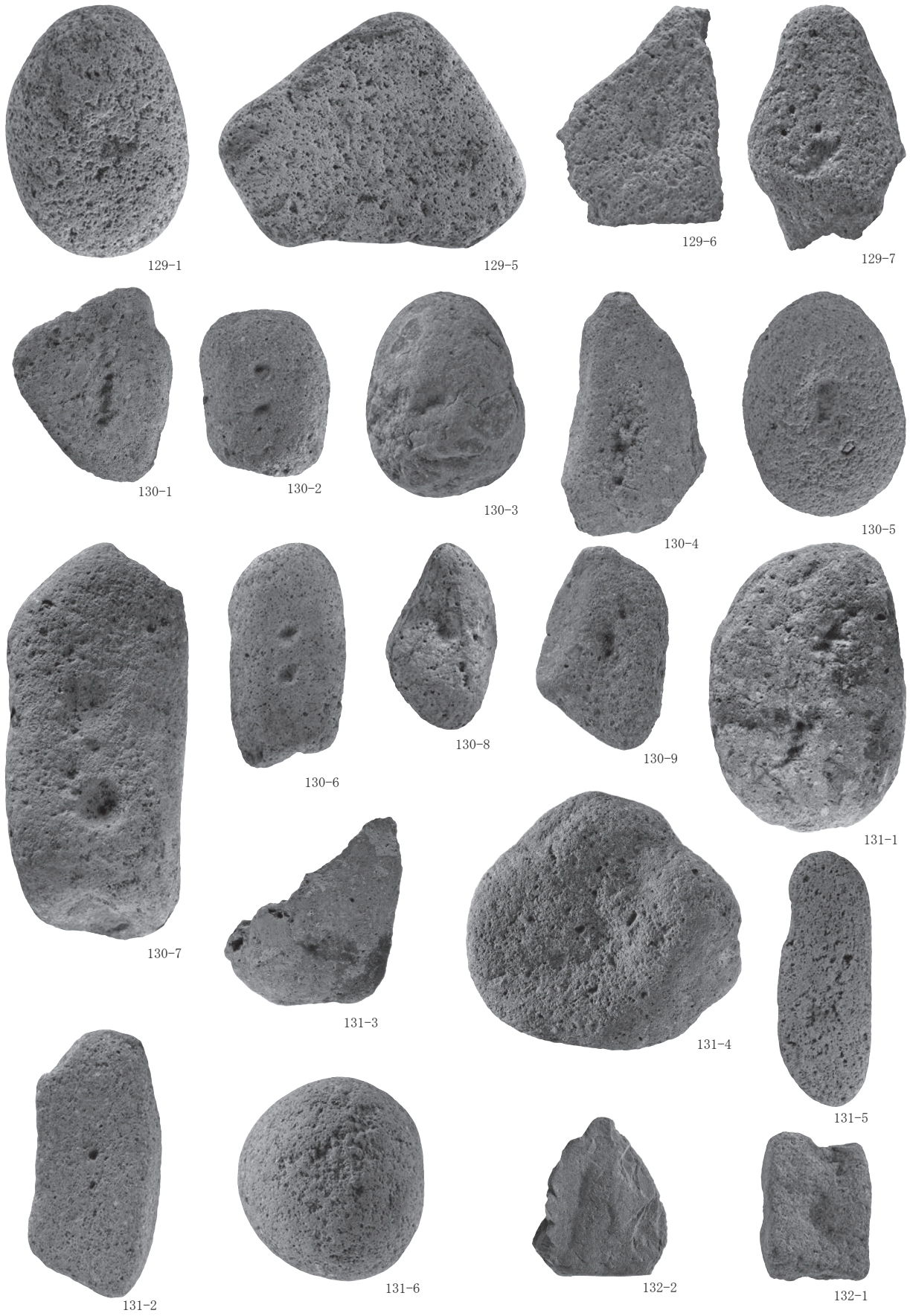


写真 71 第 19 号流路跡出土石器 (6)

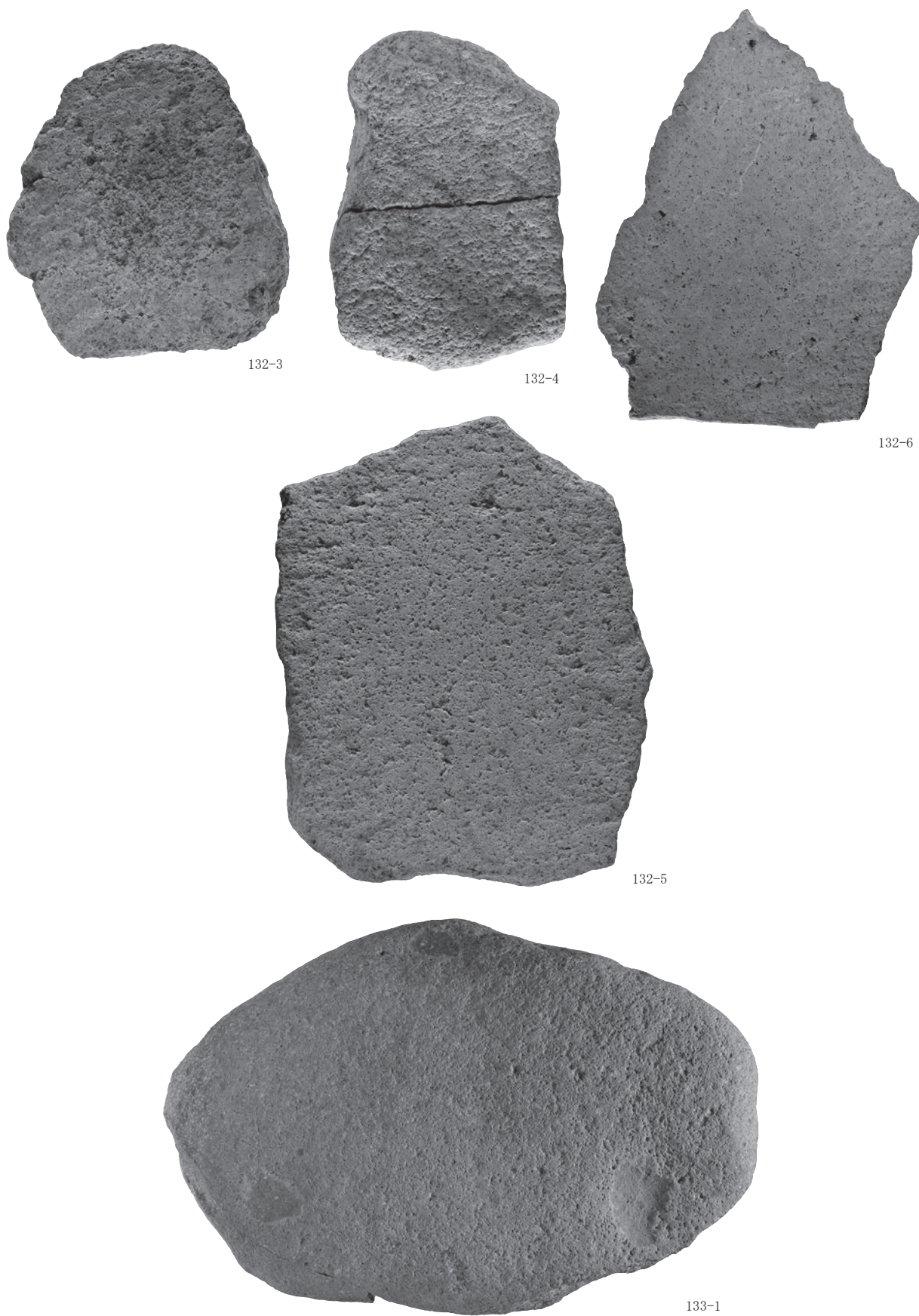


写真 72 第 19 号流路跡出土石器 (7)



133-2



133-3



133-4



134-1



134-2



134-3



134-5



134-4



134-6

写真 73 第 19 号流路跡出土石器 (8)



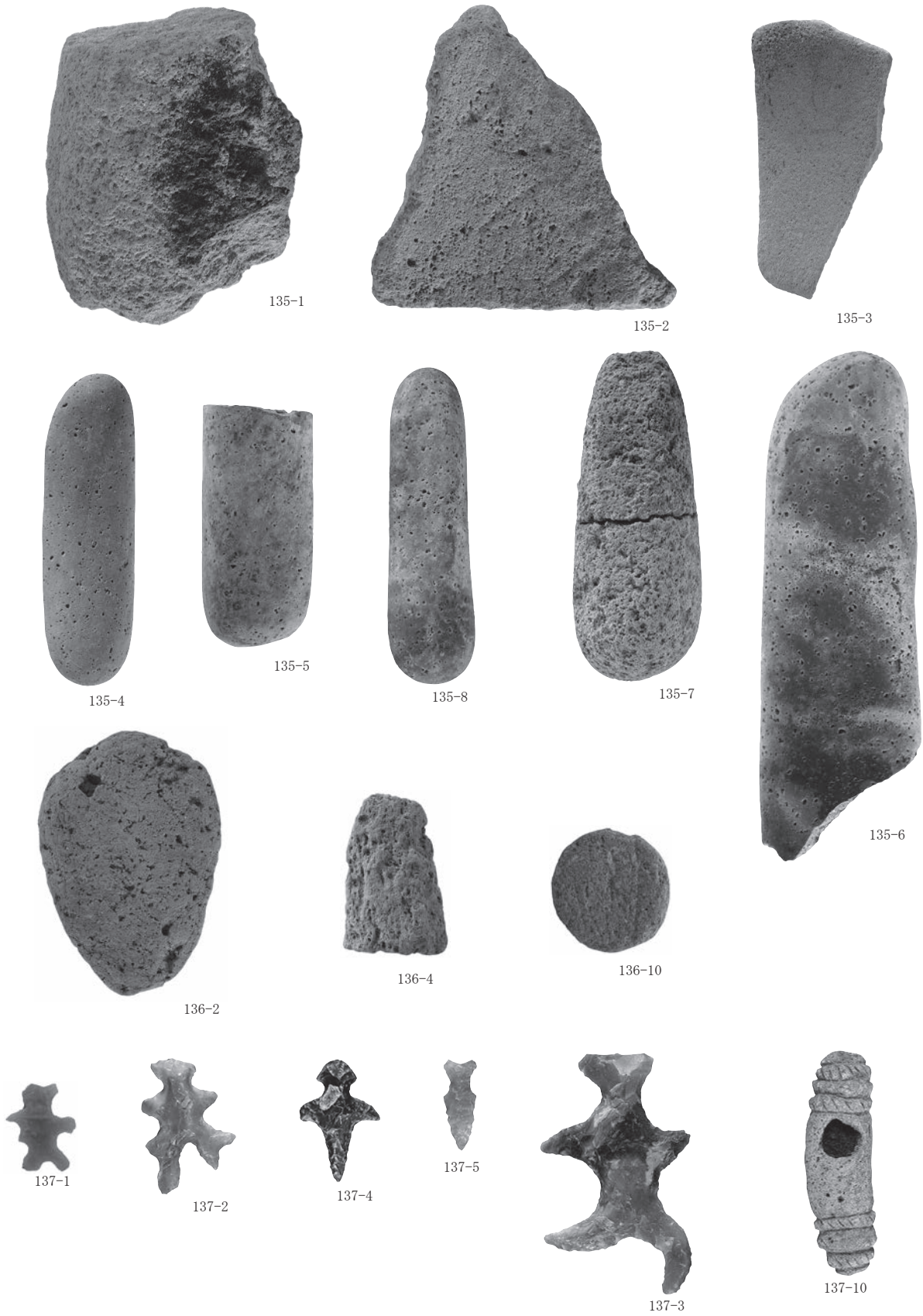


写真 74 第 19 号流路跡出土石器 (9)

## 報告書抄録

ふりがな	よねやまかっこにいせききゅう							
書名	米山(2)遺跡区							
副書名	新青森県総合運動公園整備事業に伴う遺跡発掘調査報告							
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第630集							
編著者名	小山浩平、佐藤智生、藤原有希							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒038-0042 青森県青森市新城字天田内152-15 TEL 017-788-5701							
発行機関	青森県教育委員会							
発行年月日	西暦2022年3月16日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系 (JGD2011)		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
よねやまかっこにいせき 米山(2)遺跡	あおもりけん 青森県 あおもりし おおあぎ 青森市大字 みやたあぎよねやま 宮田字米山 地内	02201	201276	40° 50′ 26″	140° 50′ 50″	20170420 ～ 20171025	9,300	記録保存調査
						20180508 ～ 20180531		
						20200804 ～ 20201113	2,600	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
米山(2)遺跡	集落跡	縄文時代	土坑 7 焼土遺構 1 柱穴 2 自然流路跡 1	縄文土器(早期中葉、前期末葉、中期、後期初頭～後葉)・石器・土製品・石製品	縄文時代後期前葉・後期後葉に捨て場として利用された自然流路跡を確認した。			
	集落跡	中世	掘立柱建物跡 3 カマド状遺構 14 土坑 7 井戸跡 1 溝跡 10 柱穴 94	陶磁器等(青磁・珠洲)・鉄滓・羽口	13世紀中頃～15世紀後半の集落跡を検出した。			
要約	<p>米山(2)遺跡は青森市東部の宮田地区に位置し、標高約30～40mの扇状地先端部から扇状地性低湿地に立地する。本地区は青森平野への東の出入り口にあたる交通の要衝で、周辺には縄文時代以降の遺跡が多く所在する。</p> <p>これまでの発掘調査では縄文・弥生・平安時代、古代、中世の遺構・遺物が確認されており、8冊の調査報告書が刊行されている。本報告書は米山(2)遺跡の9冊目の報告書であり、平成29年度、平成30年度および令和2年度に実施した発掘調査のうち、縄文時代の第19号流路跡と令和2年度調査の縄文時代および中世の遺構と遺物を報告した。</p> <p>縄文時代の第19号流路跡は前期末以降(第Ⅶ層段階)から中期後半以前に形成された自然流路跡で、IVc層から中期後葉の遺物、IVb層から後期前葉の遺物、IVa層から後期後葉の遺物が出土した。なお、IVa層直上は、平安時代以前に形成されたⅢ層により厚く覆われる。中期後葉は流れ込み</p>							

と考えられる。後期前葉から後期後葉は、出土状況から捨て場として利用されたことが明らかとなった。後期前葉の土器には、十腰内Ⅰ式古段階の良好な資料が多く含まれ、県 613 集で報告された第 12 号流路跡出土の十腰内Ⅰ式新段階との関連性から、十腰内Ⅰ式期の遺跡内における場の使用を考察する上で重要である。後期後葉は、調査区北隣に大規模な環状掘立柱集落が築かれた段階であり、本流路跡はその南縁部に該当する。流路内には、集落近くから遺物が大量に廃棄されており、使用痕のある一般的な土器・石器のほか、非一般的状況として注口土器を主体とする土器塚状の集積に伴うようにして異形石器・硬玉や軟玉製の装身具・玉石・奇石類が出土した。

石器の出土状況は特定の器種が一カ所にまとまるというような傾向は確認できず、土器とともに複数の器種が廃棄されていたと考えられる。器種組成では加工具、調理具が主体を占めており、狩猟・漁撈・伐採など資源を調達するための道具が少ない傾向が見えてきた。また、当時では貴重ともいえる軟玉製装飾品とともに色調の異なる玉石が多く出土した。

中世では、掘立柱建物跡、カマド状遺構、土坑、井戸跡、溝跡などの遺構を検出し、集落がさらに西側に広がることが明らかとなった。これらは、15 世紀以降に形成された屋敷地と自然流路の跡とみられ、4 期の変遷が考えられる。すなわち 1 期の屋敷地、2 期の自然流路、3 期の屋敷地という流れであり、2 期の流路形成による小規模災害の発生とその後の復興を表わしているとも考えられる。なお、4 期は中世以降から近現代までの期間を想定する必要がある。ともかく、中世米山集落は、平安時代末期の奥州藤原氏滅亡から鎌倉幕府得宗領および安藤氏の支配、南北朝から室町時代以降は工藤氏・南部氏・安藤氏の外浜支配とも関ったとみられ、近世以降は津軽氏の統治下に属し、宗教的要素を主体とする伝説部分が採録されたと考えられる。

---

青森県埋蔵文化財調査報告書 第630集

## 米山(2)遺跡Ⅸ

—新青森県総合運動公園整備事業に伴う遺跡発掘調査報告—

発行年月日 2022年3月16日  
発 行 青森県教育委員会  
発 行 者 青森県埋蔵文化財調査センター  
〒038-0042 青森県青森市大字新城字天田内152-15  
TEL. 017-788-5701 FAX. 017-788-5702  
印 刷 長尾印刷株式会社  
〒030-0931 青森県青森市平新田字森越17-1  
TEL. 017-726-7121 FAX. 017-726-9237

---

この印刷物は 300 部作成し、印刷経費は 1 部当たり 13,860 円（うち県負担 6,930 円）です。